

一般国道23号中勢道路(9工区)建設事業に伴う

六大B遺跡(B~I地区)発掘調査報告

2006. 3

三重県埋蔵文化財センター



調査区全景（北から）



SE 6 半截状況（西から）



1025



1494



1539



1496

序

三重県の北中部に広がる伊勢平野は、東に伊勢湾をひかえ西に鈴鹿・布引の山々をのぞみ風光明媚な土地です。大小の川の流れに潤された平地は豊かで実り多く、古くから人々の生活の場所となっていました。

今回報告する六大B遺跡は、一般国道23号中勢道路建設に伴って、遺跡の現状保存が困難な部分について、緊急の発掘調査を実施して記録保存に努めてきた遺跡です。調査の結果、弥生時代の土坑、奈良・平安時代の掘立柱建物群など、弥生時代から江戸時代にわたる多数の遺構、膨大な量の遺物が見つかり、貴重な調査結果を得ることができました。

開発が進み私たちの生活が豊かで便利になることは喜ばしいことではありますが、古くからこの地に生活していた人々が遺した文化財を保存していくこともまた大切なことです。とりわけ、このように調査後やむなく破壊される遺跡について、わたくしどもに課せられた重要な責務のひとつは、その膨大な記録を整理して、後々の学術的な検証に耐えうる報告書というかたちにして、世に公開することであると考えています。そうすることでこの地域の歩んできた歴史を少しでも明らかにできれば、今後の埋蔵文化財の保存に必ずや結びつくと確信しております。

調査にあたりご協力いただいた関係諸機関ならびに地元の皆様に厚くお礼申し上げます。

最後に、本書が地域の歴史と文化に対するご理解の深まりの一助になることを願いますとともに、県民の皆様の埋蔵文化財保護へのより一層のご理解とご協力を念願して序文といたします。

平成18年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水康夫

例　　言

- 1 本書は三重県津市大里窪田町字榎垣内ほかに所在する六大B遺跡（B～I地区）の報告書である。A地区についてはすでに平成11年2月に報告書を刊行している。
- 2 調査は、三重県教育委員会が国土交通省中部地方整備局（平成13年1月の省庁再編までは建設省中部地方建設局—以下略）の委託を受け、昭和63年度にB～I地区の範囲確認調査を、平成2～4年度にB～I地区の本調査を実施した。また、整理・報告書作成業務は、平成8年度から断続的に進めてきた。現地調査ならびに報告書作成にかかる費用は全額国土交通省中部地方整備局の負担による。
- 3 調査の体制は下記のとおりである。
 - ・調査主体 三重県教育委員会
 - ・調査担当 同事務局文化課（昭和63年度）
　　三重県埋蔵文化財センター（平成元年度以降）
 - ・調査協力 津市教育委員会（昭和63～平成11年度）
　　鈴鹿市教育委員会（平成7～9年度）
　　嬉野町教育委員会（平成12年度）
 - ・現場作業 社団法人中部建設協会
- 4 現地調査は、平成2年度にB・C・D地区を浅生悦生・渡辺尚登・村木一弥が、E・F・G地区を杉谷政樹・油田秀紀・竹内英昭が担当して実施した。平成3年度にはH地区を村木一弥・近藤健・天野秀昭が、B～F地区の補完調査（パイロット道部分）を村木一弥・近藤健が担当して実施した。平成4年度にはI地区を本堂弘之・小菅文裕・山口格・中村光司が担当して実施した。
- 5 本書作成にかかる報文執筆は、宮田勝功・山本義弘・池端清之・米山浩之・筒井昭仁・西村美幸・水橋公恵・川畑由紀子・川崎志乃・森川常厚・中村らの協力を得て、山口・村木・本堂上村が行った。
- 6 室内整理については、市川嘉子・畠ひろ子・森川尚子・駒田 泉・一本八千代・小坂規美子・太田浩子・伊藤友子・脇葉輝美・森川綱代・三谷 妙・黒川敬子・蒔田やよい・新田智子・宇河由起子・山口香代・北岡佳代子・西山実公子・野田摩耶の協力を得た。また、調査補助員として、蔭山誠一・中本 淳・大西貴夫・葛山拓也・河角龍典・丸澤友加・前田誠治・中村慎太郎・藤田有紀らが現地調査および室内整理に携わった。
- 7 発掘調査ならびに整理・報告書作成にあたっては、下記の方々に御指導・御教示を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同・敬称略、所属は当時）

青木哲哉（立命館大学）・磯部 克（県立松阪高校）・岡田 登（皇學館大學）・岡田茂弘（国立歴史民俗博物館）・肥塚隆保（奈良国立文化財研究所）・塙谷 格（三重大学：当時）・八賀 晋（三重大学：当時）・広瀬和久・原 正之（三重県農業技術センター）・馬場義平（三重大学）・村上 隆（奈良国立文化財研究所）・森 勇一・永原康次（愛知県埋蔵文化財

センター）・富田靖男 山下純生（県立博物館）・萱室康光（津市教育委員会）・毛利光俊
彦 金子裕之 異淳一郎 寺崎保広 渡辺晃宏（奈良国立文化財研究所）・三辻利一（奈良
教育大学）・坂野和信（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）・平尾政幸 小森俊寛 上村憲章
(財団法人京都市埋蔵文化財研究所)・尾野善裕（京都国立博物館）・福田明美（財団法人千
葉県文化財センター）・三好美穂（奈良市埋蔵文化財調査センター）・加藤真琴

- 8 六大B遺跡（B～I地区）については、既に『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報』I（三重県教育委員会 1989）、『同』III～V（三重県埋蔵文化財センター 1991～1993）、『中勢道路ニュース』No.2・11・12・13にその調査途中の概要を報告しているが、本書をもつて正式報告とする。
- 9 本書に用いた地図及び遺構実測図は、国土調査法の第VI座標系（調査時）を基準とし、方位の表示は座標北を示す。当該遺跡では磁北はN 6° 40' W座標北から振れている。（平成10年度）
- 10 本書で報告した記録および出土品は、三重県埋蔵文化財センターにおいて管理・保管している。
- 11 本書に用いた遺構表示略記号は、下記のとおりである。なお、遺構の名称・番号は、調査時点および調査途中の概報での呼称を踏襲せずに、新たに改称したものである。
S A : 檻・塀 S B : 掘立柱建物 S D : 溝・自然流路 S E : 井戸 S K : 土坑
S H : 竪穴住居 pit : 柱穴・小穴 S X : 墳墓
- 12 本書では出土遺物を土器・土製品・陶器・磁器・石器・石製品・金属製品・木製品などに分けている場合がある。この場合、瓦質製品は土器・土製品に、炻器（焼締め陶、いわゆる山茶
椀を含む）は陶器に、漆製品は木製品に含めた。
- 13 「わん」の文字については、「椀」に統一した。

本文目次

I	前言	(本堂弘之)	1
1	調査の契機と経過		1
2	調査の体制		1
3	調査の経過		3
4	調査の方法		3
(1)	遺跡名		3
(2)	地区設定		3
(3)	図面・写真等		4
(4)	遺物整理		5
II	位置と環境	(本堂)	5
1	地理的環境		5
2	歴史的環境		5
III	調査の成果		9
1	基本層序	(本堂)	9
2	造構と遺物		21
(1)	概要	(本堂)	21
(2)	竪穴住居	(村木一弥・本堂)	21
(3)	中世墓	(村木・本堂)	21
(4)	掘立柱建物・柵列	(村木・本堂)	22
(5)	井 戸	(村木)	55
(6)	土 坑	(村木・本堂)	73
(7)	溝・自然流路	(本堂)	96
(8)	Pit・包含層出土遺物	(上村安生)	132
IV	結 語	(上村)	140

挿図目次

第 1 図 六大 B 遺跡大地区割り設定 (Ⓐ～��)、 調査区割り設定 (A～I)	2
第 2 図 遺跡位置図	6
第 3 図 六大 B 遺跡周辺地形図	7
第 4 図 B～E 地区東壁土層断面図①	10
第 5 図 B～E 地区東壁土層断面図②	11
第 6 図 B～E 地区東壁土層断面図③	12
第 7 図 F～H 地区東壁土層断面図①	13
第 8 図 F～H 地区東壁土層断面図②	14
第 9 図 F～H 地区東壁土層断面図③	15
第10図 B地区北壁土層断面図	16
第11図 I～1 地区北壁土層断面図	16
第12図 I～2 地区北壁土層断面図	17
第13図 I～3 地区北壁土層断面図①	17
第14図 I～3 地区北壁土層断面図②	18
第15図 I～4 地区南壁土層断面図①	18
第16図 I～4 地区南壁土層断面図②	19
第17図 F 地区南壁土層断面図	20
第18図 D 地区南壁土層断面図	20
第19図 SH 1 実測図	21
第20図 SH 2 実測図	21
第21図 SX 1 実測図、出土遺物実測図	22
第22図 SB 1～4 実測図、出土遺物実測図	23
第23図 SB 5・6 実測図、出土遺物実測図	24
第24図 SB 7～9・11 実測図、出土遺物実測図	25
第25図 SB 10・12・13 実測図、出土遺物実測図	26
第26図 SB 14～16 実測図、出土遺物実測図	27
第27図 SB 17～20 実測図	28
第28図 SB 21～24 実測図、出土遺物実測図	29
第29図 SB 25・35 実測図	30
第30図 SB 26・29・32 実測図、出土遺物実測図	31
第31図 SB 27・28・30 実測図、出土遺物実測図	32
第32図 SB 31・33 実測図、出土遺物実測図	33
第33図 SB 34・36・37・39 実測図、出土遺物実測図	34
第34図 SB 38・43・44 実測図、出土遺物実測図	35
第35図 SB 40～42・48 実測図、出土遺物実測図	36
第36図 SB 45・49・50 実測図、出土遺物実測図	39
第37図 SB 46・47・SA 1 実測図、出土遺物実測図	40
第38図 SB 51・52・54・55 実測図、出土遺物実測図	41
第39図 SB 53・56～58 実測図、出土遺物実測図	42
第40図 SB 59～61 実測図	43
第41図 SB 62～64 実測図、出土遺物実測図	44
第42図 SB 65～68 実測図、出土遺物実測図	45
第43図 SB 69～72 実測図	46
第44図 SB 73～75 実測図	47
第45図 SB 76～78・81 実測図	48
第46図 SB 79・80・82 実測図	49
第47図 SB 83～86 実測図、出土遺物実測図	50
第48図 SB 87ab・88・89 実測図、出土遺物実測図	51
第49図 SB 90～92 実測図	52
第50図 SB 93・SA 2～5 実測図、出土遺物実測図	53
第51図 SA 6～11 実測図	54
第52図 SE 1 実測図	55
第53図 SE 1 出土遺物実測図	55
第54図 SE 3 実測図	55
第55図 SE 3 出土遺物実測図	55
第56図 SE 2 実測図	56
第57図 SE 2 出土遺物実測図	56
第58図 SE 5 実測図	57
第59図 SE 5 出土遺物実測図	57
第60図 SE 6 実測図	57
第61図 SE 7 実測図、出土遺物実測図	57
第62図 SE 4 実測図、出土遺物実測図	58
第63図 SE 8 実測図	59
第64図 SE 8 出土遺物実測図①	59
第65図 SE 8 出土遺物実測図②	60
第66図 SE 10 実測図	61
第67図 SE 10 出土遺物実測図	61
第68図 SE 11 実測図・土層断面図	61
第69図 SE 11 出土遺物実測図	61
第70図 SE 12 実測図	62
第71図 SE 12 出土遺物実測図①	62
第72図 SE 12 出土遺物実測図②	63
第73図 SE 9 実測図	64
第74図 SE 9 出土遺物実測図	64
第75図 SE 13 実測図	64
第76図 SE 13 出土遺物実測図	64
第77図 SE 14 実測図	64

第78図 SE14出土遺物実測図	65	第119図 SK13実測図、出土遺物実測図	81
第79図 SE15実測図	65	第120図 SK14実測図	82
第80図 SE15出土遺物実測図	65	第121図 SK14出土遺物実測図	82
第81図 SE16実測図	66	第122図 SK15実測図	82
第82図 SE16出土遺物実測図	66	第123図 SK15出土遺物実測図	82
第83図 SE17実測図	66	第124図 SK16実測図	83
第84図 SE18実測図	66	第125図 SK16出土遺物実測図	83
第85図 SE18出土遺物実測図①	66	第126図 SK17実測図	83
第86図 SE18出土遺物実測図②	67	第127図 SK17出土遺物実測図	83
第87図 SE17出土遺物実測図	68	第128図 SK18・19実測図	83
第88図 SE19実測図	69	第129図 SK18・19出土遺物実測図	83
第89図 SE22実測図	69	第130図 SK20実測図	84
第90図 SE22出土遺物実測図	69	第131図 SK20出土遺物実測図	84
第91図 SE23出土遺物実測図	69	第132図 SK21実測図、SK21出土遺物実測図	84
第92図 SE20実測図	69	第133図 SK22実測図・土層断面図、 出土遺物実測図	84
第93図 SE21実測図	70	第134図 SK23出土遺物実測図	85
第94図 SE21出土遺物実測図①	70	第135図 SK23実測図・土層断面図	85
第95図 SE21出土遺物実測図②	71	第136図 SK24実測図、出土遺物実測図	86
第96図 SE23実測図	72	第137図 SK25実測図・土層断面図、 出土遺物実測図	87
第97図 SE24実測図	72	第138図 SK26実測図	87
第98図 SE24出土遺物実測図	72	第139図 SK34・35実測図	87
第99図 SK1・SK2実測図	73	第140図 SK34出土遺物実測図	87
第100図 SK1出土遺物実測図	73	第141図 SK27~30実測図	88
第101図 SK2出土遺物実測図	73	第142図 SK30出土遺物実測図	88
第102図 SK3実測図	74	第143図 SK31~33実測図	88
第103図 SK3出土遺物実測図①	75	第144図 SK33出土遺物実測図	88
第104図 SK3出土遺物実測図②	76	第145図 SK35出土遺物実測図	88
第105図 SK3出土遺物実測図③	77	第146図 SK36・37実測図	89
第106図 SK4実測図	78	第147図 SK37出土遺物実測図	89
第107図 SK4出土遺物実測図	78	第148図 SK38~40実測図	89
第108図 SK5・SK6実測図	78	第149図 SK40出土遺物実測図	89
第109図 SK6出土遺物実測図	78	第150図 SK41実測図、出土遺物実測図	90
第110図 SK7実測図	79	第151図 SK42実測図・土層断面図	90
第111図 SK7出土遺物実測図	79	第152図 SK42出土遺物実測図	90
第112図 SK8実測図	79	第153図 SK43実測図、出土遺物実測図	91
第113図 SK8出土遺物実測図	79	第154図 SK44実測図、出土遺物実測図	91
第114図 SK9実測図、出土遺物実測図	80	第155図 SK45実測図・土層断面図、 出土遺物実測図	91
第115図 SK10実測図、出土遺物実測図	80	第156図 SK46実測図・土層断面図	91
第116図 SK11実測図・土層断面図	81		
第117図 SK11出土遺物実測図	81		
第118図 SK12実測図、出土遺物実測図	81		

第157図 SK47実測図・土層断面図、 出土遺物実測図	92
第158図 SK48実測図、出土遺物実測図	92
第159図 SK49実測図、出土遺物実測図	93
第160図 近世土坑群（SK50～60）	94
第161図 近世土坑群出土遺物①	95
第162図 近世土坑群出土遺物②	96
第163図 SD1実測図・土層断面図	97
第164図 SD1出土遺物実測図	98
第165図 SD2・3・34実測図	99
第166図 SD2出土遺物実測図①	100
第167図 SD2・3・34土層断面図	101
第168図 SD2出土遺物実測図②	102
第169図 SD2出土遺物実測図③	103
第170図 SD2出土遺物実測図④	103
第171図 SD3出土遺物実測図①	104
第172図 SD3出土遺物実測図②	105
第173図 SD4～9実測図	106
第174図 SD5・6出土遺物実測図	107
第175図 SD6出土遺物実測図	108
第176図 SD8・9出土遺物実測図	109
第177図 SD10-11・13実測図・SD10-11土層断面図	110
第178図 SD10出土遺物実測図①	111
第179図 SD10出土遺物実測図②	112
第180図 SD10出土遺物実測図③	113
第181図 SD10出土遺物実測図④	114
第182図 SD10出土遺物実測図⑤	115
第183図 SD10出土遺物実測図⑥	115
第184図 SD11・14出土遺物実測図	116
第185図 SD12実測図	117・118
第186図 SD12出土遺物実測図①	119
第187図 SD12出土遺物実測図②	119
第188図 SD12出土遺物実測図③	120
第189図 SD14～27実測図	121
第190図 SD28実測図	122
第191図 SD29・30実測図	123
第192図 SD31・32実測図	124
第193図 SD13・17・28～32出土遺物実測図	125
第194図 SD33実測図	126
第195図 SD33中央トレンチ東壁土層断面図	127
第196図 SD33出土遺物実測図①	128
第197図 SD33出土遺物実測図②	129
第198図 SD34・35・37出土遺物実測図	129
第199図 SD35～37実測図・SD35・36土層断面図	130
第200図 SD38実測図	130
第201図 SD36出土遺物実測図	131
第202図 Pit出土遺物実測図	133
第203図 包含層出土遺物実測図①土師器	134
第204図 包含層出土遺物実測図②土師器・土製品	135
第205図 包含層出土遺物実測図③須恵器	136
第206図 包含層出土遺物実測図④	
石帶・菅玉・和銅開跡	136
第207図 包含層出土遺物実測図⑤綠釉陶器	137
第208図 包含層出土遺物実測図⑥灰釉陶器・山茶椀	138
第209図 包含層出土遺物実測図⑦	
瓦・青磁・白磁・陶器ほか	139
第210図 遺構配置図	付図

表目次

井戸一覧表	141
土坑一覧表	142～144
溝一覧表	145～146
掘立柱建物一覧表	147～151
遺物観察表	152～190

原色写真図版目次

遺構 調査区全景・S E 6半截状況	
遺物 緑釉陶器・石帶・錢貨（和銅開跡）	

写真図版目次

遺構図版	
P L 1 B・C地区調査区全景	
P L 2 D・E・F地区調査区全景	
P L 3 G・H地区調査区全景	
P L 4 D地区SB26、I-3地区SB86	
P L 5 C地区SK11、I-4地区SK49	

P L 6	B地区SK3、D地区SE12	P L 45	出土遺物29
P L 7	B地区SD・SE・SK他、C地区SD・拡張区	P L 46	出土遺物30
P L 8	C地区SE・SB	P L 47	出土遺物31
P L 9	C地区SB・pit、D地区SE・pit	P L 48	出土遺物32
P L 10	D地区pit・SD・SK・SB	P L 49	出土遺物33
P L 11	D地区SB	P L 50	出土遺物34
P L 12	D地区SB・SD、E地区SB・pit	P L 51	出土遺物35
P L 13	E地区SB	P L 52	出土遺物36
P L 14	E地区拡張区pit・SD、F地区KSX・SD・SK	P L 53	出土遺物37
P L 15	F地区SB・拡張区SB、G地区SD・SE ・土器出土状況、H地区SD、I地区SK	P L 54	出土遺物38
P L 16	I-1・2・3・4地区全景	P L 55	出土遺物39
遺物図版		P L 56	出土遺物40
P L 17	出土遺物1	P L 57	出土遺物41
P L 18	出土遺物2	P L 58	出土遺物42
P L 19	出土遺物3	P L 59	出土遺物43
P L 20	出土遺物4	P L 60	出土遺物44
P L 21	出土遺物5	P L 61	出土遺物45
P L 22	出土遺物6	P L 62	出土遺物46
P L 23	出土遺物7	P L 63	出土遺物47
P L 24	出土遺物8	P L 64	出土遺物48
P L 25	出土遺物9	P L 65	出土遺物49
P L 26	出土遺物10	P L 66	出土遺物50
P L 27	出土遺物11	P L 67	出土遺物51
P L 28	出土遺物12	P L 68	出土遺物52
P L 29	出土遺物13	P L 69	出土遺物53
P L 30	出土遺物14	P L 70	出土遺物54
P L 31	出土遺物15	P L 71	出土遺物55
P L 32	出土遺物16	P L 72	出土遺物56
P L 33	出土遺物17	P L 73	出土遺物57
P L 34	出土遺物18	P L 74	出土遺物58
P L 35	出土遺物19	P L 75	出土遺物59
P L 36	出土遺物20	P L 76	出土遺物60
P L 37	出土遺物21	P L 77	出土遺物61
P L 38	出土遺物22	P L 78	出土遺物62
P L 39	出土遺物23	P L 79	出土遺物63
P L 40	出土遺物24	P L 80	墨書1
P L 41	出土遺物25	P L 81	墨書2
P L 42	出土遺物26	P L 82	墨書3
P L 43	出土遺物27	P L 83	墨書4・ヘラ記号
P L 44	出土遺物28		

I 前言

1 調査の契機と経過

中勢道路は、鈴鹿市玉垣町から松阪市小津町に至る延長33.8kmの一般国道23号中勢バイパスの一環である。国道23号の交通集中の緩和とバイパス周辺の適切な土地利用の誘導を図り、三重県中勢地区の経済発展に寄与することを目的に計画されたものである。

この計画地内に所在する埋蔵文化財については、昭和58年に計画路線内の分布調査を行い、建設省中部地方建設局（当時）と三重県教育委員会が埋蔵文化財の取扱について協議を行った結果、現状保存の困難な遺跡については事前に発掘調査を行い、記録保存をすることとなった。

現地調査は、昭和63年度に開始した。国土交通省中部地方整備局（平成12年までは建設省中部地方建設局）から三重県が委託を受け、三重県埋蔵文化財センター（昭和63年度は三重県教育委員会）が調査を担当している。調査にあたっては、「県教育委員会・市町村教育委員会職員人事交流要綱」に基づき、津市教育委員会（昭和63年度～平成11年度）と鈴鹿市教育委員会（平成7年度～平成9年度）から派遣職員を得た。平成12年度には姫野町教育委員会に範囲確認調査の協力を得た。また、現地作業は調査の円滑化を期して、国土交通省中部地方整備局が社団法人中部建設協会に委託している。そして、国土交通省中部地方整備局・三重県・中部建設協会の三者で「協定書」を締結し事業を推進している。

中勢道路の発掘調査は、津市大里窪田町の主要地方道津閑線（当時：現在の一般地方道草生窪田津線）～津市神戸の9・10工区がまず事業化された関係で同地区から開始した。昭和63年度に六大B遺跡を含む9工区10遺跡の範囲確認調査と3遺跡の本調査を行った。その後、順次、鈴鹿市・河芸町・三雲町・姫野町へも範囲を広げ、平成12年度末までに範囲確認調査と本調査合わせて約165,000m²の調査を行つた。また、発掘調査報告書はこれまでに13冊刊行している。

2 調査の体制

調査主体は三重県教育委員会で、調査担当は昭和63年度は三重県教育委員会文化課、平成元年度からは、県教育委員会規則により設置された三重県埋蔵文化財センターである。本書に所収した六大B遺跡（B～I地区）については、昭和63年度に範囲確認調査を、平成2～4年度に本調査を、実施した。また、平成8～13年度に報告書作成を行い、17年度に刊行した。その体制は以下のとおりである。

〔昭和63年度〕

文化財第二係長 伊藤久嗣

主査 吉水康夫・増田安生

主任 浅生悦生（津市教育委員会より派遣）

臨時調査員 和氣清章・油田秀紀

調査協力者 宮澤織江・新井ゆう子・森 貴子・

谷口裕美・園田純子・藤山誠一・桑敏明・若松 剛・川辺光則・下井則

幸・奥山テルヨ・畠ひろ子

〔平成2年度〕

次長兼調査第二課長 山澤義貴

第三係長 浅生悦生（津市教育委員会より派遣）

主任 渡辺尚登・杉谷政樹・森川幸雄・近藤 健

主任 村木一弥（津市教育委員会より派遣）

臨時調査員 竹内英昭・油田秀紀

〔平成3年度〕

調査第二課長 新田 洋

主査兼第三係長 駒田利治

主任 渡辺尚登・近藤 健・天野秀昭

主任 村木一弥・山口 格

（津市教育委員会より派遣）

〔平成4年度〕

調査第二課長 新田 洋

主査兼第三係長 駒田利治

主任 本堂弘之・小菅文裕

技師 穂積裕昌

主任 山口 格・中村光司

（津市教育委員会より派遣）



第1図 六大B遺跡大地区割り設定（Ⓐ～Ⓑ）、調査区割り設定（A～I）（1：5,000）

[平成8年度]

主幹兼調査第二課長 山田 猛

第三係長 本堂弘之

主事 宮田勝功・山本義浩

技師 水橋公恵

主事 池端清行・米山浩之

(津市教育委員会より派遣)

主事 筒井昭仁(鈴鹿市教育委員会より派遣)

[平成9年度]

主幹兼調査第二課長 山田 猛

主査兼第三係長 本堂弘之

主事 宮田勝功

技師 西村美幸・水橋公恵

主事 池端清行・米山浩之

(津市教育委員会より派遣)

主事 筒井昭仁(鈴鹿市教育委員会より派遣)

[平成10年度]

主幹兼調査第二課長 吉水康夫

主査兼第三係長 本堂弘之

主事 宮田勝功

技師 西村美幸

主事 村木一弥・山口 格

(津市教育委員会より派遣)

[平成11年度]

主幹兼調査第二課長 吉水康夫

主幹 新田 洋

主査兼第三係長 本堂弘之

技師 川畠由紀子

主事 山口 格(津市教育委員会より派遣)

〔平成12年度〕

主幹兼調査第二課長 吉水康夫

主幹 新田 洋

主査兼第三係長 森川常厚

技師 川畠由紀子

臨時技術補助員 川崎志乃・瀬野弥知世

〔平成13年度〕

主幹兼調査第二課長 新田 洋

主査兼第二係長 本堂弘之

主事 川合圭子・中川 明・東 敏義

技師 川畠由紀子

臨時技術補助員 川崎志乃・瀬野弥知世

3 調査の経過

六大B遺跡では、分布調査の結果を受けて昭和63年度に範囲確認調査を実施した。範囲確認調査は、20mピッチで打たれた道路のセンター杭を基準に道路中央と、その両側（六大B遺跡付近ではほぼ南北に道路が通るため、西側と東側となる）に4m×4mの試掘坑を設定して行った。各試掘坑は、センター杭ナンバー（六大B遺跡は№700～№800）とC（中央）・W（西）・E（東）の組み合わせで、例えば「750C」などと表記した。一部に未買収の用地があることから、試掘坑は31箇所となった。

範囲確認調査は、昭和63年5月25日～7月6日に実施し、溝・柱穴・土坑・住居跡等の遺構や土師器・須恵器・山茶碗等の遺物を検出した。この時点で、古墳時代後期から中世の複合遺跡であると考え、24,600m²を本調査対象とした。津闕線（当時）から毛無川までの間延長約500mに及ぶ。

本調査は、平成2年度から開始した。平成2年度は津闕線沿いのA地区と毛無川北岸のH地区を除いた17,525m²を対象に、4月26日～平成3年3月15日に実施した。B～G地区をB～DとE～Gの2つに分け2班体制で、中央のD・Eから北と南にむけて同時に調査を進行させた。途中、8月11日にD・E地区で、12月15日にC・F地区で現地説明会を行い、それぞれ1250名・230名の参加を得た。全体の測量は航空測量によった。平成3年度は、H地区2,800m²の本調査を5月7日～9月3日に行い、引き続いて、B～F地区の補完調査としてパイロット道

部分620m²の調査を10月16日～12月4日に行った。

12月25日には補完調査部分を対象に、橋垣内遺跡・大古曾遺跡とともに現地説明会を開催し、80名の参加を得た。測量はH地区、補完調査地区とも航空測量とした。H地区では1/100の図面のみの作成とした。補完調査地区では平成2年度調査の図面との合成図を作成した。平成4年度には、新たに計画された、本線を横切る2本の農道の地下道部分を1地区として1～4の4カ所で調査をした。測量は、やはり航空測量とし12月26日に実施した。1/50と1/100の図面を作成したが、本線部分との合成図は作成しなかった。また、同日現地説明会も行い、80名の参加を得た。

4 調査の方法

(1) 遺跡名

当該遺跡の名称は「六大B遺跡」である。県道津闕線をはさんだ北側には「六大A遺跡」が所在する。このふたつの遺跡は、別々に台帳が作成されて登録されており、行政上別遺跡として取り扱われる。

今回の六大B遺跡の調査区は、B地区、C地区、…I地区に分けられる。これらは本調査範囲を水路や畦畔、道などにより便宜上任意に分けたものである。「六大B遺跡（A地区）」の報告書で「調査区割り」と呼んだものである。遺物ラベルの「遺跡名」の欄にはこの地区名が「六大B遺跡」に次いで記入される。（e.g. 六大B遺跡C地区 または六大B遺跡C）

なお、I地区は2本の地下道のスロープ部分であり、4カ所に分かれるため、1～4の枝番を付して、I-1などと記述してある。

(2) 地区設定

上記のB～I地区とは別に、アルファベット1文字で大地区、アルファベット1文字と算用数字の組み合わせで小地区を設定した。

大地区の設定方法は、国土法による国土座標第VI座標系を基準としている。X=-137,000～X=-137,600の間を100m単位で6等分し、Y=45,400～Y=45,700の間を100m単位で3等分して100m四方の正方形を1区画とした。東西3区画・南北6区画の計18区画を設定した。地区名は、アルファベ

ットの大文字をあて、北西角をAとし東へB・C、北から2列目を西から東へD・E・F、……最終の南東角（6列目東端）をRとした。これで、中勢道路にかかる調査範囲は、六大B遺跡A地区も含め、すべて網羅する。規則性を保つために600m×300mの長方形区画内を大地区割りしたため、A・O・Q・Rの大地区は調査範囲外である。

この大地区名は六大B遺跡の中勢道路調査区固有のものである。北に隣接する六大A遺跡では、国土座標を使った100mメッシュは同じであるがABC…の大地区名はまた別個に割り振られている。六大B遺跡の津市教育委員会調査区と、南に隣接する橋垣内遺跡の中勢道路調査区には大地区割は用いられていない。

小地区的設定方法は、大地区的1区画100m四方を東西・南北とも4m毎に区切って25等分し、625の4m四方のグリッドとしている。そして、北西角のグリッドを基準として、北から南へアルファベットA～Yを、西から東へ算用数字1～25をあてた。その組み合わせでA1、A2…A25、B1…Y24、Y25などと表記し各グリッドの小区域名とした。

地区名は「大地区名」—「小地区名」と書き、間にダッシュを入れる。（e.g., H-M15）なお、アルファベットはすべて大文字であるが、手書きの場合、UはVとの区別を明確にするため、UをUと書き表している場合もある。

（3）図面・写真等

現場で作成した資料には、実測図・写真・遺構カード及び遺構略測図・調査日誌・航空測量図面がある。

実測図は原則手書きである。大きく分けて個別遺構実測図・遺物出土状況図・調査区土層断面図がある。個別遺構実測図と遺物出土状況図には、平面図・断面図または断面見通し図・遺構の土層断面図等がある。

これらの図は、必要に応じて作成されている。縮尺は、個別遺構実測図が1/10または1/20、遺物出土状況図が原則1/10、調査区土層断面図が1/20である。

図面には、本調査の期間平成2～4年度を通して001～の3桁の番号を付け、別に図面一覧表を作成して検索できるようにしている。

写真は、モノクロネガフィルムとカラーリバーサルフィルムを用い、35mmとプロニー、必要に応じて4×5で撮影した。適宜35mmカラーネガフィルムでスナップも撮影した。写真は当センターの整理方法に従ってアルバムやスライドホルダー等に収め、カット毎に内容を記入した一覧表を作成して添付している。また、報告書に掲載したカットは、アルバムの該当箇所に写真図版の番号を記入し、掲載写真のみの一覧表を作成した。

遺構カードは、B5判の用紙に遺構検出時の状況を略説して1/40で記入したものである。調査区内の小地区（4m×4m）毎に1枚作成した。調査区内であっても、遺構の全くない小地区についてはカードを削除したものもある。

カードには遺構の略説図だけでなく、切り合い関係、埋土の色、遺物取り上げ時の遺構番号、特筆すべき遺物等が記入されている。また、上層遺構の埋土を除去した後に検出された遺構が赤色等で記入されている。六大B遺跡の場合は、B地区・C地区…の別に表紙をつけて保管されている。

遺構略測図は、遺構カードをもとに1/100に手描きで縮小した図面である。実測図とともに図面番号を付して保管している。

調査日誌には、調査の進捗、特筆すべき遺構や遺物の検出、来訪者、などなど調査担当者が現地調査期間中に必要としたことを記入した。六大B遺跡の調査ではB4判横長の用紙を使っている。調査単位毎に作成したため、B～D地区で1冊、E～G地区で1冊、補完調査区で1冊、H地区で1冊、I地区で1冊となっている。

航空測量図面は、業者に委託して作成した。平成2年度調査のB～G地区は一括発注のため一連の図面であり、翌年度には補完調査区をそれに接合した図面を作成した。H地区とI地区はそれぞれ別個の図面として作成した。

航空測量図面には、1/50の遺構図・等高線図・平面図、1/100の遺構図・等高線図・平面図がある。H地区については1/100の図面のみ作成した。それぞれ原図、第二原図、青焼き製本したものがある。

航空測量関係の資料としては、図面のほかに、密着焼写真、標定図、測量成果簿、ヘリコプターから

撮影した遺跡の斜め写真（4×5 モノクロネガ及びカラーリバーサル）がある。

(4) 遺物整理

出土遺物には、土器・陶磁器等のほか、石器・石製品、金属製品（銭貨等）、木製品・漆器がある。このうち木製品・漆器を除く出土遺物は、洗浄・注記したあと、実測すべき遺物とそうでないものに分けた。実測されない遺物は、遺構ごとに袋詰めし、コンテナに収めて「B遺物」として収蔵している。コンテナには「※1、※2 …」の箱番号がふってあり、別に一覧表を作成した。

遺物実測図は、実測すべき遺物として選別されたものについてのみ作成した。原則として遺構別にまとめてあるが、一部となる場合もある。遺物実測図面1枚毎に、遺構図面とは別に001～の3桁の番号をふってある。また、1枚の図面に載せている個々の遺物実測図には01～の2桁の番号をふっている。この合計5桁の数字は登録番号（通称Rナンバー）と呼ばれる。（e.g. R123-04 Rは略され

る場合もある）

この登録番号は、該当遺物にも同じ番号が注記され、ラベルに記入され、さらにその遺物の入った紙箱にも付けている。報告書に掲載された場合には報告書の図と同じ番号（図版番号）を、ラベルと紙箱に赤字で記入している。

こうした遺物は、報告書番号順にコンテナにならべ入れられている。コンテナには、遺跡名・遺構名・箱番号等とともに図版番号何番から何番の遺物が入っているかを、1～5というように記入したシールを貼り付けてある。箱番号はおむね図版番号を追う形で付けてある。登録番号のみの遺物（実測をしたが報告書には掲載しなかった遺物）や参考遺物（実測はしなかつたが参考のため実見することがあると考えた遺物）はそのあとにつけて箱番号を付けた。

収蔵は「A収蔵」として、箱番号順に行われている。図版番号順の一覧表を作成し、報告書非掲載の一覧表とともに保管している。

II 位置と環境

1 地理的環境

六大B遺跡は、志登茂川とその支流である毛無川に挟まれた台地の東端に立地する。行政的には三重県津市大里庄田町字出口ほかとなる。津市一身田町の西方にある。

六大B遺跡の立地する台地は、南と東に向かって緩やかに下がる洪積台地である。東側は志登茂川の沖積地にむかって急激に落ち込む。その比高差は県道がJR紀勢本線をまたぐ地点で約6mである。一方、ほぼ南北に細長い調査区の最高所は県道に接する付近のA地区の標高11.8m、最も低いところは毛無川に接するH地区で標高約6.1mである。その間の調査区の延長は約500mなので1.1%の勾配となる。東西方向では、I-1西端とI-2東端・I-3西端とI-4東端の比高差がいずれも約3m、距離が

それぞれ約160m・200mで勾配は1.5～1.9%となる。

この台地は毛無川の周辺で一端冲積地へと変わったあと、その西側では奄芸層群からなる丘陵（現当山丘陵）へと連なる。起伏が激しい複雑な丘陵である。さらにその西には安濃川の冲積地がひろがる。北側でも、志登茂川の冲積平野へと落ち込んだ後、やはり奄芸層群の丘陵となる。志登茂川と中ノ川の間に広がるこの丘陵には須恵器古窯跡が多数確認されている。

2 歴史的環境

六大B遺跡(1)は、弥生時代から近世に至る複合遺跡である。遺物だけをみればチャート製のナイフ形石器がA地区⁽³⁾で出土している。ナイフ形石器は本遺



1. 六大 B 遺跡 2. 大古晉道跡 3. 東浦遺跡 4. 橋垣内遺跡 5. 大里西沖遺跡 6. 長遺跡 7. 山羅遺跡 8. 山王遺跡
9. 川北遺跡 10. 六大 A 遺跡 11. 中原遺跡 12. 萩の谷 1 号墳 13. 德磨古葉跡群 14. 墓田大塙内遺跡 15. 安養院跡
16. 南所遺跡 17. 三行城跡 18. 千里ヶ丘遺跡 19. 東農野遺跡 20. 門脇北古墳 21. 森山東遺跡 22. 太田遺跡 23. 松ノ木遺跡
24. 納所遺跡 25. 上津部田城跡 26. 奎治城跡

第2図 遺跡位置図 (1 : 50,000) (国土地理院 1 : 25,000 桦本・白子・津西部・津東部)



第3図 六大B遺跡周辺地形図

跡の南、毛無川の右岸丘陵に位置する大古曾遺跡² (2)からも貝岩製のものが出土している。また、北方の東浦遺跡³(3)や芸濃町の北浦A遺跡では尖頭器がみつかっている。南に続く橋垣内遺跡⁴(4)では、早期押型土器が報告されている。遺構としては大里西沖遺跡⁵(5)や、芸濃町の大石遺跡⁶でみつかった縄文時代中期の竪穴住居がこの周辺では最も古い例である。

周辺の弥生時代の遺構・遺物としては、橋垣内遺跡で中期以降の土器が出土している。見当山丘陵の長遺跡⁷(6)・山籠遺跡⁸(7)では中期後葉の竪穴住居が見つかっている。志登茂川北岸では、山王遺跡⁹(8)や川北遺跡¹⁰(9)で中期土器が出土している。また、六大B遺跡の北に隣接する六大A遺跡¹¹(10)の大溝最下層から弥生後期の土器が、中薦遺跡¹²(11)では竪穴住居と後期の土器が報告されている。

古墳時代になると、川北遺跡・中薦遺跡で竪穴住居が検出されている。六大A遺跡では、大溝から多種多様の土器・石製品・木製品が出土した。周辺の古墳で調査されているのは、川北遺跡内の2基と墓の谷1号墳¹³(12)である。志登茂川北岸の丘陵には徳居古窯跡群¹⁴(13)をはじめとした須恵器窯跡群がひろがる。

古代には、六大B遺跡のある台地上の窪田大垣内遺跡¹⁵(14)・橋垣内遺跡・安養院跡¹⁶(15)等で掘立柱建物が多数検出されている。遺物も綠釉陶器・灰釉陶器・円面鏡等がみられる。平城宮出土の木簡に「伊世国奄伎郡」「久普多里私部小口」と記され、「和妙抄」に「窪田郷」とあることから、付近には奄芸郡の都衙関連の遺跡、ないしは寺院等の存在が想定される。また、千里ヶ丘遺跡¹⁷(18)からは和銅開坑が

出土している。

中世では、大石遺跡で土坑墓や掘立柱建物が、大里地区内遺跡群の南所遺跡⁽¹⁶⁾で掘立柱建物がみつかっている。川北城跡は、関から安濃津に至る街道を南に望む位置にある。空堀・門・掘立柱建物等が検出されている。三行城跡⁽¹⁷⁾では、南北2つの郭とそれを分かつ箱築垣掘りの堀切が見つかっている。

「六大」の地名の由来となった六大院は、15世紀中頃の文安年間（1444～1448）に窪田地内に建立された。天正8年（1580）には恵日山觀音寺（津觀音）に移転し大宝院と称するようになる。旧地に現在も六大院は残るが無住である。

一方、六大B遺跡の東に広がる沖積地の一身田には15世紀後半、専修寺第10世住持真慧によって無量寿寺が建設された。現在の高田本山専修寺である。それまでには関・桙本通り、津を経由して伊勢にむかう街道が窪田を通るように変わっていた。寺内町の成立は16世紀に入ってからと考えられている。

近世には、窪田は「伊勢別街道」の宿場として発展する。本陣は調査区の西約400mにあった。今でも表門が往時をしのばせる。

註

- ① 本堂弘之『一般国道23号中勢道路（9工区）建設事業に伴う 六大B遺跡（A地区）発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター 1999年
- ② 山口 格ほか『II. 大古曾遺跡』『一般国道23号中勢道路建設事業に伴う 大古曾遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター 1995年
- ③ 小林 秀・清水正明『II 津市東浦遺跡ほか』『東浦遺跡・桙本南方遺跡ほか』 三重県埋蔵文化財センター 1993年
- ④ 穂積裕昌・宮田勝功『一般国道23号中勢道路（9工区）建設事業に伴う 橋垣内遺跡発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター 1997年
- ⑤ 伊藤裕偉・穂積裕昌『II 津市大里地区内遺跡群 3. 大里西沖遺跡の調査』『平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財調査報告—第1分冊一』 三重県教育委員会 三重県埋蔵文化財センター 1992年
- ⑥ 伊藤徳也・森川幸雄『III 安芸郡芸濃町桙本大石遺跡』『平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財調査報告—

第1分冊一』 三重県教育委員会 三重県埋蔵文化財セ

ンター 1992年

- ⑦ 池端清行『一般国道23号中勢道路（9工区）建設事業に伴う 長遺跡発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター 2000年

菅室康光ほか『長遺跡発掘調査報告』 津市教育委員会 1989年

- ⑧ 中村光司・穂積裕昌『III. 山籠遺跡』『一般国道23号中勢道路建設事業に伴う 大古曾遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター 1995年

⑨ 村木一弥『津市北部サイエンシティ第1期事業区域内埋蔵文化財発掘調査報告 山王遺跡』 津市教育委員会 1998年

- ⑩ 菅室康光『川北遺跡・川北城址調査概要』『三重の古文化52』 三重郷土会 1984年

⑪ 穂積裕昌『一般国道23号中勢道路（8工区）建設事業に伴う 六大A遺跡発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター 2002年

- ⑫ 菅室康光『中焉遺跡発掘調査報告』 津市教育委員会 1977年

河北秀実ほか『中焉遺跡（第2次）発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター 2002年

- ⑬ 菅室康光『墓の谷1号墳発掘調査報告』 津市教育委員会 1976年

⑭ 木野本和之『窪田大垣内遺跡（第二次）発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター 1997年

大川勝宏『窪田大垣内遺跡（第3次）・管ヶ谷古墳発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター 1997年

- ⑮ 菅室康光ほか『安養院跡発掘調査報告』 津市教育委員会 1990年

⑯ 小玉道明・村上善雄・金村允人『三重・千里ヶ丘遺跡発掘調査報告』 千里ヶ丘遺跡発掘調査団 1968年

- ⑰ 伊藤裕偉『II 津市大里地区内遺跡群 2. 南所遺跡の調査』『平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財調査報告—第1分冊一』 三重県教育委員会 三重県埋蔵文化財センター 1992年

⑯ 梅澤 裕・山田 猛『三行城跡発掘調査報告』 三重県教育委員会 1985年

III 調査の成果

1 基本層序

遺跡は、志登茂川と毛無川に挟まれた河岸段丘および、低地に立地する。今回の調査範囲は、B～H地区では南北約500m、I～3～I～4地区では東西約200mにもおよぶ。B地区の北のA地区を境として、以北は北ないし東に下がっていく地形で場所によっては急斜面もみられる。一方、B地区以南では、南ないし東にむかって緩やかに下がっていく地形である。標高は、北方の津市大里窪田町付近で11.8m、南端の毛無川付近で6.1mである。現況は水田・畑で、およそ6段に削平されている。

B～G地区の基本層序は、I層：表土（耕作土）、II層：包含層、III層：地山である。

表土は水田または畑に作る耕作土で、厚さ数cm～40cm。場所によっては大変薄い。耕作土の下に床土のみられる部分もある。

包含層は、褐色砂質シルト・暗灰色砂混じりシルト・褐灰色砂混じりシルト・灰褐色細砂・暗褐色シルトなどで、場所によって土質に多少のちがいがみられる。厚さは、B～E地区では20～30cmだが、F・G地区では40～70cmと厚くなる。D地区では、表土が大変薄く、表土直下が地山で、包含層のみられない部分がある。

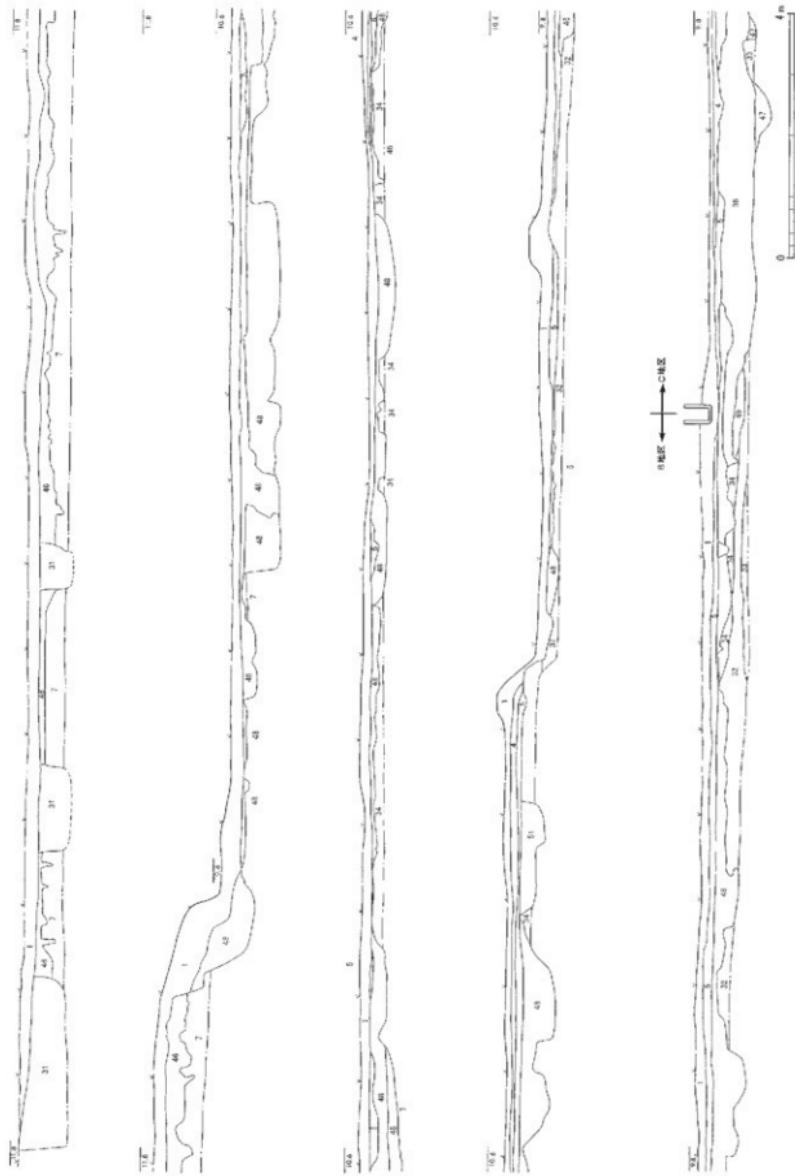
地山は、よく締まった黄灰色粘質シルト・黄灰色シルトなどで、この上面を遺構検出面とした。なお、F～G地区では、黄灰色シルトが徐々に下降し、淡黄灰色砂に変化する。F地区とG地区の一部では、包含層と地山との間に黒ボクが堆積する部分もみられる。

地表から地山上面までの深さは、浅いところで表土直下の数cm。深いところでは、B地区北端で70cm、G地区南端で90cmである。

東西方向の基本層序は、場所による大きな変化はなく、I：表土（耕作土）・床土、II：包含層（褐色シルト・暗灰茶褐色土等）、III：地山（黄灰色粘質土・黄灰色粘質シルト等）となっている。なお、I地区では、農道部分の調査であったため、道路に

伴う盛土がなされていた。

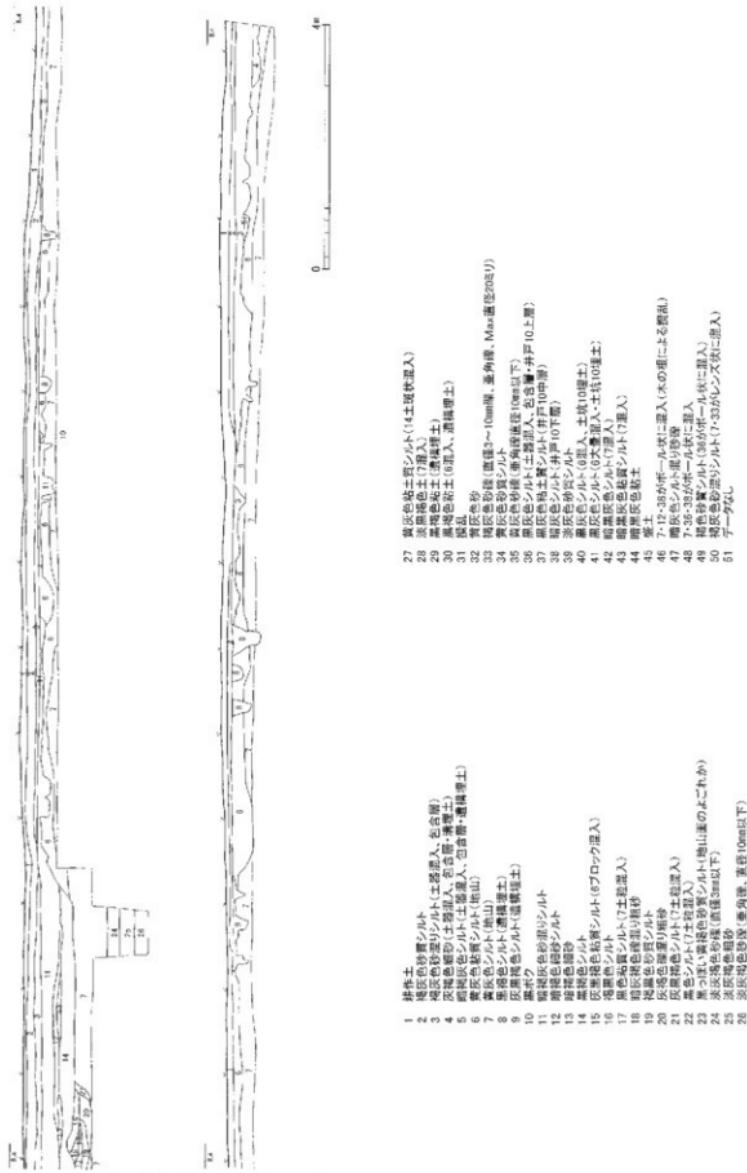
H地区は、調査区で最も低い部分で、I層：表土（耕作土）、II層：床土、III層：包含層、IV層：地山（暗黃灰色砂質シルト、検出面）となる。基本層序はG地区以北と大きな変わりはないが、包含層は黒褐色粘質シルトあるいは暗青灰色シルト質粘土等が数層堆積している。



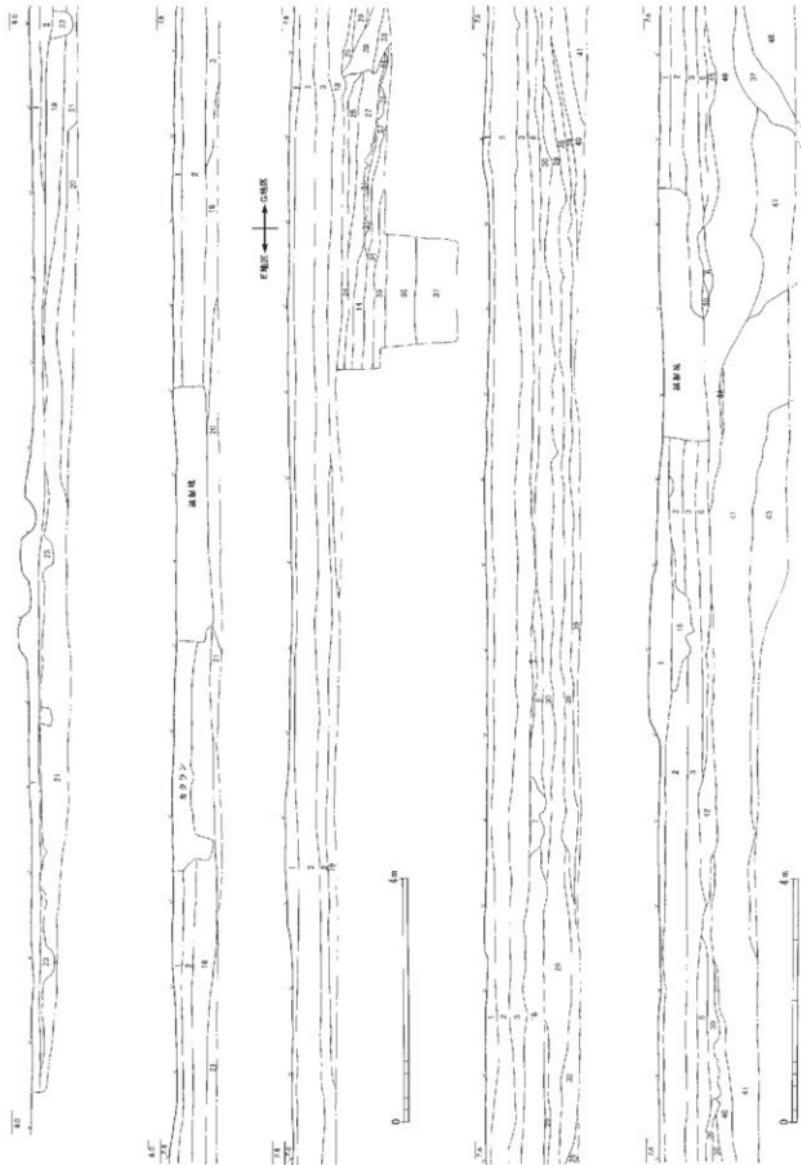
第4図 B～E地区東壁土層断面図① (1:80)



第5図 B～E地区東壁土層断面図② (1:80)

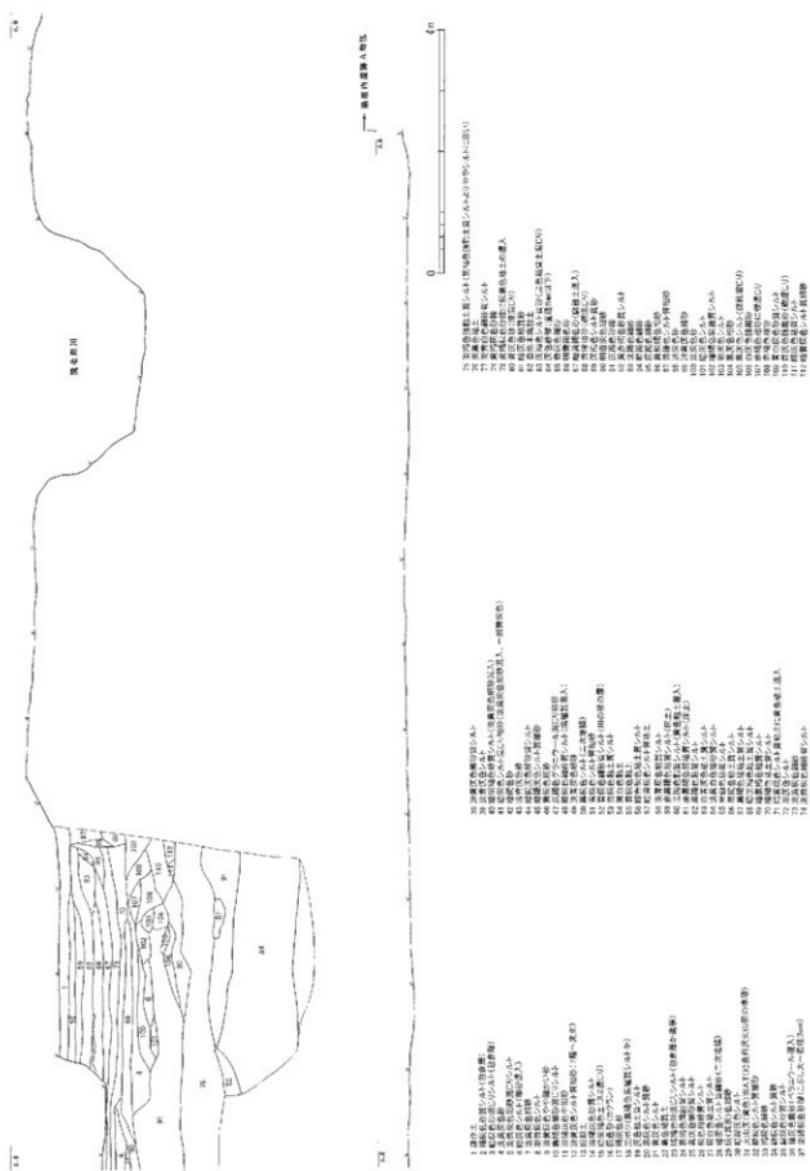


第6図 B～E地区東壁土層断面図(③) (1:80)

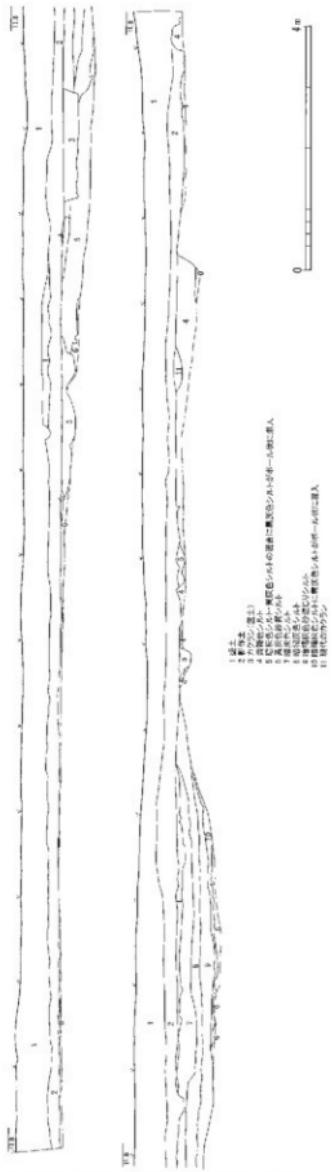


第7図 F～H地区東壁土層断面図① (1 : 80)

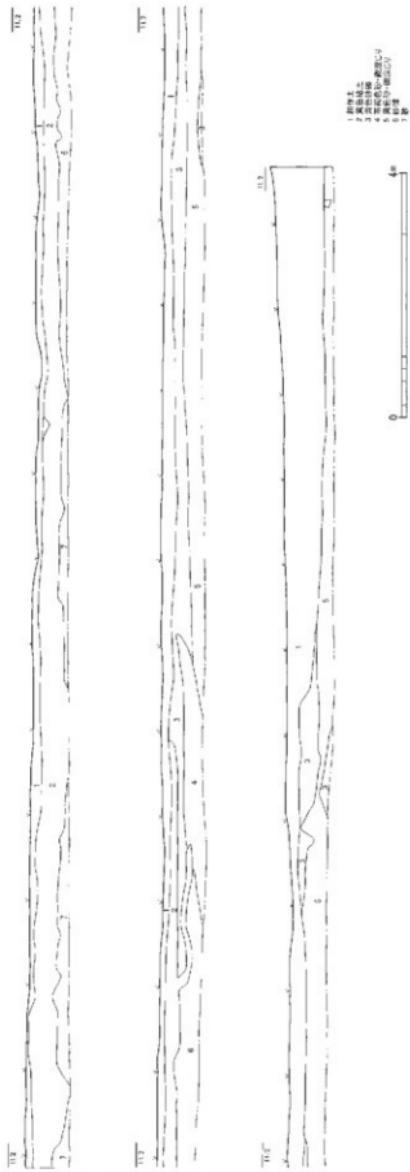




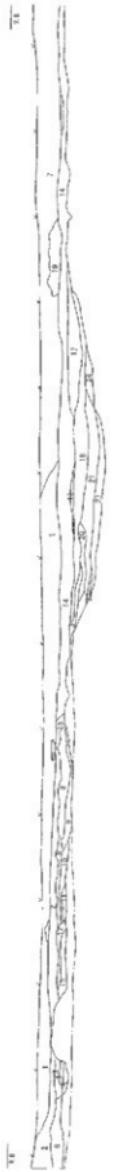
第9図 F～H地区東壁土層断面図③（1:80）



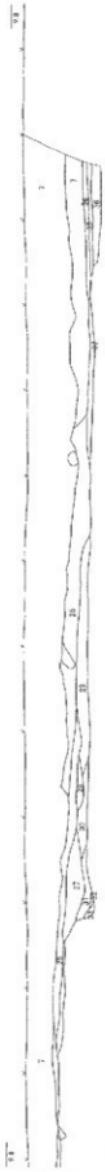
第10図 B地区北壁土層断面図 (1:80)



第11図 I-1地区北壁土層断面図(1:80)



第12図 I-2地区北壁土層断面図 (1:80)



1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

316

317

318

319

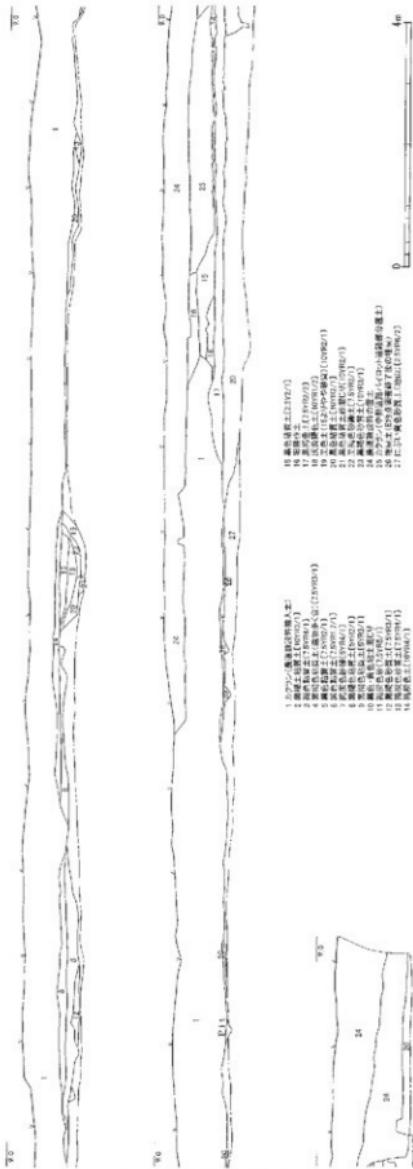
320

321

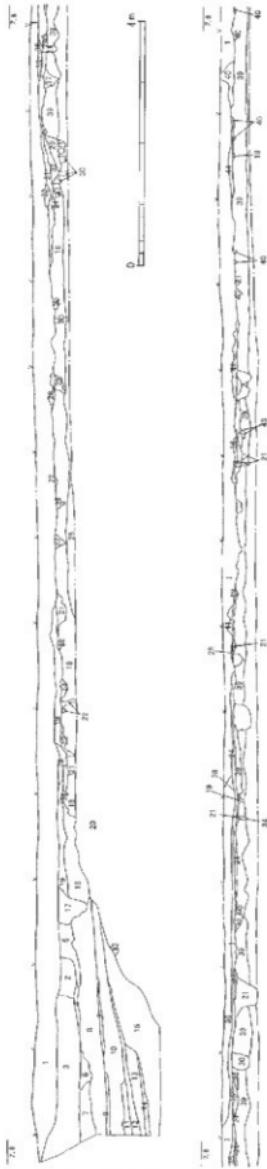
322

323

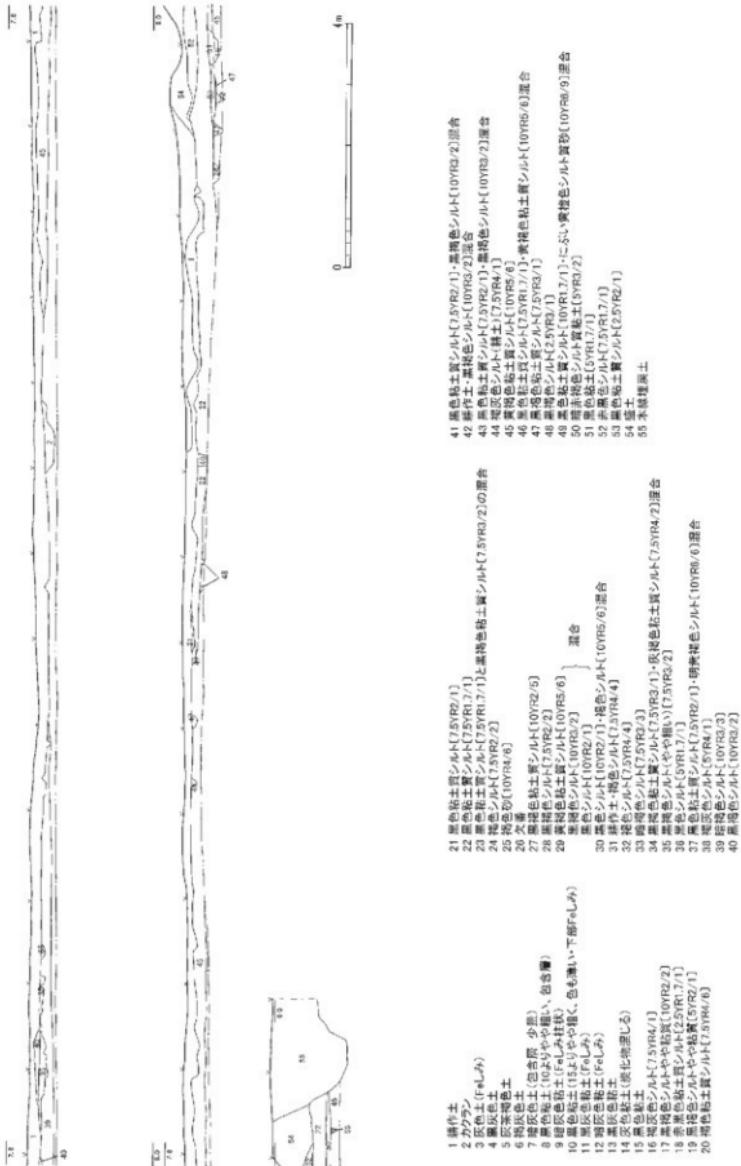
324

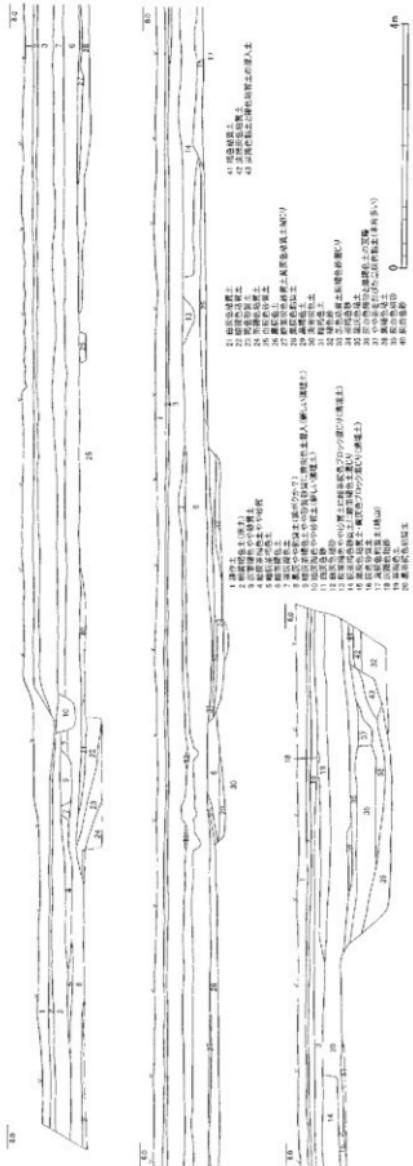


第14図 I-3地区北壁土層断面図② (1:80)



第15図 I-4地区南壁土層断面図① (1:80)





第17図 F地区南壁土層断面図 (1:80)



第18図 D地区南壁土層断面図 (1:80)

2 遺構と遺物

(1) 概要

検出された遺構は、竪穴住居、掘立柱建物、柵列、中世墓、井戸、土坑、溝・自然流路、など多岐にわたる。このうち、竪穴住居2棟、中世墓1基、掘立柱建物93棟、柵列11条、井戸24基、土坑60基、溝・自然流路38条について報告する。時期的には、弥生時代後期初頭（SK3）から幕末（近世土坑群：SK50～60）にわたるが、数の上では古代～中世が多い。

一方、遺物の時期もおおむね遺構の時期と一致し、古代～中世が種類・量とも充実している。特徴としては、縄文陶器の点数が多いこと、和銅開珎銀鏡や石帶が出土していることなどがあげられる。

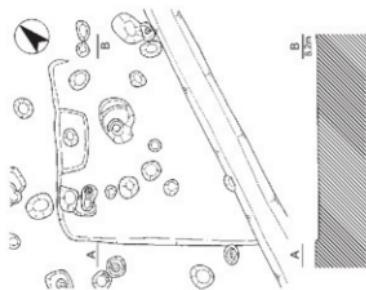
遺構の分布は、掘立柱建物はC～F地区に分布する。特にD・E地区に集中している。ごく大まかにいえば、飛鳥・奈良時代：C・F地区、平安時代前半：D・E地区、平安時代後半：D地区、鎌倉時代：C地区といった傾向がみられる。井戸は、F・H地区ではなく、B・E地区に各1基分布するほかは、地区によるかたよりはみられない。G地区は近世井戸のみである。土坑もH地区を除くB～I地区全体にわたって検出されている。弥生時代の土坑は、B地区に2基、C地区に2基、D地区に1基所在する。溝は、C・E・F・I地区に多く、自然流路は、G地区を中心に検出されている。自然流路は飛鳥奈良～古代のものが多い。F地区を中心とする鎌倉時代の溝は、条理方向に沿ったものである。

(2) 竪穴住居

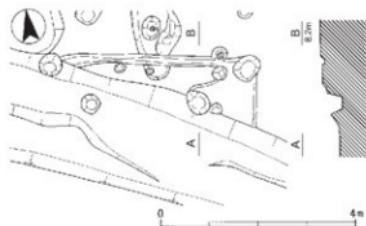
B～Iまでの調査区で検出した竪穴住居はSH1・2の2棟だけである。いずれもE地区に所在する。

SH1 E地区の東端で北西辺全部（3.7m）と南西辺大半（検出長4.1m）を検出した。北コーナーは検出したが、北東辺（推定検出長2.5m）は削平されていた。検出面から住居床面までの深さは8cm。出土遺物はないが、形状から飛鳥時代まで測ると推定した。

SH2 E地区の南端で北辺の大半（検出長3.8m）と東辺の一部（同1.2m）を検出した。北辺西端部では南に向かってカーブしているところから、北辺のほぼ全体が検出できていると考えられる。SH2の南の大部分はSD13によって切られている。北東角もビ



第19図 SH1 実測図 (1 : 100)

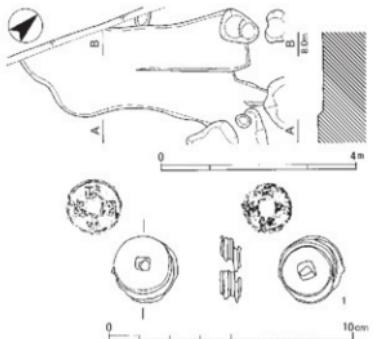


第20図 SH2 実測図 (1 : 100)

ットに切られて検出できなかった。検出面から床面まではわずか2～3cmしか残っていないが、北辺では周溝と2つの主柱穴が確認できた。主柱穴の間隔は2.3m、周溝は幅20cm、検出面からの深さ9cmである。図化遺物はないが、主柱穴からは宝珠つまみのある須恵器と陶器山茶椀が出土している。陶器山茶椀は混入品と考えられ、須恵器と竪穴住居の形状から飛鳥時代と推定した。

(3) 中世墓

SX1 F地区の西壁付近で検出した。西端が調査区外になること、北東側と東側に別の土坑が切り込んでいることなどにより全体の形は明らかでないが、南西～北東に長い方形または梢円形と考えられる。ほとんど削平されており、検出面からの深さは5cm程度と大変浅い。出土遺物には六文銭（1）と土器の小片がある。この六文銭の出土から中世墓と判断した。六文銭は6枚が固着しており分離できなかった。最上部の1枚は、「政和通寶」（北宋 1111年初鋤）である。全體の重さは14.8g。



第21図 SX 1実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:2)

(4) 挖立柱建物・柵列

掘立柱建物93棟(SB 1～93)および柵列11条(SA 1～11)の個々のデータについては一覧表を参照されたい。一覧表の中で、SB74とSB87には建て替えが確認されたため、建て替え前をSB74a・SB87a、建て替え後をSB74b・SB87bとした。また、一覧表中の、「概報番号」は、『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅲ・Ⅳ・Ⅴによっている。概報Ⅲでは、B～D地区とE～G地区は同時に調査されたため、概報の遺構番号は、B～D地区が1番から、E～G地区が500番からとなっている。概報Ⅳ・Vも基本的に同じ概報番号を用いているが、概報Ⅳは、平成3年度に調査区が西に拡張された結果、概報Ⅲに加えて、新しく検出されたり規模が確定されたりしたものが掲載されている。ただし、SB31は、概報Ⅲで掘立57とされたものが、概報Ⅳでは規模が拡張され掘立81と改称されている。改称後の番号のみ表に掲載した。また、概報ⅣのH地区では、掘立柱建物は検出されなかった。概報Vでは、当該年度に調査されたI地区の掘立柱建物が加えられている。年度が異なるため概報の遺構番号は1番からふられている。B～D地区との混同を避けるため、一覧表ではI地区であることを明記している。

以下、主な掘立柱建物・柵列および出土遺物の概略を述べる。

SB 1・2 C地区西壁で北東角を確認した。SB1からは土師器杯(2)と皿(3)のほか、製塩土器片が出土している。SB1は平安時代初頭。SB2は出土遺物がないが、SB1と類似した方向であり同時期と推定される。

SB 3 C地区西壁で南西角を確認した。須恵器鉢(4)が出土しており、奈良時代と考えられる。

SB 4～8・12・13 C地区的西よりで検出した。東側は検出面の落ち込みにより検出できなかった部分が多い。出土遺物(5～14・20)などからいずれも奈良時代と考えられる。SB6～8は総柱建物の可能性がある。

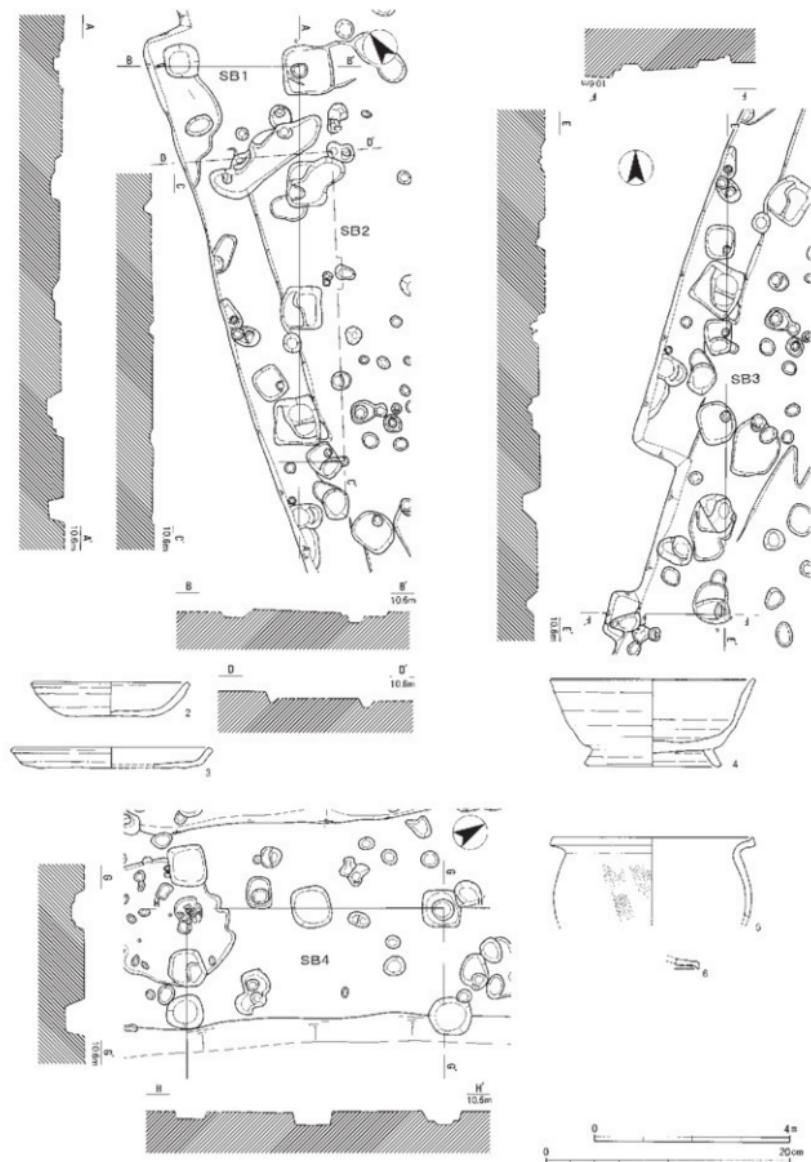
SB 9～11 C地区的中央から東よりで検出した。形態と出土遺物からSB9・11は奈良時代と考えられる。陶器山茶椀(16～18)は混入品である。SB10は2面扉(東・南)を持つ。全体にややいびつな平面形である。白磁碗(19)が出土しており、鎌倉時代と考えられる。

SB14～16 SB14はC地区的南西部。SB15・16は南東部で検出した。いずれも総柱建物である。出土遺物は、SB15から土師器鍋口縁部(21)・土鍤(22)と岡化できなかったが陶器山茶椀片、SB16から土師器小片がある。いずれも鎌倉時代と考えられる。SB14は、出土遺物はないが、形態から平安時代前半と考えられる。

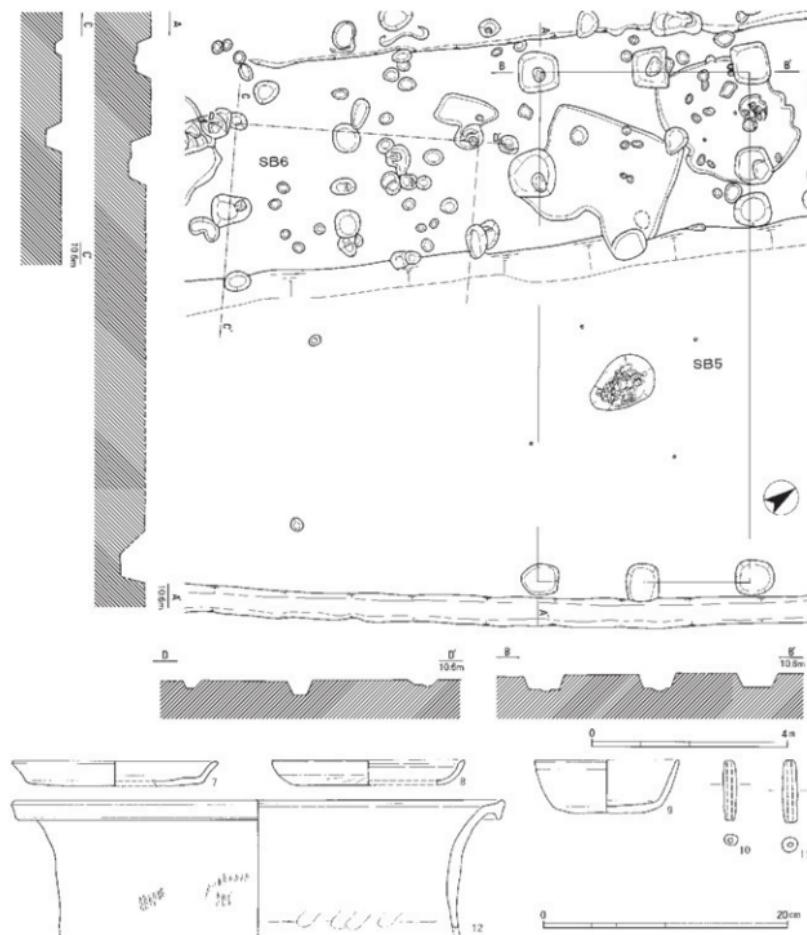
SB17～20 D地区的中央から東よりで検出した。このあたりから南のE地区にかけては、平安時代前半から後半の掘立柱建物が特に集中する一角である。SB17は、出土遺物はないが、棟持柱2本が確認でき、弥生時代のものと思われる。SB18は、土師器小片が出土しており、形態から鎌倉時代と思われる。SB19・20は、平安時代前半と考えられる。出土遺物はSB20から長財甕片があるのみである。

SB21～47 D地区南方に集中している。時期が不明確な3棟を除くと、平安時代の建物ばかりである。平安時代前半と後半の比率はほぼ半々である。

SB25は、集中地区から東にはずれたところにある桁行7間×梁行2間の南北棟である。東西棟の多い中で、ひときわ細長く、目立つ存在である。出土遺物は、岡化できなかったが、土師器・須恵器・灰釉陶器の小片があり、平安時代後半と考えられる。



第22図 SB 1～4 実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4) [2・3 : SB 1、4 : SB 3、5・6 : SB 4]



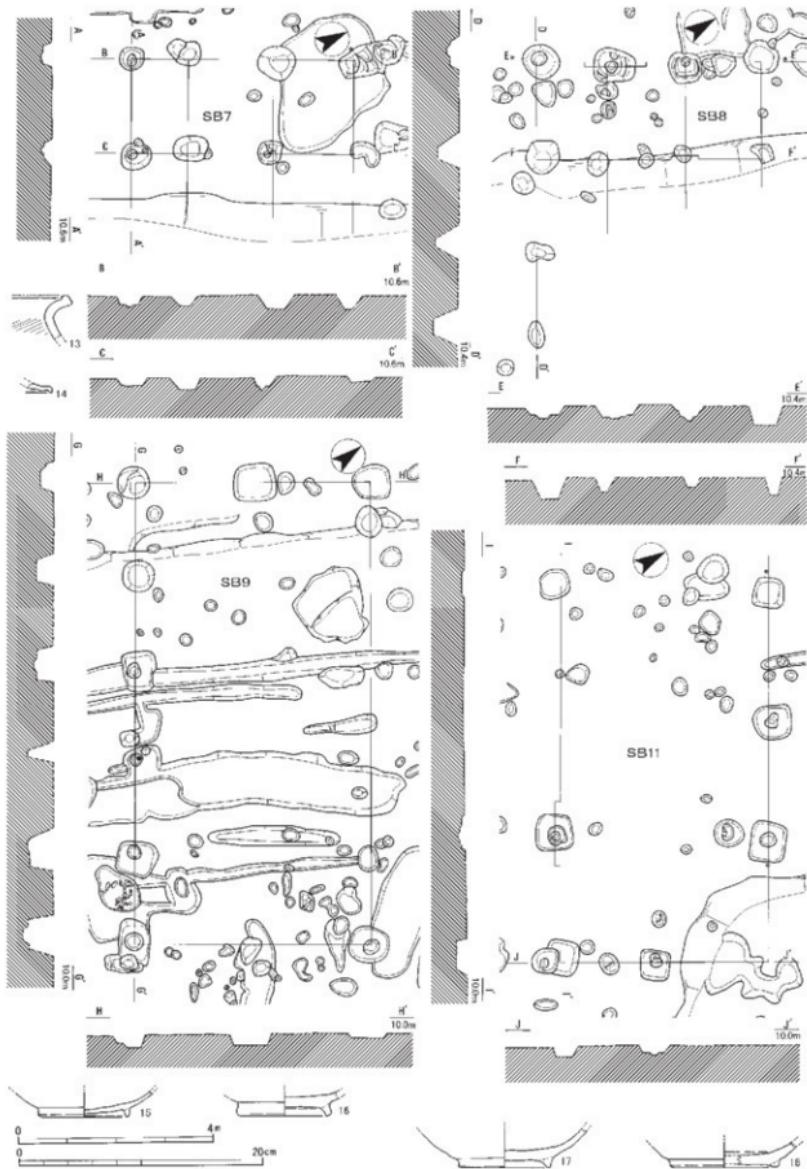
第23図 SB5・6実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4) [7~11:SB5、12:SB6]

SB29・38は、それぞれ東・西に1面廂を持つ。SB29から土師器杯(26)と砥石(27)のほか須恵器小片が、SB38から灰釉陶器皿(41)のほか土師器・須恵器・製塙土器の小片が出土している。SB29は平安時代前半、SB38は平安時代後半の建物である。

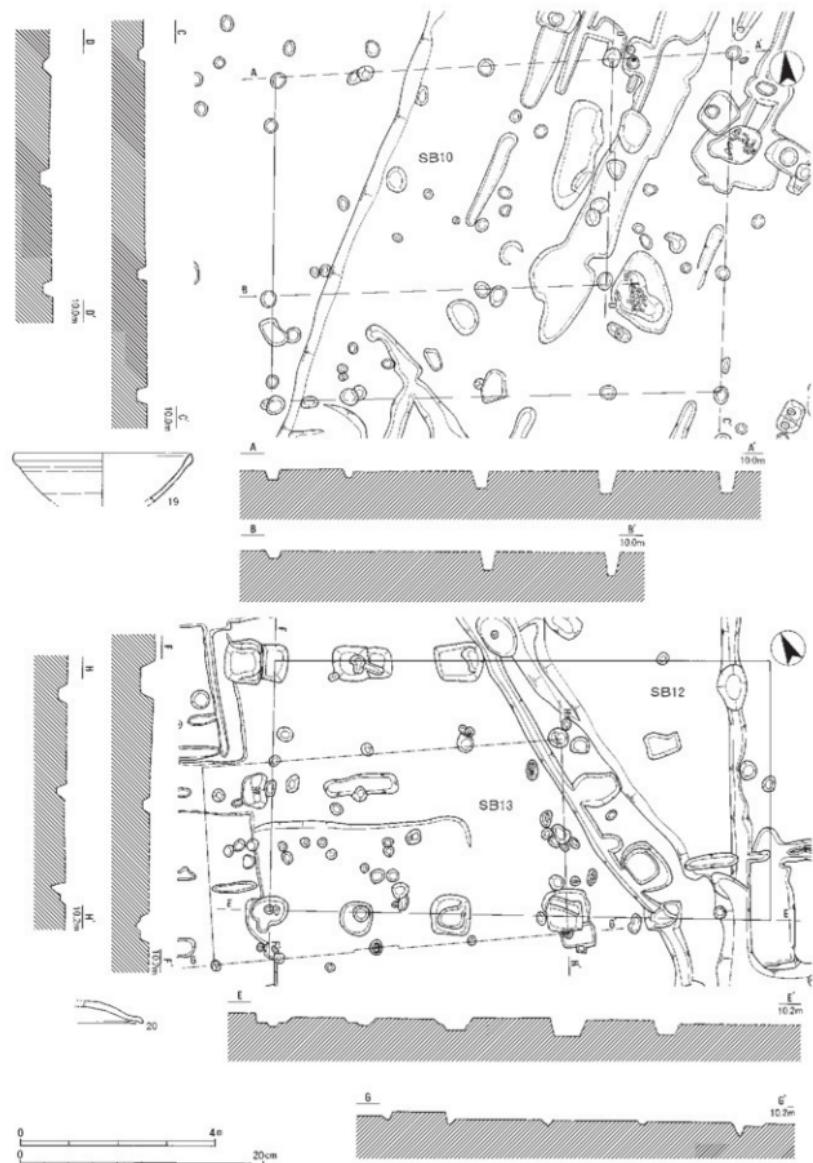
SB43・44は、D地区の掘立柱建物が集中する地区からやや南にはずれたところ、E地区との境付近くで確認した。SB43は、桁行3間×梁行2間、東西棟

の総柱建物である。SB44は、桁行2間・東側3間、梁行2間の南北棟である。岡化できる出土遺物はないが、SB43からは土師器と陶器山茶椀の小片が出土しており、鎌倉時代と考えられる。SB44からは土師器片が出土しており、奈良～平安時代と思われる。

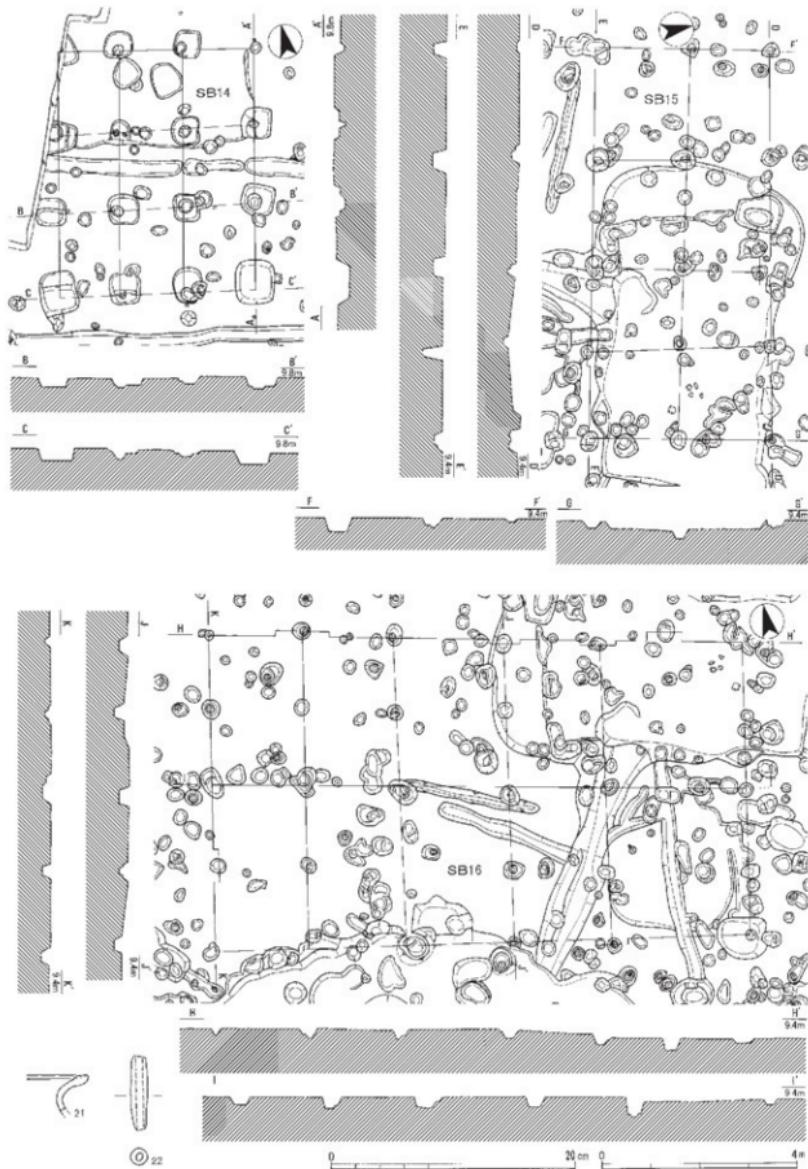
SB45は、西・北・東の3面に廂を持つ。身舎の桁行5間×梁行3間の東西棟である。土師器小片が出



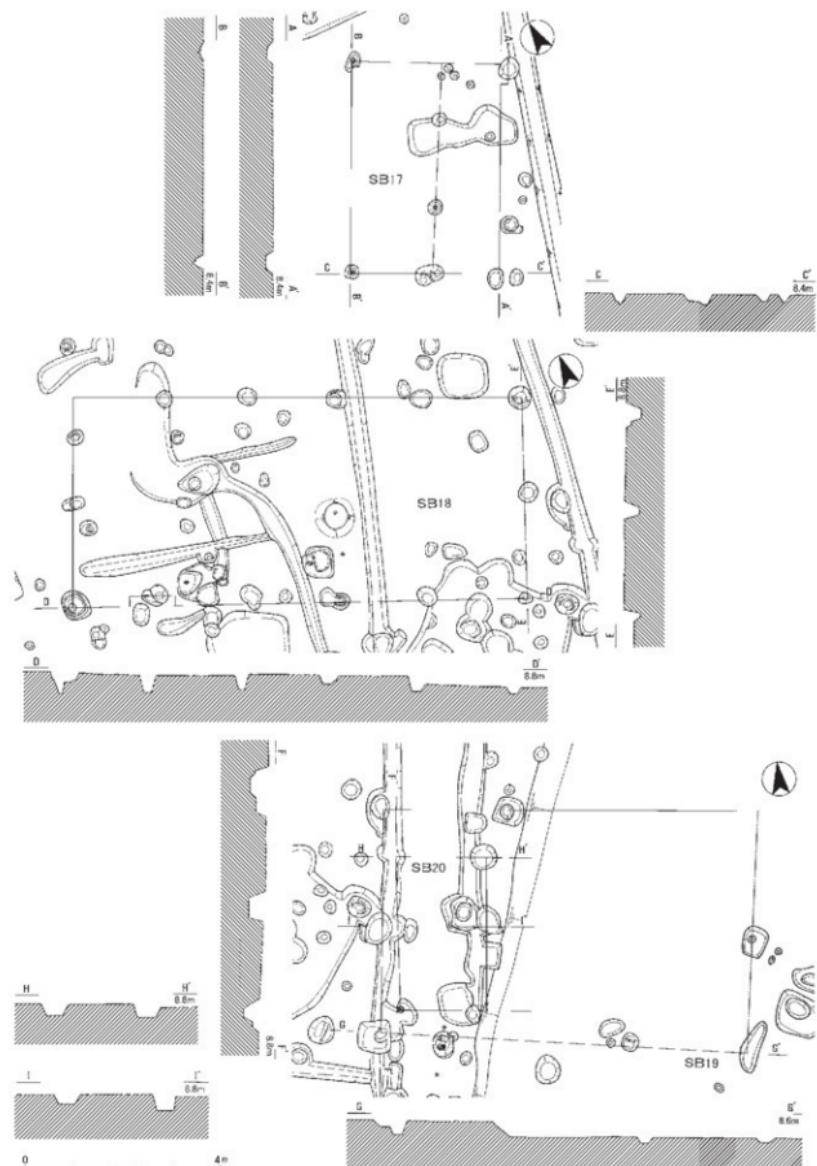
第24図 SB 7～9・11実測図 (1:100)、出土遺物実測図 (1:4) [13・14:SB 7、15～18:SB 9]



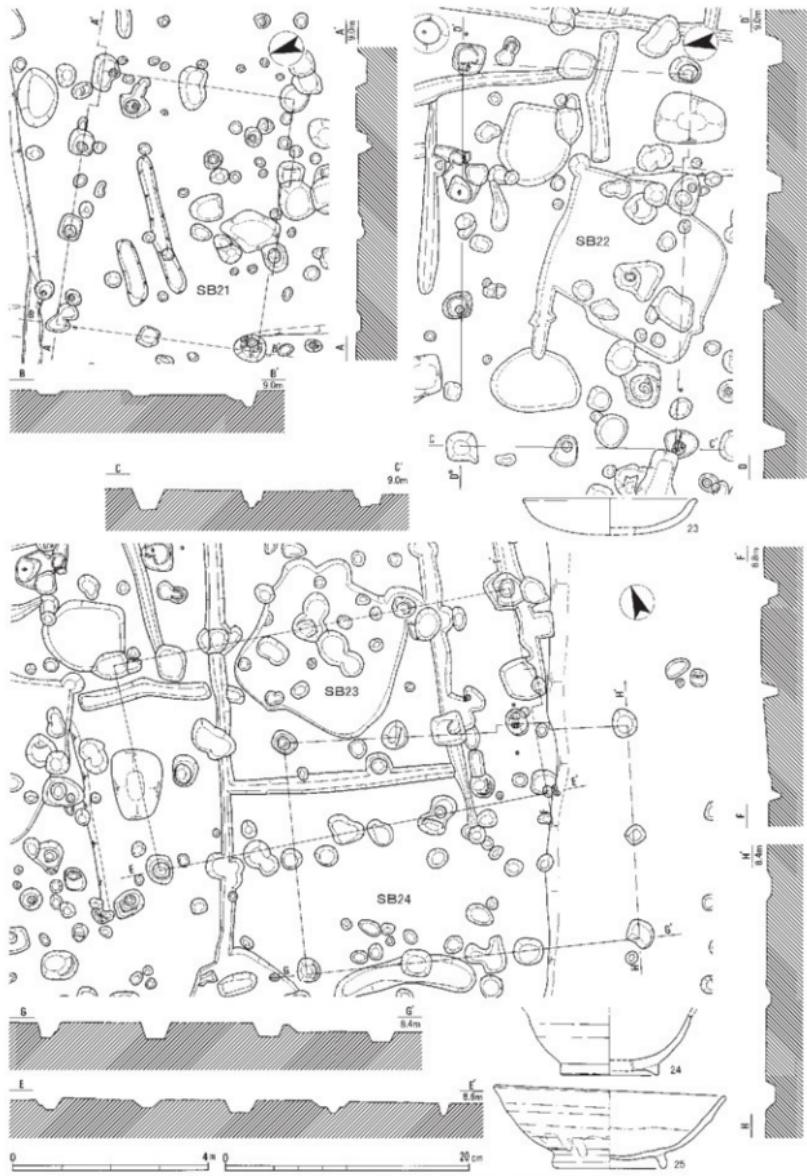
第25図 SB10・12・13実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）【19：SB10、20：SB12】



第26図 SB14～16実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4) [21・22:SB15]



第27図 SB17～20実測図 (1 : 100)



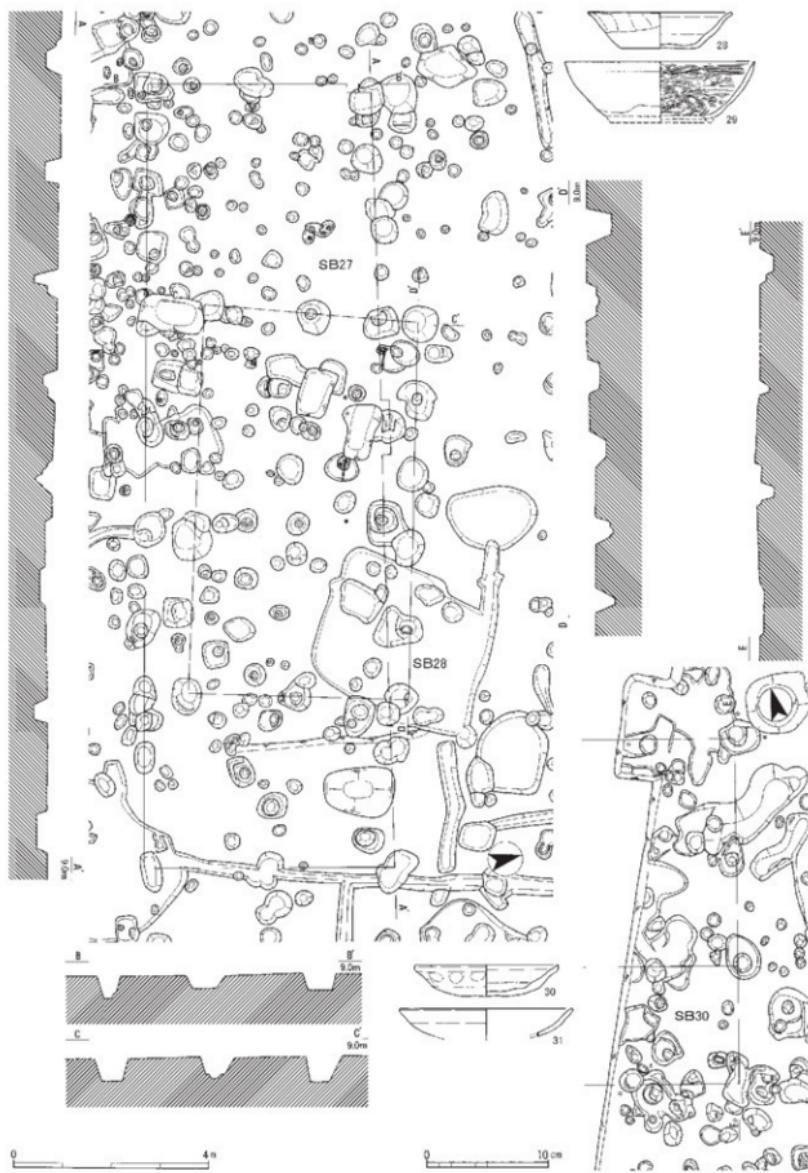
第28図 SB21～24実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4) [23 : SB22, 24・25 : SB24]



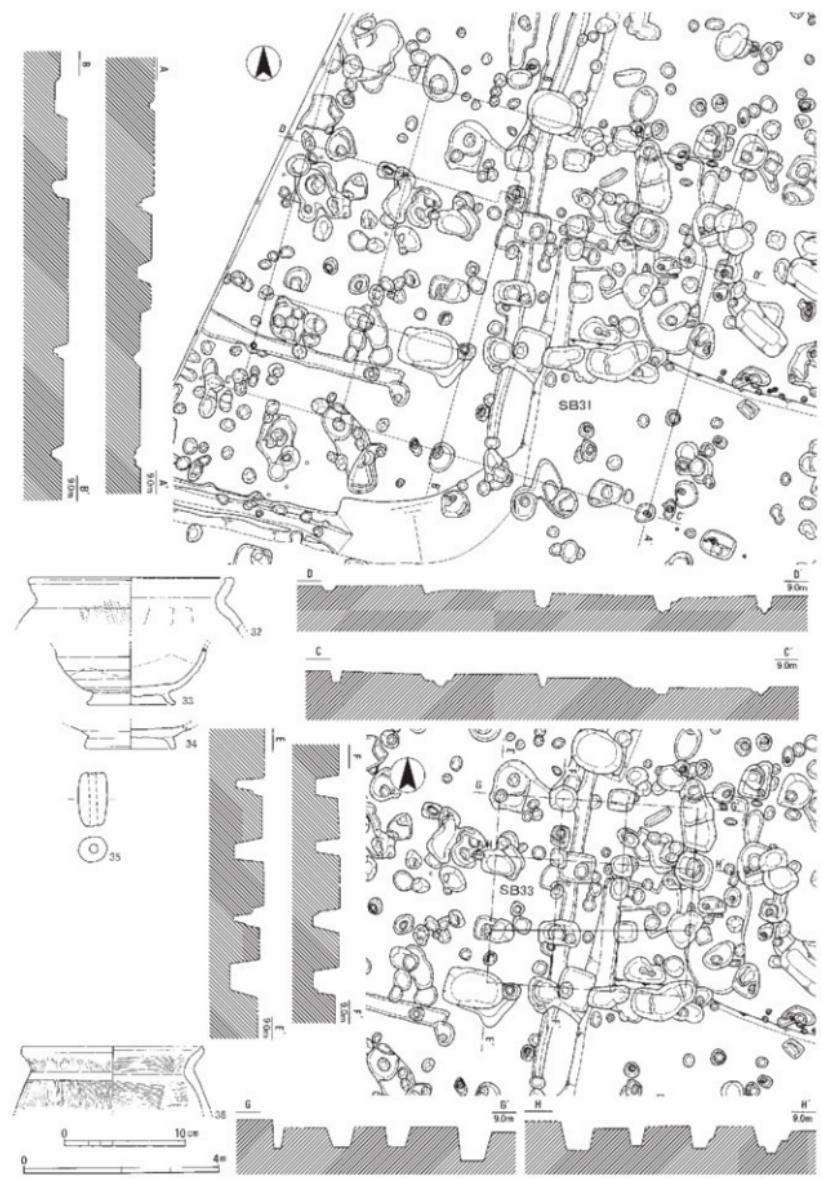
第29図 SB25・35実測図 (1 : 100)



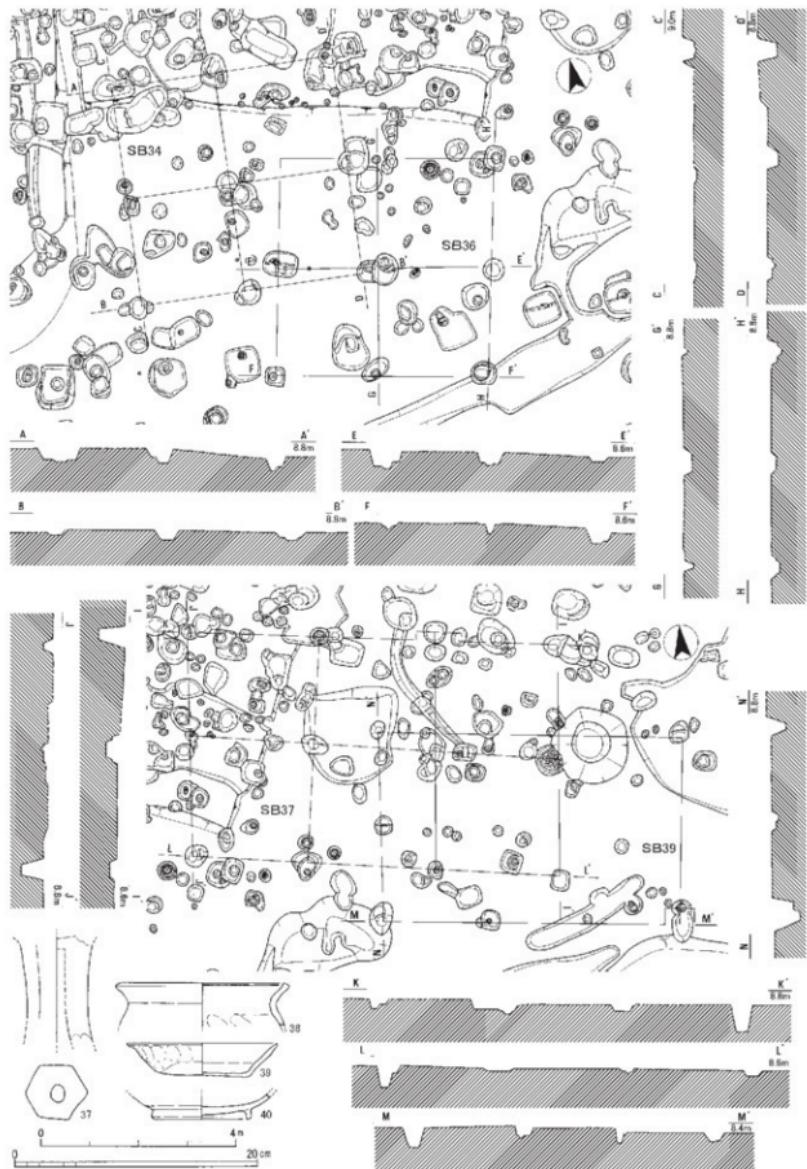
第30図 SB26・29・32実測図 (1:100)、出土遺物実測図 (1:4) [26・27:SB29]



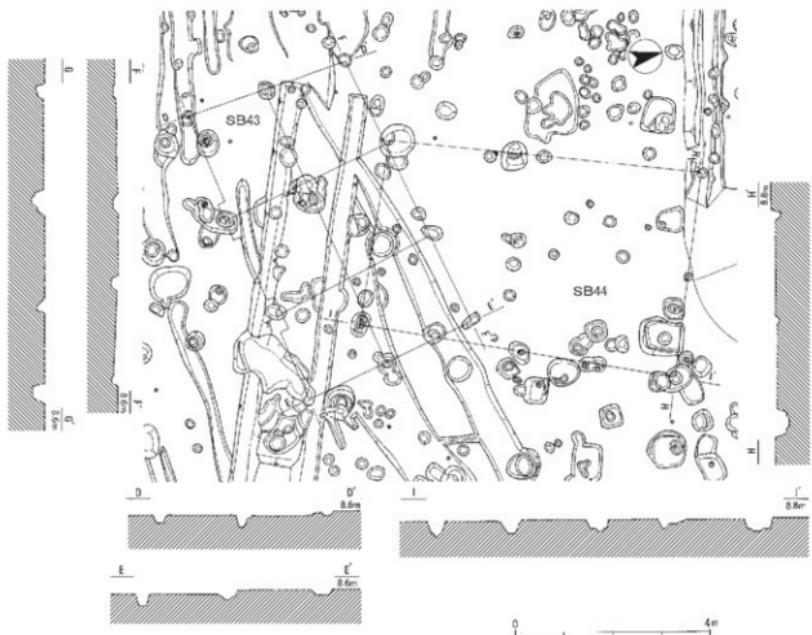
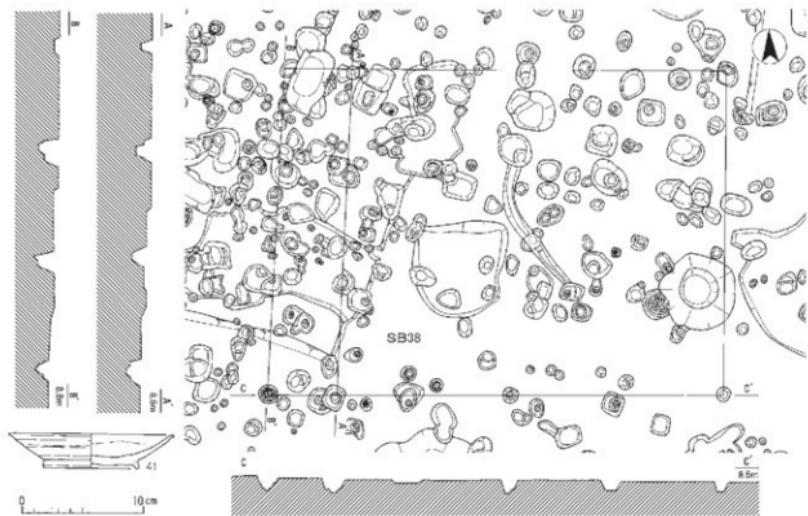
第31図 SB27・28・30実測図 (1:100)、出土遺物実測図 (1:4) [28・29:SB27, 30・31:SB30]



第32図 SB31・33実測図 (1:100)、出土遺物実測図 (1:4) [32~35:SB31、36:SB33]



第33図 SB34・36・37・39実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4) [37・38:SB34, 39:SB36, 40:SB39]



第34図 SB38・43・44実測図 (1:100)、出土遺物実測図 (1:4) [41:SB38]



第35図 SB40～42・44実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）[42～44：SB40、45～48：SB42]

土しており、平安時代前半と考えられる。

SB46・47は、SA1を介してひとまとまりとらえられる建物群である。D地区の掘立柱建物が集中する地区からやや東にはずれたところ、SB25のすぐ南西で確認した。いずれも桁行5間×梁行3間と間数は同じだが、SB47の方が桁行が短い。ふたつの建物の間隔は、3間(6.6m)である。SB47から灰釉陶器口縁部(49)が出土しているほか、両者から土師器・須恵器片が出土している。平安時代前半の建物である。

D地区の掘立柱建物は、E地区には連続していない、D地区とE地区の間には建物の密度が疎になる部分がある。E地区で掘立柱建物が集中するのは、北西部に7棟、南東部に11棟である。北西部の集中地区では、平安時代後半の建物が2棟(SB51・52)みられるほかは、平安時代初頭～前半の建物である。南東部では建物すべてが平安時代前半のものである。

SB48 E地区の中央北端部、D地区との境で検出した。桁行4間×梁行2間の東西棟である。D地区的集中地区とE地区北西部集中地区との間に1棟だけ建つ。中央部を東西にD・Eの境の土手、南北にSD11が横切る。岡化できた出土遺物はなく土師器片が出ていているのみである。平安時代前半と思われる。

SB53～55 北西部の集中地区で検出した。いずれも柱掘形のしっかりした建物で、SB53・54は桁行4間×梁行2間の側柱建物、SB55は3間×3間の総柱建物である。遺物は、SB53から土師器鍋の口縁部(53)のほか土師器片・須恵器片・木炭が、SB54から土師器片・灰釉陶器片・製塙土器片・木炭が、SB55から製塙土器(51)・土鍾(52)のほか土師器片が出土している。いずれも平安時代初頭の建物である。

SB56～58 この3棟は、ふたつの集中地区からははずれ、E地区的南西部で検出した。SB56は2間×2間の総柱建物、SB57は3間×3間だが、中央部がSD13に切られてしまい、総柱建物であると考えられる。SB58は桁行3間×梁行2間で、やはりSD13に切られているが側柱建物であると考えられる。遺物は、SB58から灰釉陶器椀の底部(54)が出土しているほか、SB56から土師器片、SB58から土師器片が出土している。いずれも平安時代前半の建物である。

SB64 4間×3間の南北棟の身舎に西一面庇が付

く。土師器甕の口縁部(56)が出土しており、平安時代前半の建物である。

F地区・I地区は、D・E地区に比べると掘立柱建物の密度はまばらである。時期的には、飛鳥・奈良時代が多く、下っても平安時代前半までである。

SB70・71 F地区北端中央で検出した。どちらも総柱建物で、SD12に切られている。土師器片が出土しているが、岡化できる遺物はなかった。平安時代(前半)のものと思われる。

SB72 SB70・71の東で検出した。3間×3間の総柱建物で、直径または一辺50～60cmのしっかりとした柱掘形を持つ。土師器片が出土している。形態などから奈良時代と考えられる。

SB73 F地区中央部やや東よりで検出した。桁行3間×梁行2間の柱間の長い建物である。総柱(床柱)の可能性もある。また、建物の中央南によりにあるSK26はこの建物に伴う土坑と考えられる。SB73の柱掘形からは土師器片が出土している。SK26からは須恵器蓋・瓶の口縁が出土しているが岡化できるものはなかった。平安時代前半のものと考えられる。

SB74 桁行3間×梁行2間の東西棟である。F地区的西よりで検出した。北側の桁が1度建て替えられている。建て替え前をSB74a、建て替え後をSB74bとした。建て替え後は北に40cmほど広がるかたちになる。出土遺物はないが、形態から飛鳥・奈良時代のものと思われる。

SB78 SB74・75の南で検出した。桁行3間×梁行2間、南北棟の総柱建物である。直径30cm～50cmの円形ないし梢円形の柱掘形に直径15cm～20cm柱痕が確認できる。岡化できる遺物はなかったが、土師器片・須恵器片が出土している。奈良時代と考えられる。

SB79～81 SB78の南で検出した。SB79・80は桁行が調査区外へ伸びる。梁行はいずれも3間である。中央付近に中心柱と考えられる柱穴がある。SB81は1間×1間であるが、この建物にも中心柱穴が検出された。遺物は、SB79・80で土師器片が出土している。3棟とも飛鳥・奈良時代と考えられる。

SB82 SB81の東で検出した。確認できた規模は桁行3間×梁行2間だが、すぐ南西に自然流路SD12

があることなどから、もう少し広がる可能性がある。建物中央の東よりにSK23があり、建物に伴うものと考えられる。掘立柱建物の柱掘形や柱痕からの出土遺物はなかったが、SK23からは、土師器甕(403・405)・杯(404)・皿(408)、須恵器壺(406)・甕(407)・曲物の底板(410)が出土している。飛鳥～奈良時代の土坑と考えられ、建物も同時期であろう。陶器山茶碗(409)は重複した別の遺構(遺構番号なし)から混入したものである。

SA5 檻列として報告するが、調査区外に延びるため建物になる可能性もある。土師器片・須恵器片が出土しており、奈良時代～平安時代前半と思われる。

I 地区は他の地区に比べて調査区の幅が狭く、多くの掘立柱建物が調査区外に延びる。檻列として報告するSA 7～11も建物になる可能性がある。I 地区は4つに細分される。I-1・I-2は、それぞれC 地区の西と東につながるが、新たな掘立柱建物は検出されなかった。F 地区の西につながる I-3 地区で4棟、東につながる I-4 地区で8棟確認した。いずれも集中する傾向はみられない。

SB83 全体を確認できた。桁行4間×梁行2間の東西棟で、柱掘形は、50～60cmの直径または一辺を持つ円形・方形である。土師器片が出土しており、奈良時代～平安時代と思われる。

SB84 南西部が調査区外に延びるため、全体を確認できなかった。桁行2間以上×梁行2間で柱掘形は20～30cmと小さい。出土遺物はないが、形態から鎌倉時代と思われる。

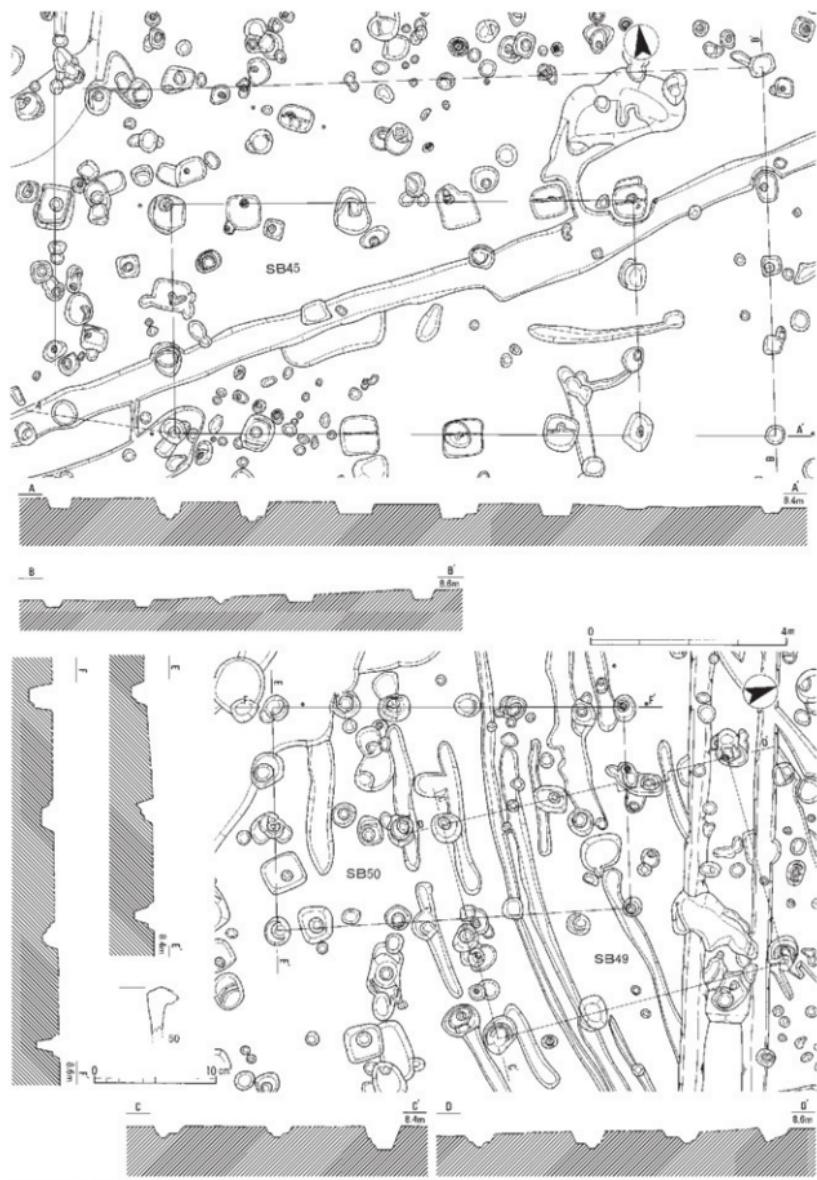
SB85・86 一辺40～60cmの方形の柱掘形を持つ総柱建物である。柱痕の確認できるものが多い。規模は、南が調査区外に延びるSB85が3間×1間以上、全体が確認できたSB86が3間×3間である。SB86から須恵器高杯の脚部(59)が出土している。いずれも飛鳥時代の建物である。

SB87 同じ場所で建て替えが確認できる。建て替えた前のSB87aは、一辺60～70cmの方形、建て替え後のSB87bは直径または一辺50～70cmの円形・方形の柱掘形である。柱根の残るものもある。また、中心柱穴と思われるビットを検出している。遺物は、須恵器杯蓋(60)のほか、土師器片・須恵器片がある。

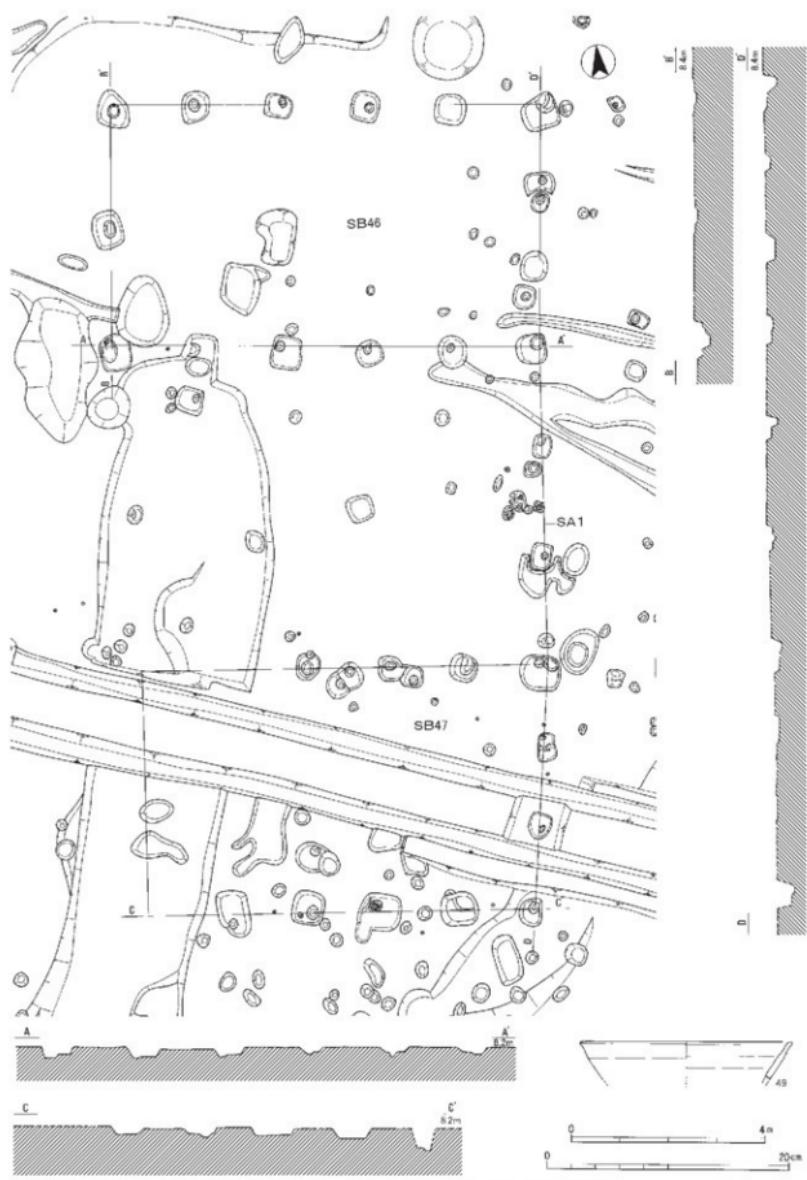
飛鳥時代のものである。

SB88 全体が確認できた。2間×2間の総柱建物である。中央のビットはやや小さく、床柱と考えられる。出土遺物はないが、形態から平安時代と思われる。

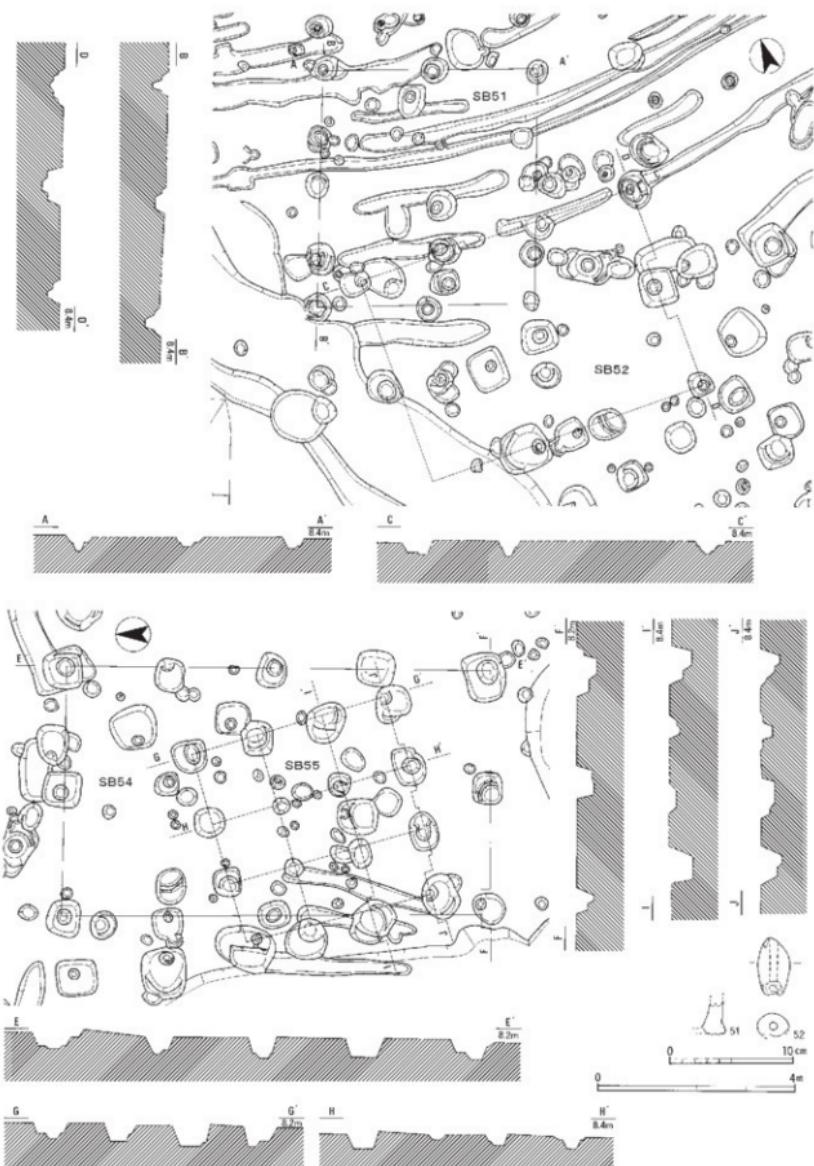
SB90～92 柱掘形が小さく、鎌倉時代と思われる。出土遺物は、SB91・92で土師器小片があるが図化できるものはなかった。SB92の中央の柱穴がSD38などで検出できなかったものと考えると、3棟とも総柱建物である。



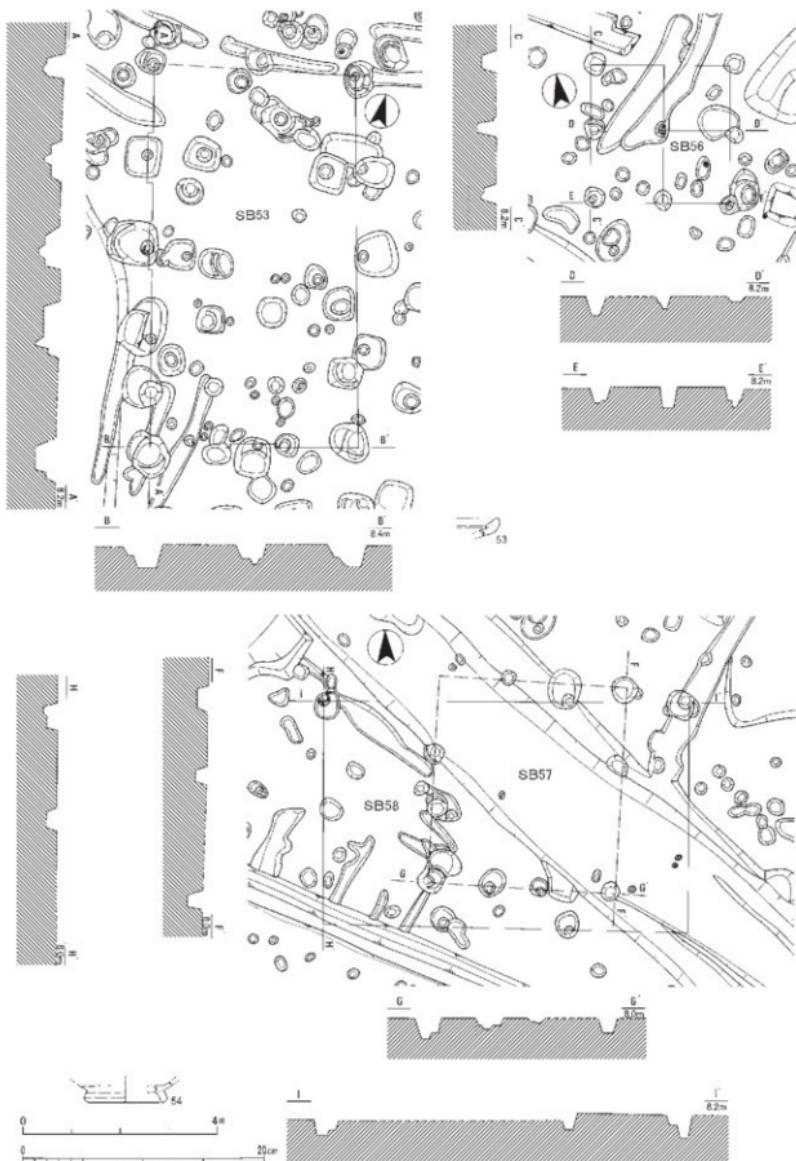
第36図 SB45・49・50実測図 (1:100)、出土遺物実測図 (1:4) [50:SB50]



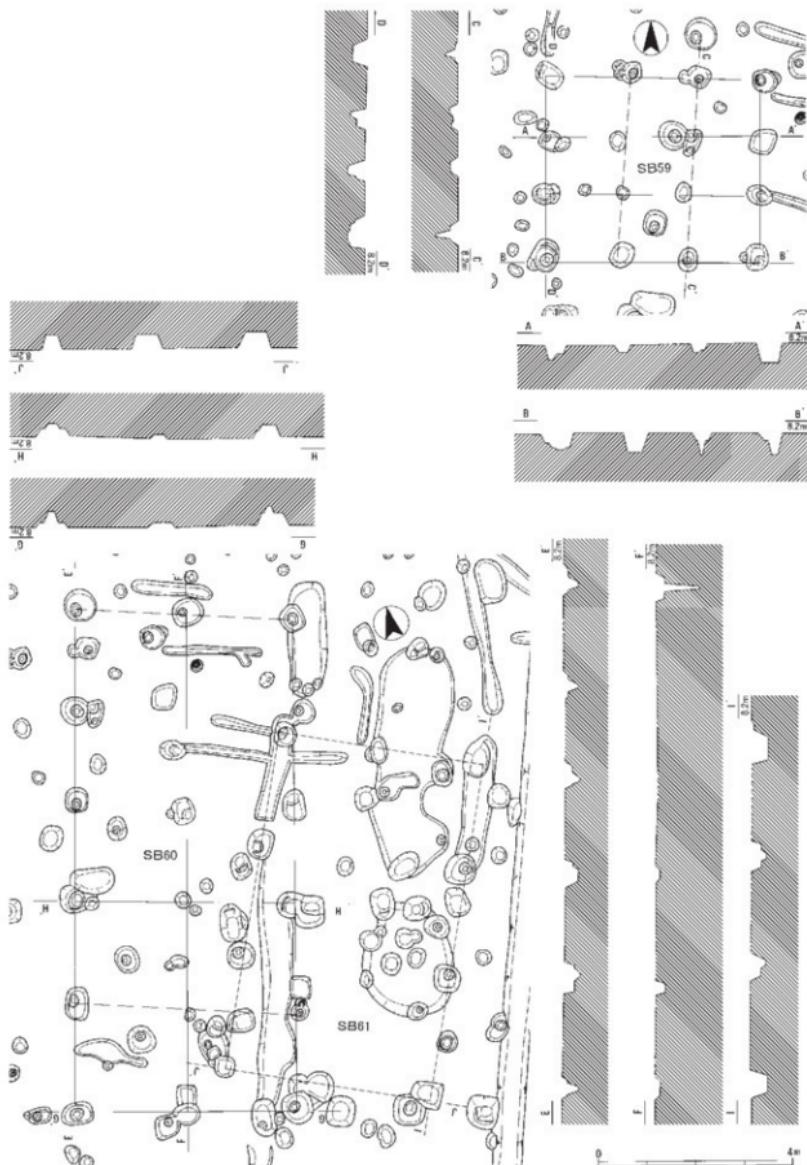
第37図 SB46・47・SA1実測図 (1:100)、出土遺物実測図 (1:4) [49:SB47]



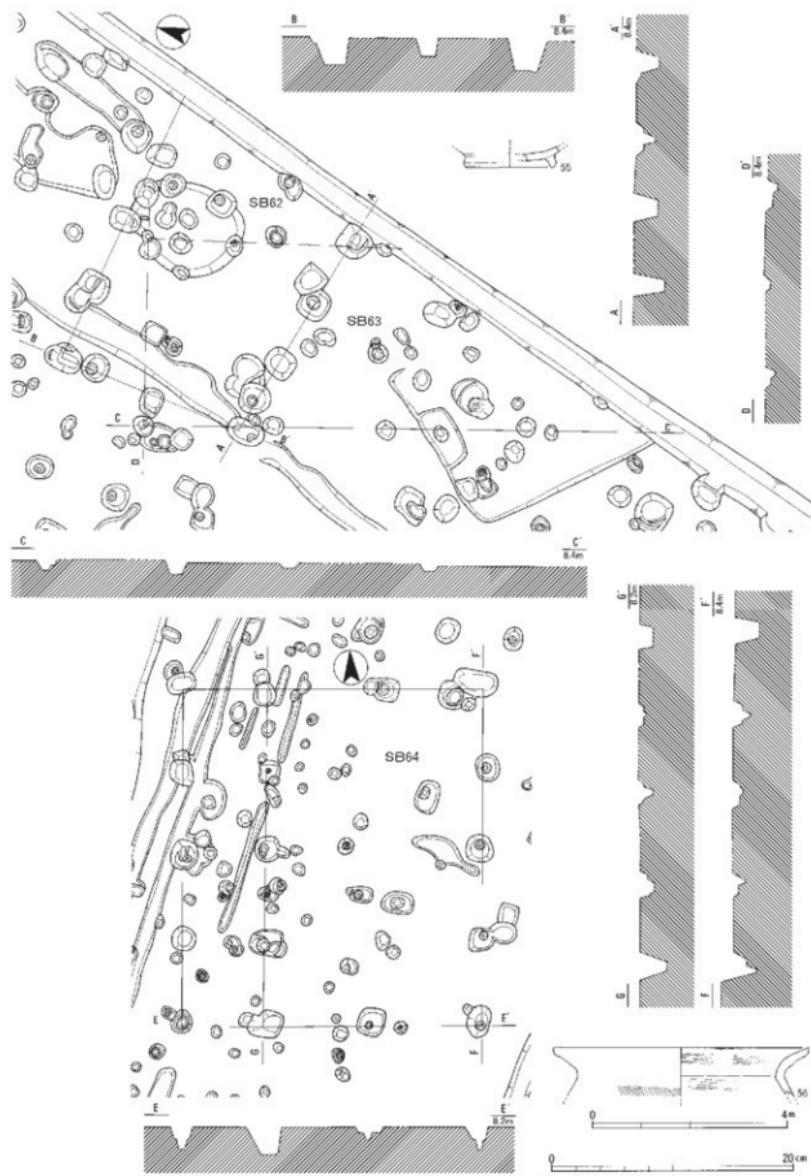
第38図 SB51・52・54・55実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）[51・52：SB55]



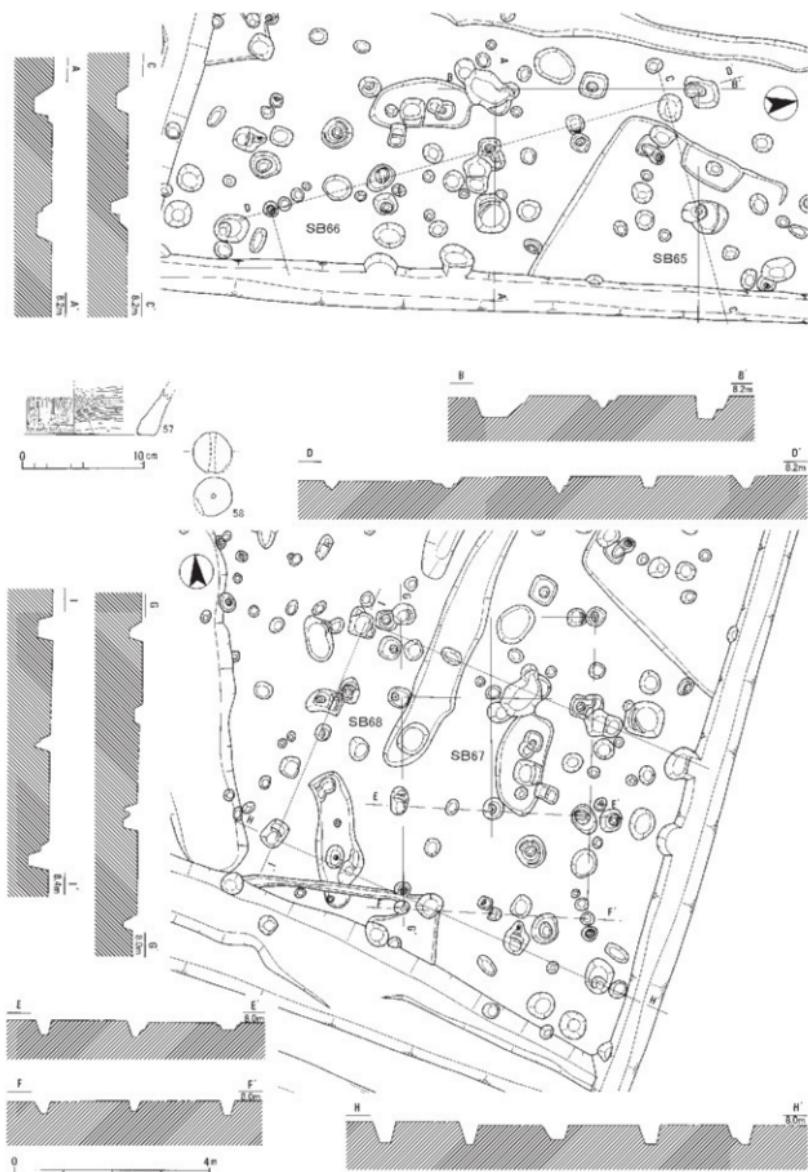
第39図 SB53・56～58実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）[53：SB53、54：SB58]



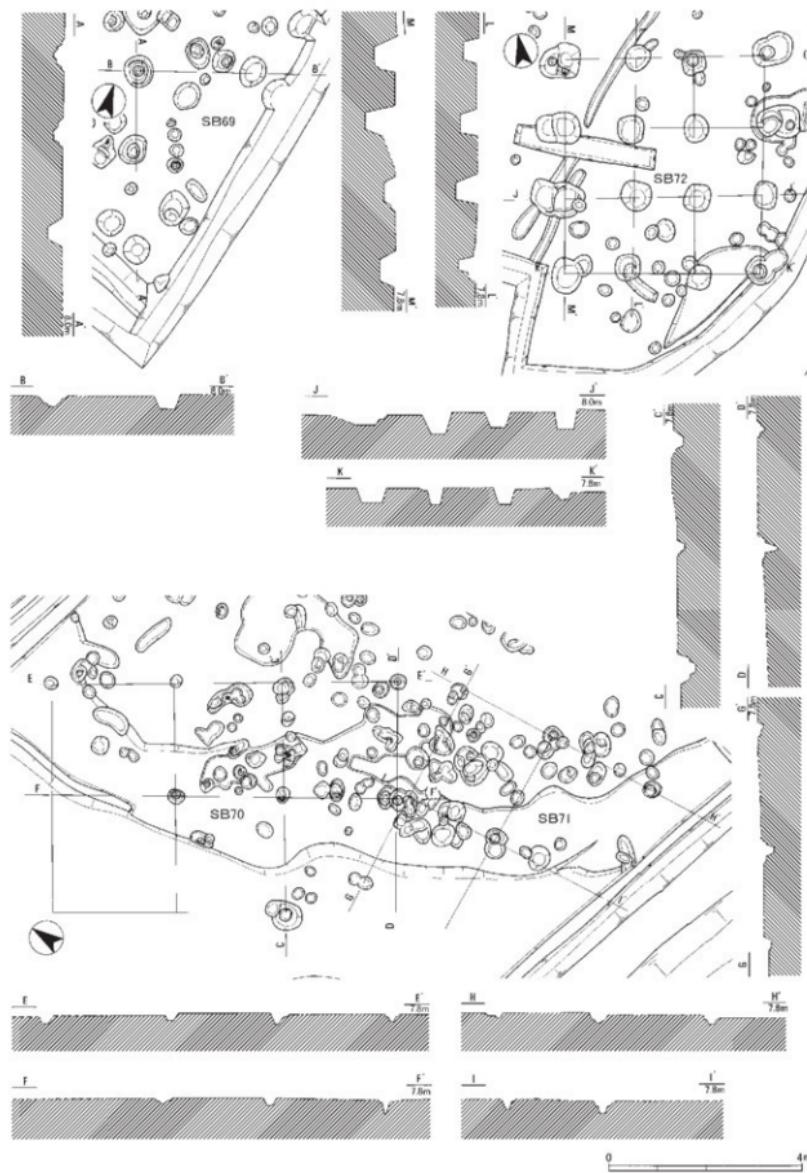
第40図 SB59~61実測図 (1 : 100)



第41図 SB62～64実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4) [55 : SB62、56 : SB64]



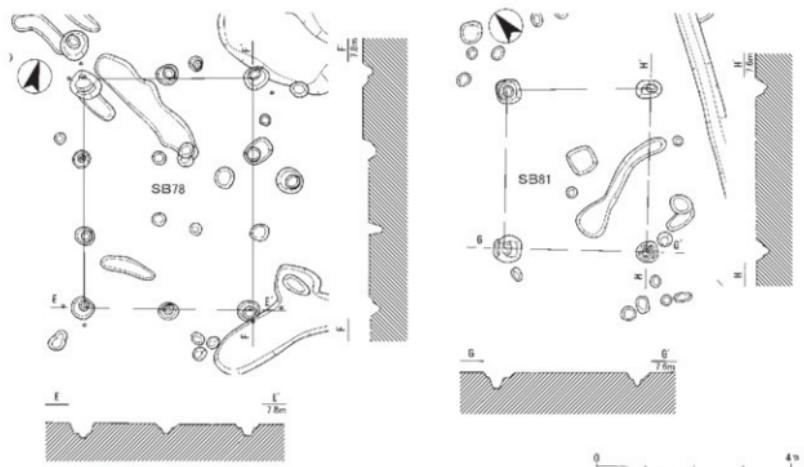
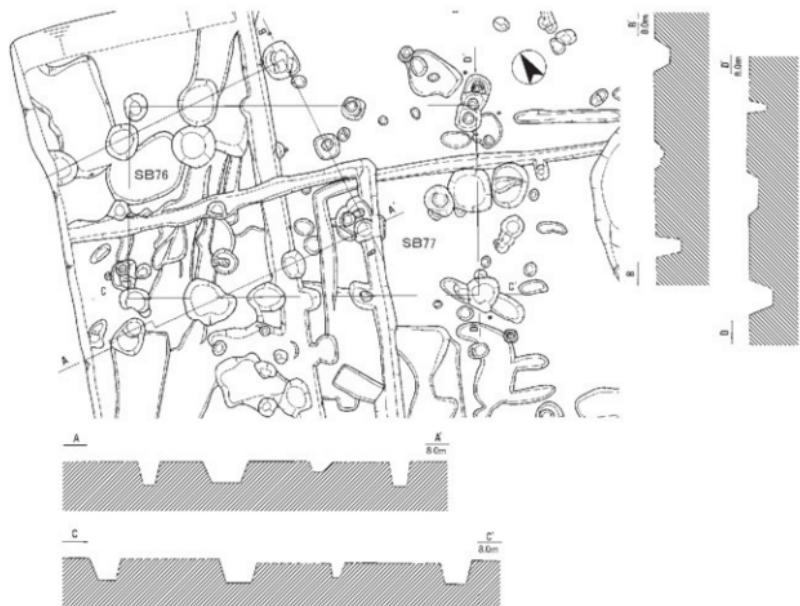
第42図 SB65～68実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4) [57 : SB65、58 : SB68]



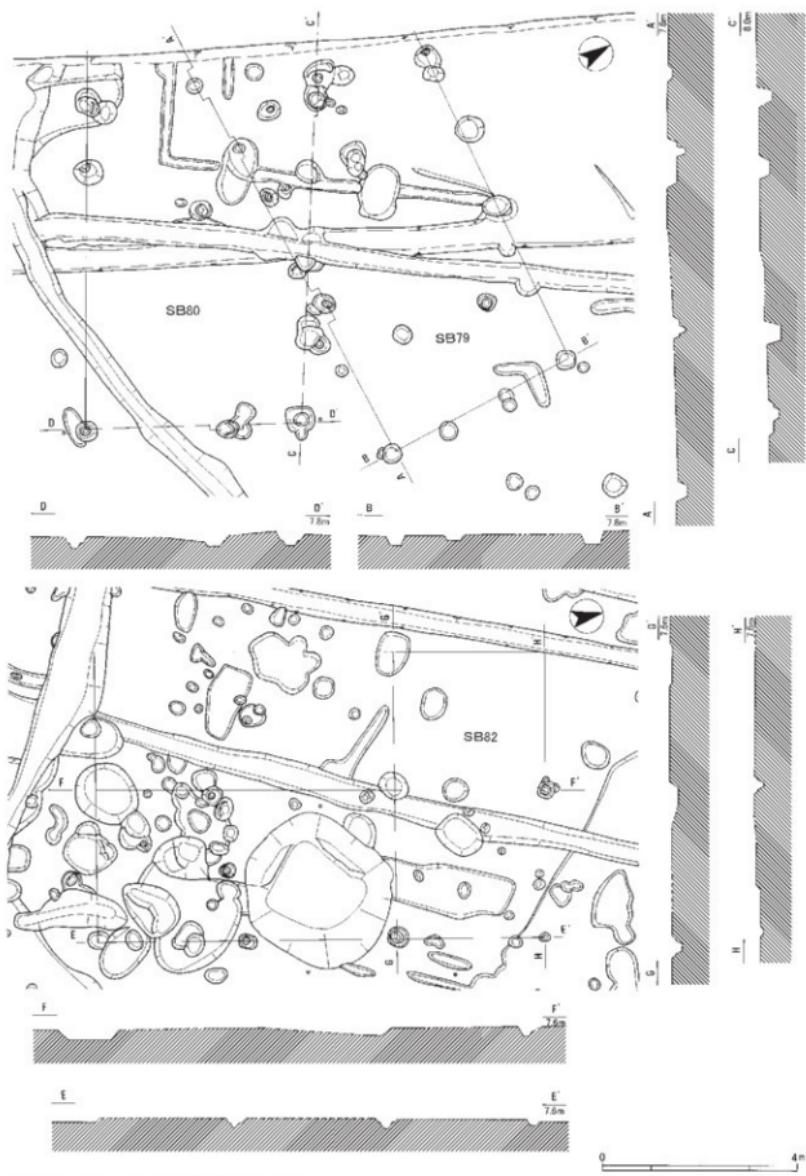
第43図 SB69~72実測図 (1 : 100)



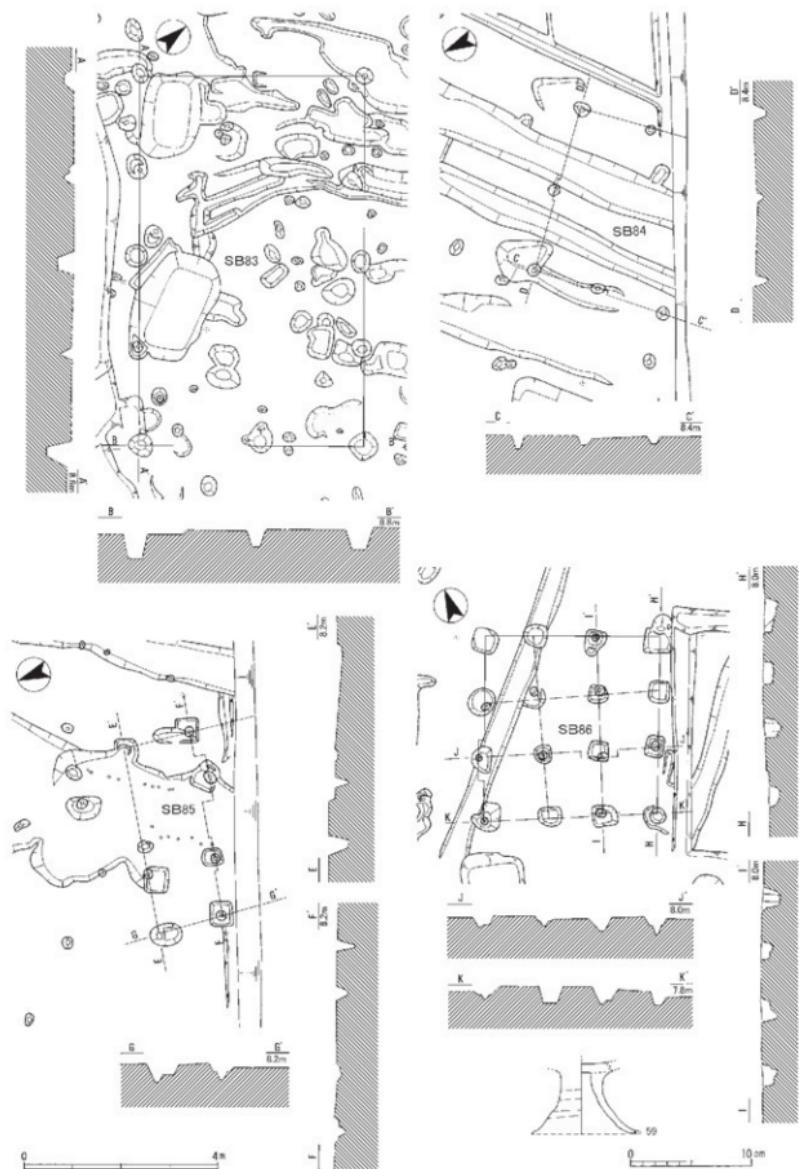
第44図 SB73～75実測図 (1 : 100)



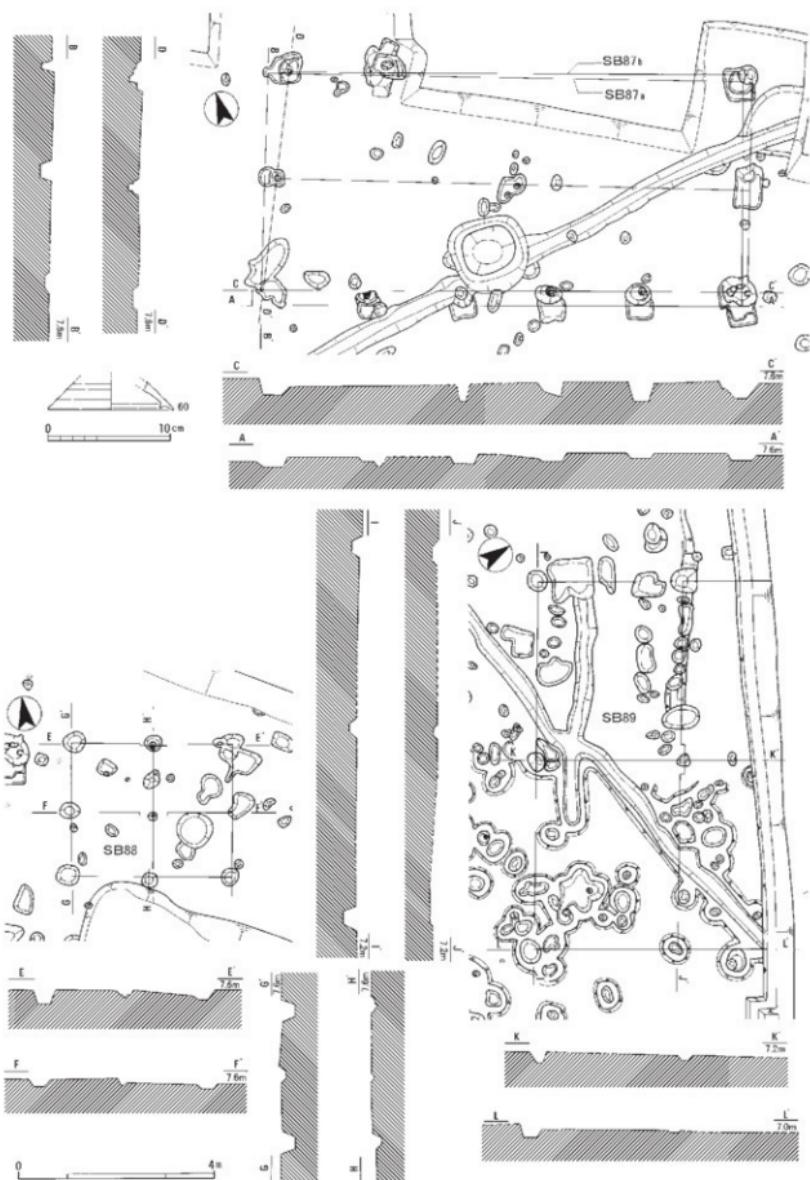
第45図 SB76~78・81実測図 (1 : 100)



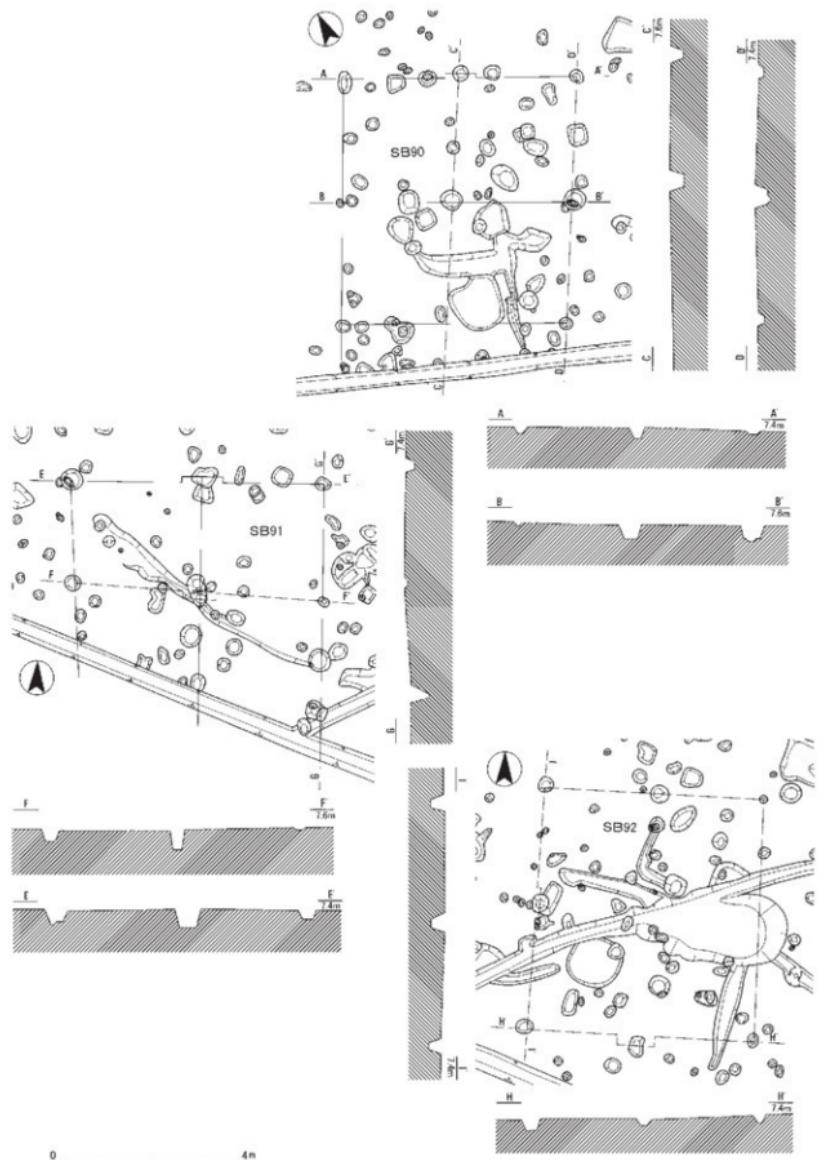
第46図 SB79・80・82実測図 (1 : 100)



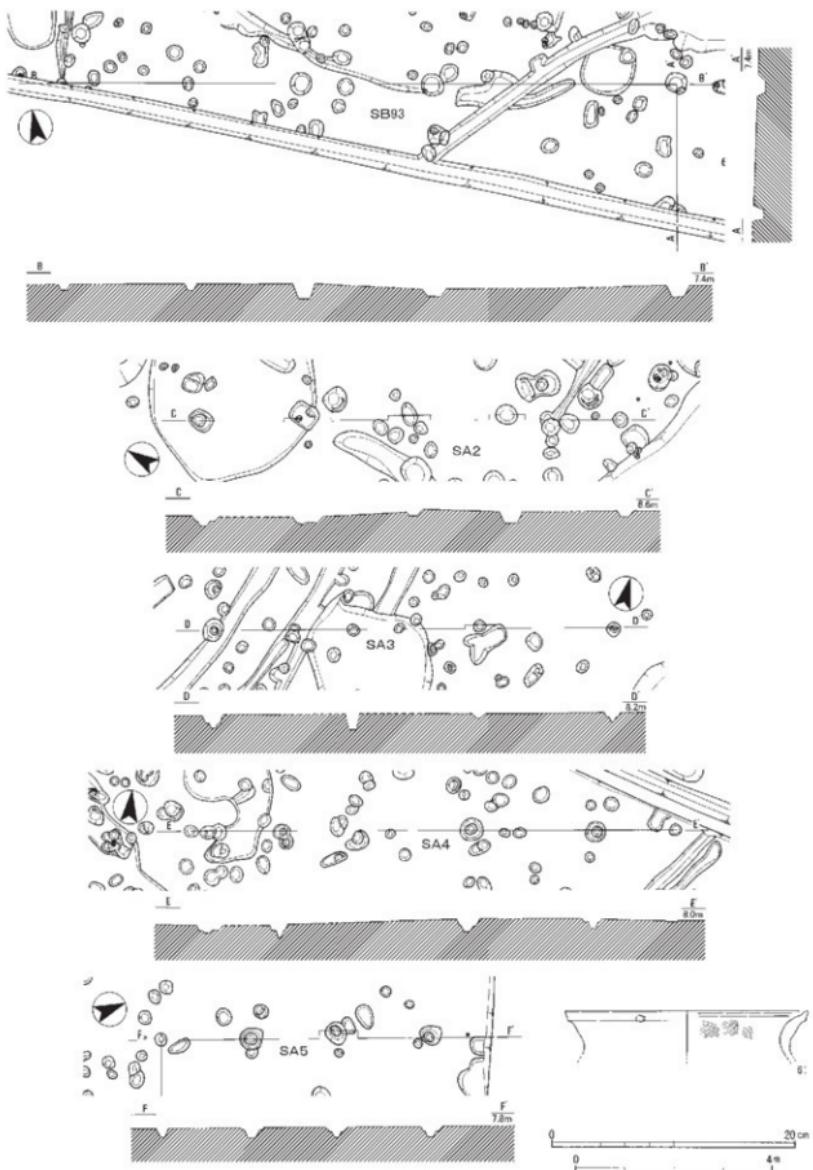
第47図 SB83～86実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4) [59 : SB86]



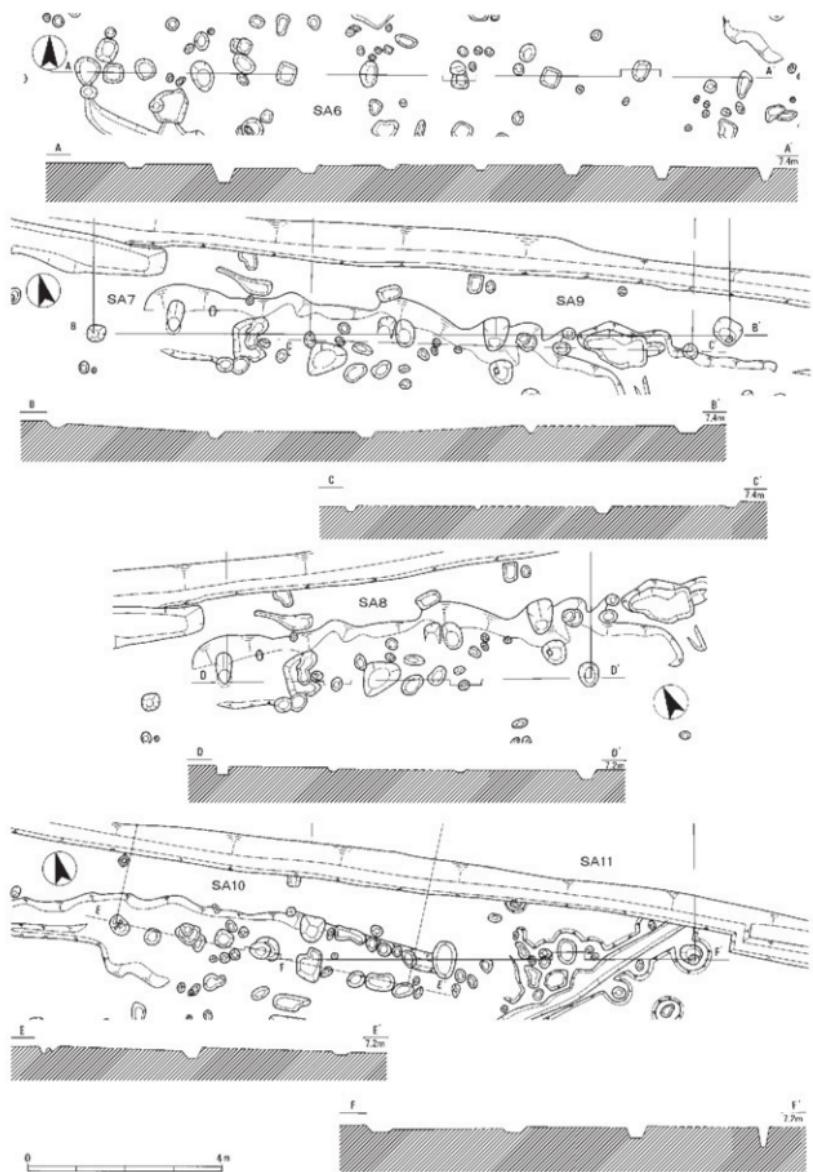
第48図 SB87ab・88・89実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）[60；SB87b]



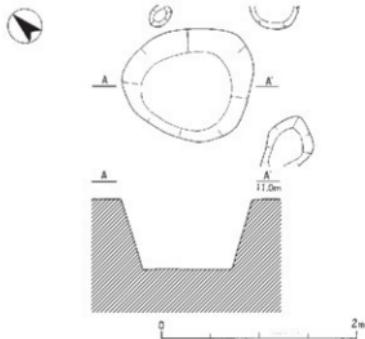
第49図 SB90~92実測図 (1 : 100)



第50図 SB93・SA2～5実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）[61:SA5]



第51図 SA 6～11実測図 (1 : 100)



第52図 SE 1 実測図 (1 : 50)



第53図 SE 1 出土遺物実測図 (1 : 4)

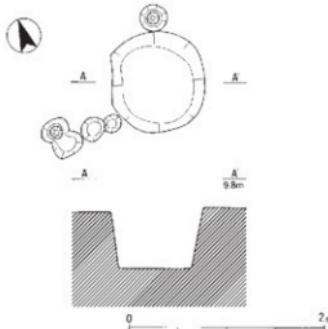
(5) 井戸

今回の調査区からは、24基の井戸が検出された。時期は、弥生時代から幕末までと幅ひろい。以下、概略を述べる。個別の詳細なデータについては、一覧表を参照されたい。

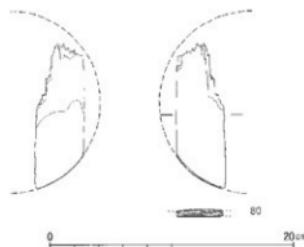
SE 1 長径約1.4m、深さ約0.7mの梢円形の素掘りの井戸である。出土遺物はわずかであるが、土師器の皿(62)や鉢(63)が出土した。

SE 2 SD 3 と重複している。SD 3 の埋土掘削後に検出したものであるが、出土遺物を比較したところ、SD 3 より先行するものと考えられる。平面形は一辺約1.9mの略方形で、深さは約1.1mである。深さ0.9m付近では西側を除く3方向にテラスがあり、この部分に井戸枠の一部とみられる木材がL字状に残っていた。遺物は、土師器杯(64)・椀(67)・皿(65)・黒色土器椀(68～70)、灰釉陶器椀(71～74)、皿(75)、製塙土器(76)、土鍤(77)、瓦(78・79)などが出土地している。黒色土器はいずれもA類であるが、高台のつくもの(69・70)とつかないもの(68)があり、68と69の内面には螺旋状の暗文が施されている。灰釉陶器は猿投編年³の黒窓90号窯式に相当する。

SE 3 直径約1m、深さ約0.7mの円形の素掘りの井戸である。遺物は、曲物(80)のほか、土師器や陶器山茶椀がわずかに出土しただけである。



第54図 SE 3 実測図 (1 : 50)

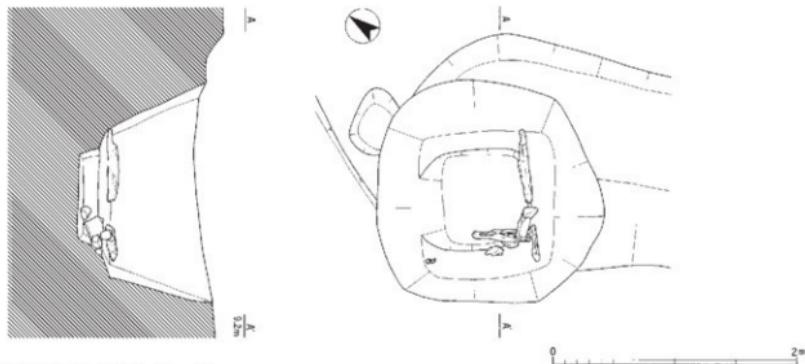


第55図 SE 3 出土遺物実測図 (1 : 4)

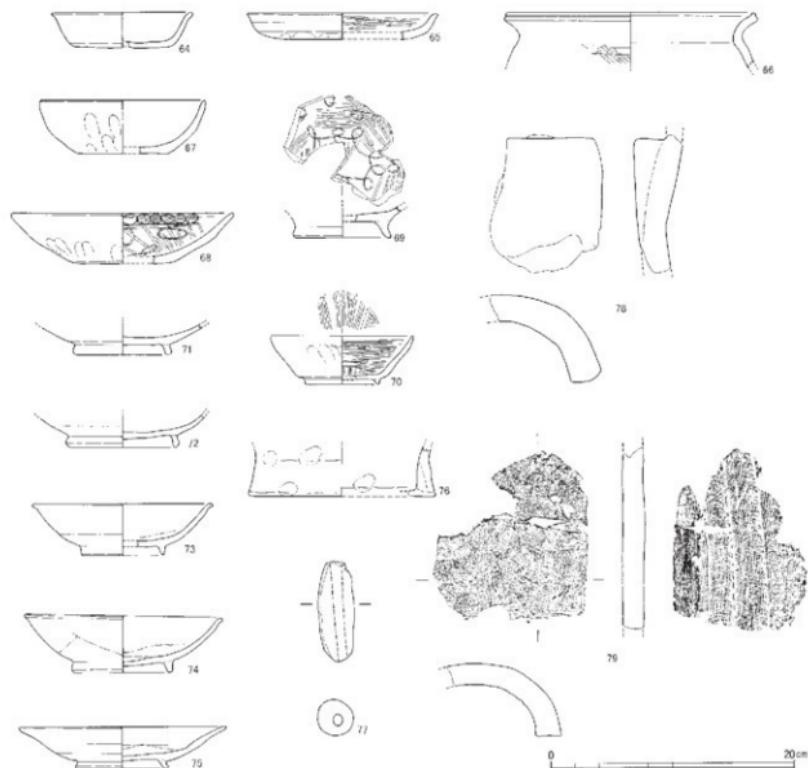
SE 4 長径約2.8m、深さ約1.9mの梢円形の石組みの井戸である。石組みには比較的小振りな川原石が使われているが、底まで達しておらず、地盤が固い砂礫層に変わるところ（深さ0.7m付近）で終わっている。南東側では用途不明ながら、石組み直下の壁面に板材がはめ込まれていた。石組みを除去したところ、板材の左右の壁面には凹みがあって、ここに棒状の木材が若干残っていたが、位置的にみてこの凹みは、板材が壁面から外れないように前面から支える棒を渡すために掘られたものと考えられる。

出土遺物のうち81～92は掘方や石組みから、93～98は埋土から出土した。土師器皿(81・82)・鍋(83)、陶器山茶椀(86～90)・小椀(84)・小皿(85)・鉢(91・92)があり、山茶椀・小皿は藤澤編年³の第4型式から第6型式に相当する。

SE 5 SD 6 の埋土掘削後に検出した。直径約1.6m、深さ約1.8mの円形の素掘りの井戸で、底には曲物が据えられていた。遺物は、土師器皿(99・

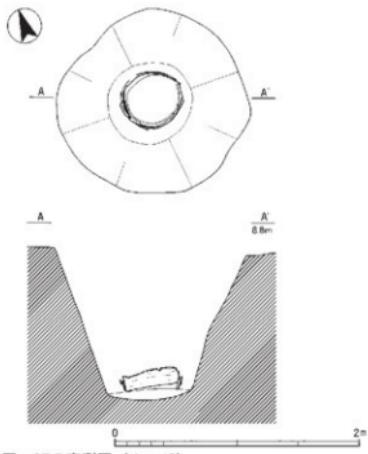


第56図 SE 2 実測図 (1 : 40)

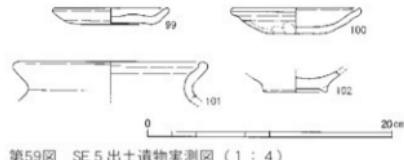


第57図 SE 2 出土遺物実測図 (1 : 4)

100)・甕(101)・灰釉陶器椀(102)が出土したが、このうち100はいわゆる「て」の字状口縁の皿である。



第58図 SE 5 実測図 (1 : 40)

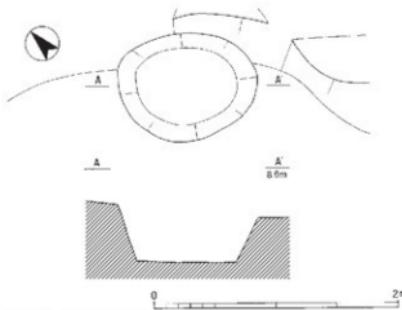


第59図 SE 5 出土遺物実測図 (1 : 4)

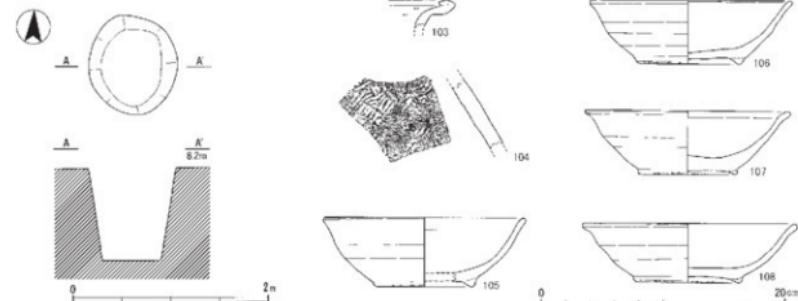
SE 6 SD 6 の埋土掘削後に検出した。長径約1.2m、深さ0.5mの楕円形の素掘りの井戸である。遺物は土師器鍋や灰釉陶器がわずかに出土しただけである。

SE 7 直径約1m、深さ約1mの円形の素掘りの井戸である。遺物は、土師器皿(103)、陶器甕(104)・山茶椀(105~108)が出土しており、鍋は伊藤分類³の(仮) A段階に、山茶椀は藤澤編年の第4型式から第5型式に相当する。

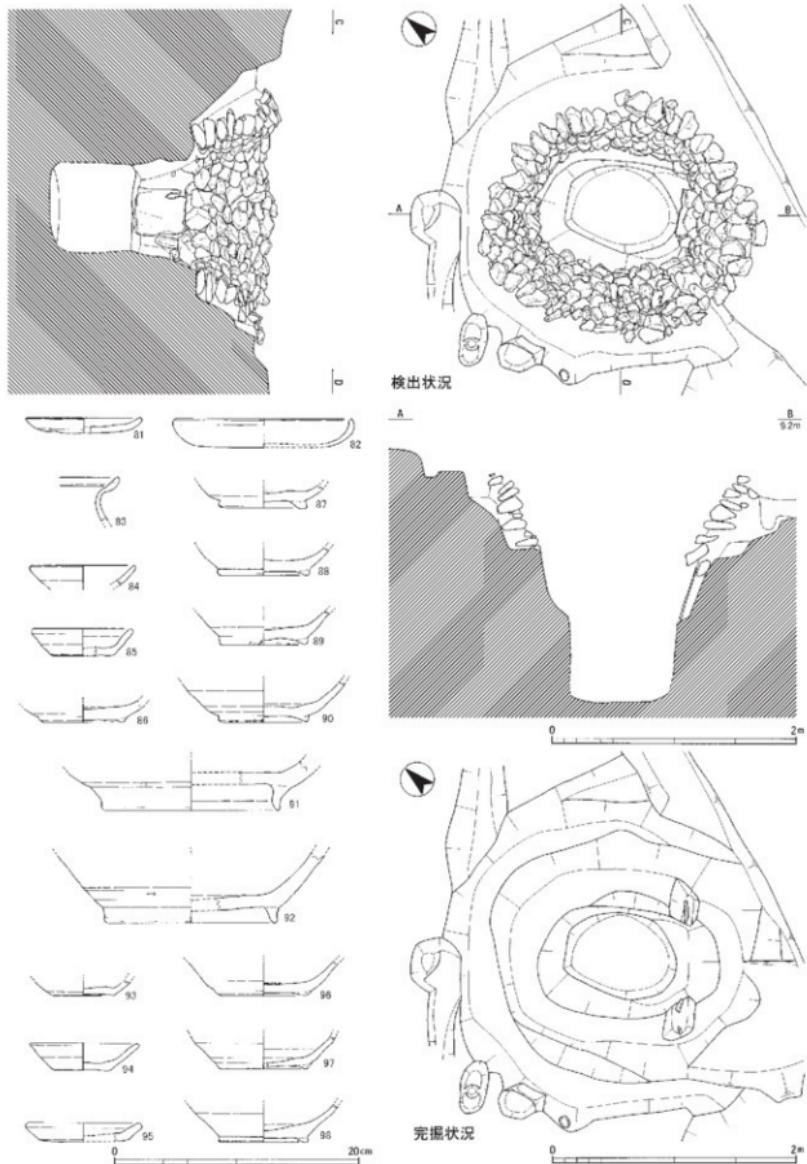
SE 8 長径約2.6m、深さ約1.3mの楕円形の素掘りの井戸である。遺物の量は多く、土師器皿(110~113)・鍋(114~117)陶器山茶椀(118・123~139)・小椀(120)・小皿(119・121・122)・甕(140)、白磁椀(141)、曲物(109)が出土した。土師器皿のうち110・111は口縁部が上方に立ち上がるものである。



第60図 SE 6 実測図 (1 : 40)



第61図 SE 7 実測図 (1 : 50)、出土遺物実測図 (1 : 4)



第62図 SE 4 実測図 (1 : 40)、出土遺物実測図 (1 : 4)

鍋は伊藤分類の（仮）A段階から第1段階a型式に相当する。山茶椀、小椀、小皿は藤澤編年の第4型式から第5型式のものが中心で122の底部外面には「×」の墨書がある。白磁椀(141)は大宰府編年⁸のIV-1類に相当するもので、曲物109の側面には木釘孔がある。

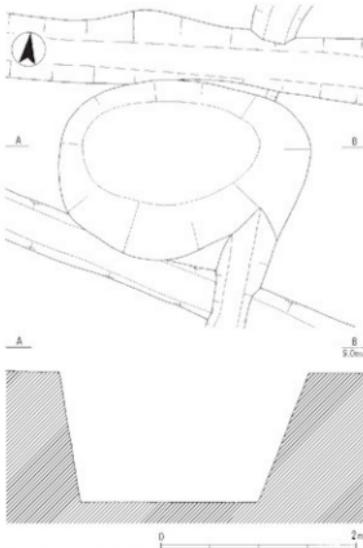
SE9 直径約1.3m、深さ約1.3mの円形の素掘りの井戸で、断面形は漏斗状を呈する。遺物は、陶器山茶椀(142)のか土師器が出土した。

SE10 直径約1.1m、深さ約0.7mの円形の素掘りの井戸で底は東側に偏っている。遺物は、土師器皿(143)、陶器山茶椀(144・145)、板状の木製品(146)が出土した。山茶椀は藤澤編年の第7型式に相当する。

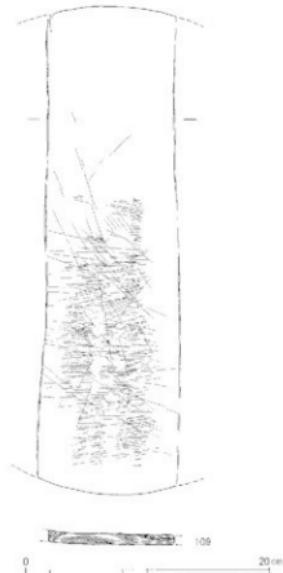
SE11 調査区を東へ拡張して掘削したもので、南側はSK14と重複している。長径約2.4m、深さ約1.6mの楕円形の素掘りの井戸で、断面形は漏斗状を呈する。遺物は、土師器杯(147)・甕(148・149)、須恵器杯(150～153)、壺(154)が出土した。須恵器は猿投編年の岩崎25号窯式に相当する。

SE12 SE11と同様に調査区を東へ拡張して掘削したもので、遺構の輪郭はやや不明瞭であるが、一辺3m程度の略方形になるものとみられる。深さは約1.6mで、上半は漏斗状に、下半は円筒状に掘られている。井戸壁の傾斜変換点に井戸枠の一部とみられる木材がコの字形に残っており、そのコーナーにあたる井戸壁が架構のために掘り進められていた。板材(189)も出土していることから、この上方に方形の井戸枠が組まれていたものと考えられる。

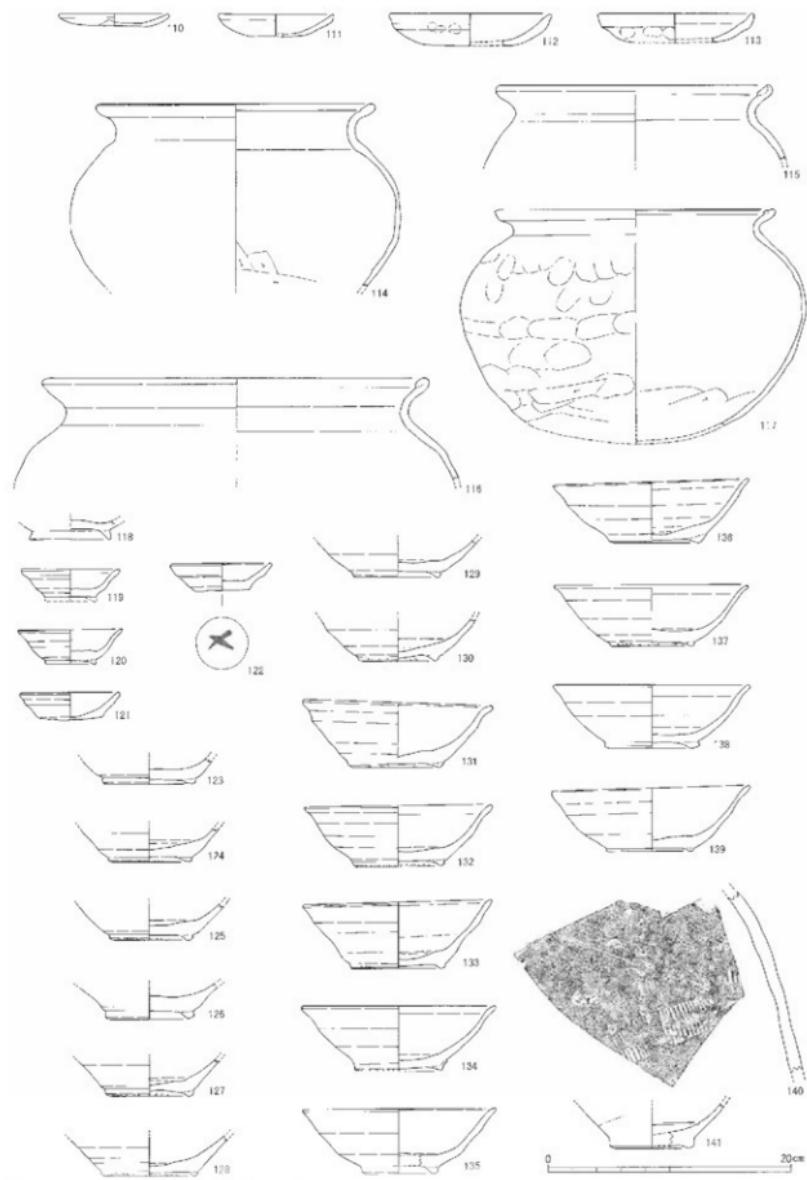
遺物は、土師器杯(155～164)・椀(165・166)、黒色土器椀(167～169)、灰釉陶器皿(170・171)・椀(172～179)、綠釉陶器椀(180・181)、土鍤(182～184)のほか、木製品(185～189)や多量の堅果類が出土した。土師器杯は比較的薄手で、平坦な底部から口縁部が斜めに直線的にのび、その1/2がヨコナデされるもので、平安時代型の杯の終末形態と考えられる。黒色土器はいずれもA類で、167のみ高台がつく。灰釉陶器は、猿投編年の折戸53号窯式から東山72号窯式のものがみられる。棒状木製品186は先端が二つに割られており、割れ目に他の木が挟まっていた。185の横櫛はA II型式にあたるもので、1



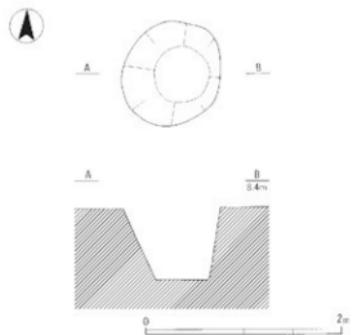
第63図 SE 8 実測図 (1:50)



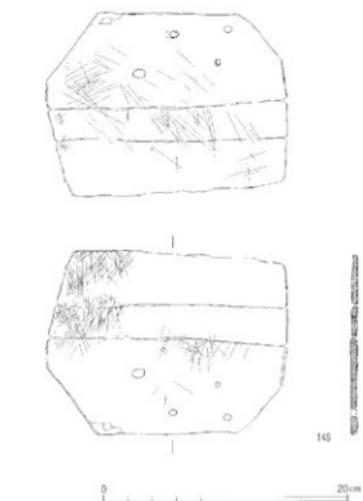
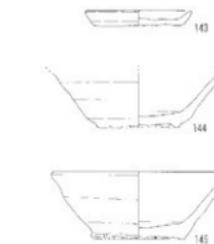
第64図 SE 8 出土遺物実測図① (1:4)



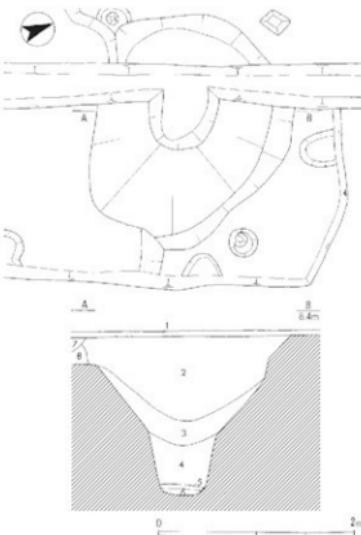
第65図 SE 8出土遺物実測図② (1 : 4)



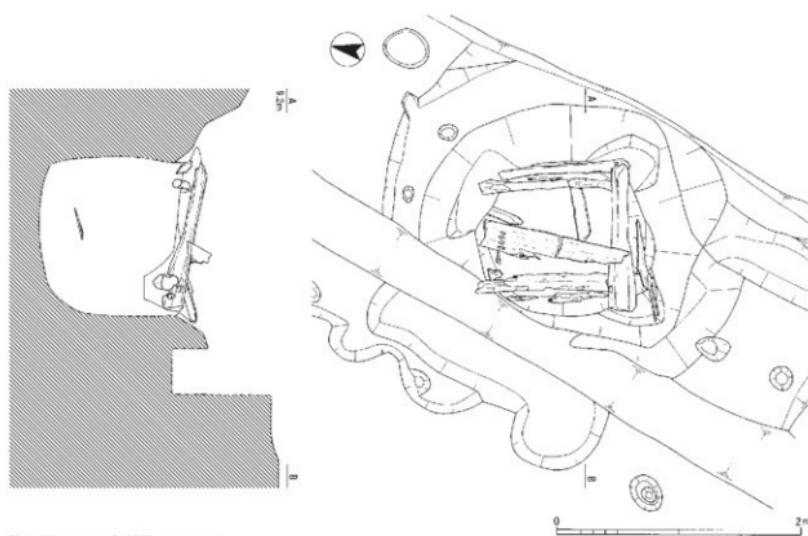
第66図 SE10実測図 (1 : 50)



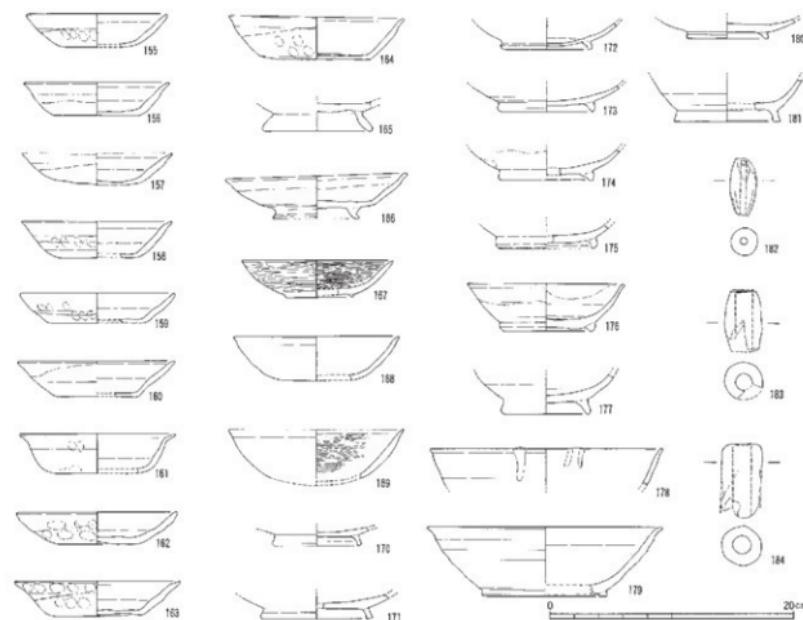
第67図 SE10出土遺物実測図 (1 : 4)



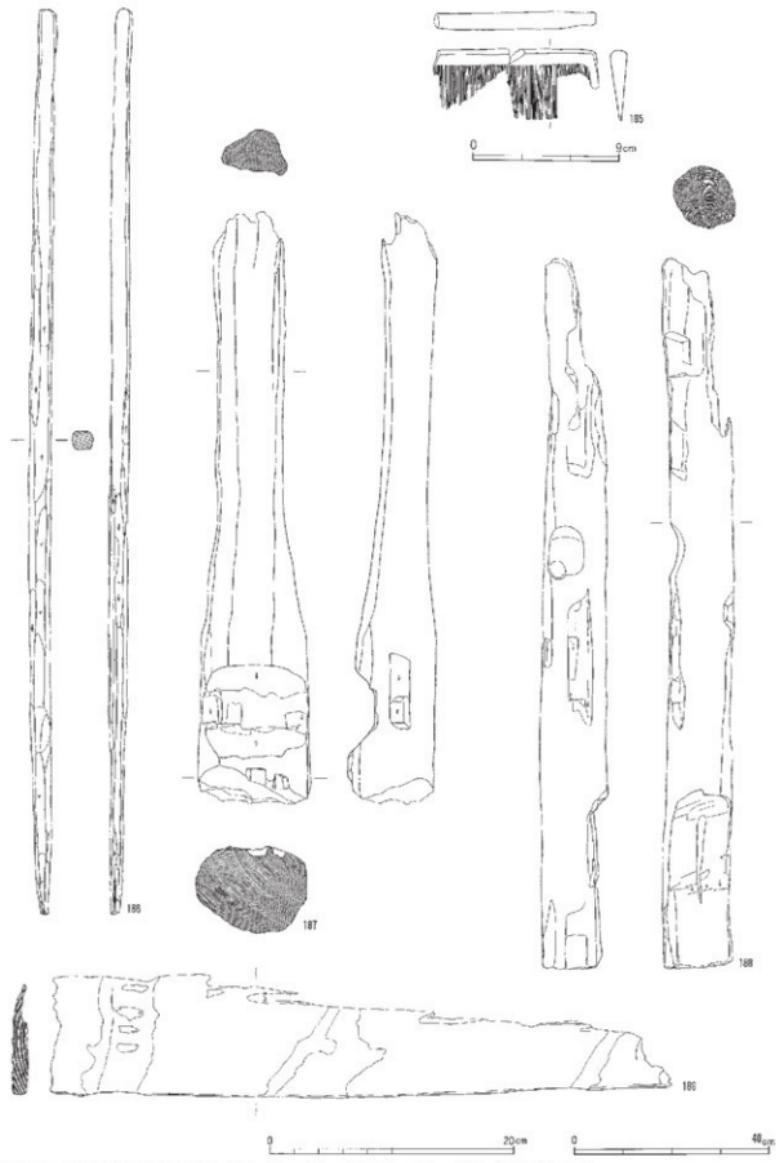
第69図 SE11出土遺物実測図 (1 : 4)



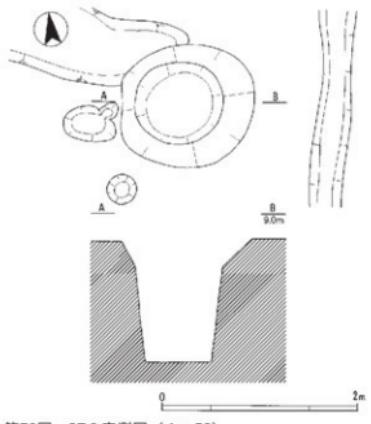
第70図 SE12実測図 (1 : 40)



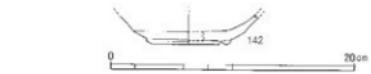
第71図 SE12出土遺物実測図① (1 : 4)



第72図 SE12出土遺物実測図② 185 (1 : 3), 186 (1 : 4), 187~189 (1 : 10)



第73図 SE 9 実測図 (1 : 50)



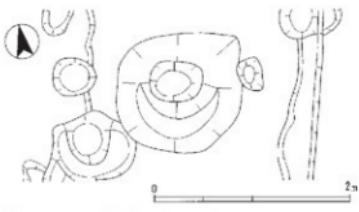
第74図 SE 9出土遺物実測図 (1 : 4)

cmあたり9~10本の歯が挽き出されている。187~189は井戸枠で、このうち188と組み合わされていた187は柱から転用されたものである。

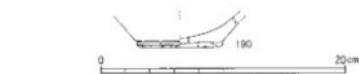
SE13 直径約1.3mの円形の素掘りの井戸である。南側にテラスがあり、底はやや北側に偏っている。遺物は、土師器や陶器山茶椀(190)が出土した。

SE14 直径約1.5m、深さ約2mの円形の素掘りの井戸で断面形は漏斗状を呈する。遺物は、土師器皿(191)・椀(192)、ロクロ土師器皿(193)・台付皿(194)、灰釉陶器小椀(195)・山茶椀(196~198)、緑釉陶器椀(199)、土鍤(200)、板状の木製品(201)が出土した。山茶椀は藤澤編年の第4型式に相当するもので、198の底部外側には「上」の墨書がある。また混入品である緑釉陶器椀199の内側には陰刻花文が施されている。

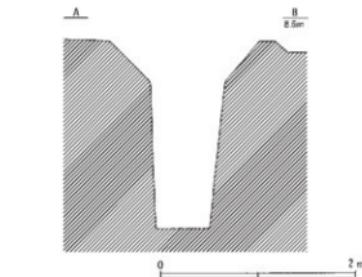
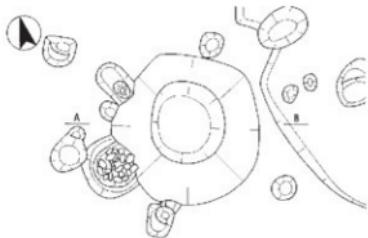
SE15 SD10と重複していることもあって、平面形はやや不整形である。直径は最大で約1.9m、深さは約1mの素掘りの井戸で、断面形は漏斗状を呈している。遺物は、灰釉陶器椀(202)のほか、土師器や製塩土器が出土した。202は猿投編年の黒窓90号窯



第75図 SE 13実測図 (1 : 50)



第76図 SE 13出土遺物実測図 (1 : 4)

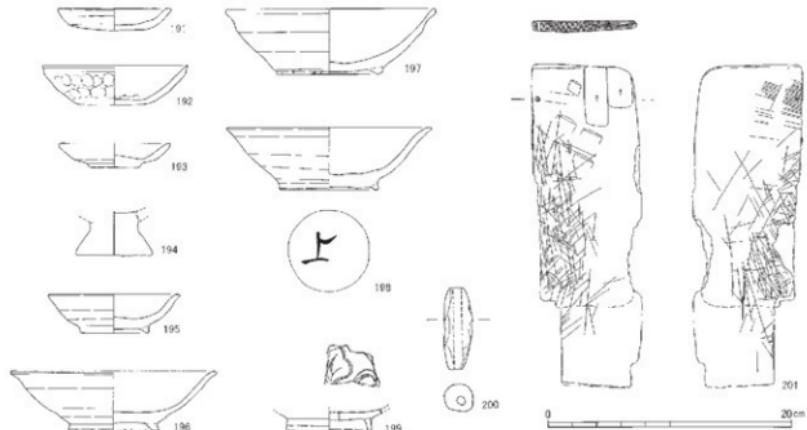


第77図 SE 14実測図 (1 : 50)

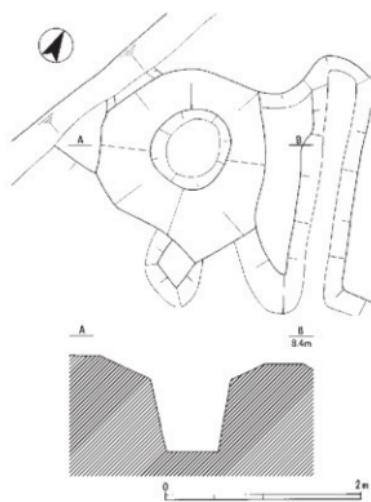
式に相当する。

SE16~SE19 出土した陶磁器類から、いずれも19世紀第3四半期頃に比定できるもので、「安政元年窪田村地図」に描かれた「窪田出屋」に関する構と考えられる。完壊したものはない。

SE16は、長辺約3mの略方形の井戸で、北側にテ



第78図 SE14出土遺物実測図 (1 : 4)



第79図 SE15実測図 (1 : 50)



第80図 SE15出土遺物実測図 (1 : 4)

ラスをもつ。遺物は、陶器土瓶蓋(203)、磁器椀蓋(204・205)、寛永通寶(206)などが出土した。204は瀬戸産、205は伊万里産である。

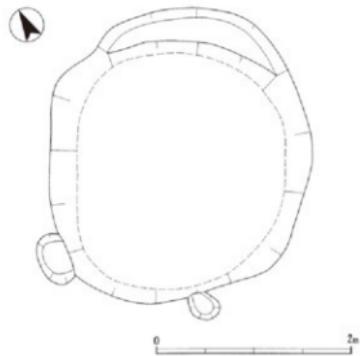
SE17は、一辺約2.8mの略方形の井戸で、中央には陶器製の井戸枠が2段に積まれていた。遺物は、瓦質培塿(207・208)、陶器擂鉢(209)・井戸枠(210・211)などが出土した。培塿には鈎があり、207は鈎の直上で内側から穿孔されている。また井戸枠210・211の外面には墨書きがみられる。

SE18は、いびつな方形の井戸で、長辺は約3mである。細かいテラスがいくつもある。中央は円形に掘られており、SE17と同様な陶器製の井戸枠(214・215)が据えられていた。遺物は、陶器類のほかに曲物(212)や砥石(213)が出土した。212の側面には木釘孔がある。

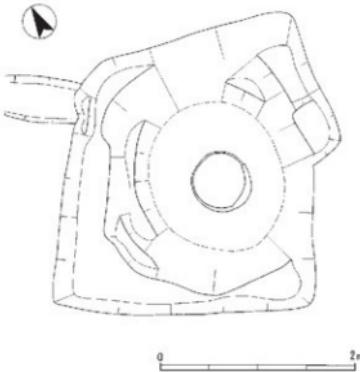
SE19は、長辺約2.9mの略方形の井戸である。テラスが2箇所あり、中央は円形に掘られているようである。

SE20 直径約1.3m、深さ約2.3mの円形の素掘りの井戸である。遺物は、土師器や陶器山茶椀がわずかに出土しただけである。

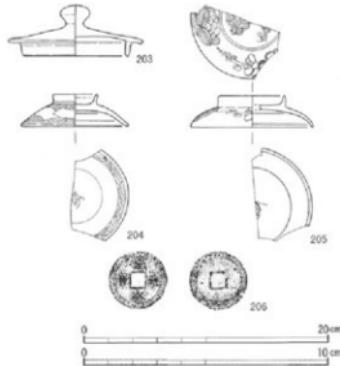
SE21 SK43、SD35と重複している。長径約2.7m、深さ約1.5mの楕円形の素掘りの井戸で、断面形は漏斗状を呈している。



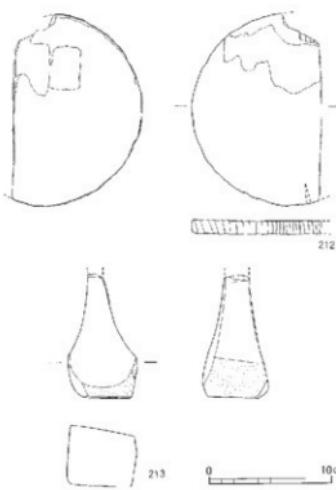
第81図 SE16実測図 (1 : 50)



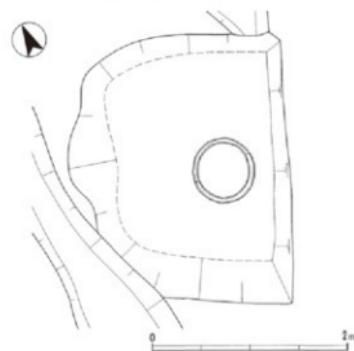
第84図 SE18実測図 (1 : 50)



第82図 SE16出土遺物実測図 (1 : 4)、206 (1 : 2)



第85図 SE18出土遺物実測図① (1 : 4)



第83図 SE17実測図 (1 : 50)

遺物の量は多く、多様な木製品も出土している。土器には土師器皿(225)・鍋(254～256)、陶器小皿(226～239)・山茶椀(240～250)・鉢(251・253)片口鉢(252)、白磁(257・258)がある。山茶椀・小皿は藤澤編年の第6型式のものが中心である。このうち底部に墨書きをもつものが6点(237～240・249・250)、外面に墨書きをもつものが1点(248)あるが、239の「×」以外は判読できない。鍋のうち254と

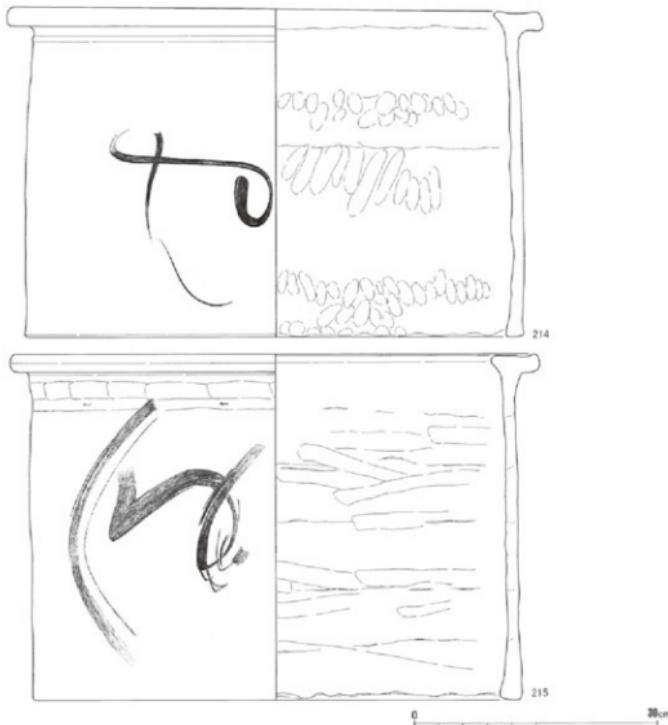
256は伊藤分類の第2段階に相当し、白磁碗のうち258は大宰府編年のIV-1類に相当する。木製品には漆椀(216)、曲物(220・222~224)、球状木製品(217・218)、刀の鞘(221)、荷札と考えられる木札(219)などがある。球状木製品のうち217には穿孔が施されており、218については桂杖の玉や桂の芯の可能性がある。曲物のうち220は平面形が八角形のもので、側板と底板は木釘で接合されている。223は3箇所に側板と固定するための孔が2孔1対で穿たれており、3箇所とも櫛目紐が残っている。また224も周縁部に1箇所孔が穿たれている。

SE22 長径約1.4m、深さ約1mの楕円形の素掘りの井戸で、テラスをもつ。遺物は、土鍤(264・265)。

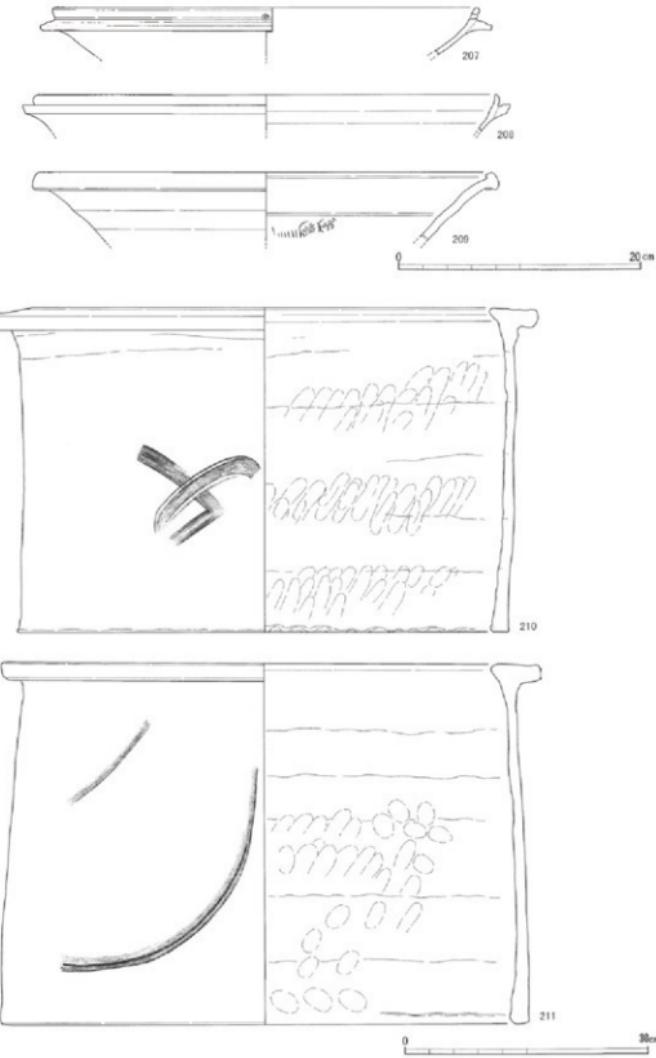
陶器甕(263)・山茶椀などがわずかに出土しただけである。

SE23 直径約1.2m、深さ約1mの楕円形の井戸で、底には石組みが一段のみ残っている。埋土内に入頭大の川原石が80個あまり含まれていたが、これらは円筒形に積まれた石組みが崩壊したものと考えられる。遺物は陶器甕(266・267)・山茶椀、土師器などが出土した。甕は両者とも常滑産のもので、赤羽編年³のV期の前半に相当するものである。

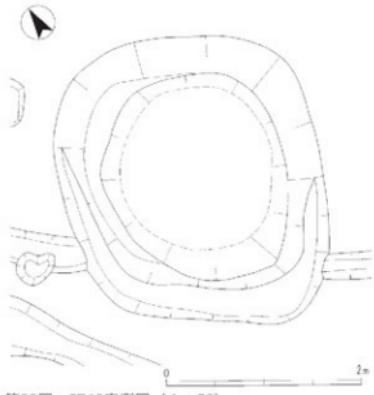
SE24 長径約1.6m、深さ約1.3mの楕円形の素掘りの井戸で、南側以外にテラスをもつ。遺物は、混入品である勾玉(272)のほか陶器小皿(268)・山茶椀(269・270)・壺(271)、曲物(273)、縦台(274)、鎌



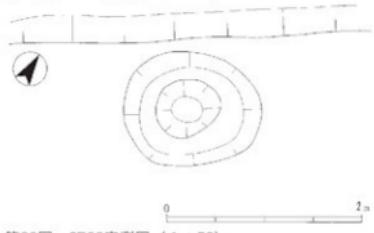
第86図 SE18出土遺物実測図② (1 : 6)



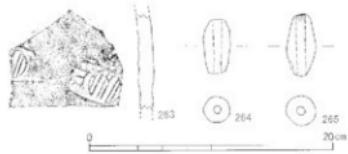
第87図 SE 17出土遺物実測図 207～209 (1 : 4), 210・211 (1 : 6)



第88図 SE19実測図 (1 : 50)

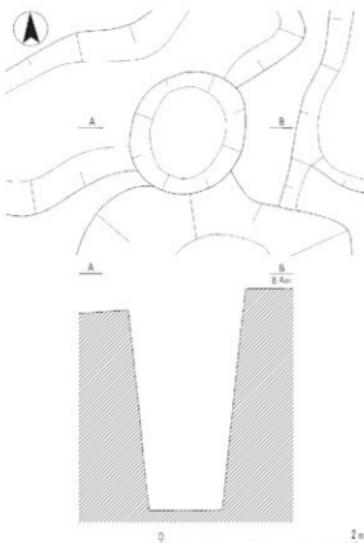


第89図 SE22実測図 (1 : 50)

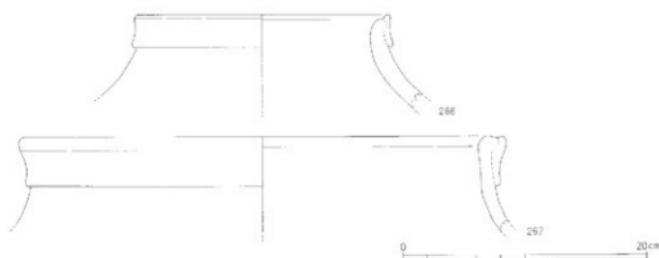


第90図 SE22出土遺物実測図 (1 : 4)

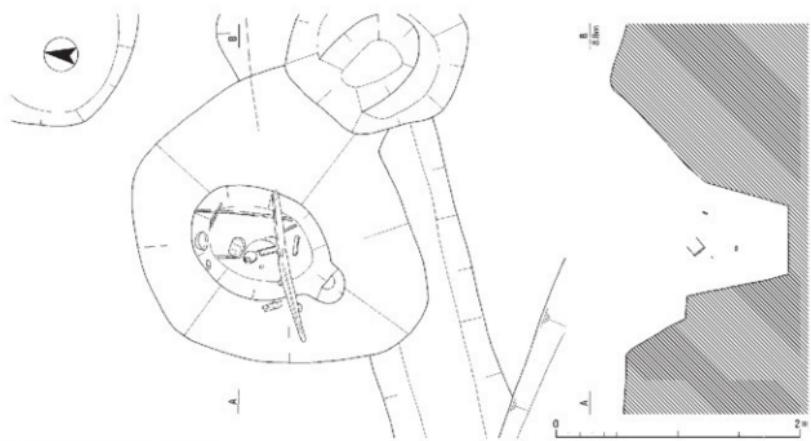
柄(275)などが出土した。山茶椀・小皿は藤澤編年の第5型式から第6型式にあたるもので、268は底部外面に、269は体部外面と底部外面に墨書があり、269のものはとともに「十」と記されている。鎌柄275は装着孔内に刃の基部が残っており、上端から2 cmほどのところに釘孔が1孔ある、柄尻の腹面にはすべり止めの突起がつくりだされている。



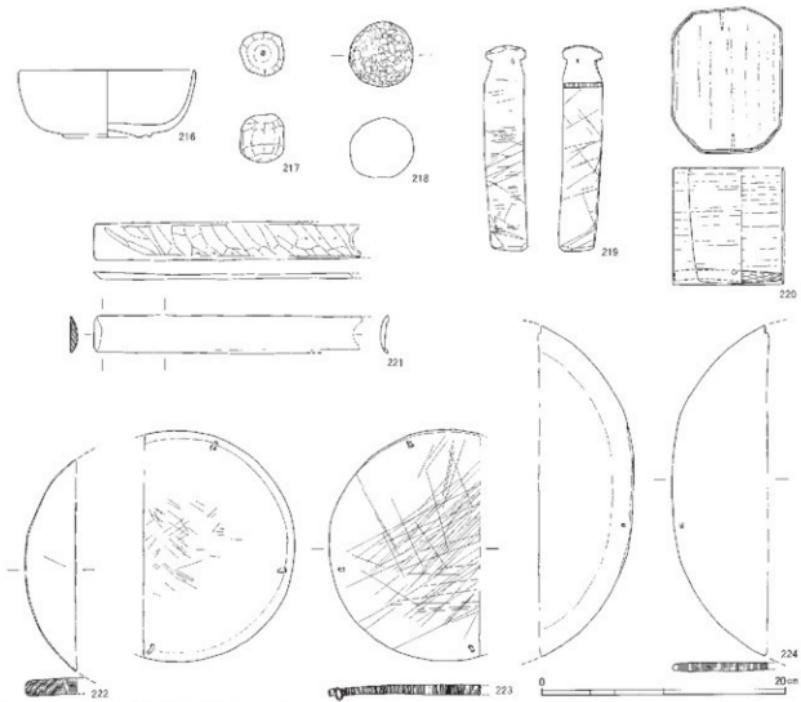
第92図 SE20実測図 (1 : 50)



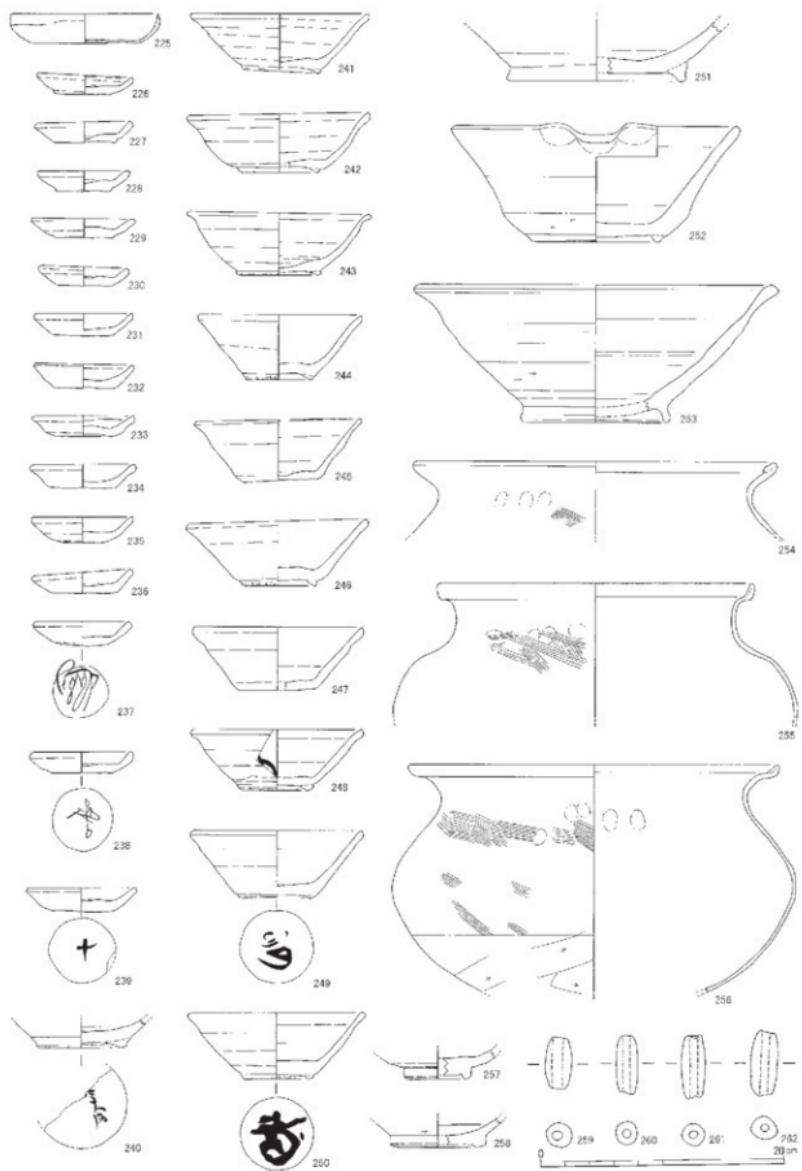
第91図 SE23出土遺物実測図 (1 : 4)



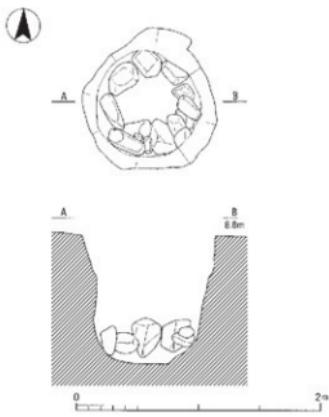
第93図 SE21実測図 (1 : 40)



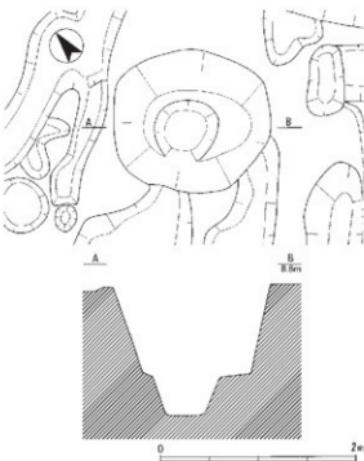
第94図 SE21出土遺物実測図① (1 : 4)



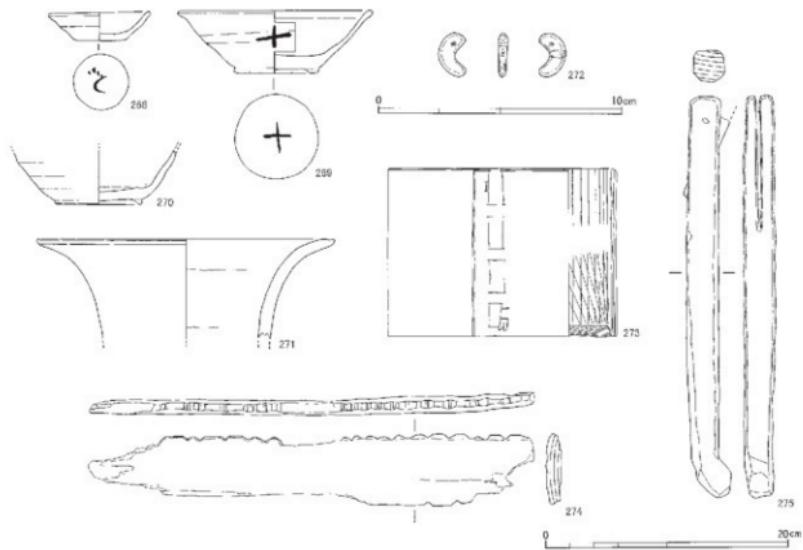
第95図 SE21出土遺物実測図② (1 : 4)



第96図 SE23実測図 (1 : 40)



第97図 SE24実測図 (1 : 50)



第98図 SE24出土遺物実測図 (1 : 4)、272 (1 : 2)

(6) 土坑

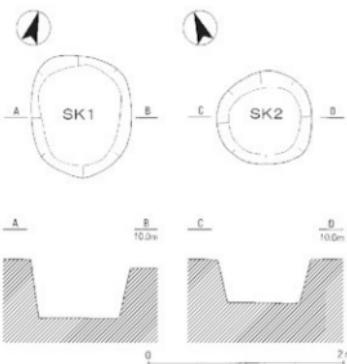
土坑60基の詳細なデータについては一覧表を参照されたい。以下、主な土坑と出土遺物について概略を述べる。

SK 1 B地区の南端、SD 3の北側に位置する。平面形は短径1m×長径1.3mの楕円形である。検出面からの深さは60cmであるが、水田造成の際に上部が40cm以上削平されている。弥生土器壺の口縁部(276～278)が出土している。276は、やや外反しながら垂直気味に立ち上がる直口壺で、外面はタテハケによる調整がなされている。277も直口壺で、口縁部は内面で「く」の字に折れ曲がる。口縁部は内外面ともヨコナデ、体部は外面タテハケ、内面ユビオサエである。278は広口壺で、口縁部は外反して斜め外方向に下垂する。頸部外面はタテハケ、内面はタテ方向のヘラミガキ、口縁部外面はヨコナデ。内面はヨコ方向のヘラミガキによる調整である。時期はいずれも後期前葉である。

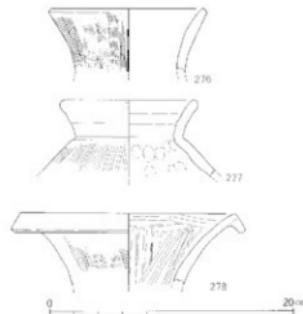
SK 2 B地区の南端、SD 3のすぐ南に位置する。平面形は直径1mの円形である。深さは40cmだが、水田造成の際に上部が40cm以上削平されている。欠山期と考えられる壺(279)と鉢(280)が出土している。279は球形の体部に、斜め上方に直線的に立ち上がる口縁とからなる直口壺である。頸部には断面三角形の突帯がめぐる。調整は、口縁部外面タテハケとヨコナデ、内面がヨコナデ、体部外面が上からタテハケ→ヨコハケ→ヘラケズリである。280は、球形に膨らむ体部の上半と玉縁状の口縁からなる鉢である。調整は、口縁部外面がヨコナデ、内面がヨコ方向のヘラミガキ、体部は内外面ともタテ方向のヘラミガキで丁寧なつくりである。このあたりでは類例をみないので収入品であろう。

SK 3 C地区の北西よりで検出した。SB 5の中にあるが、掘立柱建物に伴うものではない。平面形は南端の細いたまご形をしており、長径(南北)1.5m×短径(東西)1mを測る。深さ85cmであるが、水田造成の際に上部40cm以上が削平されている。

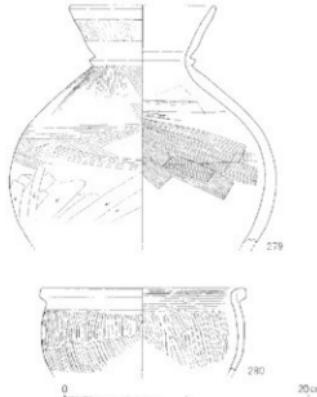
土坑内からは、拳大の櫛とともに大量の弥生土器が重なり合って出土した。土器の総数は30個体前後であるが、ほとんどのものは、破損、横転した状態で出土している。例えば、302の高杯は杯部と脚部



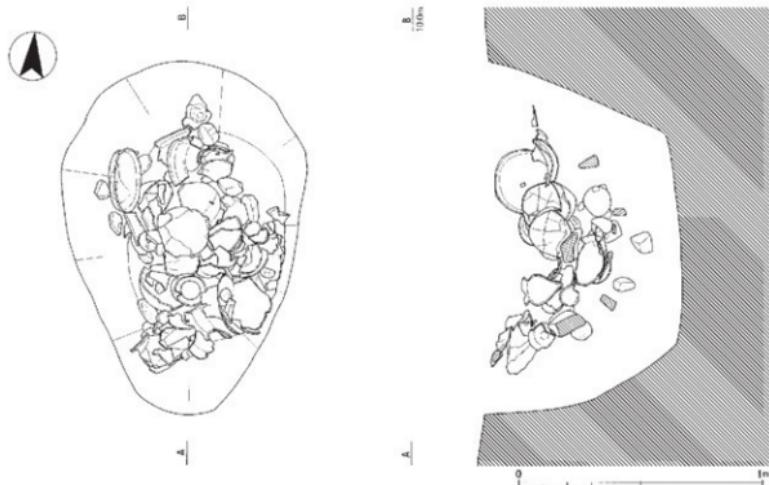
第99図 SK 1・SK 2 実測図 (1:50)



第100図 SK 1出土遺物実測図 (1:4)



第101図 SK 2出土遺物実測図 (1:4)



第102図 SK 3 実測図 (1 : 20)

がまったく違う位置から出土しており、土坑に入れられる前からすでに破損していたようである。

出土した土器は弥生時代後期初頭のものと考えられ、国化できたものは27点(281～307)である。壺(281～290)・甕(291～301)が大半をしめ、そのほか、高杯(302～305)・台付甕(306)・器台(307)がある。壺はさらに、広口壺281・283、受口状口縁の広口壺282、直口壺284、長頸壺285・286などに細分される。甕は、いわゆる「近江系」とよばれる受口状口縁のもの291～298が圧倒的に多い。一点出土した台付甕306も同様のものである。

283は、口縁部のみ完存している。頸部には張り付け突帯を巡らし、その上に2段の刺突文を施す。それから続く体部上半も2段の刺突文+波状文で飾られる。口縁端部の面にも刺突列点文を施している。

284は完存しており、焼成後肩部に穿孔されている。

285の頸部下半から体部上半にかけて、横線文→列点文→横線文→列点文が施されている。そのほかの頸部外面は、ヘラミガキ、体部はハケメで調整されている。

292は小ぶりの受口状口縁甕で、完存している。

外面はハケメ、内面は、上半部ナデ、下半部ヘラケズリによる調整である。

このほかの受口状口縁甕は、外面を横線文・列点文・波状文で美しく飾ったものが多い。内面は未調整のものもみられる。

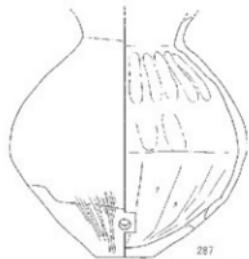
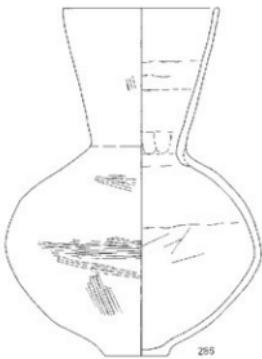
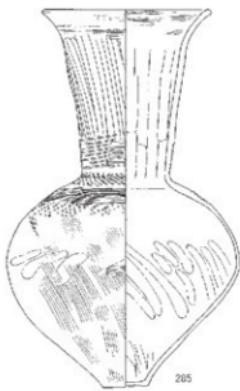
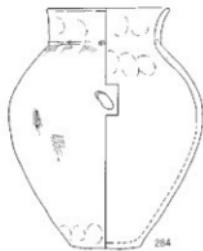
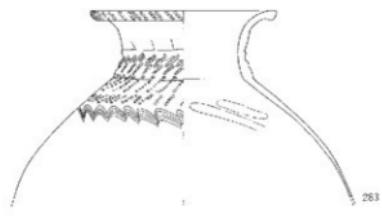
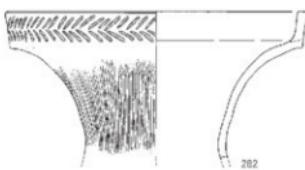
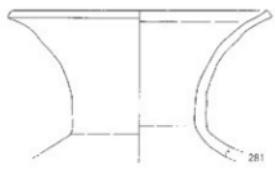
302の高杯は完存で、杯部外面・脚部外面をていねいにヘラミガキする。脚部には、5孔2段の透孔を穿つ。

304は、脚部のみだが、ヘラミガキの後2段の横線をめぐらす。透孔は4孔2段。赤彩とみられる。

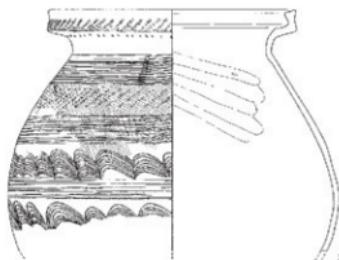
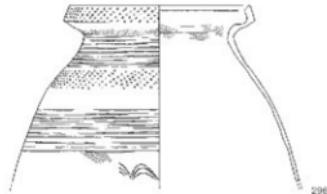
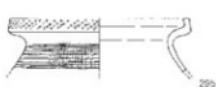
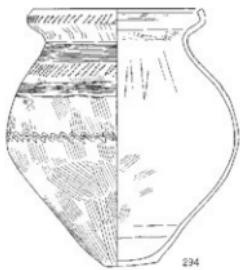
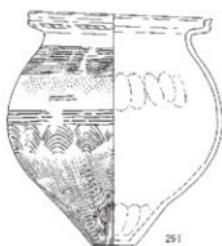
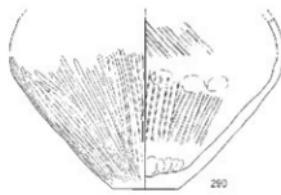
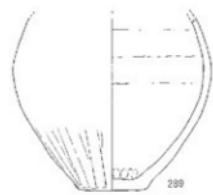
306の台付甕も赤彩であろう。口縁部外面に列点文、体部上半は、列点文+横線文+波状文を施し、下半と脚部はハケメ調整される。内面はナデである。津市太田遺跡⁶に類例がある。

307の器台は、口縁端部の面に2個一組の円形浮文と4個一組の竹管文を交互にめぐらしている。筒部外面は、横線文をめぐらすが、磨滅がはげしく、細かな調整は不明である。透孔は6方にみられる。内面はハケメ調整されている。

SK 4～6 SK 3 の西側で検出した。平面形は、一部矩形を想定させる部分もあるが、全体としては

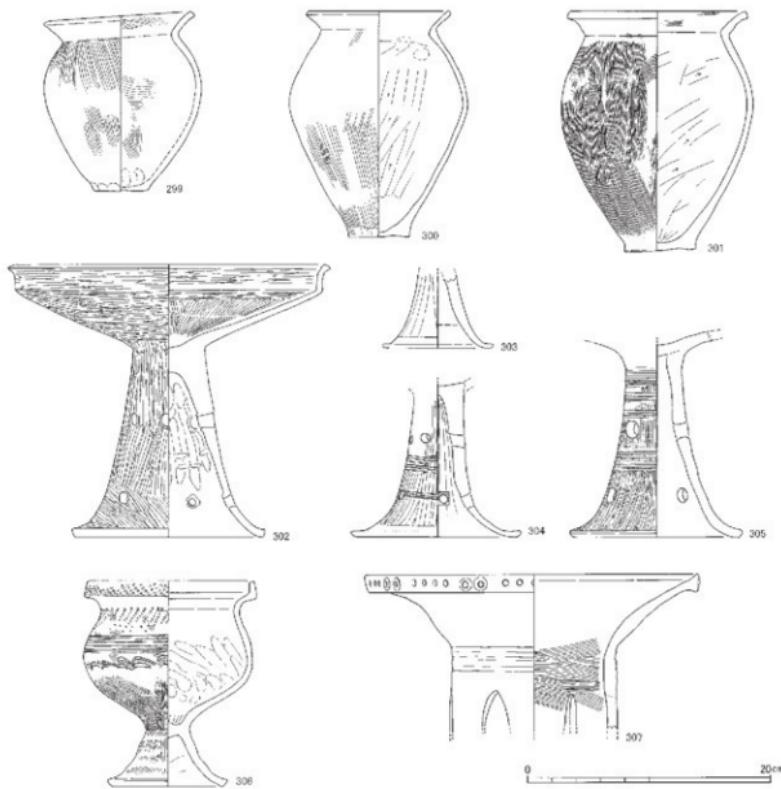


第103図 SK 3出土遺物実測図① (1 : 4)



0 20 cm

第104図 SK 3 出土遺物実測図② (1 : 4)



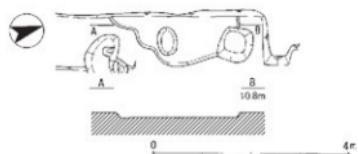
第105図 SK 3出土遺物実測図③(1:4)

不定形である。長さ2.3m～2.8m、深さは8～10cmである。いずれも奈良時代～平安時代初頭と考えられる。遺物は、SK 4から土師器皿(308)・甕(309)、須恵器杯(310・311)・甕口縁部(312)が、SK 6から土師器甕(313・314)が出土している。312は頸部が直線的に立ち上がり口縁部に至って外反しかつ垂直に下垂する。口縁外面には面を持つ。基本的にロクヨナデによる調整である。313・314は口径のよく似た甕である。長胴甕であろうか。形もよく似ているが、313の方は口縁が外反し、体部がやや丸みを帯びる。

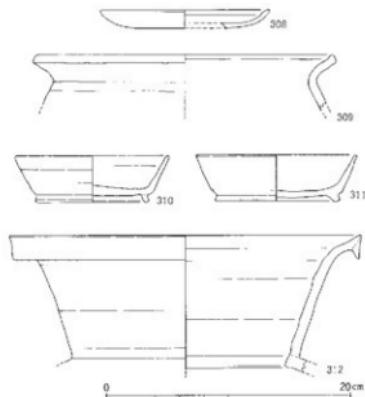
SK 7 C地区中央やや東よりで検出した。SK 4

～6とよく似た形態を持つ。須恵器甕底部(315)が出土している。外面にはヘラケズリによる調整である。奈良時代後期のものである。

SK 8 SK 7のすぐ南で検出した。不定形であり、ほかの2つの土坑が重複したり、切ったりしている。最長は推定5.1m、深さは30cmである。出土遺物は、土師器杯(316～322)・皿(323・324)・甕(325～328)、製塙土器(329)、鉄鍊(330)、鉄鎌(331)がある。このほか、図化できなかったが、猿投柵年の折戸10～井ヶ谷78号窯式に相当する須恵器があり、平安時代初期に位置づけられる。土師器杯・皿は底部外面を指先でナデつけ、口縁部をヨコナデするものがほ



第106図 SK 4 実測図 (1 : 100)



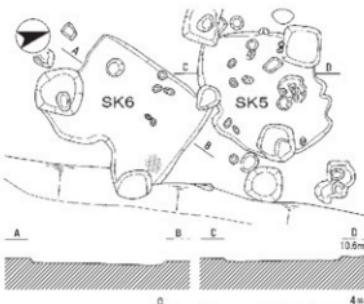
第107図 SK 4 出土遺物実測図 (1 : 4)

とんどである。鉄鎌331は、刃部側に内寄するもので、基部は着柄のため折り曲げられ木質が残存する。鉄鎌330は逆刺が長いものである。

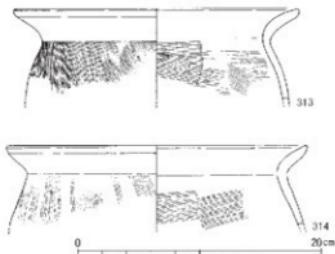
SK 9 C地区南東部で検出した。平面形はほぼ長方形である。東西方向に長く、規模は6.6m×3.8m、深さ20cm。同時期のSB15・16と重複するが、前後関係はわからない。出土遺物は、土師器羽釜・鍋(332・333)、陶器小皿(335・336)・山茶椀(337～339)・鉢(340)のほか、青磁碗(334)がある。山茶椀は藤澤良祐氏の編年による第6型式にあたる。

SK10 C地区の南中央部で検出した。平面形は南北に長い楕円形で、規模は1.3m×0.9m、深さ90cmである。弥生後期前葉の壺(341)が出土している。ほかに、陶器山茶椀・小椀が出土しているが、341が底付近で横転していたことから考えると、これらの遺物は混入品であろう。341の体部と頸部には各一向所焼成後の穿孔がみられる。

SK11 D地区の北西部で検出した。平面形はほぼ



第108図 SK 5・SK 6 実測図 (1 : 100)



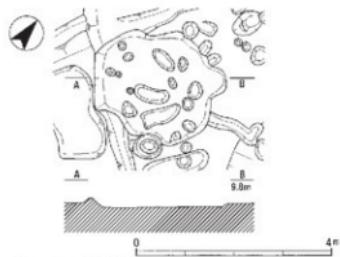
第109図 SK 6 出土遺物実測図 (1 : 4)

円形で、規模は1.5m×1.4m、船底形の底部は最深部で50cmを測る。弥生後期の台付甕・壺(342～346)及び、高杯脚部(347)が出土している。

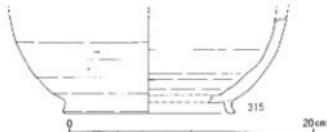
SK12～15 D地区の中央部に点在するほぼ方形の土坑群である。規模は、一辺2m～3.6m、深さは20～30cmである。時期的には、SK13の須恵器(351・352)が猿投編年の折戸10号窯式にあたり、平安時代初頭である。SK12の須恵器(348)はそれより古く奈良時代。SK14は遺物の時期にはらつきがある。須恵器は奈良時代後期であるが、土師器杯(353)は平安時代初頭までくだる可能性がある。SK15は、灰釉陶器(369)が猿投編年の黒窯90号窯式に相当し、平安時代前半に位置づけられる。369は内面が摩耗しており、墨も若干付着していることから、転用鏡の可能性も考えられる。

SK16～20 E地区に点在する土坑である。平面形、規模とも様々であるが、いずれも平安時代前半のものである。出土遺物は、SK16から土師器杯(370～

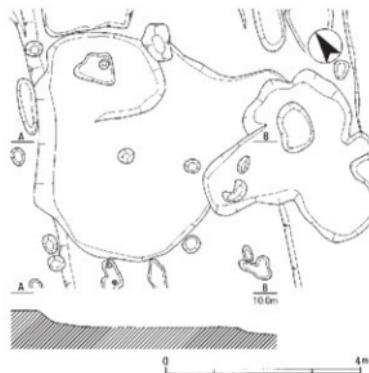
374)、須恵器壺頭部(375)・円面鏡(376)、灰釉陶器
椀・皿(377~380)、ほかがある。灰釉陶器は猿投柵
年の黒雀90号窯式にあたる。SK17では、土師器皿
(384)1点を図化したのみだが、ほかに灰釉陶器片・
須恵器杯B蓋片が出土している。SK18・19では、土
鍾(385~388)を図化したが、ほかに土師器片・須恵
器片(SK18)及び、灰釉陶器(SK19)がある。
SK20では、土師器甕(389)1点を図化したが、ほか
に土師器片・須恵器片がある。灰釉陶器はみられな
い。



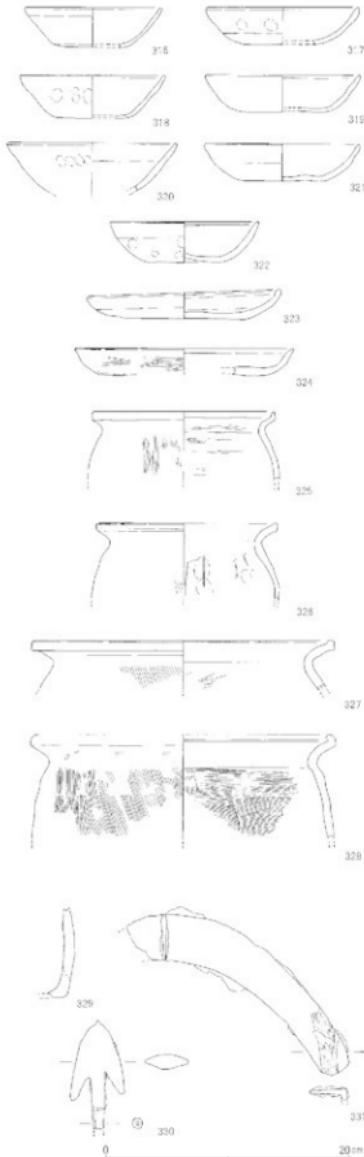
第110図 SK 7実測図 (1 : 100)



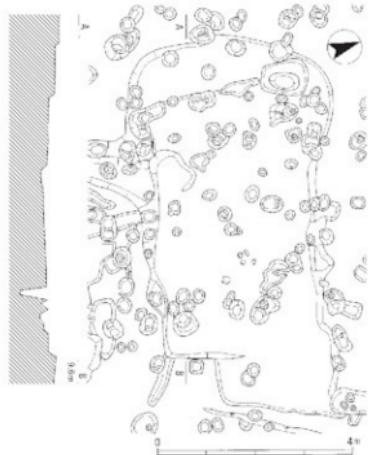
第111図 SK 7出土遺物実測図 (1 : 4)



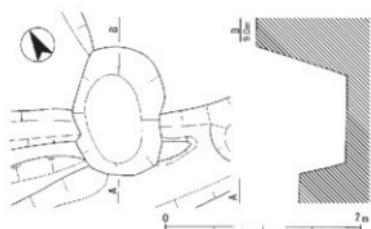
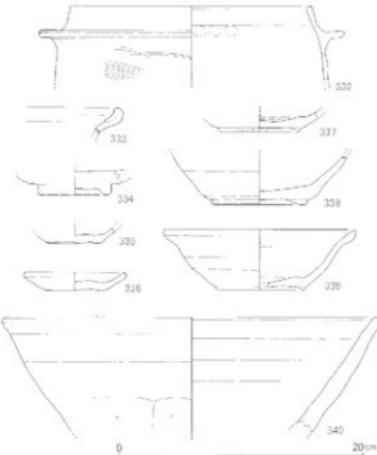
第112図 SK 8実測図 (1 : 100)



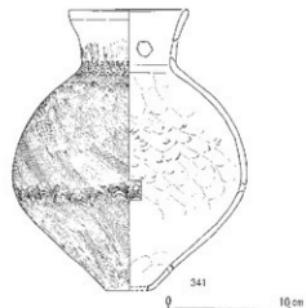
第113図 SK 8出土遺物実測図 (1 : 4)



第114図 SK9実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)



第115図 SK10実測図(1:50)、出土遺物実測図(1:4)

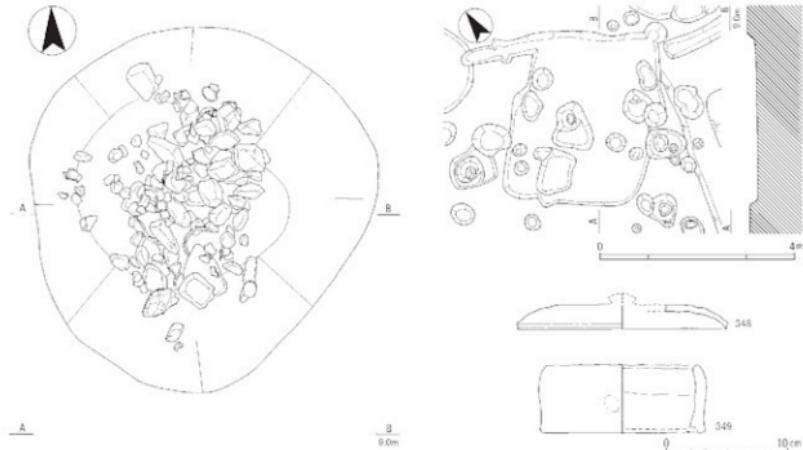


SK21 長径約1.3m、深さ約20cmの楕円形の土坑で、北側がテラス状になる。遺物は須恵器杯蓋(390)が出土した。

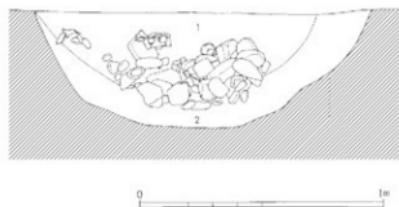
SK22 長径約4m、深さ約50cmの楕円形の土坑で、南側がテラス状になる。遺物は、土師器甕(391)・杯(392)、須恵器杯(394~401)・高杯(402)が出土した。甕391は口縁端部がつまみ上げられている。杯392は外表面がヘラミガキ調整されており、内面には放射状の暗文が施されている。須恵器の杯蓋には古墳時代タイプのもの(393)のほか、内面に返りをもつもの395・396と、返りをもたないもの397・398とがあり、杯身についても古墳時代タイプのもの394のほか、高台がつくもの400・401とつかないもの399がある。

SK23 長辺約3.2m、深さ約80cmの略方形の土坑で、西側と南側に小さなテラスがある。中央部には土の質が違う部分(第135図の1、茶褐色やや粘質土)があったが、この部分のみ中世の遺物(408・409)が出土していることから考えると、まったく別の造構として扱うべきであろう。

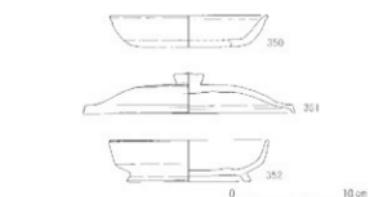
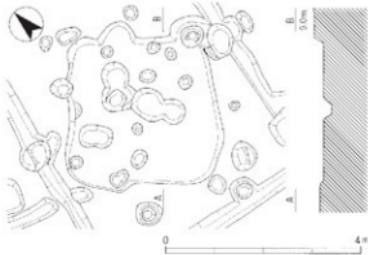
遺物は、土師器甕(403・405)・杯(404)、須恵器甕(406)・甕(407)、曲物(410)が出土した。土師器甕403・405は口縁端部がわずかにつまみ上げられる



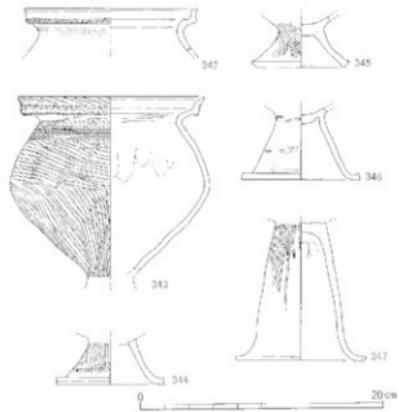
第118図 SK12実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)



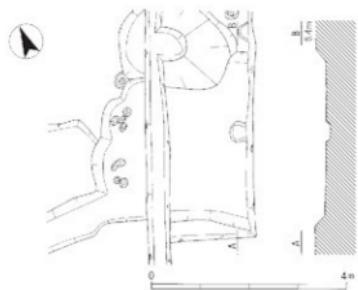
第116図 SK11実測図・土層断面図(1:20)



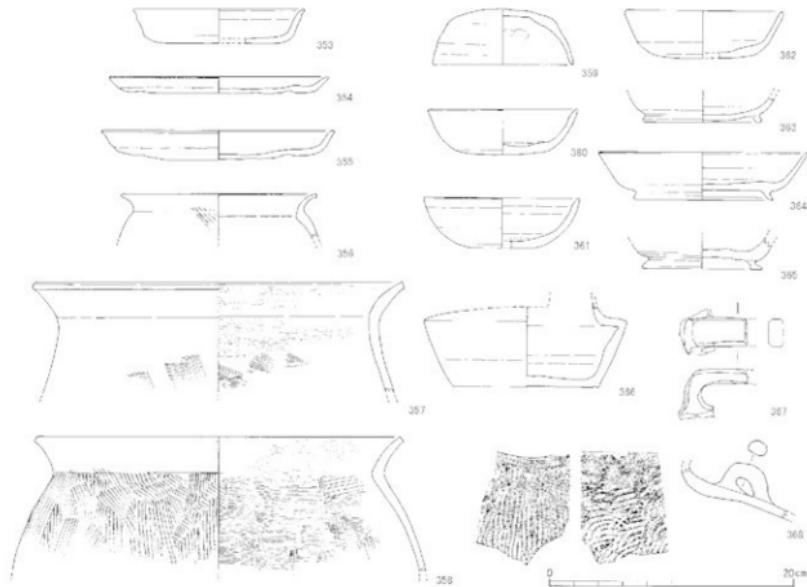
第119図 SK13実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)



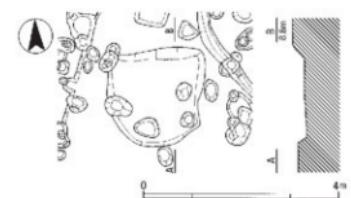
第117図 SK11出土遺物実測図(1:4)



第120図 SK14実測図 (1 : 100)



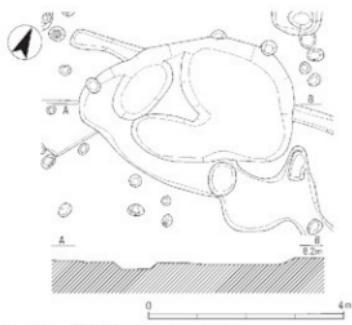
第121図 SK14出土遺物実測図 (1 : 4)



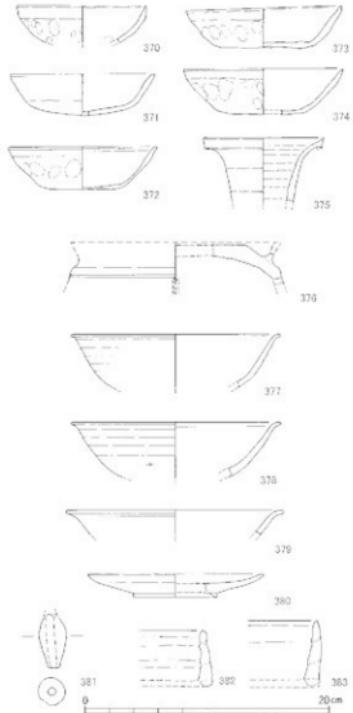
第122図 SK15実測図 (1 : 100)



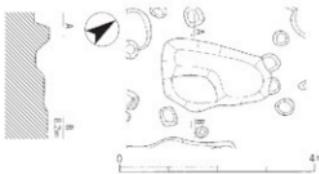
第123図 SK15出土遺物実測図 (1 : 4)



第124図 SK16実測図 (1 : 100)



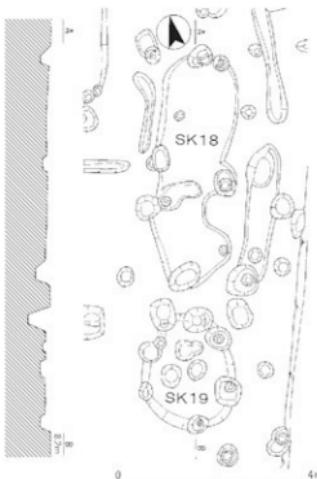
第125図 SK16出土遺物実測図 (1 : 4)



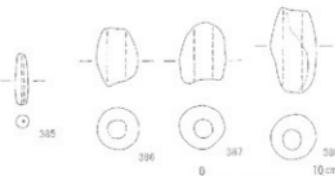
第126図 SK17実測図 (1 : 100)



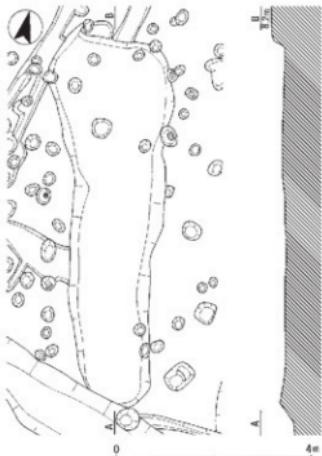
第127図 SK17出土遺物実測図 (1 : 4)



第128図 SK18・19実測図 (1 : 100)



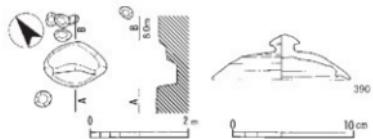
第129図 SK18・19出土遺物実測図 (1 : 4)
(385 : SK18, 386~388 : SK19)



第130図 SK20実測図 (1 : 100)



第131図 SK20出土遺物実測図 (1 : 4)

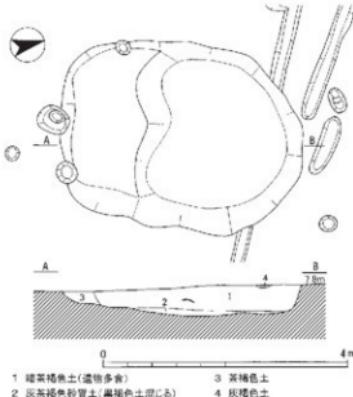


第132図 SK21実測図 (1 : 100)、出土遺物実測図 (1 : 4)

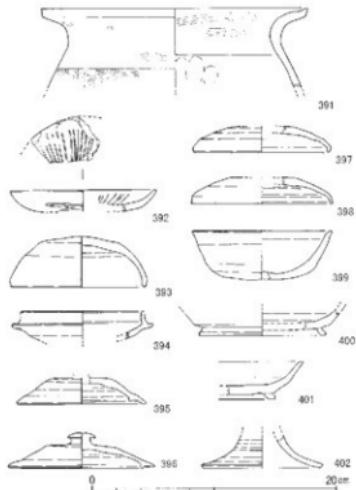
もので、土師器皿404は内面に螺旋状の暗文が施されている。また、須恵器甕407は口縁部の内面が突出している。

SK24 長径約3m、深さ約1mの楕円形の土坑で、テラスが2段ある。遺物は、土師器皿(411)、須恵器杯(412)などが出土した。411は、外面がヘラミガキ調整され、内面は口縁部に放射状の暗文、底部に螺旋状の暗文が施されている。

SK25 長径約3.5m、深さ約60cmの楕円形の土坑で、南西部の輪郭は不明瞭であり、内部は何段もテラスがある。遺物は、土師器甕(414)、須恵器杯(415)・



1 塗装褐色土(遺物多発)
2 灰茶褐色砂質土(遺物少発)
3 黄褐色土
4 棕褐色土

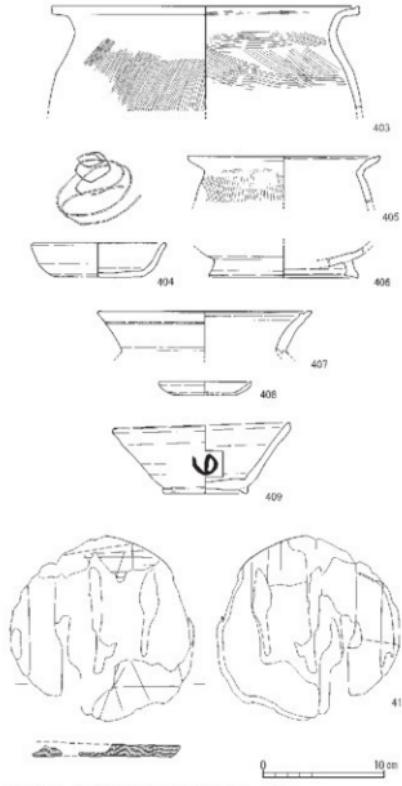


第133図 SK22実測図、土層断面図 (1 : 80)、
出土遺物実測図 (1 : 4)

甕(417)、土馬(416)が出土した。417は注口部が突出するタイプのもので、7世紀代のものであろう。

SK26 直径約1.6m、深さ約80cmの土坑である。遺物は、土師器、須恵器がわずかに出土した。

SK27～SK40 出土した陶磁器類から、いずれも19世紀第3四半期に比定できるもので、SE16～



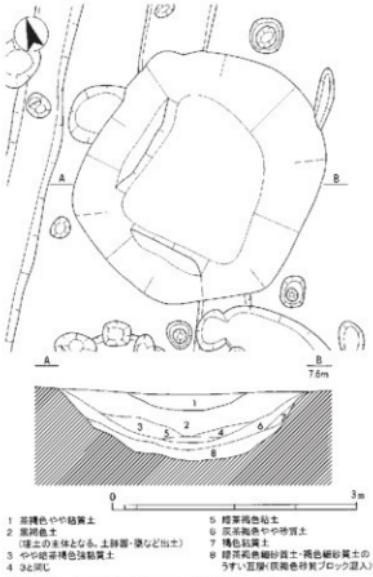
第134図 SK23出土遺物実測図（1：4）

SE19と同様「安政元年窪田村地図」に描かれた「窪田出屋」に関する遺構と考えられる。ほとんどのものの平面形は方形で、出土した陶磁器の大半は瀬戸美濃製品である。

SK29は、長さ約1.6mの凸形の土坑で、周囲がタキで固められている。

SK30は、長辺約3m、深さ約0.2mの方形の土坑である。遺物は磁器湯呑(418)・猪口(419)などが出土した。

SK33は、幅約2.3m、深さ約10cmの土坑で、平面形は長方形になるものとみられる。遺物は、陶磁器のほかに漆器楕(421・422)が出土している。421は



第135図 SK23実測図・土層断面図（1：60）

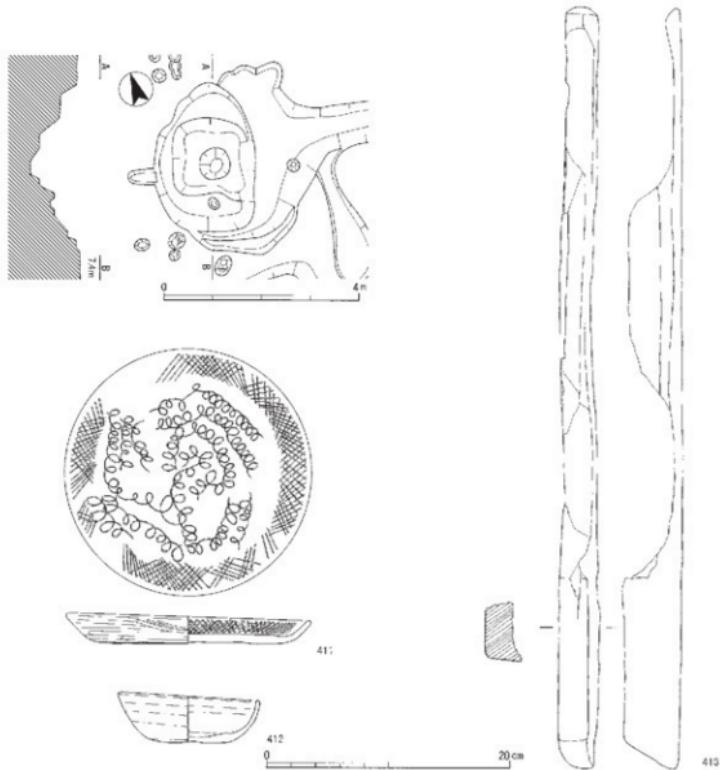
内外面とも赤色漆が、422は内面に赤色漆、外面に黒色漆が施されており、421の底部外面には「-」と記されている。

SK34は、長辺約3.2m、深さ20cmの長方形の土坑である。遺物は、陶磁器のほかに用途不明の木製品(423)が出土した。

SK35は、長辺約3.7m、深さ約20cmの土坑で南側の輪郭は不明瞭となっている。遺物は、磁器楕(424)、磁器仏具(425)・擂鉢(426・427)・甕(428)、下駄(429)が出土した。429は台の裏側をくり抜いて歯を作り出すタイプのもので、歯が台の周縁を廻っている。

SK37は、長辺約4.2m、深さ約0.2mの長方形の土坑である。遺物は、磁器楕(430)、瓦質焙烙(431)などが出土した。431は鉗のつくタイプのものである。

SK40は、一辺約4m、深さ約60cmの方形の土坑で、東側がテラス状になっている。遺物は、瓦質焙烙(432)、陶器香炉(433)、磁器楕(434・435)、下駄(437)などが出土した。焙烙432はSK37やSE17で出



第136図 SK24実測図（1：100）、出土遺物実測図（1：4）

土したもの207・208と同様で、鉢のつくタイプのものである。437は歯を原本から削り出すタイプのもので、後ろの歯が磨滅している。

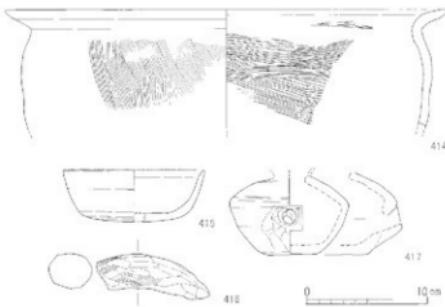
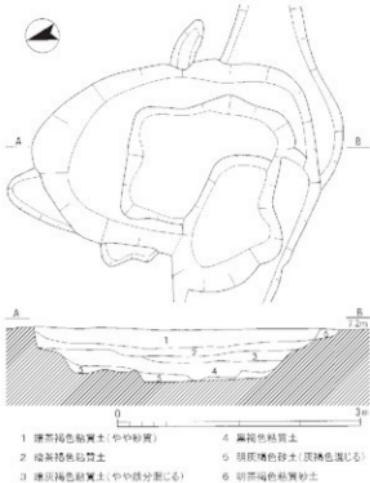
SK41 直径約80cm、深さ約60cmの円形の土坑である。遺物は、近世の陶磁器類が出土しているが、混入品である陶器山茶椀(438)の底部外面には墨書きされている。

SK42 長径約1.6m、深さ約40cmの楕円形の土坑で、埋土内には拳大の石が多く含まれていた。遺物は、土師器鍋(439～441)、陶器小皿(442)・山茶椀(443・444)、曲物(445)が出土した。小皿・山茶椀は藤澤編年の第7型式のものが中心で、442と443

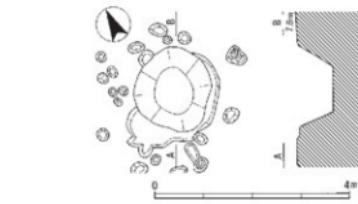
の底部外面には同一とみられる墨書き「きくや」と記されている。

SK43 SE21、SD35と重複しているため、遺構の輪郭はやや不整形であるが、一辺1.5m程度の方形であったと考えられる。西側以外がテラス状になり、深さは約0.8mである。遺物は、土師器甕(446)・鍋(447)、陶器山茶椀(448～450)が出土した。山茶椀は藤澤編年の第6型式のものが中心である。

SK44 長辺約1.8m、深さ約50cmの長方形の土坑である。遺物は、土師器、陶器山茶椀・小皿(451)、板材(452)が出土した。451は、藤澤編年の第6型式に相当する。



第137図 SK25実測図・土層断面図（1：60）、
出土遺物実測図（1：4）



第138図 SK26実測図（1：100）

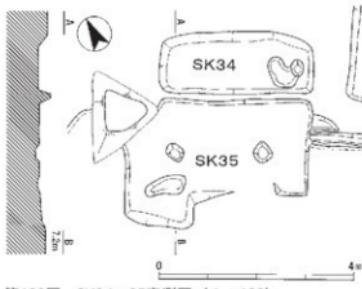
SK45 長辺約2.3m、深さ約90cmの長方形の土坑で、埋土は大きく二つ（第155図の1と2～5）に分層できる。遺物は、土師器、陶器山茶椀（453）が出土した。453は外面に墨書があり、藤澤編年の第8型式に相当する。

SK46 長辺約2.4m、深さ約70cmの長方形の土坑である。遺物は、土師器、陶器山茶椀が出土した。

SK47 SD16と重複している。一辺約1.6m、深さ約80cmの方形の土坑である。SD16と切り合が認められないことから、SD16にともなう水溜め的な施設とも考えられる。遺物は、土師器壺（454・455）・甕（457）などが出土した。

SK48 長さ約5.7m、深さ約40cmの細長い土坑である。遺物は、弥生土器壺（458）・高杯（459）が出土した。458は直口壺で、体部が長胴になるものである。弥生時代後期前葉のものであろう。

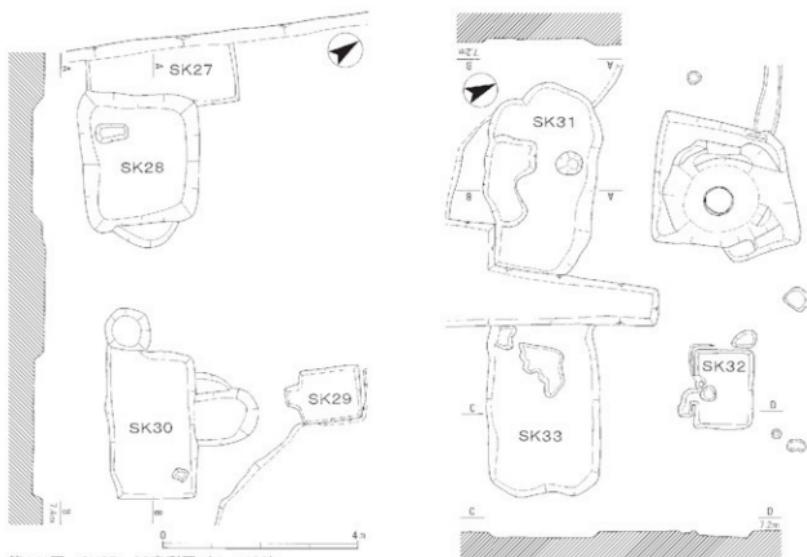
SK49 東西約4.2mの不整形な形状の土坑である。内部は複雑な形状になっており、深さは約90cmである。遺物は、土師器杯（460～468）・甕（469・470）、黒色土器皿（471）・杯（472）、須恵器杯（474）・椀（473）、灰釉陶器短頸壺蓋（475）・椀（476～479・482）・皿（480・481）、土錘（483）、製塩土器（484）が出土した。土師器杯のほとんどはe手法で調整されるものである。土師器甕は両者とも口縁端部がつ



第139図 SK34・35実測図（1：100）



第140図 SK34出土遺物実測図（1：4）



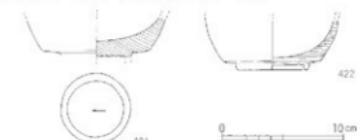
第141図 SK27~30実測図 (1 : 100)



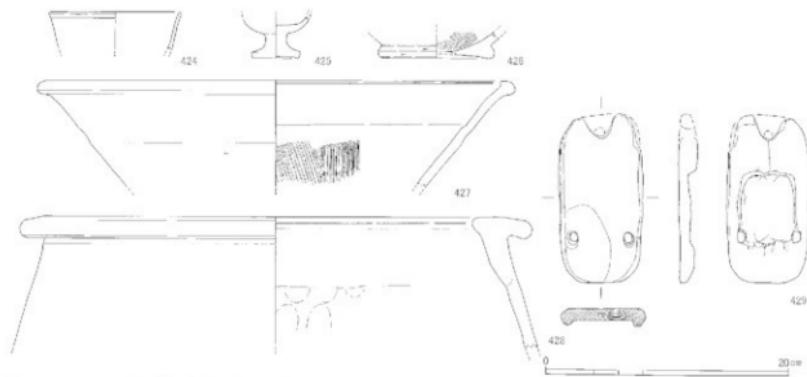
第143図 SK31~33実測図 (1 : 100)



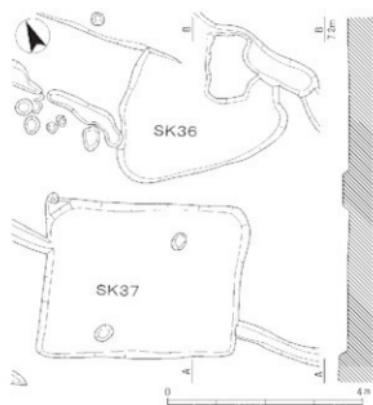
第142図 SK30出土遺物実測図 (1 : 4)



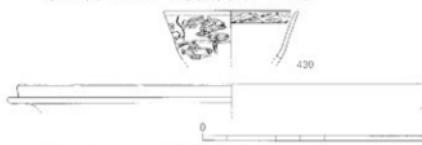
第144図 SK33出土遺物実測図 (1 : 4)



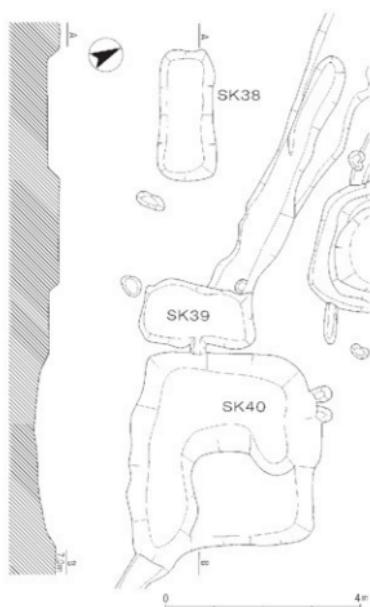
第145図 SK35出土遺物実測図 (1 : 4)



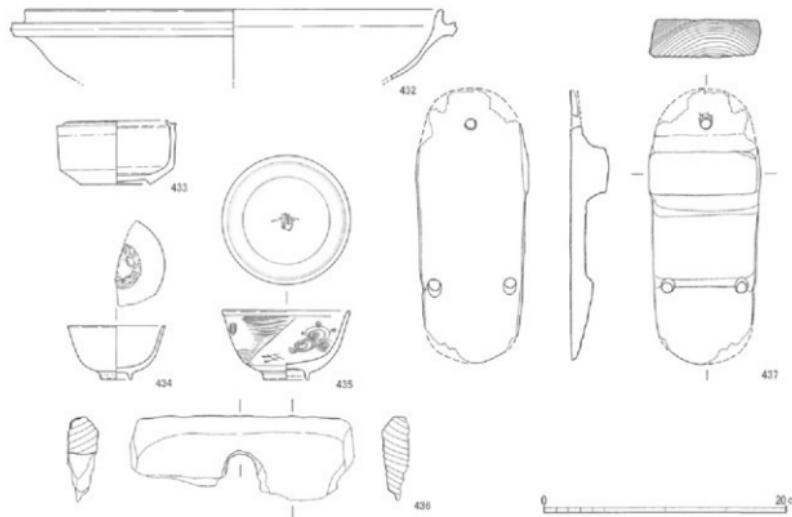
第146図 SK36・37実測図 (1 : 100)



第147図 SK37出土遺物実測図 (1 : 4)



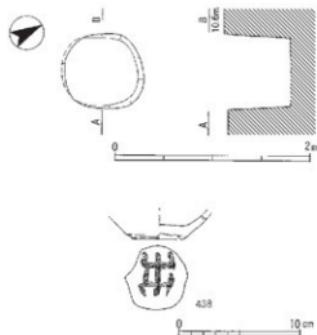
第148図 SK38~40実測図 (1 : 100)



第149図 SK40出土遺物実測図 (1 : 4)

まみ上げられるもので、やや受口状になるもの469と内傾するもの470がある。黒色土器は両者とも内面のみが黒色のA類である。須恵器碗473の内面には墨書きが施されている。灰釉陶器椀には高台の高いものと低いものとがあるが、いずれも猿投編年の中釜9号窯式に相当するものである。

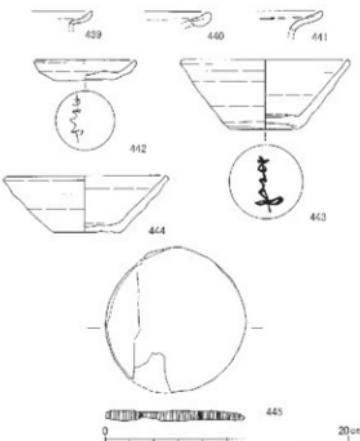
SK50~60 近世土坑群として、一括して報告する。近世土坑群は、B地区のほぼ全面で検出され、複雑に重複していた。切り合いで前後関係を確認できた



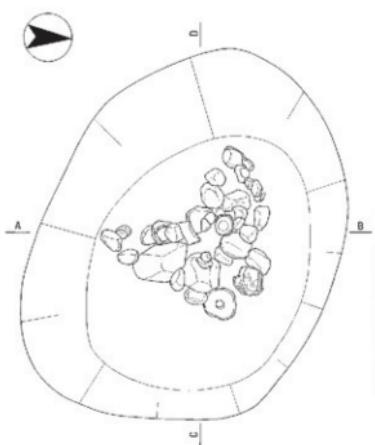
第150図 SK41実測図(1:50)、出土遺物実測図(1:4)

ものはなかった。性格についてはわからない。いずれの埋土も耕作土のように締まりがなく、地山などがブロック状になって入り込んでいた。

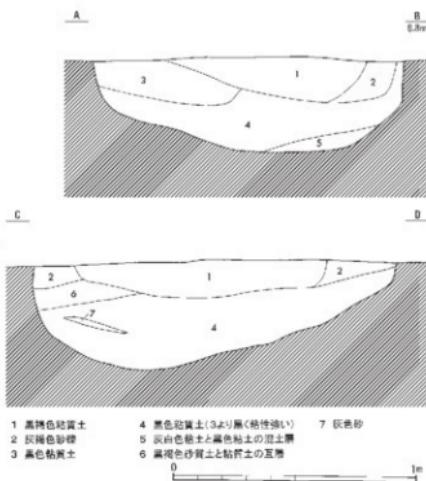
SK50~60の平面形はさまざまである。単一の土坑と考えられるもの(SK54・56・59・60)や、いく



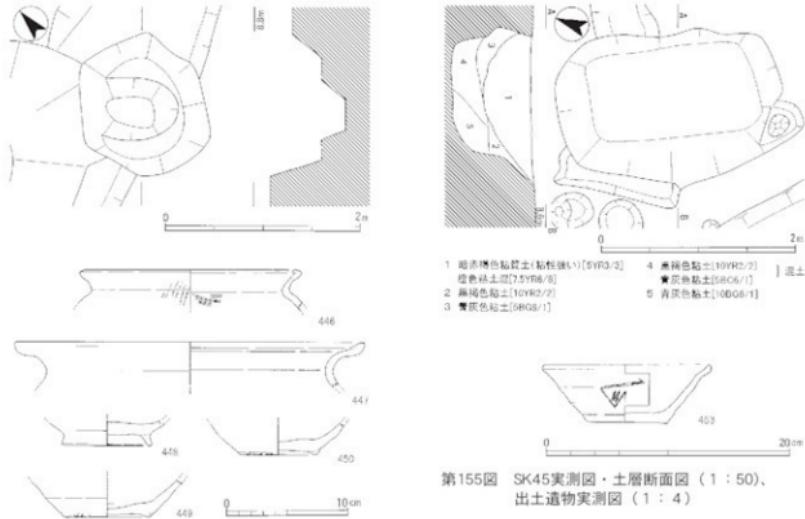
第152図 SK42出土遺物実測図(1:4)



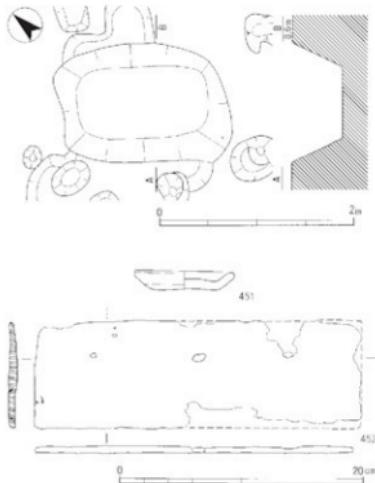
第151図 SK42実測図・土層断面図(1:20)



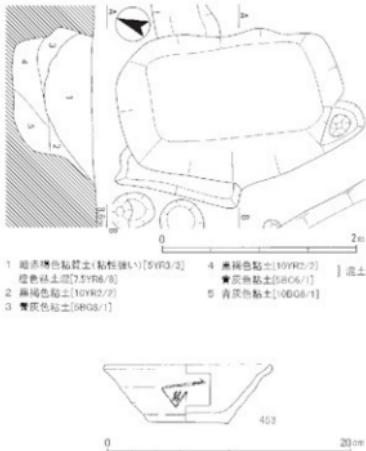
- 1 黒褐色粘質土
- 2 反覆色砂礫
- 3 黒褐色土
- 4 黒色粘質土(3より黒く粘性強い)
- 5 白色粘土と黑色粘土の混土層
- 6 黑褐色砂質土と粘質土の互層
- 7 灰色砂



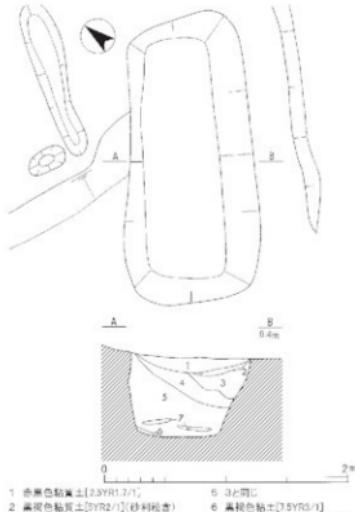
第153図 SK43実測図(1:50)、出土遺物実測図(1:4)



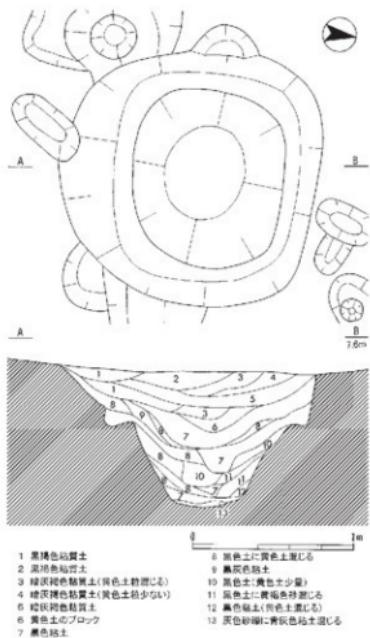
第154図 SK44実測図(1:50)、出土遺物実測図(1:4)



第155図 SK45実測図・土層断面図(1:50)、出土遺物実測図(1:4)



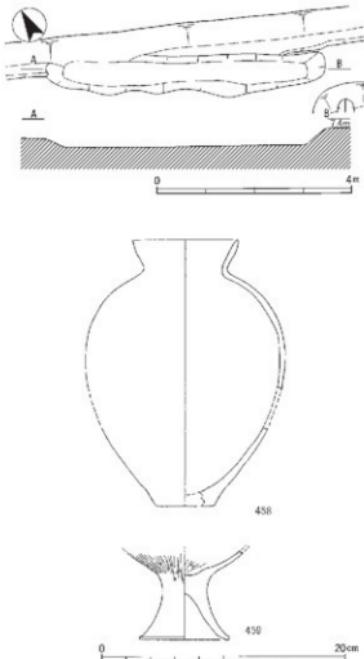
第156図 SK46実測図・土層断面図(1:40)



第157図 SK47実測図、土層断面図(1:30)、出土遺物実測図(1:4)

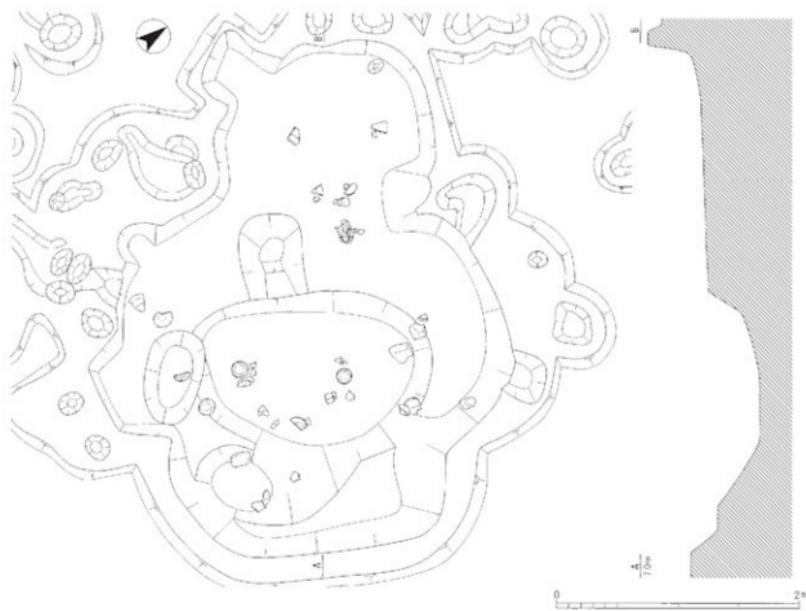
つかの土坑が集まつたもの(SK57・58)には、方形と思われるもの(SK54・57・60)と梢円形のもの(SK59)、不定形のもの(SK56・58)がある。ほかには溝状のもの(SK51・52・55)と、いくつかの土坑がならんで溝状になつたもの(SK50・53)がある。溝状のものはC地区・D地区にも若干存在するが、周辺の水田の地割りと方向の近いものが多く、複数のものが平行している部分もある。

遺物は、主に17世紀から19世紀第3四半期に比定できる陶磁器類が出土した。土師器には、皿(487~

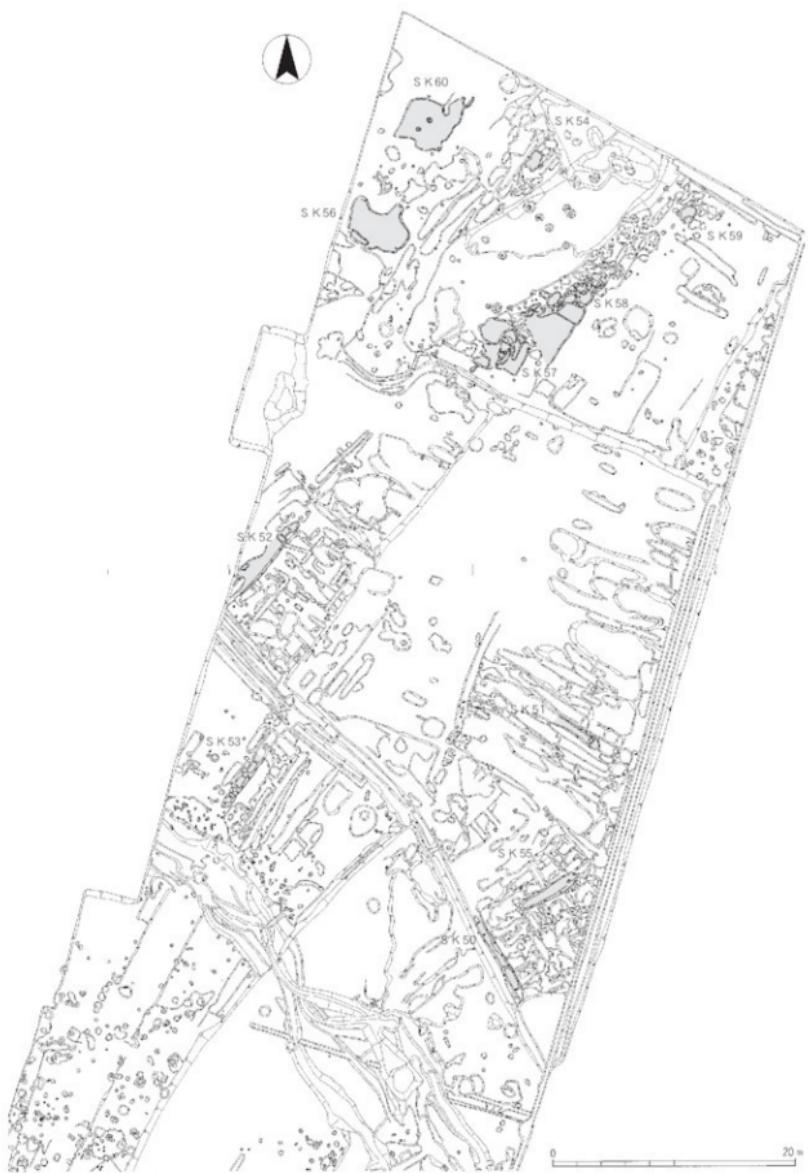


第158図 SK48実測図(1:100)、出土遺物実測図(1:4)

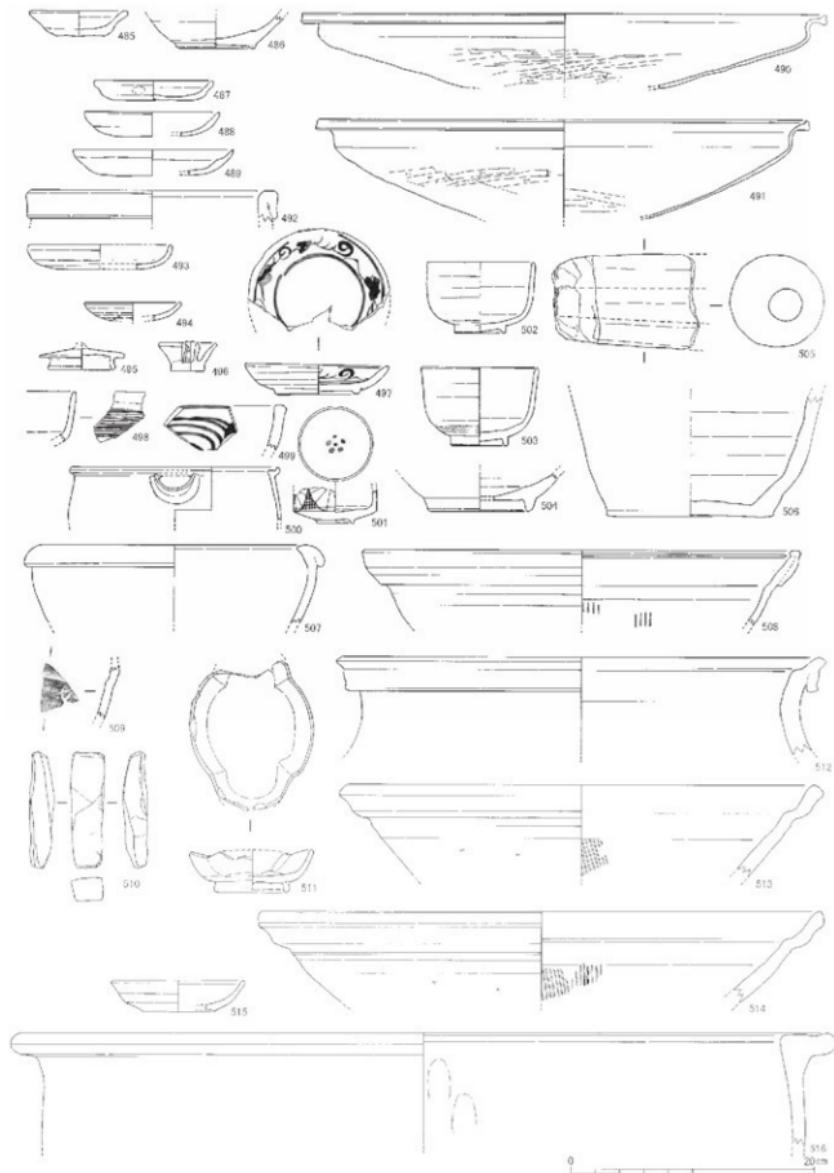
489)・培烙(490・491)がある。陶器には、皿(493・497・499・511・515)、椀(502・503・521)・秉燭(496)・擂鉢(508・509・513・514)などがある。磁器には、梅(517~520・524)・紅皿(530)などがある。ほかには、輪の羽口(505)、砥石(510)などが出土している。輪の羽口はSK53からまとめて出土しており、SK53出土の土師器培烙491の口縁部外面上には鉄錆が付着していた。(494)は、陶器の灯明受皿、(495)は、信楽焼の青土瓶蓋、(499)は陶器の馬目皿口縁部、(500)は信楽焼の雪平である。(509)の擂鉢の内面には、㊀の刻印がある。(511)は、陶器の木瓜形皿で、ほぼ全面に御深井釉がかけられている。磁器椀は、(517)が肥前、(518~520)が波佐見のものと考えられる。肥前製と考えられるのは、ほかに猪口(522)と筒形湯呑(529)がある。そのほかの磁器は、ほとんどが瀬戸製品と考えられる。



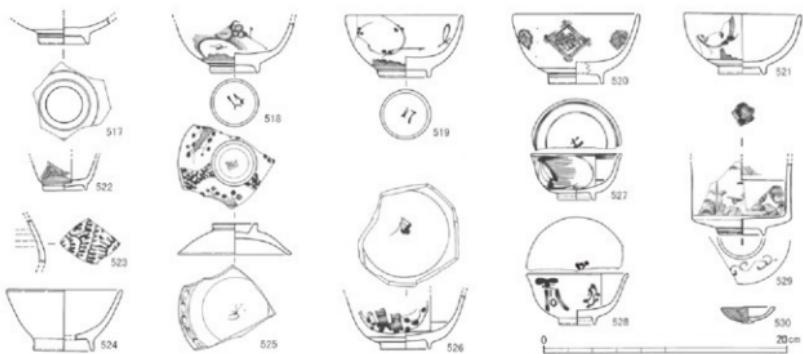
第159図 SK49実測図 (1:40)、出土遺物実測図 (1:4)



第160図 近世土坑群 (SK50~60) (1 : 400)



第161図 近世土坑群出土遺物① (1 : 4) [485 : SK50, 486 : SK54, 487~489, 492 : SK56, 491~502~506~508 : SK53, 493~512 : SK51, 494~496, 498~501~507~509~510 : SK57, 497 : SK55, 511~513~514~516 : SK52, 515 : SK60, 490 : 不明]



第162図 近世土坑群出土遺物② (1 : 4) [517・522 : SK53, 518~521 : SK52, 523~528 : SK57, 529 : SK59, 530 : SK58]

(7) 溝・自然流路

本道跡は、東と南に緩やかに傾斜しており、調査では多数の溝・自然流路が検出された。このうち、38条について、遺構と出土遺物の概略を述べる。個別の詳細なデータについては一覧表を参照されたい。

SD 1 B地区北端部で検出された、北東ー南西方向の幅の広い溝である。底部は北東部ほど低くなっている。幅約5mの道路を挟んだ北側の六大B遺跡A地区の南端では、この溝の続きは検出されなかつたが、全体に広く窪み、東に低い地形がみられた。こうしたことから、SD 1は北東方向へ流れていったと考えられる。

出土遺物には弥生時代以降のものがみられるが、中心は平安時代後半である。石甃(531)は、重さ7.5g、サヌカイト製である。弥生土器壺(532~538)は、表面が摩滅したものが多い。奈良・平安時代以降の遺物としては、土師器甕(539~542)、須恵器(543・545~547・562)、綠釉陶器(548)、ロクロ土師器(553・559)、灰釉陶器(552)、陶器山茶碗(550・551・555~558)などがみられる。562は須恵器壺の獸脚部分である。この他、白磁椀(560)、平瓦(561・565)、土玉(563)などがある。

SD 2 B・C地区の境界付近を北西から南東方向に流れする幅の広い溝である。東端はいったん調査区外となり、1ー2地区に続く。2~3条の溝が絡み合っているよう見えるが、全体としては1本で、幅は広いところで10mにもなる。1カ所くびれたよ

うに見えるところは、上部が削平され、底の部分だけが残ったものであろう。

出土遺物は、弥生土器(567)、土師器(568~573・590~592・599~605)、須恵器(574~589・640・641・648)、ロクロ土師器(594・595)、黒色土器(596~598)、灰釉陶器(593・606~639・642~647・649・655・671)、綠釉陶器(660~663)など、種類も量も多い。中心は、平安時代前半である。(566)はチャートの片断で、一部に加工痕がみられる。(575・576)の須恵器杯・高杯には、ヘラ記号が付けられている。(583)は、獸脚を持つ須恵器壺の底部である。黒色土器(596~598)はいずれも内面が黒化するA類である。灰釉陶器には、椀・皿・壺がある。椀・皿の灰釉は、漬掛けか刷毛塗りか判断のつくものが多い。綠釉陶器は、662が硬質、他の3点は軟質である。灰釉陶器は、612の底部外面にはヘラ記号、625・628の底部外面には墨書きがみられる。(650・651)は、複弁八葉蓮華文軒丸瓦で、同種のものが津市天王寺庵寺や済見庵寺から出土している。(652・654)は丸瓦、(653)は軒平瓦である。この他、製塙土器(665・666)、土鍤(667~669)、鉄鎌(670)、鉄製盤(672)などがある。

SD 3 C地区中央東部のSE 2付近にはじまり、蛇行しながらほぼ東流し、SD 2に達する。SD 2との切り合い関係は擾乱のため確認できなかったが、SD 2を越えて東へは延びない。

出土遺物は、土師器皿(673~677)・杯(678~



第163図 SD 1 実測図 (1:300)・土層断面図 (1:50)

684・688～691)・椀(685・686・692・693)・甃(694～700・702)・須恵器杯身(687・708・710～713)・杯蓋(705～707・709)・甃(714)・甃(715・716)・鉢(717)・黒色土器杯(718・719)・椀(720・722・723)・皿(721)・縁軸陶器皿(724)・椀(725)・灰釉陶器皿(726)・椀(727・729～732)・陶器山茶(728)などがある。時期は、平安時代前半を中心とする。土師器杯のうち677～680・682の内面には暗文が施される。687はロクロナデで調整(底部外側は未調整)された酸化焼成による須恵器である。須恵器杯蓋709の天井部内面には同心円の当て具痕が残る。黒色土器盤はすべてA類である。720・721・723の内面には螺旋暗文が施される。灰釉陶器椀のうち731の高台見込みには墨書きがみられる。この他出土遺物には、ロクロ口土師器を加工した円形加工板(703)・製塩土器

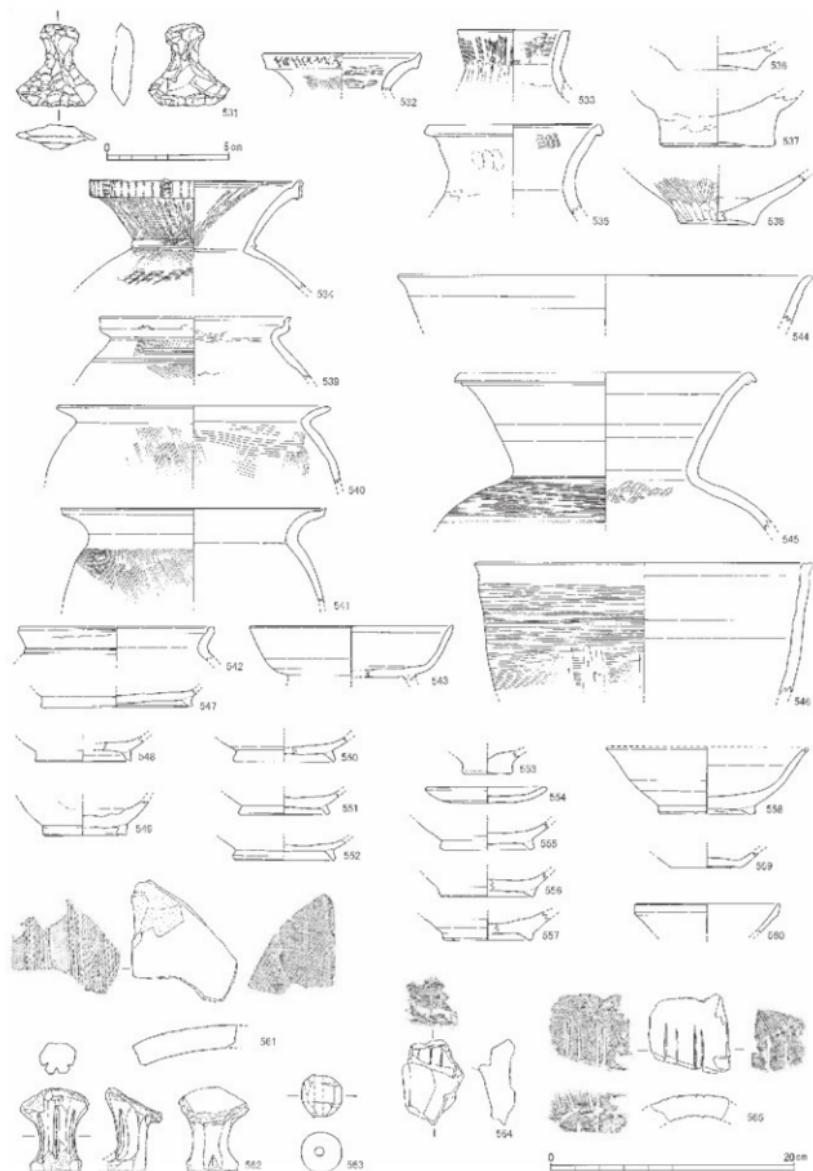
(704)、平瓦(733・734)がある。

SD 4 C地区の中央部やや南よりで検出された南北方向の溝である。固化できた遺物はないが、平安時代後半頃のものと考えられる。

SD 5 C地区南東部で検出された南北方向の溝である。出土遺物には、土師器皿(735)、陶器山茶(736・737)、土鍾(738)がある。南端部はSD 6 に切られた形になっているが、出土遺物からもSD 5 の方が古いと思われる。

SD 6 C地区南東部で検出された。蛇行しながら東流し、調査区外へ出る。東端にSE4があるが、出土遺物を見る限り、SD 6 の方が古い傾向にある。西側は、削平されており検出できなかった。

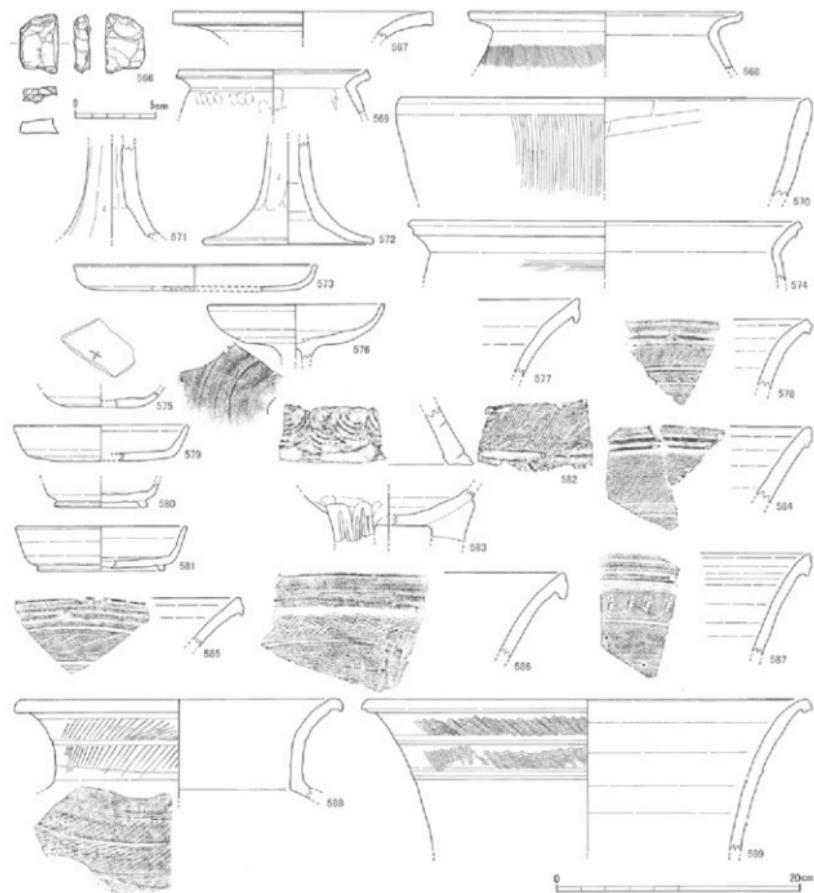
出土遺物の中心は鎌倉時代である。土師器皿(739～741・744・745)・椀(759)・鉢(746～749)、ロクロ



第164図 SD 1出土遺物実測図 (1 : 4)、531 (1 : 2)



第165図 SD 2・3・34実測図 (1 : 300)



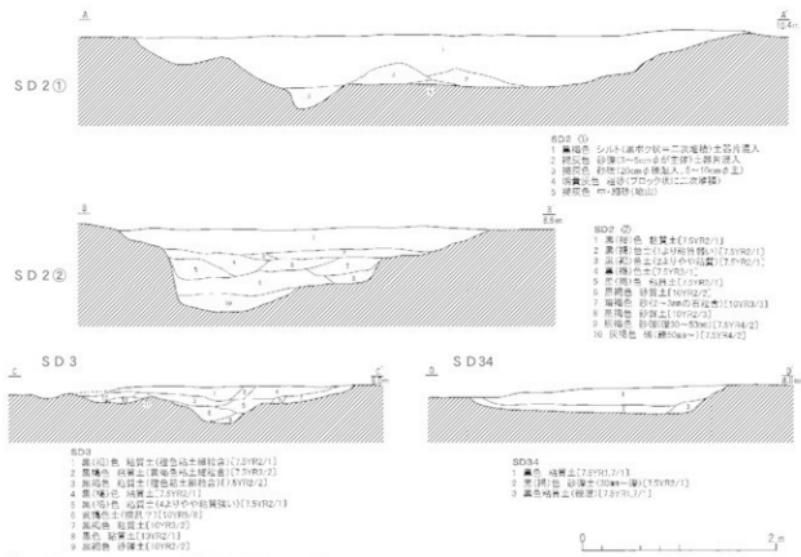
第166図 SD 2出土遺物実測図① (1 : 4)、566 (1 : 3)

土師器皿(742・743)、黒色土器(A類)椀(785)、灰釉陶器皿(755)・椀(757・758・760~763)・壺(764・784)、緑釉陶器椀(786~788)、陶器山茶椀(756・776~783)・小皿(765~775)、青磁椀(789・790)、白磁皿(791)などがある。土師器皿744の口縁部にはススが付着する。746はいわゆる清郷鍋である。緑釉陶器には軟質のもの(786・788)と硬質のもの(787)がある。この他の遺物としては、土鍤(750~753)、須恵質の紡錘車(754)、陶器甕(792・793・795)、平瓦

(794)、重弧文の軒平瓦(796)がある。

SD 7・SD 8 C地区の南西部で検出された。ほぼ平行して西から東に流れる。SD 7は、岡化できた遺物はないが、およそ中世頃と考えられる。SD 8からは、土師器皿(797~799)・鉢(800)、陶器甕(801)・山茶椀(802~804)が出土しており、鎌倉時代と考えられる。801は常滑焼で、押印文がみられる。

SD 9 C地区的南端からD地区中央を縦断するように南へ流れる。SD 9の北端部は東に向かって變の



第167図 SD 2・3・34土層断面図 (1:50)

手に曲がり、SD 8 と絡み合う。

出土遺物は、土師器鍋(805)、ロクロ土師器皿(806)、陶器山茶椀(809~824)・小皿(807~808)・鉢(826)・壺(827)、風字硯(825)がある。825は、やや磨耗し、内面に墨が付着する。山茶椀は、藤澤編年で第5・6型式に相当するものが多く、12~13世紀頃に埋没したと考えられる。

SD 10 E 地区を西から東へ流れる溝である。西端部には幅が広く、水溜り状になったところがある。そこから東に伸びる溝は深くしっかりしている。

出土遺物には、弥生土器高杯(1030)や韓式系土器(1031)もあるが、中心は平安時代後半である。

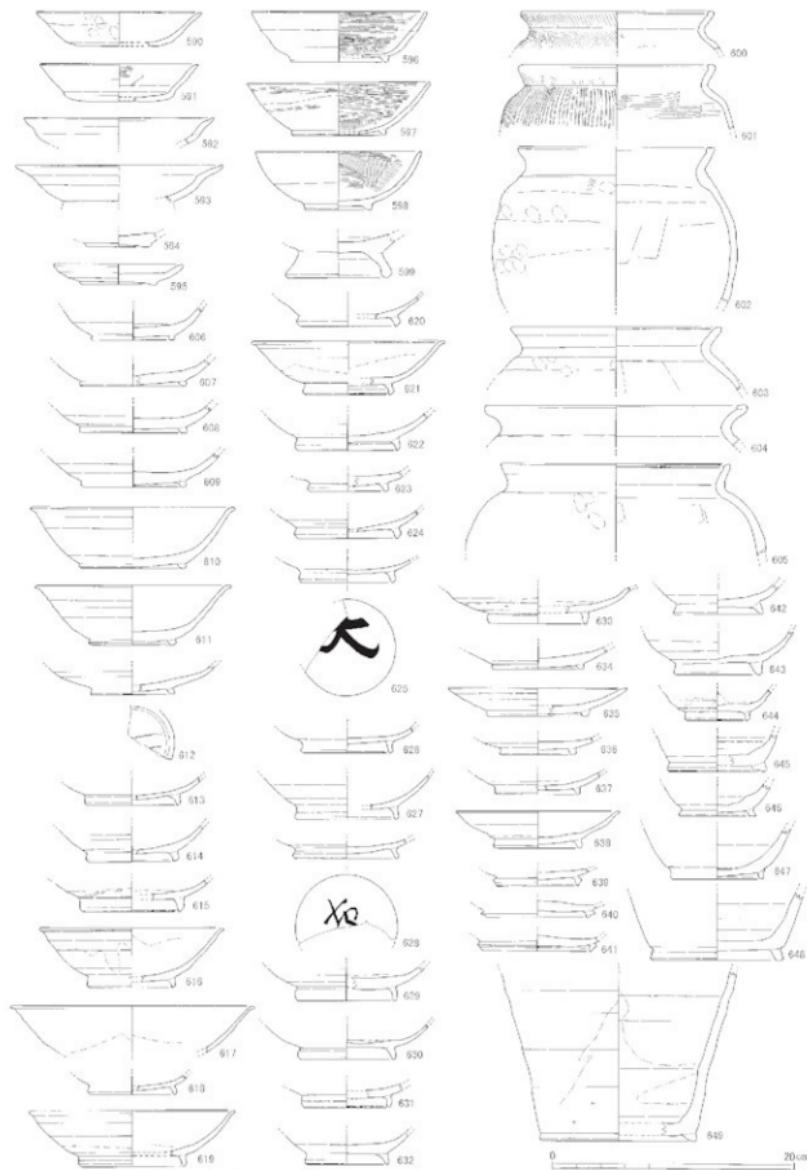
土師器には、皿(828~830)・杯(833~839・843・844・846・847・849~851)・碗(840~842・845・848・852~854)・鉢(832)・手捏ねの鉢(855)・甕(856~867・873~874)・瓶(868~871・875)・鍋(872)・高杯(876)がある。杯の一部には暗文がみられるものがある。甕は底部868・875と把手部分869~871の破片である。872はいわゆる清郷甕である。876は、脚部が八角形に面取りされている。この他土師器には、筒状土器(882)、移動式甕(883)がある。

ロクロ土師器には、皿(831)と碗(852)がある。製塙土器(877~881)、輪羽口(884~886)も比較的多く出土している。土錐(887~915)は、球形のもの887~890と筒状のもの891~915がある。大きさ、重さはまちまちで細分化はできなかった。

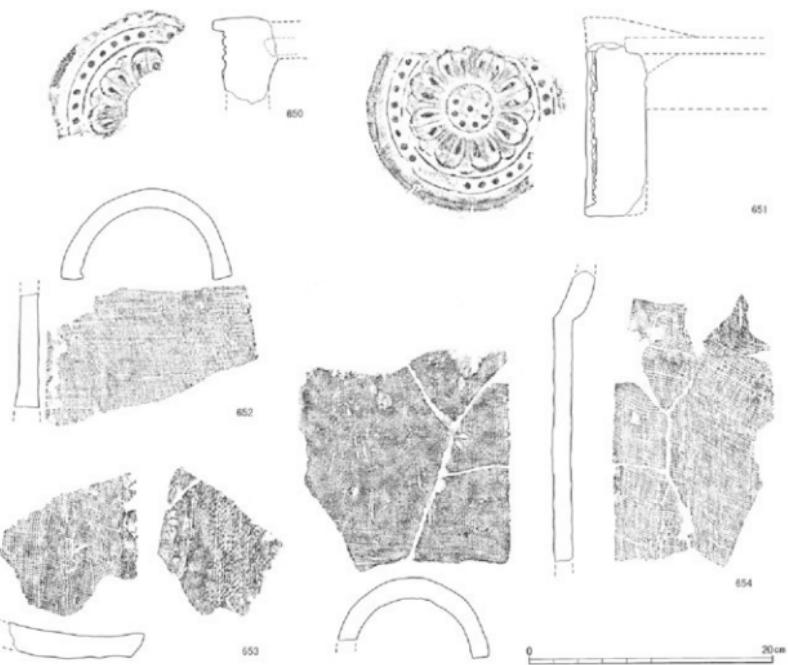
須恵器には、杯蓋(916~920)・杯身(921・923・927~929・931~934・937)・盤(922)・鉢(924・926)・壺(925・935・939~941)・甕(943~946)・横瓶(947)・平瓶(948)などがある。(930)は杯の転用硯、(936)は杯蓋の転用硯である。947の横瓶は、内部が2室構造になっており、半球状の壺を2つ合わせたような作りとなっている。外面はカキメによる調整がなされている。(949)は体部3方に透孔を持つが器形は不明である。

黒色土器には、杯(950)と碗(951~953)がある。いずれもA類である。

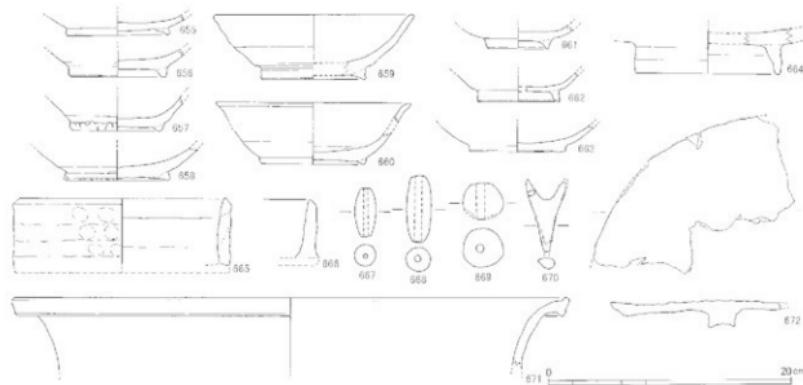
灰釉陶器は、出土遺物中で数が最も多く、同化したもので57点を数える。器種は、皿(954~956・958~960・963・965)・碗(957~961・962・964・966~970・972~1000・1002~1005)・甕(938・942・1006~1008・1010)がある。954・976・987・988・989・997・



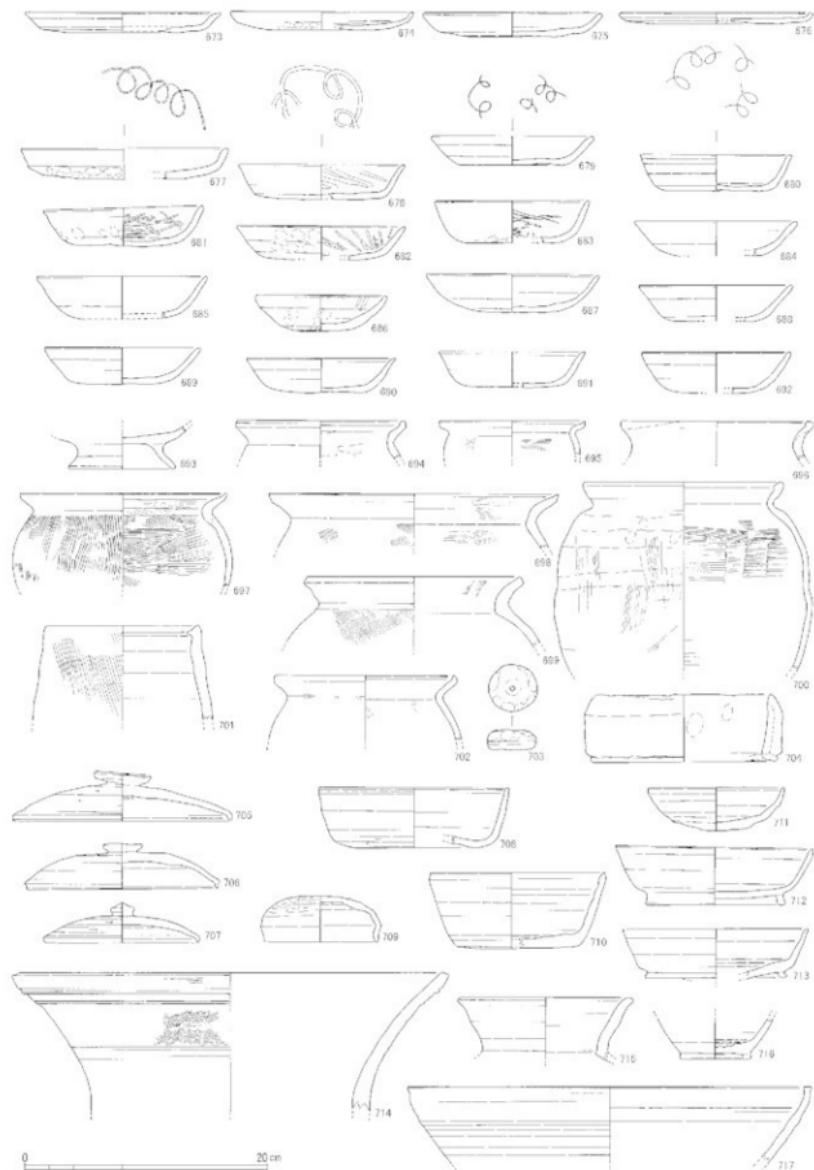
第168図 SD 2 出土遺物実測図② (1 : 4)



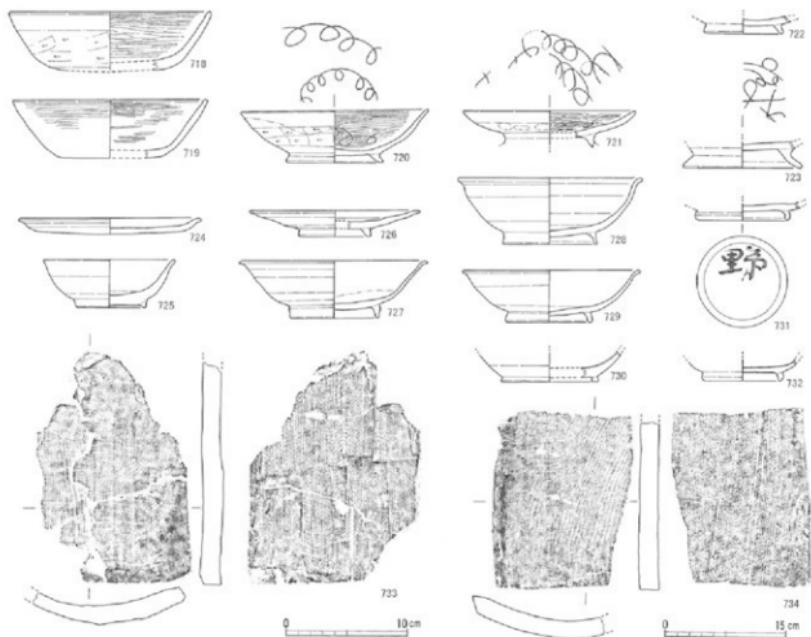
第169図 SD 2 出土遺物実測図③ (1 : 4)



第170図 SD 2 出土遺物実測図④ (1 : 4)



第171図 SD 3出土遺物実測図① (1 : 4)



第172図 SD 3出土遺物実測図② (1:4)、733・734 (1:6)

1004・1005の底部外面には墨書きがみられる(989は墨痕のみ)。942の底部外面には4条の平行線、977の底部外面には「×」のヘラ記号が付けられている。また、996は輪花模である。(1009)は、灰釉陶器を加工した円形加工板である。

綠釉陶器には皿(1011)と椀(1012~1025)がある。1018の1点が軟質のほかは、すべて硬質である。1016・1017・1019・1023の見込みには弦線がめぐる。1025の口縁部には4方に輪花がみられる。

陶器は、山茶椀(971・1001)と小椀(1029)の3点がある。この他、丸瓦(1026)、白磁椀(1027)、鉄製釘(1028)が出土している。

SD11 D地区の南端からE地区の中央を南に流れる。途中SD10と切り合う。SD10、SD11とも平安時代後半に位置づけられる溝であるが、検出時の切り合いは、SD11がSD10を切っている状況であった。出土遺物も、SD11の方が新しい傾向にある。

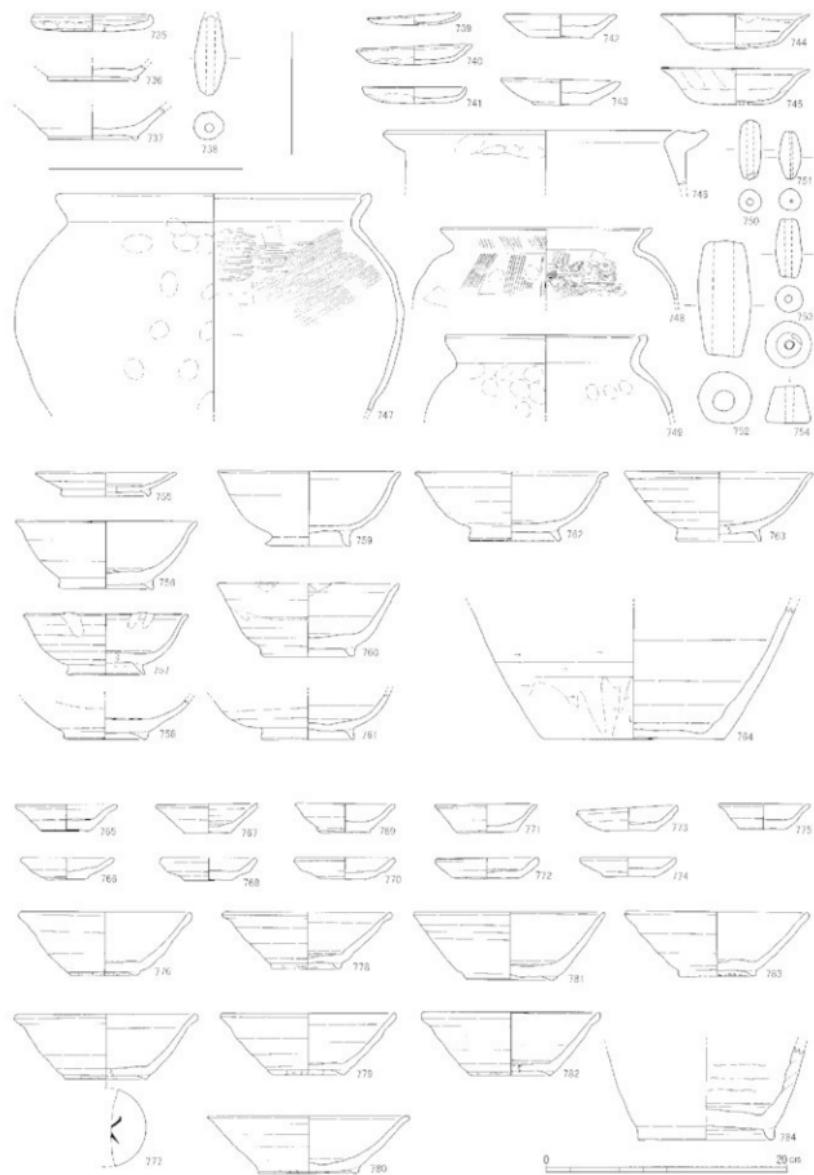
出土遺物は、土師器椀(1032)・杯(1033)・甕

(1034)・鍋(1035)が各1点ずつ、ロクロ土師器皿(1036~1038)、土錘(1039~1042)、須恵器壺(1043)、灰釉陶器皿(1044・1046・1048)、椀(1045・1047・1049)、綠釉陶器皿(1050)、椀(1051~1054)、陶器山茶椀(1055~1066)、平瓦(1068)、偏行唐草文の軒平瓦(1069)、砥石と思われる石製品(1067)がある。1035はいわゆる清瀬鍋である。綠釉陶器は、皿1050が軟質のほかは、すべて硬質である。1054以外は、見込みに弦線がめぐる。偏行唐草文軒平瓦1069は、同種のものが津市四天王寺魔寺から出土している。また、かつて大里窪田町から出土したと伝えられるものも²1069と同種である。

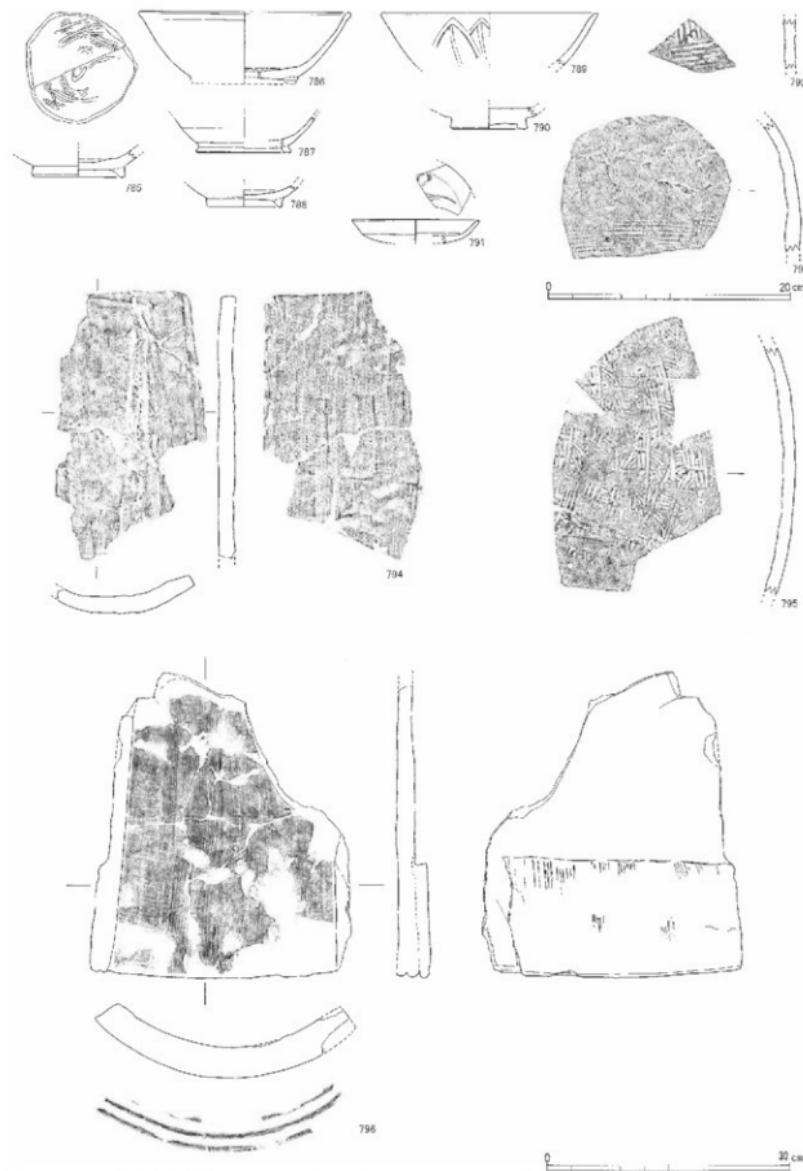
SD12 E地区北西部からF地区南東部に向けて流れる自然の谷状の地形である。幅は、6 mから場所によっては10mと広く、今回の調査で検出した長さも、98mと長い。層位は、大きく上層・中層・下層の3層に分けられるが、遺物の出土は上層に集中する。時期的には飛鳥・奈良時代の遺物が中心であり、



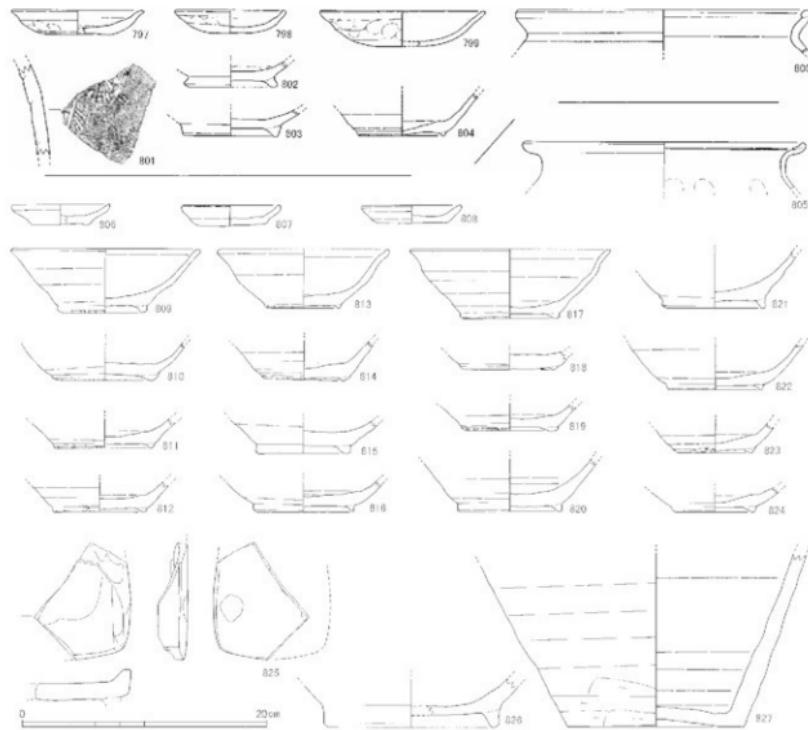
第173図 SD 4 ~ 9 実測図 (1 : 300)



第174図 SD 5・6 出土遺物実測図 (1 : 4) [735~738 ; SD 5、739~784 ; SD 6]



第175図 SD 6 出土遺物実測図 785～793 (1 : 4), 794～796 (1 : 6)



第176図 SD 8・9 出土遺物実測図 (1 : 4) [797~804 : SD 8, 805~827 : SD 9]

この時期に埋没したものと考えられる。

韓式系土器(1074~1077)は、いずれも甕の体部小片である。土師器には、杯(1078~1079)・甕(1080~1083・1085~1086・1090)・鉢(1084)がある。土製品には、土鍤(1088・1089)・土馬(1091)・甕(1093)・土管と考えられるもの(1092)・および不明品(1087)がある。土馬1091は、頭部胴部のみで、脚部すべてと尾の先端、たてがみの半分ほどを欠く。頭部には沈線で手綱の表現がある。小笠原編年³の第1段階B形式に相当する。不明土製品1087は、扁平な板状の粘土の端部を約90°に曲げたものである。表面はヘラミガキで調整されている。

須恵器は、杯蓋(1094~1096)・皿(1097)・杯身(1098~1110)・鉢(1111)・甕(1112・1113・1115~1119・1122)・瓶(1114)・甕(1120・1121)がある。

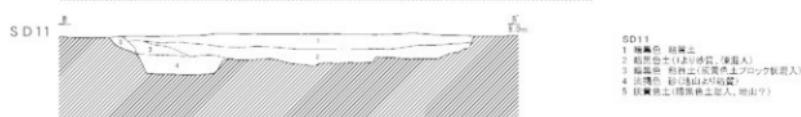
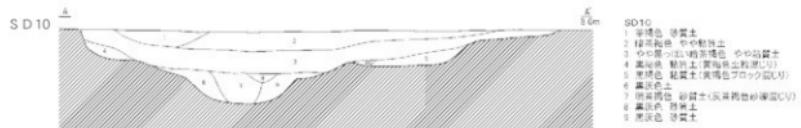
1120の頭部外面には、カキメと波状文が施される。甕には、頭部の短いもの1117・1122と長いもの1113・1115がある。1122の口縁部外面には2本の沈線がめぐる。

灰釉陶器は、皿(1123・1124)・椀(1125)・小椀(1126)がある。綠釉陶器椀(1127・1128)は、いずれも硬質のもので、見込みに凹線がめぐり、三叉トチの痕が残る。

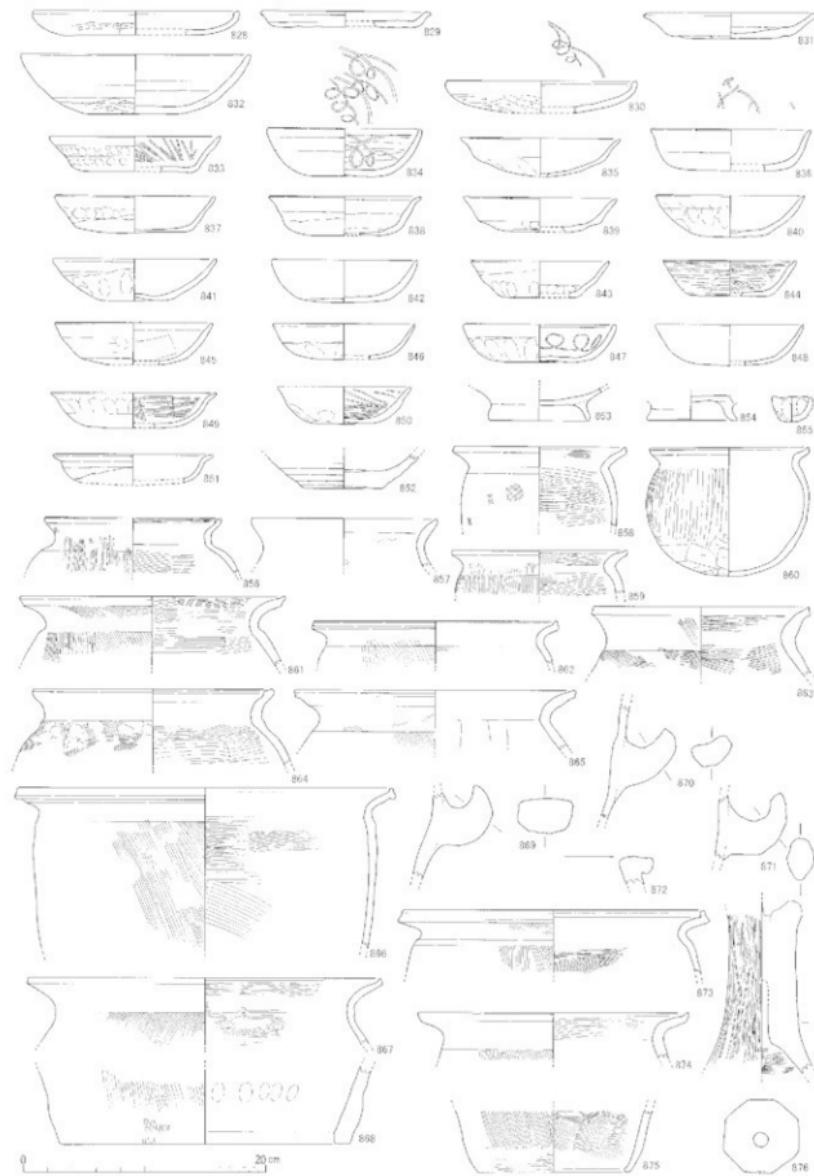
この他、平瓦(1130・1131)、砥石(1129・1132)、石製紡錘車(1135)、石巖(1133)などがある。

SD13 E地区の南部を横断するように北西から南東に流れる溝である。幅がほぼ一定でしっかりしているが、両端は調査区外に延びる。鎌倉時代の溝である。

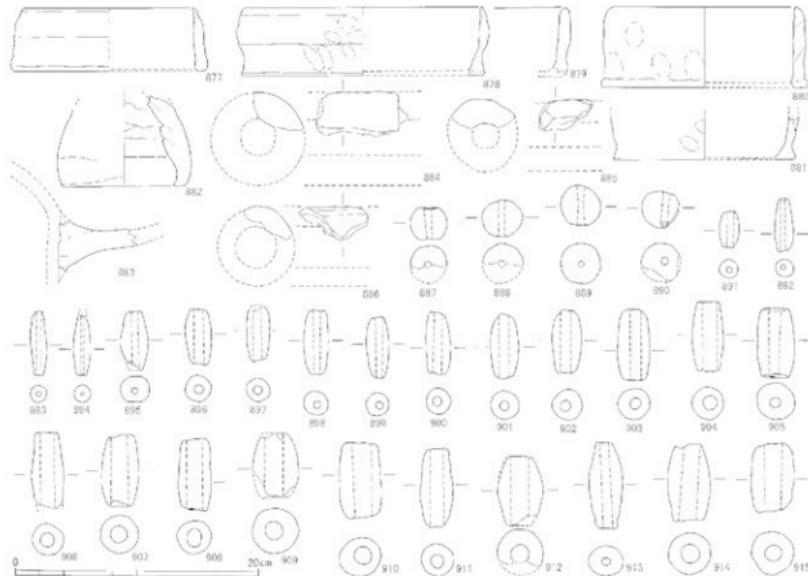
出土遺物は、土師器杯(1136)、灰釉陶器椀(1137)、



第177図 SD10・11・13実測図 (1:300)・SD10・11土層断面図 (1:50)



第178図 SD10出土遺物実測図① (1 : 4)



第179図 SD10出土遺物実測図② (1 : 4)

陶器山茶椀(1138~1140・1145)・鉢(1142)、青磁皿(1141)、陶器甕(1143・1144)・皿(1146)・鉢(1147)・天目茶椀(1148)、磁器蓋(1149)、円形加工板(1150~1154)、磨製石剣(1155)がある。1141の青磁皿は、12世紀後半~13世紀前半のもので、同安窯系と思われる。1143の陶器甕は常滑焼で13世紀後半頃のものである。陶器皿1146は志野釉が施された基筒底となっている。円形加工板には、天目茶椀底部を転用したもの1150・常滑焼甕脚部を転用したもの1151~1153・青磁碗底部を転用したもの1154がある。

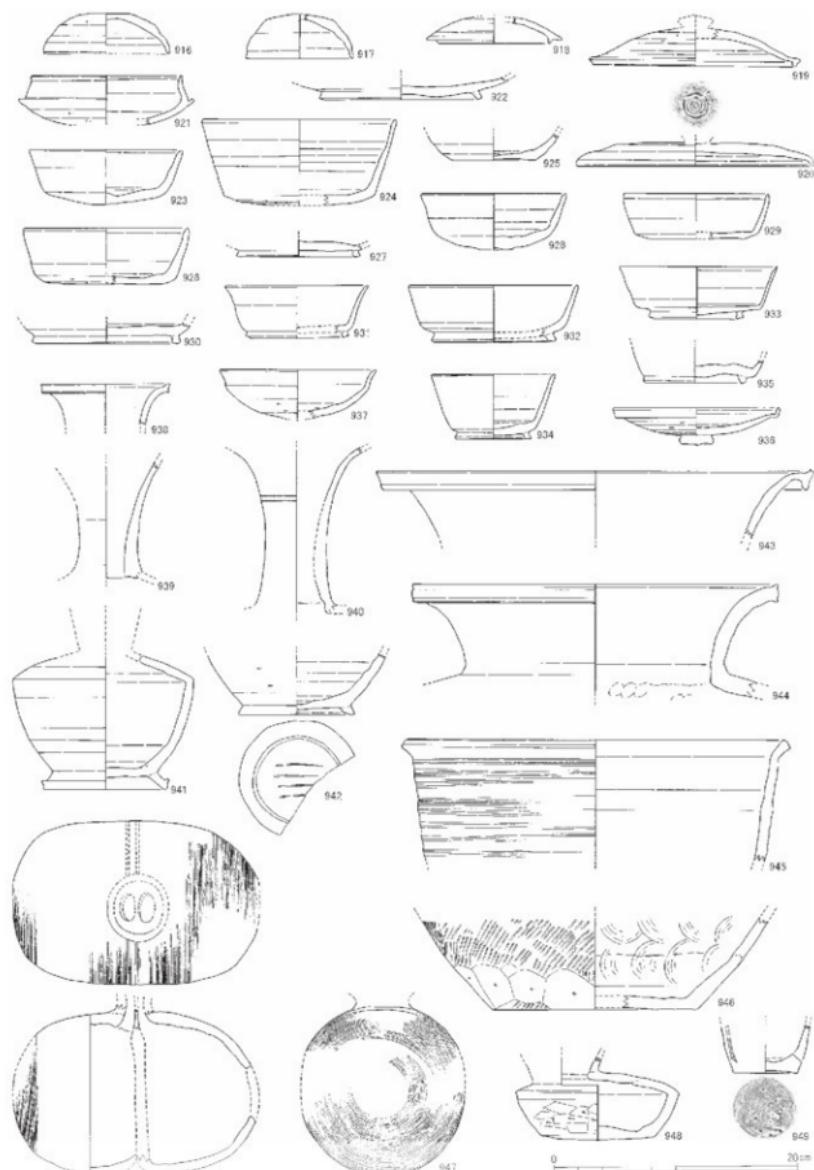
SD14 F地区南東部にある飛鳥・奈良時代の溝であるが、SD12を切った状態で検出された。方向もSD12と同じく南東に向かって流れ調査区外へ出る。北西端は、直径3.0~3.7m程度丸くなる。飛鳥時代の土坑SK24との切り合い関係は図面上では明らかでないが、検出状況と出土遺物からはSD14の方が新しい。出土遺物は、土師器高杯脚部(1070)・甕(1073)、須恵器杯身(1071)・壺底部(1072)の4点がある。

SD15・16 それぞれF地区・F~I~4地区を東に流れる幅50~60cmの溝である。途中、途切れているが一連のものであった可能性もある。図化した遺物はないが、飛鳥・奈良時代の造構である。切り合ひ関係から、ともにSD12より新しいと考えられる。また、SD16はSB87に先行するが、SK47とは切り合ひが見られず、同時期のものであると考えられる。SK47は、SD16の水溜め的な施設と考えられる。

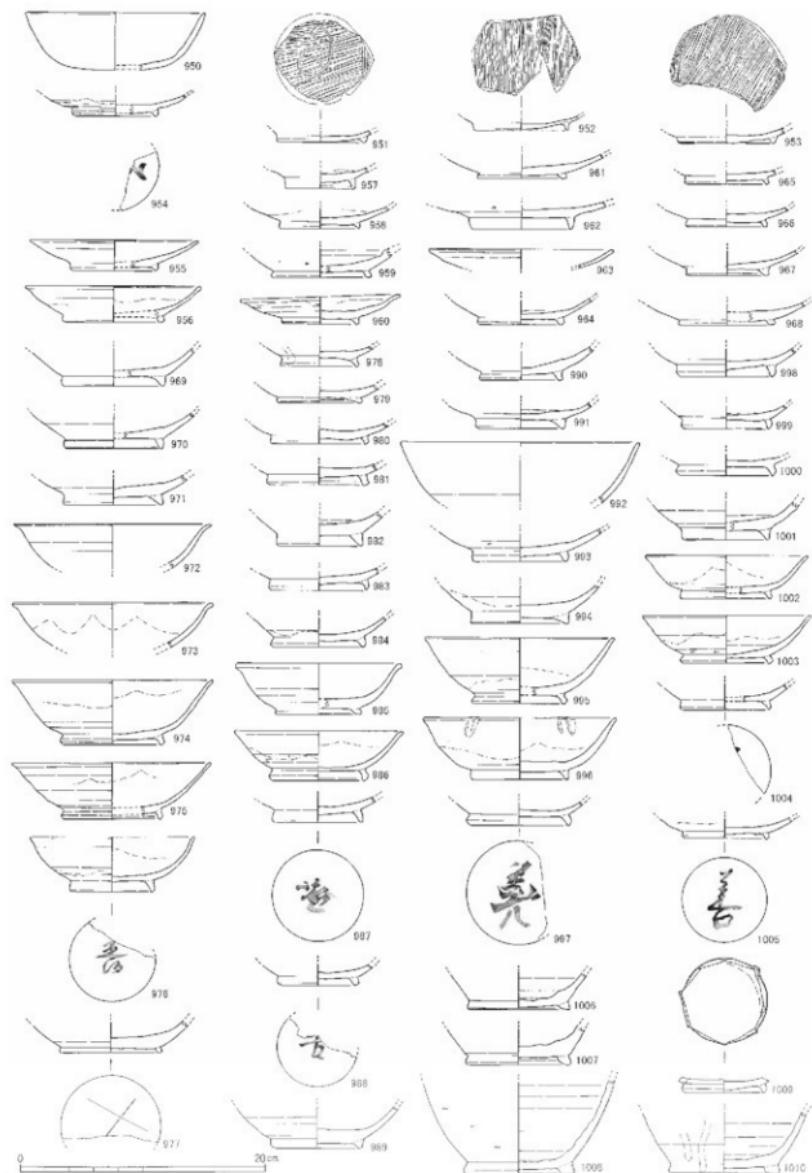
SD17 F地区南部を南東に向かって流れる飛鳥・奈良時代の溝である。西端部では、SD15と一緒にになって水溜状となっており、そこから2本の溝が流れ出す状況である。

図化した遺物は、ワイングラス形の須恵器高杯(1157)が1点である。

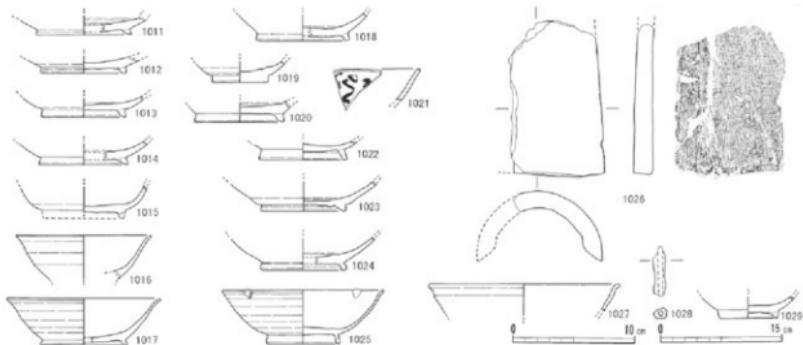
SD18~27 F地区中央部からG地区北端部で検出された小溝群である。当時の水田の境と考えられる。SD18・22・23・24は南北方向の溝で平行しているが、志登茂川流域の条里方向N30°Eよりやや東にふれる傾向にある。SD19・20・21・25~27は、それらに直交する方向の溝である。SD18・19・22は、一方の



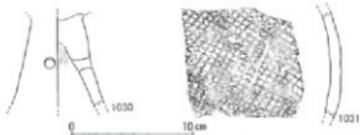
第180図 SD10出土遺物実測図③ (1 : 4)



第181図 SD10出土遺物実測図④ (1 : 4)



第182図 SD10出土遺物実測図⑤ (1:4)、1026 (1:6)



第183図 SD10出土遺物実測図⑥ (1:4)

端で約90° 折れ曲がる。その結果、SD18・19・20・21、SD19・22、およびSD25～27はそれぞれ一連の溝と考えられる。なお、SD25・26は、検出・掘削後、自然流路SD29を掘削したため、図面上には表れていない。国化した遺物はないが、鎌倉時代の小溝群で、東里方向とほぼ一致することは興味深い。

SD28 G地区の北端部を東に向かって流れる。検出・掘削後に自然流路SD30を掘削したため、断続的にみえる。遺物は、硬質の綠釉陶器椀の底部が出土しており、平安時代後半の遺構である。時期は異なるが、SD25～27と6m間隔で平行していることは注目される。

SD29～31 それぞれF地区南端からG地区にかけて、G地区北端、G地区中央で検出された。いずれも数本の溝をまとめて自然流路とした。SD29は東に向かって流れる飛鳥・奈良時代の流路である。南東方向に流れるSD30が埋没後、SD29が残ったものと考えられる。SD31も南東方向に流れる古墳時代の流路で、SD30とほぼ平行している。

SD29の出土遺物は、土師器甕(1158)、須恵器杯蓋(1160・1161)・杯身(1162・1163)・壺(1159)の他、灰釉陶器椀(1164)と陶器山茶椀(1165)がある。1159

は肩部にカキメが施される。1162は酸化焼成の須恵器である。

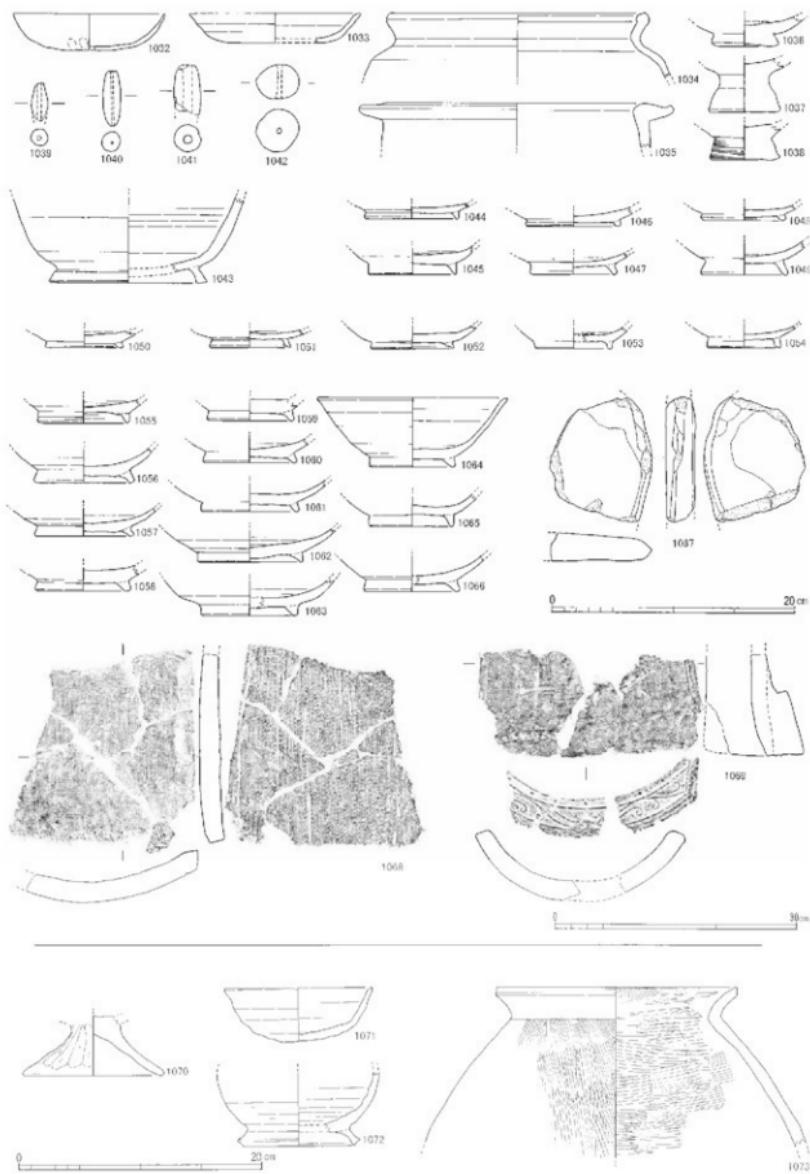
SD30の出土遺物は、土師器高杯(1166)・甕(1169)、須恵器杯蓋(1167)・杯身(1168)とサヌカイトの石礫(1170)がある。

SD31の出土遺物は、須恵器蓋(1172)・横瓶口縁部(1171)、および滑石製鉢車(1173)、サヌカイトの石礫(1174・1175)がある。

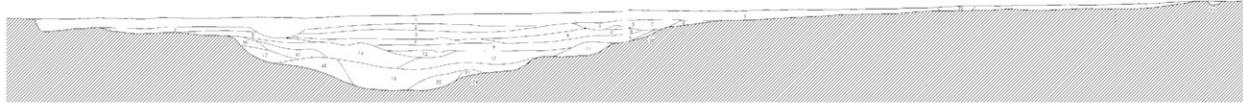
SD32 G地区南端部を南西に流れる室町時代の溝である。調査区の端になり、南の肩が一部不明の部分もあるが、幅1.8mとしっかりしており、深さ15～20cmである。

出土遺物は、土師器鉢(1176・1177)・羽釜(1178)、須恵器円面鏡(1182)、灰釉陶器椀(1183～1185)、陶器山茶椀(1186～1188・1191)・小皿(1189・1190)・鉢(1192・1193)、陶器甕(1194～1197)・鉢(1198～1200)、銭(1201)、ガラス製白玉(1179)、石礫(1180・1181)がある。1176・1177はともに南伊勢系の鍋で、伊藤分類で、それぞれ第3段階・第4段階にあたる。1176の内外面にはススが付着している。1194～1197の陶器甕4点と1198・1200の陶器鉢2点は、常滑製品で、1197の体部外面には、格子の押印文がある。1201の銭は2枚重ねしており、文字は不明である。石礫は、1180がサヌカイト製、1181がチャート製である。

SD33 中世の毛無川の旧河道である。面積的にはH地区的南部分約6割を占める。河床部は東・中央・西の3本のトレンチ調査とした。東・西のトレ



第184図 SD11・14出土遺物実測図 (1 : 4)、1068・1069 (1 : 6) [1032~1069 : SD11、1070~1073 : SD14]



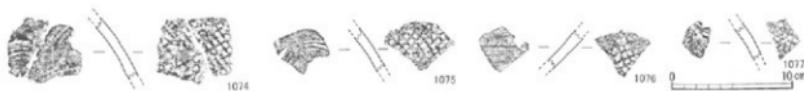
上図
1. 棕褐色土
(生木林地の著者、上部で砂質角砾土の透鏡に切られる)

- 中図**
2. 棕褐色土 [樹木林地]
 3. 黄褐色土 [樹木林地、上部で砂質角砾土の著者、かなり鉄葉]
 4. 棕褐色土 [砂質角砾土、やや鉄葉]
 5. 黄褐色土 [砂質角砾土、やや鉄葉]
 6. 砂質角砾土 [樹木林地の著者]
 7. 黄褐色土 [樹木林地の著者]
 8. 黄褐色土 [樹木林地の著者]
 9. 黄褐色土 [樹木林地の著者]
 10. 深灰色土 [樹木林地の著者]

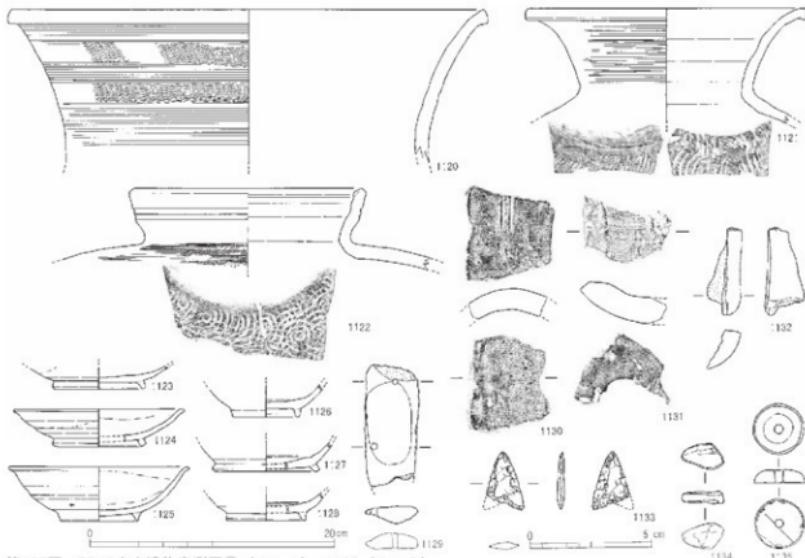
- 下図**
11. 黄褐色土 [樹木林地の著者]
 12. 棕褐色土 [樹木林地]
 13. 棕褐色土 [樹木林地]
 14. 棕褐色土 [樹木林地]
 15. 棕褐色土 [樹木林地]
 16. 棕褐色土 [樹木林地]
 17. 棕褐色土 [樹木林地の著者]
 18. 棕褐色土 [樹木林地]
 19. 棕褐色土 [樹木林地 (2/3) 著者、砂質1~2mが中心)]

20. 棕褐色土 [樹木林地の著者]
21. 棕褐色土 [樹木林地の著者]
22. 黄褐色土 [樹木林地の著者]

第185図 SD 12実測図 (1 : 300)、土層断面図 (1 : 50)



第186図 SD12出土遺物実測図① (1:4)



第187図 SD12出土遺物実測図② (1:4), 1133 (1:2)

チは調査区南端まで掘削したが、旧河道の南肩は検出できなかった(図面はトレーナーを埋め戻した状態)。検出面からの深さは約2mで、幅は40~60mと推測される。埋土は、大きく3層に分けられ、河床の地山はよくしまった白灰色砂砾である。なお、現毛無川は調査区のすぐ南を東に流れる。

出土遺物には、弥生時代から室町時代までのものがみられる。室町時代の遺物がより上層から出土している傾向があり、この河道は、鎌倉から室町時代にしだいに埋没し、流路が南に移っていったものと思われる。

弥生土器には、壺(1202・1203)・高杯(1204)・甕(1205)がある。壺の口縁端部の面には羽状刻目1202や、波状文と円形浮文(2個一组)1203が施される。

土師器には、皿(1216~1222)・甕(1206~1211)・甕の台部(1212・1213)・高杯(1214・1215・1236)・羽釜(1223・1224)がある。皿は薄手で、内

面はナデ調整される。外面にはユビオサウの残るものもある。1208は、筒型甕と思われる。

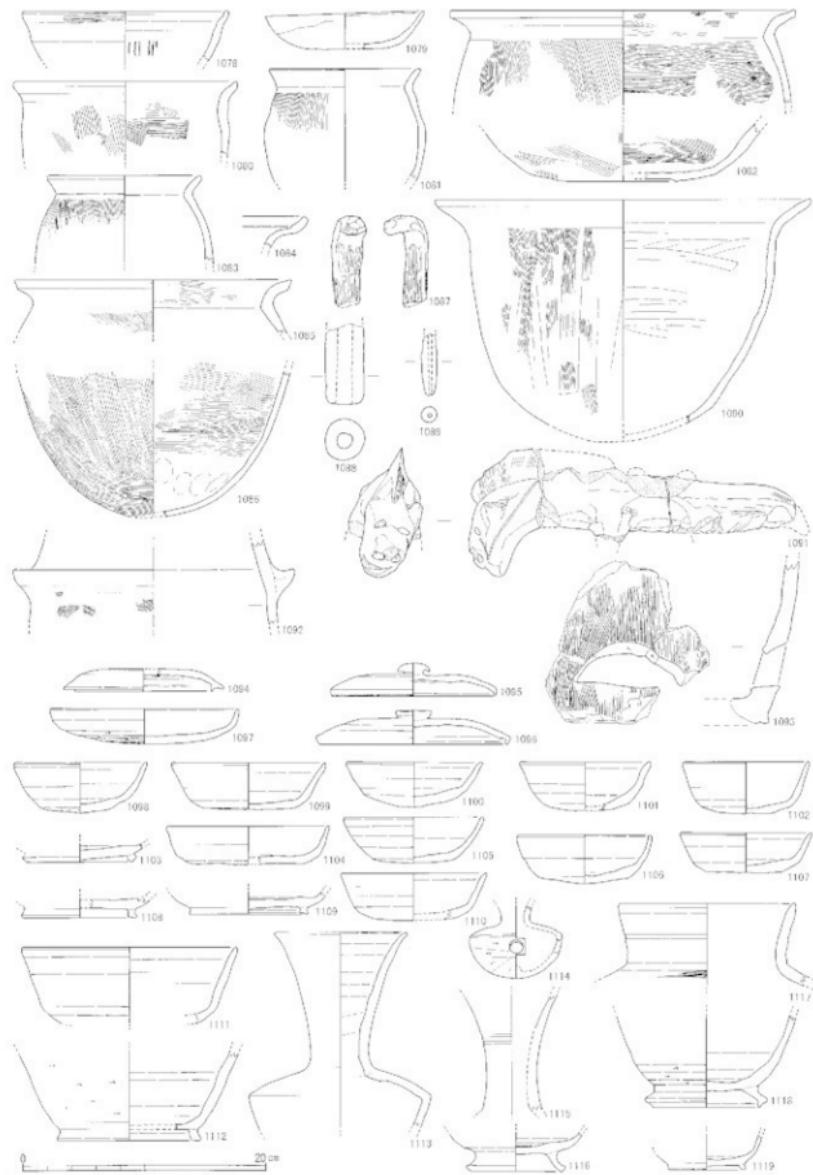
須恵器には、杯身(1229~1231)・杯蓋(1225~1228)・高杯(1232)・鉢(1233)・甕(1234)・甕(1235・1237・1239)・甕(1238)がある。1234は、注口が隆起し、体部には弦線と刺突列点文が施される。1237は、外面タタキ調整され、内面には同心円文が残る。

灰釉陶器には、皿(1241)・碗(1242)・甕(1243)がある。

陶器山茶椀には、小皿(1245)・碗(1246~1252・1254)・鉢(1253)がある。多くは、藤澤編年の第6型式にあたる。

陶器には、鉢(1255・1257・1258)・壺(1256)・常滑焼の甕(1259)がある。1259は、幅の広い縁を持っています。13世紀前半のものであろう。

この他、須恵質の円筒埴輪片(1240)、青磁碗(1244)、天目茶椀の底部を使った円形加工板(1260)、平瓦



第188図 SD12出土遺物実測図③ (1 : 4)



第189図 SD14~27実測図 (1 : 300)



第190図 SD28実測図（1：300）

(1261)、石製硯(1262)、石器未製品(1263)がある。

SD34 1-2で検出された。東西とも別の構造によって切られており、検出した長さは5.7mである。検出長が短く、流れる方向は明らかでないが、南東方向と推定される。

出土遺物には、混入品とみられる須恵器杯身(1290)が1点あるが、中心は弥生時代である。壺口縁部(1288)と底部(1289)の2点を図化した。1288は、後期のもので、外面には、羽状刺突列点文が施される。

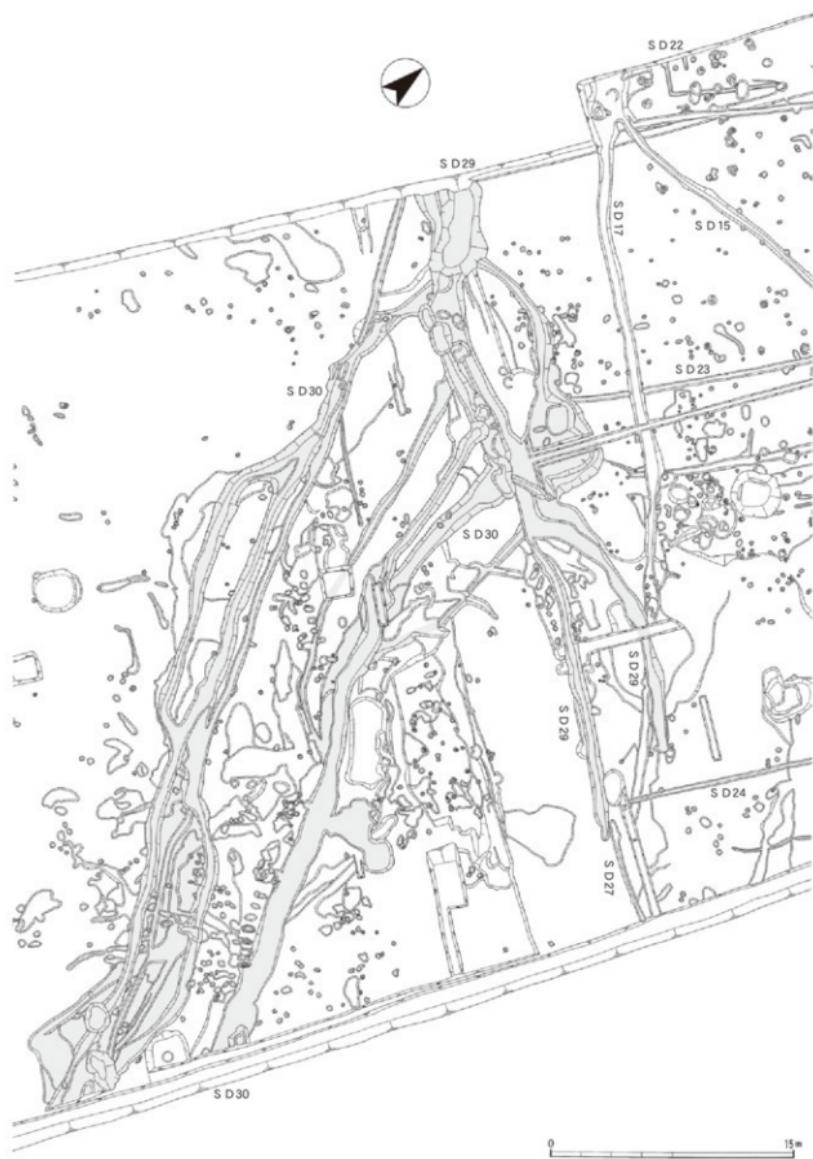
SD35 I-3地区の北端部で検出された。北東方向に流れる。最大幅は1.5mほどであるが、下流ほど狭く深くなる。

出土遺物は、灰釉陶器などがあり、平安時代後半が中心である。土師器には、皿(1291-1292)・椀(1293)・甕(1294-1298)がある。須恵器には杯身(1299-1300)がある。灰釉陶器には、皿(1302)と椀(1303-1309)がある。1302の底部内面には印刻花文が施される。猪投縄年の折戸53号窓式に相当する。また、1305は輪花椀で他の椀に比べ口径が大きい。土鍤は筒状のもの5点(1311-1315)がある。この他、須恵質の円筒埴輪片(1301)と製塙土器(1310)が出土している。

SD36 I-3地区の北辺を緩やかに蛇行しながら南東方向に流れる。断面U字状のしっかりとした溝である。時期は飛鳥・奈良時代と考えられる。

出土遺物は、土師器と須恵器、および木簡である。土師器には、皿(1264-1265)・杯(1266)・甕(1267-1273)がある。1264の内面には放射暗文、1265の内面には格子暗文、1266の内面には螺旋と放射暗文が施される。須恵器には、杯蓋(1274-1275)・杯身(1276-1278-1281)・盤(1279-1280)・甕(1282-1284)・壺(1285-1286)がある。1286は、台付長頸壺である。

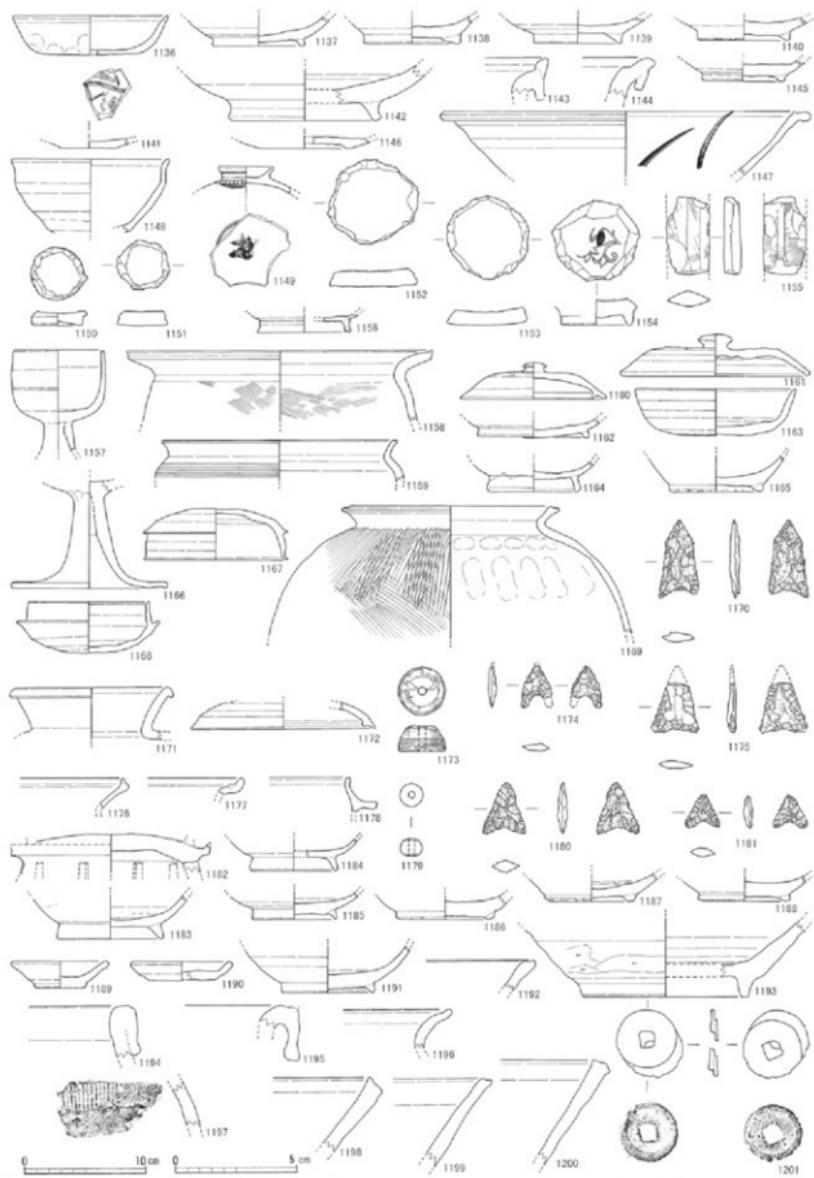
木簡(1287)は、溝の埋土上層(黒褐色粘質土)から出土した。共伴遺物には、土師器皿(1264)・須恵器杯身(1278)・須恵器盤(1280)がある。いずれも8世紀後半と考えられる。大きさは、長さ23.4cm、幅2.8cm、厚さ0.5cmで、表裏とも墨痕が認められる。表の面は、赤外線カメラを通して上端と下端近くに墨書痕が認められるが、判読はできなかった。全体に火を受けて炭化している。裏面は、下半が判読可能で、「**ニ**ロロトロ年十月七日口前東人」と読める。十の前には元号が、年の前には漢数字が入ると考えられ、数字に関しては「一」か「四」の可能性が高い。元号は、奈良時代後半に時期を限定すれば、



第191図 SD29・30実測図 (1 : 300)



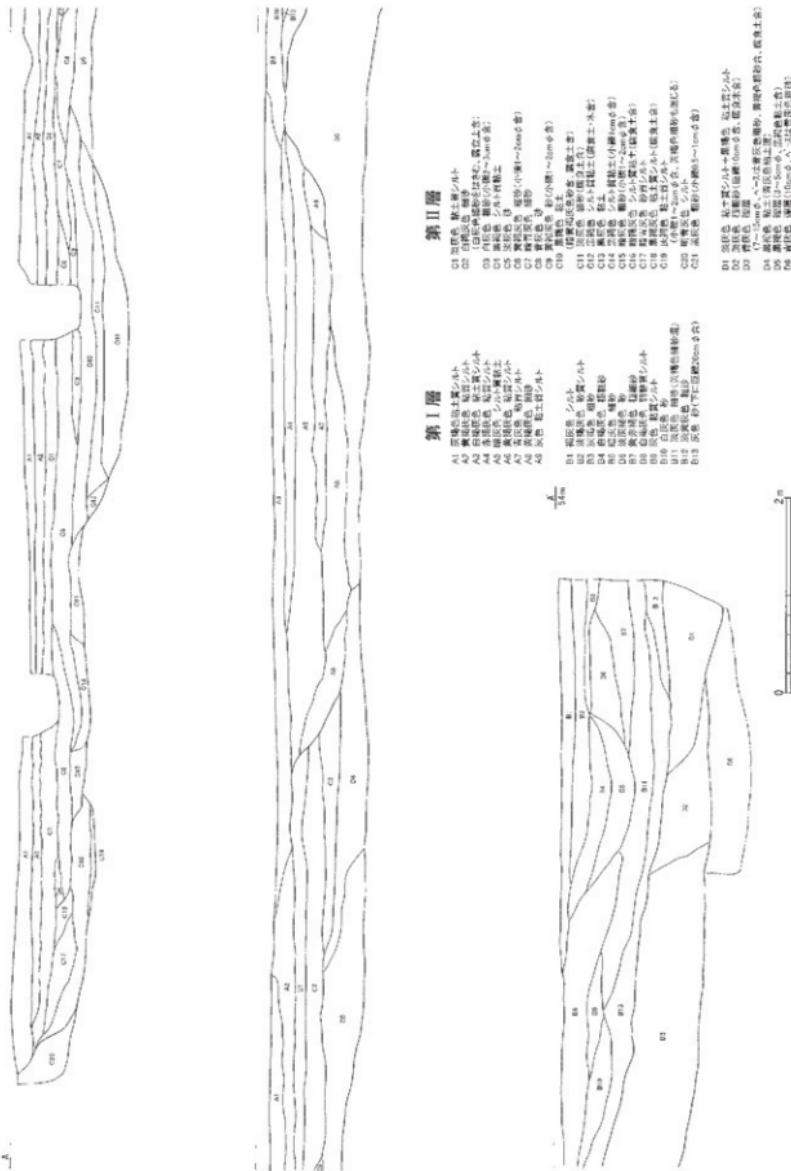
第192図 SD31・32実測図 (1 : 300)



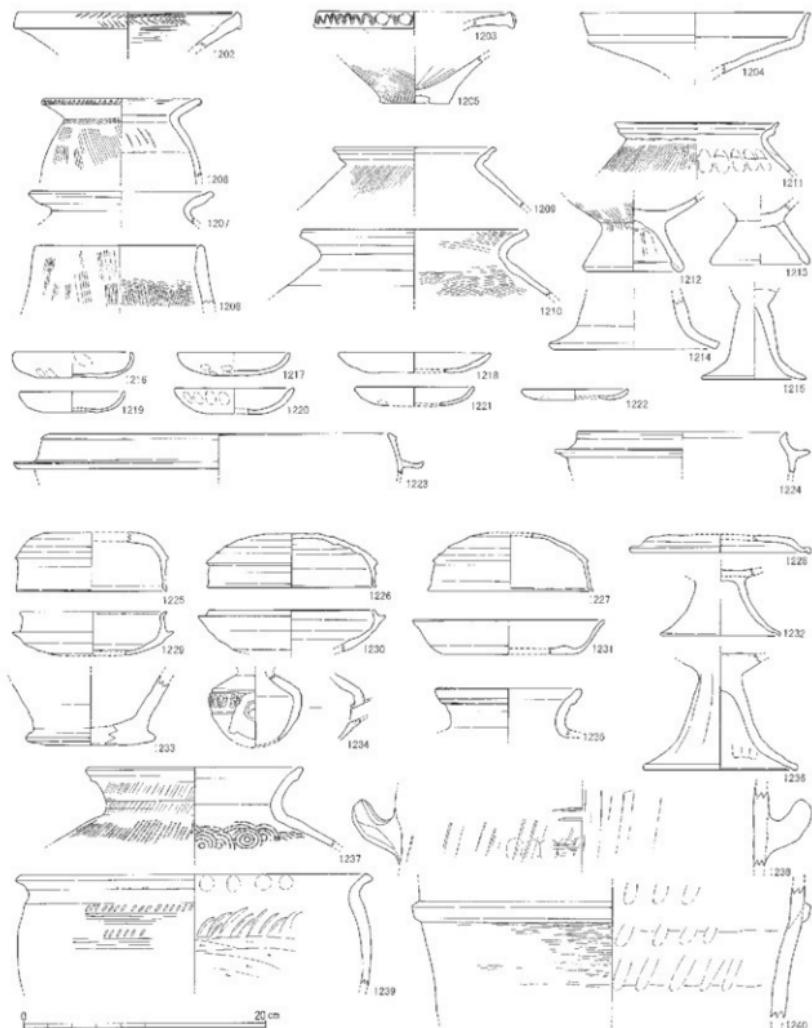
第193図 SD13・17・28～32出土遺物実測図 (1 : 4)、1170・1174・1175・1179～1181・1201 (1 : 2) (1136～1155 : SD13、1156 : SD28、1157 : SD17、1158～1165 : SD29、1166～1170 : SD30、1171～1175 : SD31、1176～1201 : SD32)



第194図 SD33実測図 (1 : 300)



第195図 SD33中央トレンチ東壁土層断面図（1:50）



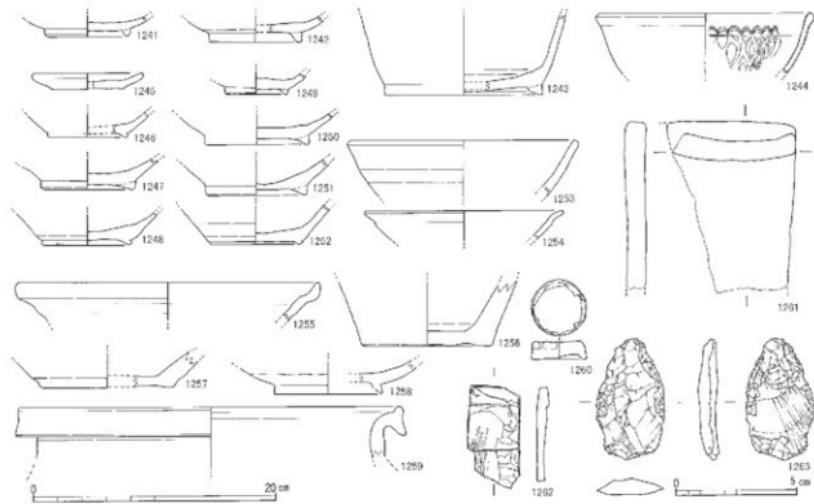
第196図 SD33出土遺物実測図① (1 : 4)

宝亀、延暦のいずれかで、宝亀11年、延暦11年、同14年が考えられるが断定には至らない。

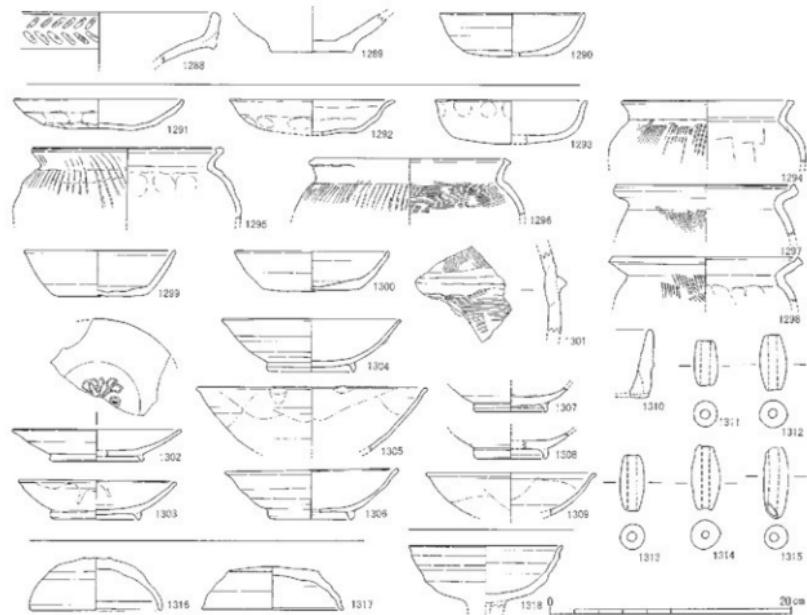
SD37 SD36のすぐ南で検出された。SD36と同様、飛鳥・奈良時代の溝で、南東に向かって流れると考えられる。両端をSD36に切られており、SD37が先

行する。SD36が蛇行するのに比べ、直線的で、規格性がうかがわれる。

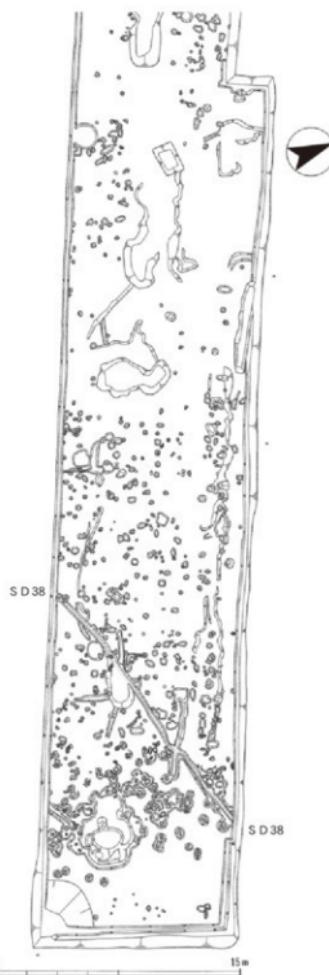
出土遺物には須恵器杯蓋2点(1316・1317)がある。いずれも、底部外面は、ヘラ切り未調整で、TK217窓式⁶に相当しよう。



第197図 SD33出土遺物実測図② (1:4)、1263 (1:2)



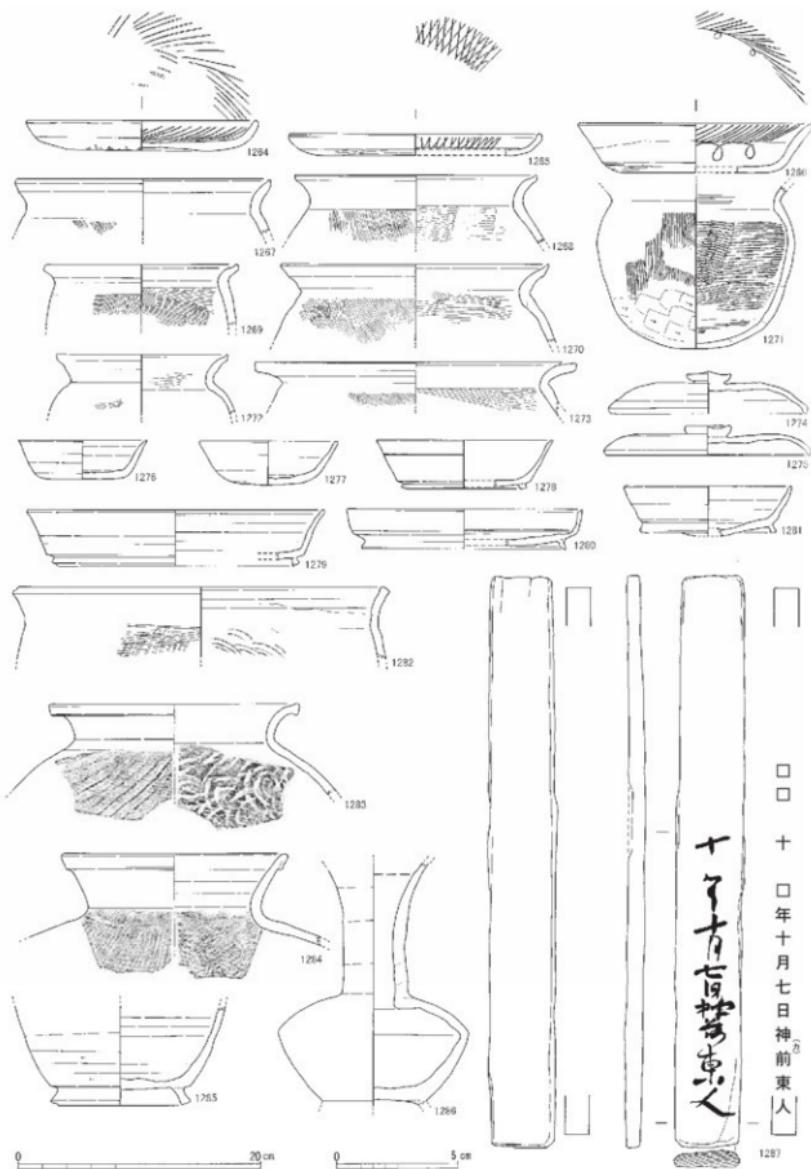
第198図 SD34・35・37出土遺物実測図 (1:4) (1288~1290: SD34, 1291~1315: SD35, 1316・1317: SD37, 1318: SD16)



第200図 SD38実測図 (1 : 300)

第199図 SD35~37実測図 (1 : 300)・
SD35・36土層断面図 (1 : 50)

SD38 I~4地区の南部を東流する。図化遺物はないが、SD16と平行しており、時期も同様、飛鳥・奈良時代と推定される。



第201図 SD36出土遺物実測図 (1 : 4)、1287 (1 : 2)

□□十
□年十月七日神前東人

1287

註

- ① 桥崎彰一・斎藤孝正「猪投窯編年の再検討について」『愛知県陶磁資料館研究紀要』2 愛知県陶磁資料館 1983
以下 猪投窯編年については、上記を参考とした。
- ② 藤澤良祐「瀬戸古窯址群I」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』I 瀬戸市民俗資料館 1982
以下 藤澤編年については、上記を参考とした。
- ③ 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土器群に関する一試論」『Mie history』vol.1 三重歴史文化研究会 1990
以下 伊藤分類については、上記を参考とした。
- ④ 横田賛二郎・森田勉「大宰府出土の中国輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究紀要』4 九州歴史資料館 1987
以下 大宰府編年については、上記を参考とした。
- ⑤ 赤羽一郎「常滑焼—中世窯の様相—」『考古学ライブライマー』23 ニューサイエンス社 1984
- ⑥ 浅生悦生ほか「V、太田道跡」「一般国道23号中勢道路（9工区）建設事業に伴う 松ノ木道跡・森山東道跡・太田道跡発掘調査報告」 三重県埋蔵文化財センター 1993
- ⑦ 蒼室康光ほか『安養院跡発掘調査報告』津市教育委員会 1990
- ⑧ 小笠原好彦「土馬考」『物質文化』25 1975
- ⑨ 田辺昭三『陶邑古窯址群』平安考古学クラブ 1966

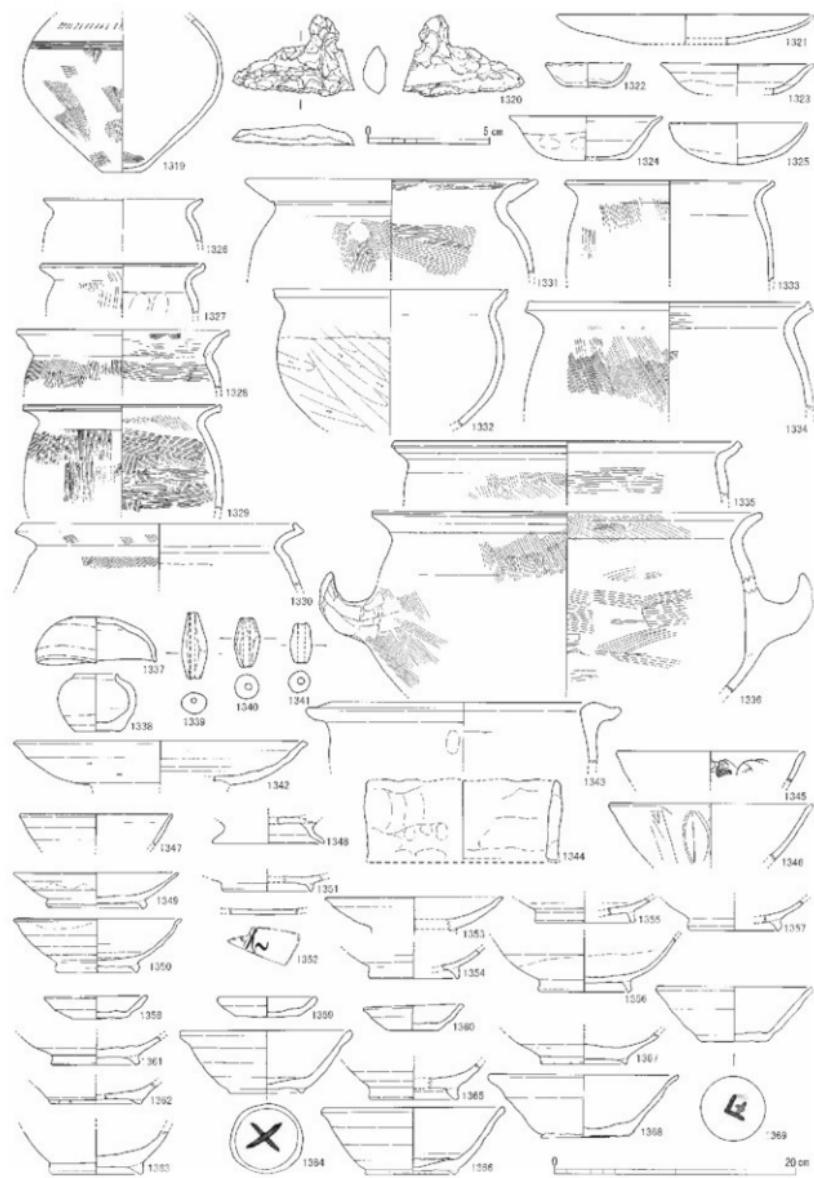
(8) P i t・包含層出土遺物

P i t・包含層出土遺物には弥生土器・土師器・須恵器・綠釉陶器・灰釉陶器・石製品・土製品・錢貨など多様な遺物がある。詳細は遺物観察表に表記している。ここでは主な遺物について記述する。

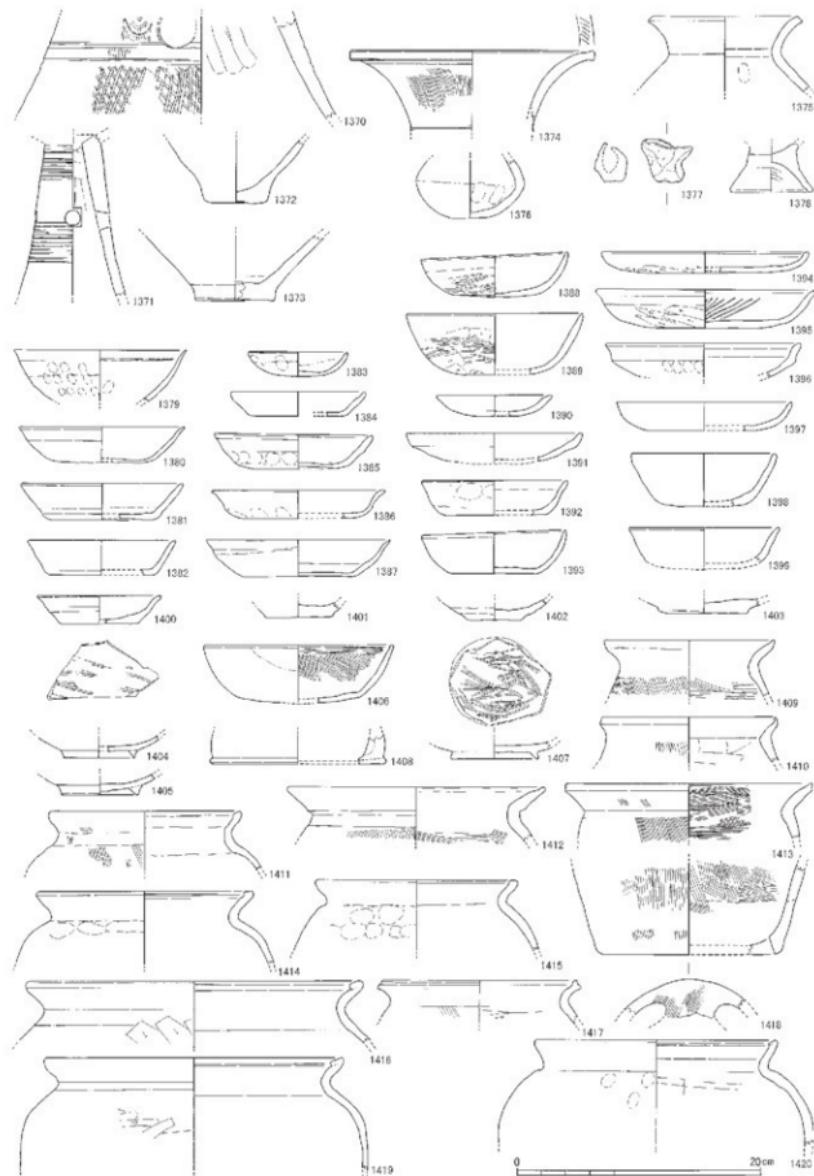
石帶(1494)は、E地区の包含層から出土した。遺構に伴うものではないが、建物群に隣接した場所から出土しており、これらに関連するものと考えられる。黒色の遙方で、縦幅4.2cm、横幅4.25cm、厚さ0.73cmである。下半分に長方形の透かし穴を持ち、表面と周縁は丁寧に研磨され、稜の部分も面取りされている。裏面の四隅には装着用の潜穴が透かし穴と直交する方向に2孔1対で設けられている。

和銅開弥銀鏡(1496)はE地区の包含層掘削後、遺構検出中に単独で出土したもので、遺構に伴うものではない。河芸町千里ヶ丘遺跡、明和町上村神社遺跡、鳥羽市奈佐遺跡に次いで県内で4例目の出土となる。「開」の門構えが楷書体であることから不詳開和銅鏡と呼ばれ、小字に分類される。全体に黒褐色の錆に覆われ、表面が外縁・内郭・文字とも比較的明瞭なのに対して、裏面は外縁・内郭とともに不明瞭である。どのような経緯で当地域にもたらされたかは不明であるが、当時の貨幣流通を考えるうえで興味深い。

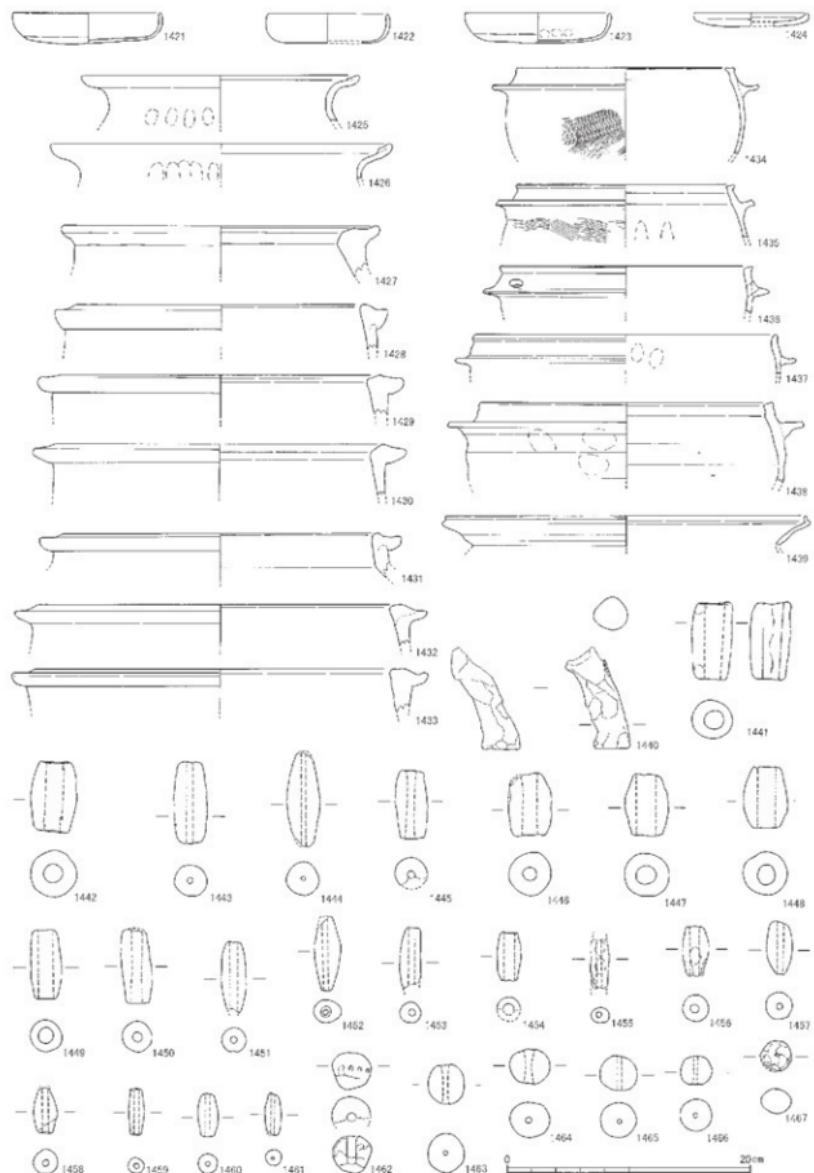
当遺跡の平安時代を特徴づける遺物として綠釉陶器がある。P i tおよび包含層出土のもので図化できたものは(1347・1497~1539)である。遺跡全体では破片を含め、約670点の綠釉陶器が出土している。そのうち約7割がD・E地区から集中して出土している。当遺跡での出土数は県内では斎宮跡に次ぐものである。大半は楕・皿類で、その他には瓶類がわずかにあるにすぎない。産地は山城・近江・美濃・尾張などのものがみられる。また、綠釉綠彩陶器(1508・1533・1539)もみられる。



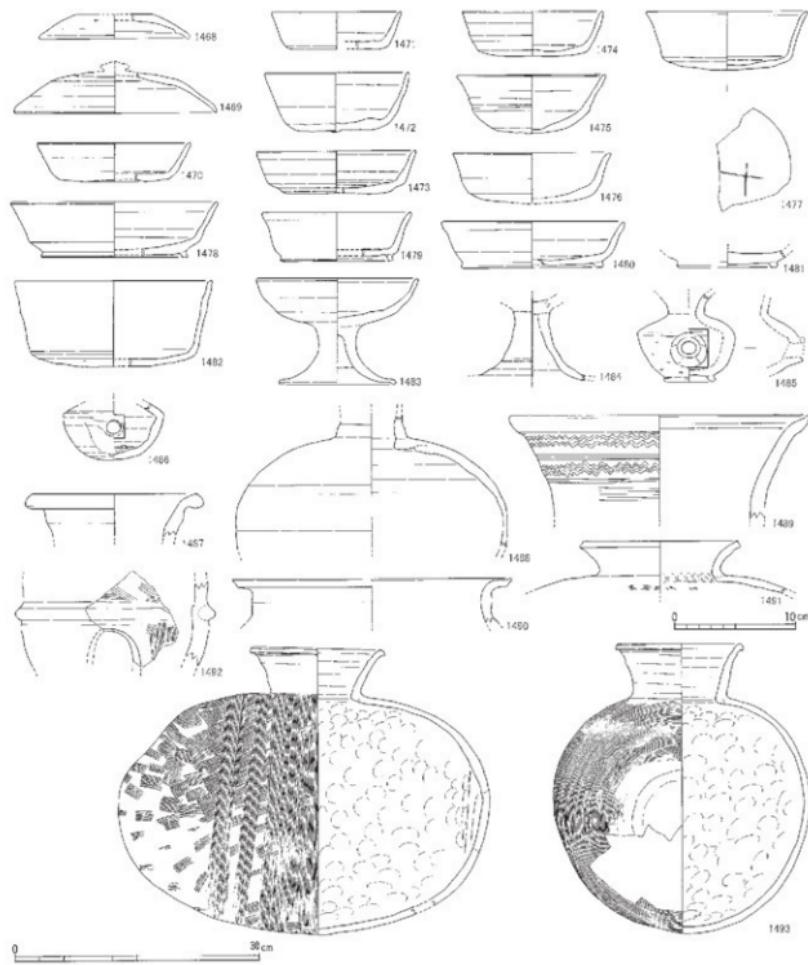
第202図 Pit 1出土遺物実測図 (1:4)、1320 (1:2)



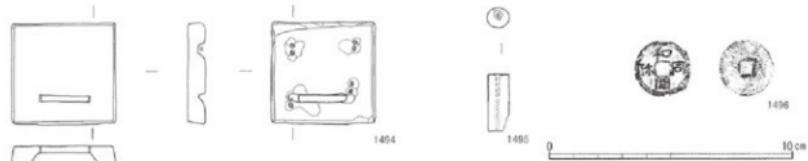
第203図 包含層出土遺物実測図①土師器 (1 : 4)



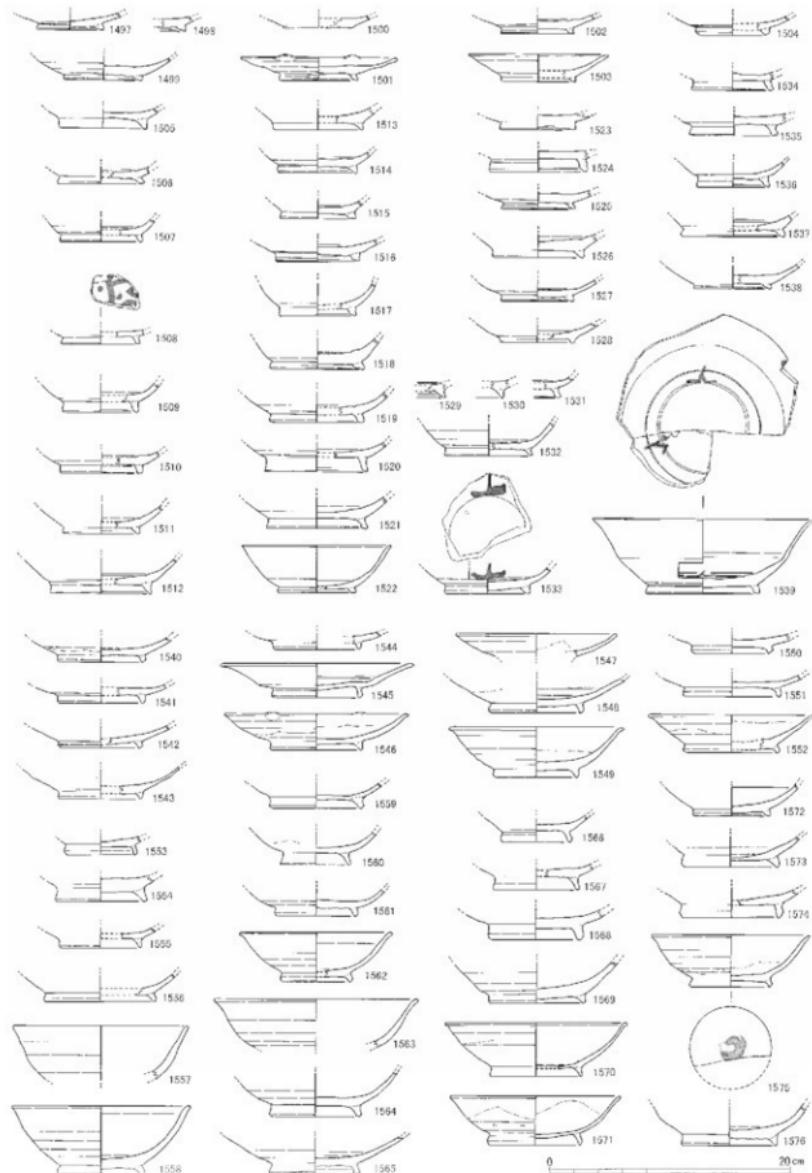
第204図 包含層出土遺物実測図②土師器・土製品 (1 : 4)



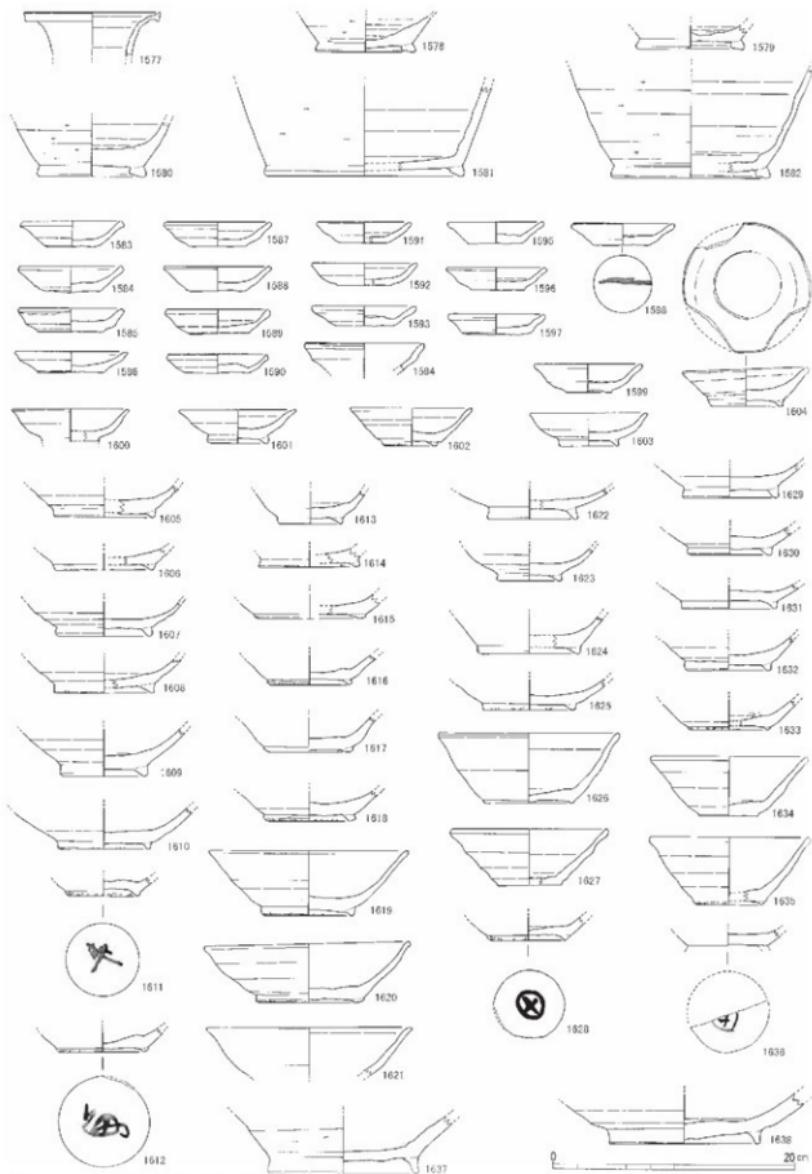
第205図 包含層出土遺物実測図③須恵器（1：4）、1493（1：6）



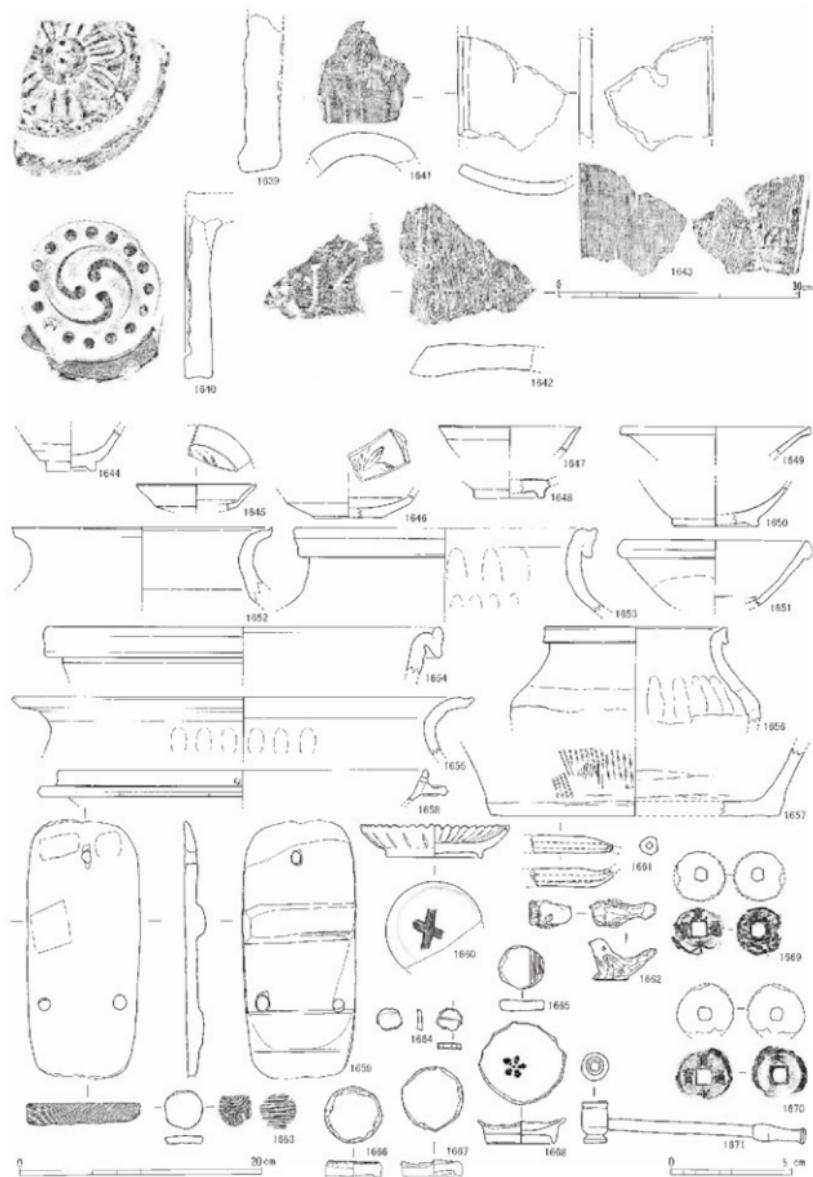
第206図 包含層出土遺物実測図④石帯・管玉・和銅開珎（1：2）



第207図 包含層出土遺物実測図⑤緑釉陶器 (1 : 4)



第208図 包含層出土遺物実測図⑥灰釉陶器・山茶桺 (1 : 4)



第209図 包含層出土遺物実測図⑦瓦・青磁・白磁・陶器ほか 1639～1643(1:6)、1644～1668(1:4)、1669～1671(1:2)

IV 結語

1 遺構

ここでは、掘立柱建物の変遷についてまとめるところとする。

飛鳥時代～奈良時代

この時期の建物はC・F・I地区で検出されている。C地区の掘立柱建物群は大きく、方向に規則性があるのに対して、F地区の建物群は規模が小さく方向に規則性もみられない。I-3地区で検出された純柱建物S B85・86は隣接するF地区的建物に付随する倉庫の可能性がある。

平安時代

C地区的掘立柱建物は条里の方向に乗る特徴を示し、平安時代前期まで存続するが、その後D・E地区に移動したものと想定される。D・E地区では建物がかなり重複しており、同一場所で何度も建て替えられ、建物群の占地範囲が平安時代を通じて大きく変化しなかった結果と想定される。

また、S B45が主屋、S B46・47が副屋と考えられる逆L字形の計画的配置の建物群は、綠釉彩器・印刻花文陶器を含む大量の綠釉陶器や墨書き器などの出土とともに、六大B遺跡の性格を考えるうえで重要である。おそらく、地方の富豪層の居館もしくは下級官衙が想定される。

2 遺物

総数30個体前後の土器が出土し、27個体が図化可能であったSK3出土遺物についてまとめておく。土坑出土の一括遺物として弥生時代後期前半の貴重な資料である。

長頸壺(285)は体部高と口頸部高がほぼ同じもので、口頸部は端部で少し外反し、体部はイチジク形である。全体に器壁が薄く、底部も非常に薄い。琵琶湖周辺・近江の南部型土器群の搬入品の可能性がある。壺には受口状口縁の広口壺(282)も残存している。また、この土坑出土の甕は2/3以上が受口状口縁の甕であるが、大きくて口縁部が内傾し、端部内面に面をもつもの(296・297)、口縁部が直

立し端部上面に面をもつ(291)、直立するが端部のみ内傾する(294)などに分かれる。頭部に近い体部上半に直線文や刺突列点文、体部最大径付近に直線文、その下に連弧文を施す。甕にはハケ調整を主体として加飾が少なく、器壁のやや厚い口縁部がくの字に折れる(301)なども若干みられる。高杯(302)は内外面ともヘラミガキ調整をするもので、口縁端部が外反する。このことから、一部には後期初頭のやや古い様相を示すものの、それより一時期下る資料群と考えた。

3 総括

六大B遺跡では平成2年から4年にかけてB地区からI地区の発掘調査を行い、平成8年から断続的に報告書作成を行ってきた。A地区については平成5年・6年で発掘調査を行い、平成11年2月に報告書を刊行した。今回を含めこれらの報告書により、「和名抄」記載の「羅田郷」に比定されているこの地の解明の一助になれば幸いである。

報告書 番号	地区	調査時	概観番号	椭形平面形	規模(m)		主な遺物	時期	調査番号		備考
					平面	深さ			遺物		
SE1	B	井戸13	井戸13	楕円	1.4×1.2	0.7	土師器皿、土師器鏡	室町	62	63	
SE2	C	井戸8	井戸8	方	1.9×1.8	1.1	土師器皿、杯・壺、黒色土器、灰釉陶器	平安前半	56	57	SD3.1引断
SE3	C	井戸7	井戸7	円	1.0×1.0	0.7	曲物底板	鎌倉	54	55	山茶樹1丁
SE4	C	井戸6	井戸6	楕円	2.8×2.6	1.9	土師器皿・鍋、山茶樹小皿・碗・林	鎌倉	62	62	石組
SE5	C	井戸5	井戸5	円	1.6×1.6	1.8	土師器皿・壺、灰釉陶器	平安後半	58	59	庭に曲物
SE6	C	井戸14	井戸14	楕円	1.2×0.9	0.5	圓化遺物22	平安後半	60		
SE7	C	井戸16	井戸16	円	1.1×0.9	1.0	土師器皿、山茶樹	平安後半	61	61	
SE8	C	井戸15	井戸15	楕円	2.6×1.9	1.3	曲物底板、土師器皿・鍋、山茶樹、白磁	鎌倉	63	64・65	
SE9	D	井戸4	井戸4	円	1.3×1.3	1.3	山茶樹、楕柿	鎌倉	73	74	木製井戸枠
SE10	D	井戸3	井戸3	円	1.1×1.1	0.7	土師器皿、山茶樹、木製箱(底板)	鎌倉	66	67	
SE11	D	井戸10	井戸10	楕円?	2.4×2.0	1.6	須恵器系・蓋・釜、土師器鏡	飛鳥～奈良	68	69	
SE12	D	井戸9	井戸9	方?	2.9×2.6	1.6	土師器皿・杯・土盤、黑色土器、灰釉陶器、綠釉陶器	平安後半	70	71・72	木製井戸枠
SE13	D	井戸17	井戸17	円	1.3×1.2	—	山茶樹	鎌倉	75	76	
SE14	D	井戸12	井戸12	円	1.5×1.5	2.0	土師器、クロコ土師器、山茶樹、灰釉陶器、綠釉陶器	平安後半	77	78	
SE15	E	H-K13-丸1	—	円?	1.9×1.7	1.0	灰釉陶器	平安前半	79	80	
SE16	G	井戸510	井戸510	方?	3.0×2.7	—	陶器、磁器、鐵貨	近世	81	82	
SE17	G	井戸511	井戸511	方	2.8×?9	—	瓦質土器、陶器器體	近世	83	87	陶器井戸枠
SE18	G	井戸512	井戸512	方	3.0×2.5	—	曲物底板、磁石	近世	84	85・86	陶器井戸枠
SE19	G	井戸513	井戸513	方	2.9×2.7	—	圓化遺物22	近世	88		
SE20	I-2	—	井戸8	円	1.3×1.2	2.3	圓化遺物22	室町	92		山茶樹 静音家6型式
SE21	I-3	SK2	井戸3	楕円	2.7×2.2	1.5	土師器皿・鍋、山茶樹小皿・碗、白磁、土盤、曲物、球狀木製品、木札状木製品	鎌倉	93	94・95	
SE22	I-3	SE5	井戸5	楕円	1.4×1.2	1.0	陶器器皿、土盤	鎌倉	89	90	
SE23	I-3	SE4	井戸6	楕円	1.2×1.1	1.0	陶器器皿	室町	96	91	石組
SE24	I-3	SK8	井戸7	楕円	1.6×1.5	1.3	山茶樹、陶器器皿、勾玉、曲物、軋織具、鍵の柄	鎌倉	97	98	

報告書 番号	地区	調査時	概観番号	概形	規模(m)		主な出土遺物	時期	団体番号		備考
					平面	横さ			遺物	遺物	
SK1	B	井戸11	土坑56	楕円形	1.3×1.0	0.6	土師器 壺	弥生～古墳	99	100	
SK2	B	井戸12	土坑55	円形	1.0×1.0	0.4	土師器 壺・杯	弥生～古墳	99	101	久山?
SK3	C	土坑27	土坑27	楕円形	1.5×1.0	0.85	手生 壺・甕	弥生	102	103・104・105	
SK4	C	土坑114	土坑114	不定形	2.7×2	0.1	土師器 盆、須恵器 杯	奈良	106	107	
SK5	C	土坑31	—	方形?	2.8×2.3	0.1	圓化遺物?2	奈良	108		
SK6	C	土坑30	—	方形?	2.5×2.4	0.1	土師器 甕	奈良	108	109	
SK7	C	土坑24	土坑24	円形?	2.6×2.3	0.2	須恵器 壺	奈良	110	111	
SK8	C	土坑25	土坑25	不定形	4.5(?)×4.5	0.3	土師器 樹・甕・鉢・鍵、鍵	平安前半	112	113	
SK9	C	土坑33	土坑33	長方形	6.6×3.8	0.2	土師器 樹・甕・青磁、山茶碗	鎌倉	114	114	
SK10	C	井戸17	土坑57	楕円形	1.3×0.9	0.9	手生 壺	弥生	115	115	
SK11	D	土坑18	土坑18	円形	1.5×1.4	0.5	手生 台付甕	弥生	116	117	
SK12	D	土坑4	—	方形	3.5×3.1	0.2	須恵器 壺、製埴土器	奈良	118	118	
SK13	D	墨穴1	墨穴1	方形	3.1×3.0	0.2	土師器 杯、須恵器 盆・杯	平安前半	119	119	
SK14	D	土坑10	土坑10	方形?	3.6×2	0.2	土師器 杯・皿・甕、須恵器 杯・平瓶	平安初期	120	121	
SK15	D	土坑3	—	方形?	2.0×2.0	0.3	灰釉 楠	平安前半	122	123	
SK16	E	土坑506	土坑506	楕円形	4.4×3.6	0.1	土師器 杯、須恵器 内面銀・灰釉 楠	平安前半	124	125	
SK17	E	土坑512	—	長方形?	2.3×1.5	0.3	土師器 盆	平安前半	126	127	
SK18	E	土坑509	—	不定形	4.8×1.5	0.1	土甕	平安前半	128	129	
SK19	E	土坑513	—	楕円形	2.4×1.9	0.1	土甕	平安前半	128	129	
SK20	E	土坑503	土坑503	溝状	7.5×2.3	0.3	土師器 壺	平安前半	130	131	

報告書 番号	地区	調査時	概欄番号	概形平面形	規模(m)		主な出土遺物	時期	図版番号		備考
					平面	深さ			飛鳥	飛鳥	
SK21	F	土坑541	—	楕円	1.3×0.9	0.2	須恵器 蓋	飛鳥	132	132	
SK22	F	土坑556	土坑556	楕円	4.0×3.1	0.5	土師器 壺・杯、須恵器 蓋・杯	飛鳥	133	133	
SK23	F	土坑565	土坑565	万形	3.2×2.8	0.8	土師器 杯・壺、須恵器 壺、曲物底板	飛鳥	135	134	山茶樹は重複した別の遺構
SK24	F	土坑568	土坑568	楕円形	3.0×2.1	1.0	土師器 直・杯	飛鳥	136	136	
SK25	F	土坑570	土坑570	楕円形	3.5×2.4	0.6	土師器 壺、須恵器 はそゝ、土器	飛鳥	137	137	
SK26	F	土坑544	土坑544	円形	1.6×1.5	0.8	【國化遺物?】	平安前半	138		
SK27	G	土坑598	土坑598	方形	3.1×? 9	0.05	【國化遺物?】	近世	141		
SK28	G	土坑599	土坑599	方形	2.6×2.4	0.3	【國化遺物?】	近世	141		
SK29	G	土坑609	土坑609	方形	1.6×1.1	—	【國化遺物?】	近世	141		タタキ
SK30	G	土坑600	土坑600	方形	3.0×1.9	0.2	磁器 磁呑	近世	141	142	
SK31	G	土坑601	土坑601	方形?	3.9×2.4	0.1	【國化遺物?】	近世	143		
SK32	G	—	—	長方形	1.6×1.2	0.15	【國化遺物?】	近世	143		
SK33	G	土坑602	—	長方形	2.3×? 9	0.1	漆碗	近世	143	144	
SK34	G	土坑603	—	長方形	3.2×1.3	0.2	不明木製品	近世	139	140	
SK35	G	土坑604	土坑604	長方形	3.7×2.5	0.2	陶器 推鉢、磁器 柄、下歎	近世	139	145	
SK36	G	—	—	楕円形?	3.4×2.8(?) 9	0.1	【國化遺物?】	近世	146		
SK37	G	土坑605	土坑605	長方形	4.2×3.2	0.2	瓦質 烟焼、磁器 柄	近世	146	147	
SK38	G	土坑606	土坑606	長方形	2.7×1.2	0.3	【國化遺物?】	近世	148		
SK39	G	—	—	長方形	2.3×1.4	0.25	【國化遺物?】	近世	148		
SK40	G	土坑607	土坑607	正方形	4.0×1.0	0.6	瓦質 烟焼、陶器 香炉、磁器 柄、下歎	近世	148	149	

報告書 番号	地区	調査時	概観番号	椭形平面形	規模(m)		主な出土遺物	時期	団版番号		備考
					平面	横さ			遺構	遺物	
SK41	I-1	土坑1	-	円形	0.8×0.8	0.6	山茶輪	近世以降	150	150	
SK42	I-3	SK3	土坑2	椭円形	1.6×1.3	0.4	土師器 梶、山茶輪、曲物底板	縹倉	151	152	底に石
SK43	I-3	SK16	土坑4	方形?	1.5×1.3	0.8	土師器 梶・楕、山茶輪	縹倉	153	153	
SK44	I-3	SK7②	土坑9	長方形	1.8×1.2	0.5	山茶輪 小皿、土製箱材	縹倉	154	154	
SK45	I-3	SK10	土坑10	長方形	2.3×1.5	0.9	山茶輪	縹倉	155	155	
SK46	I-3	SK23	土坑11	長方形	2.4×1.0	0.7	圓化遺物?2	縹倉	156	156	
SK47	I-4	SK9	土坑2	方形?	1.6×1.6	0.9	土師器 梶・楕、須恵器 高杯	楓鳥	157	157	
SK48	I-4	SK5	土坑6	溝状	5.7×0.9	0.4	甕生 磁・高杯	甕生	158	158	
SK49	I-4	SK7	土坑8	不定形	4.2×0.1	0.9	須恵器 杯・黒色土器 須恵器 杯、灰輪 梶・III	平安前半	159	159	
SK50	B	土坑46	-	溝状	7.0×0.7	-	山茶輪 小皿	近世	160	161	近世土坑群
SK51	B	溝49	-	溝状	6.3×0.8	-	陶器 盆・楕	近世	160	161	近世土坑群
SK52	B	溝52	-	溝状	7.5×1.5	-	陶器 木瓜皿・楕・鋸鉢、磁器 楠	近世	160	161・162	近世土坑群
SK53	B	溝55・S055	-	溝状	5.4×1.1	-	陶器 楠、土師器 燐格 磁器 楠、フサフサ 刃口	近世	160	161・162	近世土坑群
SK54	B	溝36	-	方?	1.7×1.2	-	山茶輪	近世	160	161	近世土坑群
SK55	B	土坑35	-	溝状	5.5×1.2	-	陶器 盆	近世	160	161	近世土坑群
SK56	B	土坑38	-	不定形	5.2×1.4	-	土師器 盆、陶器 壺	近世	160	161	近世土坑群
SK57	B	土坑43	-	方形	4.5×1.1	-	陶器 馬日皿・雪平・小豆皿・楕 器 楠	近世	160	161・162	近世土坑群
SK58	B	土坑44	-	不定形	8.3×4.2	-	磁器 赤皿	近世	160	162	近世土坑群
SK59	B	溝46	-	椭円	1.5×1.2	-	磁器 倒筒漏斗	近世	160	162	近世土坑群
SK60	B	土坑52	-	方?	5.4×1.3	-	陶器 盆	近世	160	161	近世土坑群

報告書番号	地区	調査時	概観番号	検出長(m)	幅(m)	深さ(cm)	時期	図版番号	備考
SD1	B	溝62	溝62	24.7	7.5	80	平安後半	163	164
SD2	BC	溝42	溝42	43.5	2.0~10.0	40	平安前半	165・167	166・168
SD3	I-2	溝8	溝4	17.2				169・170	
SD4	C	溝39	溝39	27.0	0.9~6.0	55	平安前半	165・167	171・172
SD5	C	溝36	溝2	—	9.0	1.5	平安後半?	173	
SD6	C	溝35	—	5.0	1.0	15	鎌倉	173	174
SD7	C	溝30	溝30	15.8	5(?)	60	鎌倉	173	174・175
SD8	C	溝37	—	13.8	0.3	20	中世	173	
SD9	D	溝65	溝65	15.0	0.9	30	鎌倉	173	176
SD10	E	溝16	溝16	40.0	0.3~0.6	10~25	鎌倉	173	176
SD11	DE	溝502	溝502	51.0	2.0~9.0	50~80	平安後半	177	178・179・180 181・182・183
SD12	EF	溝504	溝504	40.0	3.0~4.5	45	平安後半	177	184
SD13	E	溝505	溝505	98.0	6.0~10.0	10~25	飛鳥・奈良	185	186・187・188
SD14	F	溝503	溝503	44.0	2.1~2.7	20~25	鎌倉	177	193
SD15	F	溝564	—	18.5	3.0~5.7	20	飛鳥・奈良	189	SD12より新しい、
SD16	F	溝558	溝558	38.0	0.6	20~30	飛鳥・奈良	189	
SD17	F	溝559	溝559	7.5	0.5	30	飛鳥・奈良	189	
SD18	F	溝570	溝570	43.5	0.6~0.9	20~30	飛鳥・奈良	189	
SD19	F	溝555	溝555	27.5	0.4	15~20	鎌倉	189	条里方向の溝群
SD20	F	溝552	溝552	11.7	0.3	10	鎌倉	189	条里方向の溝群
SD21	F	溝553	溝553	16.0	0.5	10	鎌倉	189	条里方向の溝群
SD22	F	溝554	溝554	2.4	0.3	15	鎌倉	189	条里方向の溝群
SD23	F	溝33・35	—	9.0	0.2	10	鎌倉?	189	条里方向の溝群
	F	溝567	溝567	32.0	0.3	20~25	鎌倉	189	条里方向の溝群

報告書 番号	地区	調査時	概報番号	検出長 (m)	幅 (m)	深さ (cm)	時期	図版番号		備考
								遺構	遺物	
SD24	F	溝569	溝569	29.0	0.3	10	鍍倉	189		条里方向の溝群
SD25	G	溝600	溝600	13.5	0.4?	不明	鍍倉	189		条里方向の溝群 検出・削除後さらに掘り下げたため、図には載っていない。
SD26	G	溝605	溝605	24.7	0.4?	不明	鍍倉	189		条里方向の溝群
SD27	G	溝601	溝601	6.5	0.3	10	鍍倉	189		条里方向の溝群
SD28	G	溝603	溝603	47.0	0.6~0.9	15.2	平安後半	190		条里方向の溝群
SD29	FG	溝571~573 上坑572	溝571~573 上坑572	41.0	1.5~3.0	20~40	飛鳥・奈良	191	193	条里方向の溝群
SD30	G	溝607~610· 612·613 土坑590·596	溝607~610· 612·613 土坑590·596	58.5	0.6~4.5	20~40	古墳	191	193	自然流路群 自然流路群の番号は、概土坑596の番号にあらわれず。
SD31	G	溝619~622	溝619~622	53.0	1.0~3.7	10~20	古墳	192	193	自然流路群 自然流路群620·621の番号は、概報にあらわれず。
SD32	G	溝630	溝630	52.5	1.8	15~20	室町	192	193	
SD33	H	SD5	—	51.0	不明	(190)	中世	194·195	196·197	旧河道
SD34	I-2	SD9	溝3	5.7	2.4	20~30	弥生	165·167	198	
SD35	I-3	SD1	溝1	12.6	0.6~1.5	35	平安後半	199	198	
SD36	I-3	SD13	溝13	38.0	1.2~1.5	20	飛鳥・奈良	199	201	木簡出土
SD37	I-3	SD20	溝14	18.0	0.6	10	飛鳥・奈良	199	198	山茶碗鋏入
SD38	I-4	SD3	溝1	18.0	0.3	10~15	不明	200		

番号	外観番号	地区	桁行×梁行(m)	間数	柱間寸法(m)	機方向	柱脚跡	柱根	時期	遺構	回収番号	遺物	備考	
SB1	掘立75	4間以上×1間以上	2.6×2.2×2.3±2.1	2.4	—	南北	方	—	平安初	22	22	南1間は縮少、		
SB2	掘立76	3間×2.4以上	2.5×2×2.1±1.6	2.5	—	南北	円	—	不明(平安初?)	22	22	南1間は縮少、		
SB3	掘立74	3間×1間以上	1.9	—	南北	N34°E	方	—	平安初	22	22	南1間は縮少、		
SB4	掘立61	5間以上×1間以上	1.9	—	南北	N33°E	円	—	不明(平安初?)	22	22	南1間は縮少、		
SB5	掘立63	1間以上×2間	2.2	—	東西	N17°W	方	—	奈良	22	22	—		
SB6	掘立62	1間以上×2間	2.2	—	東西	E29°S	円	—	奈良	22	22	—		
SB7	掘立67	1間以上×3間	1.9	—	東西	E29°S	円	—	奈良	22	22	—		
SB8	掘立68	1間以上×4.5	1.9±1.6+1.3	2.2±1.8±4(柱間不明)	—	東西	E25°S	円	—	奈良	23	23	—	
SB9	掘立64	1間以上×2間	1.9±1.6+1.4	1.9±1.6+1.4	—	東西	E30°S	円	—	奈良	23	23	総柱少、	
SB10	掘立70	1間以上×3間	1.9±1.6+1.3	1.9±1.6+1.3	—	東西	E30°S	円	—	奈良	24	24	総柱少、	
SB11	掘立65	3間×3間	2.2±1.8±1.8	2.2±1.8±1.8	—	東西	E33°S	円	—	奈良	24	24	総柱(床東)	
SB12	掘立66	5間×2間	1.9±1.9±1.9	1.9±1.9±1.9	—	東西	E35°S	円	—	奈良	24	24	—	
SB13	掘立71	4間×2間	1.9±1.9±1.9	1.9±1.9±1.9	—	東西	E1°S	円	—	鍵倉	25	25	2面廻(奥南)	
SB14	掘立69	3間×3間	2.3±2.4±2.7	2.3±2.4±2.7	—	東西	E26°S	円	—	有	24	24	—	
SB15	掘立72	4間×2間	1.9±1.9±2.3±2.2±2.1	1.9±1.9±2.3±2.2±2.1	—	東西	E26°S	円	—	奈良	25	25	西1間は総柱(床柄?) (縮少)	
SB16	掘立73	6間×4間	1.9±1.9±2.3±2.0±1.5±1.6	1.9±1.9±2.3±2.0±1.5±1.6	—	東西	E20°S	円	—	不明(平安～鎌倉)	25	25	西側1間は縮少、	
SB17	D	1間×1間	4.4	—	南北	N10°E	方	—	平安前半	26	26	総柱		
SB18	掘立25	5間×2間	2.3±2.2±1.7±1.9	2.3±2.2±1.7±1.9	—	東西	E12°S	円	—	鍵倉	26	26	総柱	
SB19	D	3間×2間	2.0±1.8	2.0±1.8	—	東西	E12°S	円	—	鍵倉	26	26	総柱(一部床東無)南東隅土塙か、	
SB20	D	7.6×4.7	2.4±2.3	2.4±2.3	—	南北	N30°E	円	—	柱持2本(内部)	27	27	—	
SB21	D	1.9以上×3.1	1.4±1.7	1.4±1.7	—	東西	E27°S	円	—	平安後半	27	27	総柱	
	D	5.3×4.2	1.9±1.8±1.6	1.9±1.8±1.6	—	東西	E27°S	円	—	平安後半	28	28	—	

報告書番号	外観番号	地区	柱行×梁行(m)	間数	柱間寸法(m)	極方向	柱振形	柱振跡	柱根	時期	回数番号	遺構	遺物	備考	
SB22	掘立3	3間×2間	2.8×2.4×2.7			東西	E12° S	方	—	平安後半	28	28			
SB23	D	7.9×4.5	2.3×2.2			東西	E8° S	円	—	平安前半	28				
SB24	掘立1	4間×2間	2.0×1.9×2.0×2.3			東西	E8° S	円	—	平安後半	28	28			
SB25	D	8.2×4.2	2.1×2.1			東西	E16° S	円	—	平安後半	29	29	南北5.2間に中心柱(建物を南北に分離北5間分は中心柱有)		
SB26	掘立2	3間×2間	2.3×2.4×2.4			東西	E16° S	円	—	平安後半	30	30			
SB27	D	7.1×4.6	2.4×2.2		2.0+1.8+1.8+2.0+1.8+2.0	南北	N16° E	円	—	平安後半	31	31			
SB28	掘立5	7間×2間	2.3×2.5			東西	E16° S	円	—	平安後半	31	31			
SB29	D	13.2×4.8	2.5×2.7		2.5×2.7×2.6	南北	E9° S	方	—	平安後半	30	30	南側は箱		
SB30	掘立23	7間×2間	2.6×2.5×2.4		2.6×2.4×2.1×2.3+1.9+2.6×2.4	東西	E15° S	円	—	平安後半	31	31			
SB31	D	16.3×5.0	2.3×2.7		1.7+6+1.5+1.7+1.4	東西	E16° S	円	—	平安前半	31	31			
SB32	掘立4	5間×2間	2.3×2.1			南北	E16° S	円	—	平安前半	32	32	南北(南東隅に空隙)		
SB33	D	7.9×4.4	2.2×2.3		2.2×2.3×2.6	南北	E6° S	円・方	—	平安前半	30	30			
SB34	掘立24	3間×3間	2.4×2.5×2.6			南北	E6° S	円	—	平安前半	31	31	南北柱		
SB35	D	7.1×7.5	2.4×2.5×2.6			南北	N15° E	円	円	—	平安後半	32	32		
SB36	掘立22	3間×1間以上	2.5×2.2×2.4			南北	E27° S	円	円	—	平安後半	32	32	南北(南東隅に空隙)	
SB37	D	7.1×3.2以上	2.3			南北	N10° E	円	円・方	—	平安前半	30	30		
SB38	掘立31	4間以上×4間	2.0+2.4+2.2+2.1			南北	N3° E	方	—	平安前半	32	32	南北柱		
SB39	D	8.7以上×7.4	2.1+1.6+1.6+2.1			南北	N5° E	円	—	平安前半	33	33	南北柱		
SB40	掘立33	4間以上×1間以上	2.2+2.6+2.8+2.2			南北	E7° S	圓	—	平安前半	29	29	南北柱		
SB41	D	9.8×L上×2.6以上	2.6			南北	N18° E	円・方	—	平安前半	33	33	南北柱		
SB42	掘立56	3間×3間以上	1.4+1.4+1.2			南北	E8° S	円・方	—	平安前半	33	33	南北柱		
SB43	D	4.0×4.1	1.4+1.2+1.5			南北	E2° S	円・方	—	平安前半	33	33	南北柱		
SB44	掘立54	2間×2間	2.5×2.0			南北	N5° E	円	—	平安前半	34	34	西1間は前		
SB45	D	4.5×4.8	2.3×2.5			南北	E7° S	圓	—	平安後半	34	34	西1間は前		
SB46	掘立60	5間×2間	2.0+2.9+2.3+1.9+2.3			南北	E23° S	円	—	平安後半	35	35	南北柱		
SB47	D	11.4×4.9	2.5×2.4			南北	E10° S	方	—	平安前半	35	35	南北柱		
SB48	掘立29	2間×2間	2.3×2.2			南北	E4° S	円・方	—	平安前半	33	33	南北柱		
SB49	D	4.5×4.3	2.1×2.2			南北	N4° E	円・方	—	平安前半	33	33	南北柱		
SB50	掘立59	3間×2間	2.4+2.7×2.6			南北	E4° S	円・方	—	平安前半	35	35	南北柱		
SB51	D	7.7×4.8	2.4×2.4			南北	E2° S	圓	—	不明(平安?)	35	35	南北柱		
SB52	掘立58	5間×3間	1.4+1.5+2.1+2.3+2.2			南北	E23° S	円	—	平安後半	35	35	南北柱		
SB53	D	9.5×6.7	2.1+2.3+2.3			南北	E10° S	方	—	平安前半	35	35	南北柱		
SB54	掘立65	3間×2間	2.2+2.1+2.0			南北	E4° S	円・方	—	平安前半	33	33	南北柱		
SB55	D	6.3×3.9	1.9+2.0			南北	N4° E	円・方	—	平安前半	33	33	南北柱		
SB56	掘立28	2間×2間	1.9+1.9			南北	E23° S	円	—	平安前半	35	35	南北柱		
SB57	D	3.8×3.3	1.6+1.7			南北	E10° S	方	—	平安前半	35	35	南北柱		
SB58	掘立79	2間以上×2間	2.5+2.8+2.3			南北	E23° S	円	—	平安前半	35	35	南北柱		
SB59	D	4.8以上×4.1	2.1+2.0			南北	E10° S	方	—	平安前半	35	35	南北柱		
SB60	掘立80	3間×2間	2.5+2.6+2.8			南北	E10° S	方	—	平安前半	35	35	南北柱		
SB61	D	7.9×4.5	2.2+2.3			南北	E10° S	方	—	平安前半	35	35	南北柱		

備考	外観番号	地区	柱行×梁行(m)	間数	柱間寸法(m)	極方向	柱振跡	柱根	時期	遺構	遺物	
	SB33	3間×2間	柱行×梁行(m)	2,2×2,0	柱間寸法(m)	東北西 E11° S	円	—	不明(鍊倉?)	34	総柱	
	SB34	D 6.2×3.8	D 6.2×3.8	2,0×1.8		南北 N22° E	円・方	—	不明(奈良～平安)	34	西側柱行2間	
	SB44	D 6.6×4.2	D 6.6×4.2	1.9×1.3×1.9+1.5								
	SB45	施立6 7間×4間	施立6 7間×4間	2,2×2,0	1.8×2,0×2,2×1.6×2.8	東西 E6° S	円・方	—	有	平安前半	36	3面廻(西・北・東)
	SB46	施立7 5間×3間	施立7 5間×3間	2,3×1.6×1.2+1.9×2.4	1.7×1.8×1.9+1.7+1.8	東西 E6° S	円・方	—	—	平安前半	37	西側2間分は梁間2間
	SB47	施立8 5間×3間	施立8 5間×3間	1.6×1.8×1.6	1.6×1.7+1.3×1.8+1.5	東西 E6° S	円・方	円	有	平安前半	37	方形抜き取り痕
	SB48	D 7.9×5.1	D 7.9×5.1	1.7×1.7+1.7	1.5×1.7+1.7+1.8	東西 E6° S	円・方	円	—	不明(平安前半)	35	
	SB49	E 7.1×4.0	E 7.1×4.0	2,0×2,0	2,3×1.6+2.3	南北 N5° E	円	円	—	平安前半	36	
	SB50	E 6.2×4.5	E 6.2×4.5	2,3×2,2	2,1×2.5+2.5	南北 N17° E	円	円	—	平安前半	36	
	SB51	E 7.1×4.1	E 7.1×4.1	2,1+2,0	2,4×2,5	南北 N21° E	円	—	—	平安後半	38	
	SB52	E 4.9×4.3	E 4.9×4.3	2,2×2,1	1.7×2.2+2.0	南北 N11° W	円・方	—	—	平安後半	38	
	SB53	E 5.9×4.3	E 5.9×4.3	2,1+2,2	1.9+1.9+1.9+2.2	南北 N13° W	円・方	—	—	平安初	39	
	SB54	E 7.9×4.2	E 7.9×4.2	2,3×1.9	2,1+2+2,1+2,3	南北 N2° W	円・方	—	—	平安初	38	
	SB55	E 8.7×5.1	E 8.7×5.1	2,5×2,6	1.4+1.5+1.2	南北 N19° W	円・方	円	—	平安初	38	抜き取り痕有 総柱(床束?)
	SB56	E 9.1×4.0	E 9.1×4.0	1.2+1.3+1.5	1.4+1.5	南北 N8° E	円	—	—	平安前半	39	総柱
	SB57	E 7.5×4.7	E 7.5×4.7	1.4+2.4	1.5+1.4	東西 E2° S	円・方	—	—	平安前半	39	総柱
	SB58	E 2.9×2.9	E 2.9×2.9	1.6+1.2+1.5	1.3+1.1+1.4	南北 N5° E	円	円	—	平安前半	39	
	SB59	E 3.7×3.8	E 3.7×3.8	2.4+2.7+2.4	2.3×2.4	東西 E1° N	円・方	円	—	平安前半	39	
	SB60	E 4.3×3.8	E 4.3×3.8	1.2+1.3+1.5	1.5+1.4+1.5	東西 E2° S	円・方	円	—	平安前半	40	総柱(床束?)
	SB61	E 7.0×4.4	E 7.0×4.4	2.1+2.3	1.6+1.5+1.6	南北 N23° E	円・方	円	—	平安前半	40	南北2間分は総柱
	SB62	E 4.7以上×4.1	E 4.7以上×4.1	2.1+2.0	2.6+2.4+2.9	東西 E11° S	方	円	—	平安前半	41	41
	SB63	E 7.9以上×3.8	E 7.9以上×3.8	2.0×2.0	1.9+1.9	南北 N16° W	円・方	—	—	平安前半	41	

報告書番号	外観番号	地区	柱行×梁行(m)	間数	柱間寸法(m)	柱方向	柱振形	柱振跡	柱根	時期	区分番号	遺構	遺物	備考
SB64	柱立517	4間×3間	1.7+1.6+2.0+1.7	4	2.3+2+1.7	N1 W	円・方	—	平安前半	41	41	西側編		
SB65	E 柱立521	7.0×6.2 2間×1間以上	4.3×2.1 1.5	2	2.2+2.1 2.5	南北 N15° E	円・方	—	平安前半	42	42	東西棟丸		
SB66	柱立526	4間×1間以上	1.9+1.8+2.3+2.4	4	2.2	南北 N1 W	円・方	—	平安前半	42	42			
SB67	E 柱立518	8.4×2.2以上	1.6+2+3+2.1	4	2.2	南北 N1° E	円	—	平安前半	42	42	純柱		
SB68	E 柱立520	6.0×3.8 4間以上×2間	1.8+2.0 1.9+1.7+1.9+1.6	4	2.2	東西 E25° S	円・方	—	平安前半	42	42	純柱		
SB69	E 柱立537	7.1以上×4.8	2.4+2.4	2	2.2	南北 N13° W	円	—	平安前半	43	43			
SB70	— F	3.8以上×2.4以上	2.4	2	2.6+2+2.4	南北 N27° W	円	—	不明(平安)	43	43	純柱		
SB71	F	7.2×4.8 2間以上×2間以上	2.5+2.3	2	2.1+2.3	南北 N1° E	円	—	不明(平安前半?)	43	43	純柱		
SB72	F 柱立550	3.9以上×4.5以上	2.5+2.0	2	2.5+2.0	南北 N8° E	円・方	—	奈良	43	43	純柱		
SB73	F	4.6×4.2 3間×2間	1.4+1.2+1.6	3	2.9+3+2.9	南北 N19° E	円・方	—	不明(平安前半)	44	44	純柱(床柱?) (SK26全くう?)		
SB74a	F 柱立552	9.6×5.3 3間×2間	2.8+2.5	3	2.8+2.5	東西 E31° S	円・方	—	飛鳥・奈良	44	44			
SB74b	F 柱立552	4.7×3.3 3間×2間	1.5+1.8	3	1.9+1.5+1.3	東西 E31° S	円・方	—	飛鳥・奈良	44	44	SB74aの建て替え		
SB75	F 柱立553	4.7×3.7 3間×2間	1.5+2.2	3	1.8+1.8+1.5	東西 E34° N	円	—	奈良	44	44			
SB76	F 柱立554	5.1×3.8 3間以上×2間	2.2+1.6	3	2.0+1.7+1.4	東西 E8° S	円・方	—	奈良	45	45			
SB77	F 柱立555	2.7+2.1+2.4 3間×2間	1.8+2.1	3	1.9+1.5+1.3	東西 E32° S	円・方	—	奈良	45	45			
SB78	F 柱立556	7.2×3.9 3間×2間	1.7+1.6+1.7	3	1.8+1.7	南北 N16° W	円・方	有	奈良	45	45	純柱(床東?)		
SB79	F 柱立557	5.0×3.5 5間以上×3間	1.7+1.7+1.8+1.9+1.6	5	2.0+1.8	東西 E2° N	円	—	飛鳥・奈良	46	46	中心柱穴丸		
SB80	F 柱立558	6.5×4.6 4間以上×3間	1.6+1.5+1.5	4	2.7+2.1+2.4	東西 E27° S	円・方	有	飛鳥・奈良	46	46	中心柱穴丸		
SB81	F 柱立559	1.7×1.1間	3.3	3.3	2.9	南北 N43° E	円・方	—	飛鳥・奈良	45	45	中心柱穴丸		
SB82	— F	3.3×2.9 3間×2間以上	3.1+3+3.0	3	3.1+2.8	南北 N13° E	円・方	有	不明(飛鳥・奈良)	46	46	純柱 SK23を伴う		
SB83	F 柱立8 1-3	7.7×4.6 4間×2間	2.0+1.8+1.9+2.0 2.1+2.5	4	2.0+1.8	東西 E39° S	円・方	—	不明(奈良～平安)	47	47			

報告書番号	外観番号	間数	柱間寸法(m)	棟方向	柱軸跡	柱根	時期	図版番号	遺物	備考
地区		柱行×廻行(m)								
S1B84	掘立2	2間以上×2間	1.4+1.4	南北	円	—	不明(鍵倉?)	47		
		2.8以上×3.5	1.7+1.8	N44°E	円	—				
S1B85	掘立6	3間×1間以上	1.3+1.6+1.0	東西	円・方	—	飛鳥	47	繩柱	
	1~3	3.9×1.4	1.4	E15° S	円	—				
S1B86	掘立7	3間×3間	1.3+1.2+1.3	南北	円・方	—	飛鳥	47	47 繩柱	
	1~3	3.8×3.6	1.3+1.4+1.2	N19° E	円	—				
S1B87a	掘立3	5間×2間	2.2+2.0+1.8+1.8+2.1	東西	円・方	—	飛鳥	48	中心柱穴	
	1~4	9.9×4.5	2.3+2.2	E15° S	円	—				
S1B87b	掘立4	5間×2間	2.1+1.9+1.9+2.2	東西	円・方	円	有	48	S1B87aの建て替え	
	1~4	10.0×4.5	2.1+2.4	E15° S	円	—	飛鳥	48	中心柱穴	
S1B88	掘立5	2間×2間	1.7+1.7	東西	円	円	—	床東		
	1~4	3.4×2.7	1.4+1.3	E8° S	—					
S1B89	—	2間×1間以上	3.7+3.9	東西	円・方	—	不明(床東?)	48	繩柱(床東?)	
	1~4	7.6×2.9以上	2.9	E27° S	—					
S1B90	—	2間以上×2間	2.6+2.5	南北	円	—	不明(床東?)	49	繩柱(床東?)	
	1~4	5.1以上×4.8	2.4+2.4	N31° E	—					
S1B91	—	2間以上×2間	2.5+2.3	南北	円・方	—	不明(床東?)	49	繩柱 建て替え?	
	1~4	4.8以上×5.2	2.7+2.5	N2° E	—					
S1B92	—	2間×2間	2.4+2.5	南北	円	—	不明(床東?)	49	繩柱?	
	1~4	4.9×4.7	2.3+2.4	N5° E	—					
S1B93	—	5間以上×1間以上	2.5+2.5+2.7+2.3+2.6	東西	円	—	不明(平安)	50		
	1~4	12.6以上×2.6以上	2.6	E11° S	—					
SA1	堀1	3間	2.0+2.4+2.2	南北	円	—	平安前半	37	SB46-47c-1(b)2	
	D	6.6	2.0+2.3+2.0+2.3	N4° E	—					
SA2	—	4間	2.4+2.5	東西	円・方	不整形	不明(平安?)	50		
	D	8.6	2.9+2.6+2.8	E26° N	—					
SA3	—	3間	2.9+2.6+2.8	東西	円	円	不明(平安?)	50		
	E	8.3	1.5+2.2+1.7+2.6+1.6	E12° N	—					
SA4	—	5間	3.3+3.2+3.4+3.3	東西	円	円	不明(奈良～平安)	50		
	F	9.6	1.9+1.8+1.9	E2° N	—					
SA5	—	3間以上	2.3+2.6+2.6	N20° E	円	—	不明(奈良～平安前半)	50	建物小	
	F	5.6	2.3+2.6+2.6	東西	円・方	—				
SA6	—	7間	1.9+1.8+1.7+1.9+1.9+2.1	E1° S	不整形	—	不明(奈良～平安)	51	建物小	
	E	13.2	3.3+3.2+3.4+3.3	東西	円・方	—				
SA7	—	4間	1.9+1.8+1.9	E17° S	—					
	I	1~4	13.2	東西	円	—				
SA8	—	3間	2.6+2.6+2.6	E29° S	—		不明(鍵倉?)	51	建物小	
	I	4	7.5	2.6+2.6+2.7	東西	円	—			
SA9	—	3間	7.9	E29° S	—		不明(鍵倉)	51	建物小	
	I	4	7.9	3.1+3.1	東西	円	—			
SA10	—	2間	6.2	E27° S	—		不明(平安前半)	51	建物小	
	I	4	6.2	2.7+2.5+2.6	東西	円・方	—			
SA11	—	3間	7.8	E14° S	—		不明(平安前半)	51	建物小	

報告書番号	実測番号	質	基種等	通構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	給土	色調	焼成	残存	特記事項
1	17102	糞便	糞	SX1	-	-	-	-	-	-	-	6枚重ね 「皮和通質」 「重さ11.1kg」 「厚さ11.1mm」 「外側に黒く調節不明显」
2	29202	土師器	杯	SBI	12.7	2.8	底部外面大調整、他はナメ	密	5.9H7.6	1/6	完存	
3	29301	土師器	三	SBI	16.0	1.7	底部外面大調整、他はナメ	粗	2.5H7.6	1/2	良	口底部/1/2
4	29401	須恵器	杯	SBS3	16.6	7.2	底部外面大調整、他はナメ	粗	1.5H7.6	1/2	良	底部元存
5	28902	土師器	甕	SBS4	16.4	2.1	外側にナメ、内面ナメ	密	7.5H8.2	1/2	良	口底部/1/2
6	28901	須恵器	甕	SBS4	-	2.1	外側にナメ、内面ナメ	密	N.S.	1/2	良	口底部/1/2
7	29105	土師器	三	SBS5	16.6	2.0	外側にナメ、内面ナメ	密	5.9H7.8	1/6	良	口底部/6
8	29101	土師器	三	SBS5	15.1	4.4	外側にナメ、内面ナメ	密	5.9H7.4	1/6	良	口底部/6
9	29102	須恵器	杯	SBS5	11.6	5.0	外側にナメ、内面ナメ	密	7.5H8.1	1/2	良	口底部/1/2
10	29104	土器	土瓶	SBS5	5.0×1.1	1.7	外側にナメ	密	7.5H8.1	1/2	良	口底部/1/2
11	29103	土器	土瓶	SBS5	5.1×1.3	1.7	外側にナメ	密	7.5H8.2	1/2	良	口底部/1/2
12	29001	須恵器	甕	SBS6	40.0	40.0	外側にナメ	密	N.S.	1/4	良	口底部/4
13	28905	土師器	甕	SBS7	-	-	外側にナメ	密	7.5H7.6	1/6	良	口底部/1/2
14	28904	須恵器	甕	SBS7	-	-	外側にナメ	密	N.S.	1/6	良	口底部/1/2
15	36703	灰陶器	杯	SBS9	底径7.0	底径7.0	底部外面大ナメ、他はナメ	密	7.5H7.1	1/6	良	口底部/1/2
16	36702	山茶柄	碗	SBS9	底径8.2	底径8.2	底部外面大ナメ、他はナメ	密	7.5H7.1	1/6	良	底部元存
17	36701	山茶柄	碗	SBS9	底径8.2	底径8.2	底部外面大ナメ、他はナメ	密	7.5H7.1	1/6	良	底部元存
18	36704	山茶柄	碗	SBS9	底径8.4	底径8.4	底部外面大ナメ、他はナメ	密	7.5H7.1	1/6	良	底部元存
19	29201	白磁	碗	SBS10	14.4	14.4	外側にナメ	密	N.S.	1/6	良	口底部/1/2
20	28903	土師器	瓶	SBS12	-	-	外側にナメ	密	7.5H7.6	1/6	良	口底部/1/2
21	29202	土師器	瓶	SBS15	6.1×1.4	3.0	外側にナメ	密	5.9H8.4	1/5	良	口底部/1/2
22	29203	土師器	土瓶	SBS15	13.7	2.6	外側にナメ	密	5.9H7.6	1/5	良	口底部/1/2
23	29702	三	三	SBS22	-	-	外側にナメ	密	5.9H8.2	1/6	良	口底部/1/6
24	29701	山茶柄	碗	SBS24	底径8.8	底径8.8	外側にナメ	密	N.S.	1/6	良	口底部/1/6
25	29601	灰陶器	碗	SBS24	18.3	6.4	外側にナメ	密	2.5G5/6/1	1/4	良	底部完存
26	29704	土師器	瓶	SBS29	(11.9)	厚32.9	外側にナメ、内面工具ナメ	密	10Y8.3/3	1/4	良	底面部/3
27	29706	石陶器	碗	SBS29	(5.3)×6.4	厚32.9	外側にナメ	密	2.5Y7.6	1/4	良	底面部/3
28	29602	土師器	杯	SBS27	11.9	3.0	外側にナメ	密	2.5Y8/3	1/4	良	底面部/3
29	29603	黑色土器	碗	SBS27	15.6	2.6	外側にナメ	密	10Y8.1	1/4	良	底面部/4
30	29602	土師器	三	SBS30	11.7	2.6	外側にナメ	密	10Y7.7	1/4	良	底面部/4
31	30204	土師器	三	SBS30	14.2	2.6	外側にナメ	密	10Y8.4	1/4	良	底面部/4
32	30206	土師器	甕	SBS31	16.5	2.6	外側にナメ、内面工具ナメ	密	10Y8.3/3	1/4	良	底面部/3
33	30101	灰陶器	碗	SBS31	-	-	外側にナメ	密	2.5Y7.1	1/4	良	底面部/3
34	30103	山茶柄	碗	SBS31	底径8.2	底径8.2	底部外面系切痕、他はナメ	密	2.5Y6/2	1/4	良	底面部/2
35	29606	土製品	杯	SBS31	4.5×2.4	底径8.2	底部外面系切痕、他はナメ	粗	10Y8.2	1/4	良	底面部/2
36	30208	土師器	三	SBS33	14.8	2.6	外側にナメ	密	10Y8.3	1/4	良	口底部/6
37	29605	土師器	高杯	SBS34	脚径5.0	脚径5.0	外側にナメ	密	10Y8.3	1/4	良	口底部/6
38	30201	土師器	甕	SBS34	13.4	2.6	外側にナメ	密	10Y7.4	1/4	良	口底部/6
39	29802	土師器	杯	SBS36	12.2	2.7	外側未調整、内面ナメ	粗	10Y8.7/3	1/4	良	底面部/3
40	30102	灰陶器	碗	SBS39	底径7.6	底径7.6	底部外面系切痕、他はナメ	密	2.5Y7.1	1/4	良	底面部/2
41	30104	灰陶器	三	SBS38	13.5	2.8	底部外面系切痕、他はナメ	密	2.5Y8/1	1/2	良	底面部/2
42	29803	土師器	甕	SBS40	24.3	24.3	外側にナメ	粗	10Y8.8/3	1/5	良	口底部/5
43	29804	石製品	甕	SBS40	底径20.0	底径20.0	外側にナメ	-	N.S./	-	-	底面部/1/2
44	29806	山茶柄	碗	SBS40	底径7.3	底径7.3	底部外面系切痕、他はナメ	密	2.5Y8/3	1/4	良	底面部/4
45	30205	黑色土器	甕	SBS42	16.0	16.0	外側にナメ	密	2.5Y8/3	1/4	良	底面部/4
46	30202	黑色土器	甕	SBS42	底径6.8	底径6.8	外側にナメ	密	2.5Y8/3	1/4	良	底面部/4

特記事項											
機器番号	実測番号	質	器種等	通構	口径(cm)	基高(cm)	調整技法の特徴	始土	色調	施成	残存
30165	47	灰褐色器	陶	S342	底186.1	-	底部外面下口ガスリ、他は口ガチ	やや密着	2.5/77/1	具	底部1/4
48	30107	灰褐色器	陶	S342	底186.1	-	底部外面下口ガスリ、他は口ガチ	やや密着	2.5/77/1	具	底部1/4
49	29763	灰褐色器	陶	S347	17.2	-	底部外面下口ガスリ、他は口ガチ	やや密着	5/8Y/1	具	口縫部1/10
50	30862	灰褐色器	陶	S350	-	-	底部外面下口ガスリ、他は口ガチ	やや密着	7.5/6/6.4	具	口縫部小片
51	30763	灰褐色器	陶	S355	-	-	底部外面下口ガスリ、他は口ガチ	やや密着	2.5/8/8	良	底部小片
52	30702	灰褐色器	陶	S355	(4.7)×7.6	-	底部外面下口ガスリ、他は口ガチ	やや密着	3.4	良	底部小片
53	30701	灰褐色器	陶	S355	-	-	底部外面下口ガスリ、他は口ガチ	やや密着	10YR8.4	良	口縫部小片
54	30863	灰褐色器	陶	S358	底16.2	-	底部外面下口ガスリ、他は口ガチ	やや密着	2.5/8/1	良	底部1/6
55	30706	灰褐色器	陶	S362	底17.1	-	底部外面下口ガスリ、他は口ガチ	やや密着	2.5/78.1	良	底部1/4
56	31002	灰褐色器	陶	S364	底17.1	-	底部外面下口ガスリ、他は口ガチ	やや密着	2.5/73.7/4	良	口縫部1/6
57	30707	灰褐色器	陶	S365	-	-	底部外面下口ガスリ、他は口ガチ	やや密着	2.5/78/3	良	底部小片
58	30966	土製品	陶	S368	3.3×3.1	-	底部外面下口ガスリ、他は口ガチ	やや密着	5/77.4	良	底部1/4
59	31401	須恵器	陶	S386	脚部長3.4	-	脚部外面下口ガスリ	密着	13.5/存	良	底部1/4
60	31501	須恵器	陶	S387	10.0	-	脚部外面下口ガスリ	密着	7.5/4/1	良	脚部1/12
61	31203	須恵器	陶	S391	(19.6)	-	外面部調整、内面部	密着	10YR7/3	良	脚部1/12
62	4501	土師器	陶	SE1	(11.0)	-	外面部調整、内面部	密着	2.5/8/3	良	脚部1/12
63	4502	土師器	陶	SE1	-	-	外面部調整、内面部	密着	10YR8/2	良	脚部1/12
64	4102	土師器	陶	SE2	11.2	2.9	底面部外面部調整、内面部下口ガチ	密着	10YR8.4	良	口縫部1/12
65	4101	土師器	陶	SE2	15.4	2.1	底面部外面部調整、内面部下口ガチ	密着	3YR7/6	良	口縫部1/6
66	4207	土師器	陶	SE2	20.2	-	底面部外面部調整、内面部下口ガチ	密着	5YR7/6	良	口縫部外面部
67	4103	土師器	陶	SE2	13.4	4.4	外面部調整、内面部下口ガチ	密着	10YR7/4	良	口縫部1/12
68	4105	黒色土器	杯	SE2	18.0	4.1	外面部調整、内面部下口ガチ	密着	10YR8.4	良	口縫部1/6
69	4106	黒色土器	陶	SE2	底17.8	-	外面部調整、内面部下口ガチ	密着	10YR3/1	A類	内面部斜状・螺旋形文
70	4104	黒色土器	陶	SE2	11.6	4.0	外面部調整、内面部下口ガチ	密着	5/6Y/6	良	底部1/12
71	4201	灰褐色器	陶	SE2	底17.8	-	底面部外面部下口ガスリ、他は口ガチ	密着	5/5YR8/4	良	口縫部1/6
72	4203	灰褐色器	陶	SE2	底18.6	-	底面部外面部下口ガスリ、他は口ガチ	密着	5/5YR/4	良	底部1/12
73	4202	灰褐色器	陶	SE2	14.6	4.2	底面部下口ガスリ、他は口ガチ	密着	5/7/2	良	底面部完存
74	4205	灰褐色器	陶	SE2	15.9	4.6	底面部外面部下口ガスリ、他は口ガチ	密着	2.5/78/3	良	口縫部1/4
75	4204	灰褐色器	陶	SE2	16.8	3.5	底面部下口ガスリ、他は口ガチ	密着	10YR7/2	良	底面部1/4
76	4206	灰褐色器	陶	SE2	底15.1	-	底面部外面部下口ガスリ、他は口ガチ	密着	10YR7/6	良	底面部1/4
77	4401	土製品	陶	SE2	8.2×2.9	-	底面部外面部下口ガスリ、他は口ガチ	密着	10YR8/1	良	底面部1/3
78	4402	瓦	陶	SE2	-	-	底面部外面部下口ガスリ、他は口ガチ	密着	5/5Y/8	やや不良	外面部底面
79	4391	瓦	陶	SE2	底14.9	厚2.6	底面部外面部下口ガスリ、回面部日張	密着	5/7/2	良	底面部1/3
80	4106	容器	曲輪(底)	SE3	-	-	-	-	-	-	-
81	4002	土師器	陶	SE4	9.4	1.2	外面部調整、内面部下口ガチ	密着	10YR8/3	良	口縫部1/4
82	4003	土師器	陶	SE4	14.4	2.3	外面部調整、内面部下口ガチ	密着	10YR8/6	良	口縫部1/4
83	4004	土師器	陶	SE4	-	-	外面部調整、内面部下口ガチ	密着	2.5/78/3	良	口縫部1/3
84	3913	山茶樹	木	SE4	8.5	-	底面部外面部下口ガチ、他は口ガチ	密着	2.5/7/1	良	底部1/6
85	3912	山茶樹	木	SE4	7.9	2.2	底面部外面部下口ガチ、他は口ガチ	密着	5/8Y/1	良	底部1/4
86	3903	山茶樹	木	SE4	8.6	2.2	底面部外面部下口ガチ、他は口ガチ	密着	2.5/7/1	良	底面部完存
87	3902	山茶樹	木	SE4	底15.8	-	底面部外面部下口ガチ、他は口ガチ	密着	10YR7/1	良	内面部底面
88	3911	山茶樹	木	SE4	底17.0	-	底面部外面部下口ガチ、他は口ガチ	密着	3YR7/1	良	内面部斜面
89	3909	山茶樹	木	SE4	底16.7	-	底面部外面部下口ガチ、他は口ガチ	密着	2.5/7/1	良	内面部斜面
90	3910	山茶樹	木	SE4	底15.9	-	底面部外面部下口ガチ、他は口ガチ	密着	5Y/7/2	良	内面部斜面
91	4005	山茶樹	木	SE4	底14.1	-	底面部外面部下口ガチ、他は口ガチ	密着	2.5/7/2	良	底部1/6
92	3901	山茶樹	木	SE4	底13.7	-	底面部外面部下口ガチ、他は口ガチ	密着	2.5/7/2	良	内面部斜面

特記事項											
報告書番号	実測番号	質	基種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	粘土	色調	施成	残存
93	4001	山茶樹	楕	SII4	底径5.1	2.2	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部5.12
94	3906	山茶樹	小皿	SII4	8.7	2.2	底部外面系切削、他は口付カット	黒	2.5Y7/1	具	底部3.4
95	3908	山茶樹	小皿	SII4	9.1	2.2	底部外面系切削、他は口付カット	黒	2.5Y7/1	具	底部1.6
96	3904	山茶樹	楕	SII4	底径7.2	2.2	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部1.2
97	3907	山茶樹	楕	SII4	底径6.9	2.2	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部1.2
98	3905	山茶樹	楕	SII4	底径7.2	2.2	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部1.4
99	3802	山茶樹	皿	SII5	1.3	底部外面系切削、他は口付カット	黒	2.5Y7/1	具	底部1.12	
100	3803	山茶樹	皿	SII5	10.4	2.1	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y8/2	具	底部1.12
101	3804	山茶樹	皿	SII5	15.1	2.1	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y8/1	具	底部1.12
102	3801	凤仙花科	皿	SII5	底径4.9	2.2	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y8/3	具	底部1.12
103	5505	山茶樹	楕	SII7	-	-	内部ナラ内包アカリ	断	NR	-	灰輪復讐付
104	5506	山茶樹	楕	SII7	-	-	内部ナラ内包アカリ	粗	07Y5/3	具	底部小片
105	5504	山茶樹	楕	SII7	16.4	5.6	底部外面系切削、他は口付カット	黒	2.5Y7/1	具	底部小片
106	5501	山茶樹	楕	SII7	16.6	5.2	底部外面系切削、他は口付カット	黒	2.5Y7/1	具	底部小片
107	5502	山茶樹	楕	SII7	16.7	5.2	底部外面系切削、他は口付カット	黒	2.5Y7/2	具	底部小片
108	5603	山茶樹	皿	SII8	40.0	11.6	底部外面系切削、他は口付カット	黒	7.5Y6/1	具	底部小片
109	5601	植物(底版)	皿	SII8	40.0	11.6	底部外面系切削、他は口付カット	黒	10Y7/1	具	木身底1
110	5603	山茶樹	黑	SII8	9.0	1.0	外面部擦痕、内面部擦	黒	10Y7/2	具	口縁部7.12
111	5601	山茶樹	黑	SII8	9.3	1.0	外面部擦痕、内面部擦	黒	11Y6/1	具	口縁部7.12
112	5602	山茶樹	黑	SII8	13.1	2.7	外面部擦痕、内面部擦	黒	10Y7/2	具	口縁部7.12
113	5102	山茶樹	黑	SII8	16.0	2.7	外面部擦痕、内面部擦	黒	10Y7/3	具	口縁部7.12
114	5101	山茶樹	黑	SII8	22.3	2.7	外面部擦痕、内面部擦	黒	2.5Y8/2	具	口縁部7.12
115	5202	山茶樹	黑	SII8	22.2	2.7	外面部擦痕、内面部擦	黒	10Y7/2	具	口縁部7.12
116	5201	山茶樹	黑	SII8	30.8	2.7	外面部擦痕、内面部擦	黒	10Y7/1	具	口縁部7.12
117	5401	土師器	楕	SII8	22.5	2.7	外面部擦痕、内面部擦	黒	10Y7/2	具	口縁部7.12
118	4904	山茶樹	楕	SII8	底径6.3	2.3	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
119	4804	山茶樹	小皿	SII8	8.1	2.3	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	2.5Y7/1	具	底部完全
120	4803	山茶樹	小皿	SII8	8.5	2.3	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
121	4905	山茶樹	小皿	SII8	8.0	2.3	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	2.5Y6/1	具	底部完全
122	4802	山茶樹	小皿	SII8	8.1	2.3	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
123	4902	山茶樹	楕	SII8	底径6.5	2.3	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	2.5Y6/1	具	底部完全
124	4901	山茶樹	楕	SII8	底径6.3	2.3	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
125	4606	山茶樹	楕	SII8	底径6.0	2.0	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
126	4605	山茶樹	楕	SII8	底径6.2	2.0	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
127	4604	山茶樹	楕	SII8	底径6.4	2.0	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
128	4803	山茶樹	楕	SII8	底径6.3	2.0	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	2.5Y6/1	具	底部完全
129	4607	山茶樹	楕	SII8	底径6.4	2.0	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
130	4601	山茶樹	楕	SII8	底径6.0	2.0	底部外面系ナラ、他は口付カット	黒	2.5Y7/1	具	底部完全
131	4705	山茶樹	楕	SII8	15.2	5.4	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
132	4704	山茶樹	楕	SII8	15.2	4.9	底部外面系切削、他は口付カット	粗	7.5Y7/1	具	底部完全
133	4701	山茶樹	楕	SII8	15.3	5.4	底部外面系切削、他は口付カット	粗	N/	具	底部完全
134	4801	山茶樹	楕	SII8	15.6	5.3	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
135	4602	山茶樹	楕	SII8	15.8	5.3	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
136	4702	山茶樹	楕	SII8	15.9	5.3	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
137	4601	山茶樹	楕	SII8	16.0	5.0	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部完全
138	4703	山茶樹	楕	SII8	15.9	5.2	底部外面系切削、他は口付カット	黒	N/	具	底部完全
139	4706	山茶樹	楕	SII8	16.1	5.3	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y7/2	具	底部完全
140	5103	山茶樹	楕	SII8	-	-	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y7/2	具	底部完全
141	5004	白樺	楕	SII8	底径6.0	2.0	底部外面系切削、他は口付カット	黒	57Y7/1	具	底部1/3

報告書番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴	給土	色調	焼成	残存	特記事項
142	9504	木柄	碗	SE19	底径5.0	1.2	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	2.5V8.1 やや粗	良	底部/4	高台に形成
143	9503	木柄	直	SE10	底径5.0	1.2	内部未調査、内面ナフ	やや粗	1.0V8.3 N/A	良	1.0底部/2	高台に形成
144	9502	木柄	碗	SE10	底径5.9	1.2	内部未調査、内面ナフ	やや粗	1.0V8.3 N/A	良	1.0底部/2	高台に形成
145	9501	木柄	容器	SE10	14.5	5.5	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	1.0V8.3 N/A	良	1.0底部/2	高台に形成
146	木501	端(底板)	SE10	(15.0)×19.5	厚30.6	-	-	-	-	-	-	底底が微しく調整 不明瞭
147	10203	土師器	杯	SE11	11.4	3.8	底部外面部調整、他はナフ	やや粗	7.5V8.7/6	不具	1/6	脚底が微しく調整 不明瞭
148	10501	土師器	甕	SE11	23.0	2.0	外面部、内面部ナフ	やや粗	5.0V8.6	良	口縁部/4	井戸口の可能性 大
149	10101	須恵器	甕	SE11	28.4	2.0	外面部、内面部ナフ	やや粗	5.0V6.6	良	口縁部/1.2	重み感なし
150	10103	須恵器	蓋	SE11	10.3	4.1	天井部分、底面部調整、他は口吻ナフ	やや粗	N/A	良	1.0底部/2	重み感なし
151	10202	須恵器	蓋	SE11	16.4	3.5	天井部分、底面部調整、他は口吻ナフ	やや粗	N/A	良	口縁部/6	口縁部
152	10201	須恵器	杯	SE11	11.0	3.5	底部外面部調整(口吻ナフ)	やや粗	5.0V6.1	良	口縁部/5.6	良
153	10102	須恵器	杯	SE11	12.2	4.2	底部外面部調整(口吻ナフ)	やや粗	5.0V8.1	不具	口縁部/4	口縁部
154	10204	須恵器	蓋	SE11	底径2.2	-	底部外面部調整(口吻ナフ)	やや粗	N/A	良	体底部完存	体底部完存
155	9603	木柄	杯	SE12	11.4	2.7	外面部調整、内面部ナフ	密	2.5V8.1	良	口縁部/2	内面に底部物付け着
156	9603	木柄	杯	SE12	12.0	2.7	外面部調整、内面部ナフ	密	2.5V7.2	良	1.3	内面に底部物付け着
157	10001	木柄	杯	SE12	12.1	2.5	外面部調整、内面部ナフ	密	1.0V8.7/3	良	1.0底部/2	内面に底部物付け着
158	9601	土師器	杯	SE12	12.2	3.0	外面部調整、内面部ナフ	密	3.0V8.6/4	良	1/4	内面に底部物付け着
159	9602	土師器	杯	SE12	12.6	2.4	外面部調整、内面部ナフ	密	2.5V7.2/2	良	1/4	内面に底部物付け着
160	10008	土師器	杯	SE12	12.6	2.9	外面部調整、内面部ナフ	密	2.5V7.2	良	1/4	内面に底部物付け着
161	9706	土師器	杯	SE12	12.8	3.2	外面部調整、内面部ナフ	密	1.0V8.7/3	良	1/4	内面に底部物付け着
162	10003	土師器	杯	SE12	13.0	2.6	外面部調整、内面部ナフ	密	1.0V8.7/3	良	1/4	内面に底部物付け着
163	10002	土師器	杯	SE12	13.4	2.8	外面部調整、内面部ナフ	密	1.0V8.7/3	良	1/4	内面に底部物付け着
164	99005	土師器	杯	SE12	14.2	3.5	外面部調整、内面部ナフ	密	1.0V8.7/3	良	1/4	内面に底部物付け着
165	9802	土師器	杯	SE12	底径8.8	-	-	密	1.0V8.7/3	良	1/4	内面に底部物付け着
166	99004	土師器	碗	SE12	14.7	3.8	外面部調整、内面部ナフ	密	7.5V8.2	不具	1.0底部/2	A類
167	10009	黒色土器	碗	SE12	12.3	3.0	ヘテリ性	密	外 7.5V7.3	良	底部/2	内面に底部物付け着
168	9705	黒色土器	碗	SE12	13.4	3.6	内面ヘテリ性	密	内 N/A	良	口縁部/4	A類
169	9707	黒色土器	碗	SE12	14.4	-	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	2.5V7.2	良	口縁部/1.6	内面に底部物付け着
170	9701	灰釉陶器	直	SE12	底径5.9	-	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	1.0V7.1	良	底部/2	内面に底部物付け着
171	9702	灰釉陶器	直	SE12	底径5.2	-	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	1.0V7.1	良	底部/2	内面に底部物付け着
172	9703	灰釉陶器	碗	SE12	底径5.0	-	体部下方(口吻ナフ)、他は口吻ナフ	密	2.5V7.1	良	底部/3	内面に底部物付け着
173	10005	灰釉陶器	碗	SE12	底径7.4	-	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	2.5V7.2	良	底部/3	内面に底部物付け着
174	99002	灰釉陶器	碗	SE12	底径5.6	-	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	N/A	良	底部/2	内面に底部物付け着
175	98006	灰釉陶器	碗	SE12	底径5.6	-	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	2.5V8.1	良	底部/3	内面に底部物付け着
176	9901	灰釉陶器	直	SE12	12.8	3.9	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	1.0V8.1	良	1.0底部/2	内面に底部物付け着
177	9805	灰釉陶器	碗	SE12	底径5.8	-	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	2.5V8.1	良	底部/2	内面に底部物付け着
178	9903	灰釉陶器	碗	SE12	19.0	5.7	口吻ナフ	密	7.5V8.1	良	口縁部/6	精製品 口縁部に輪花
179	10006	灰釉陶器	碗	SE12	19.1	-	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	2.5V8.1	良	口縁部/4	灰釉陶器 口縁部毛金り
180	10004	灰釉陶器	碗	SE12	底径5.5	-	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	2.5V8.1/1	良	底部/3	内面に底部物付け着
181	9906	灰釉陶器	碗	SE12	底径5.6	-	底部外面部切痕、他は口吻ナフ	密	1.0V8.1	良	1.0底部/2	内面に底部物付け着
182	9907	灰釉陶器	直	SE12	(4.7)×2.2	-	-	密	7.5V5.3	良	底部/3	内面に底部物付け着
183	9604	灰釉陶器	直	SE12	(5.1)×3.1	手型2	-	密	1.0V8.2	良	3/5	内面に底部物付け着

報告 番号	実測 番号	質	基種等	遺構	口径(cm)	器高 (cm)	調査技法の特徴		胎土	色調	焼成	残存	特記事項
							寸法	寸法					
184	9008	土製品 蓋	土製品 桶	SE12	(6.1)×3.3	1.7	やや粗 10VR7/3	良	1/2	黒(3.44% 明褐色)	良	1/2	高台に玉串2個 先端に他の部材有り
185	1201	蓋	土製品 桶	SE12	4.3×(10.1)	1.8	-	-	-	-	-	-	-
186	木-30	柳枝木製品	不明品	SE12	長さ7.0	1.8	-	-	-	-	-	-	-
187	木-10	柳枝木製品	不明品	SE12	(12.1)×(22.9)	1.8	-	-	-	-	-	-	-
188	木-1001	柳枝木製品	井戸枠	SE12	長さ14.9	1.8	-	-	-	-	-	-	-
189	木-401	板状木製品	井戸枠	SE12	(126.6)×25.1	厚さ3.2	底部外面系切痕、他はほかカナデ	やや粗 10VR7/1	良	底部1/4	高台に玉串2個	底部1/4	高台に玉串2個
190	9506	山茶樹 輪	輪	SE13	底径8.4	1.8	外面未調査、内部ナフ	密 PS 10VR6/3	やや粗 10VR6/1	内面黒斑	内面黒斑	内面黒斑	内面黒斑
191	9402	土師器 蓋	SE14	9.2	3.2	外面部圓形、内部ナフ	やや粗 7.5VR7/6	良	口縁部1/2	口縁部1/2	口縁部1/2	口縁部1/2	口縁部1/2
192	9303	土師器 輪	SE14	11.8	2.0	底部外面系切痕、他はほかカナデ	やや粗 5VR7/6	良	底部完全	底部完全	底部完全	底部完全	底部完全
193	9005	砂岩	砂岩	SE14	8.8	3.2	底部外面系切痕、他はほかカナデ	やや粗 5VR7/6	良	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2
194	9306	砂岩	砂岩	SE14	底径6.2	2.0	底部外面系切痕、他はほかカナデ	やや粗 5.5VR7/2	良	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2
195	9307	灰陶器	小輪	SE14	10.5	3.2	底部外面系切痕、他はほかカナデ	やや粗 5.5VR7/1	良	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2
196	9302	山茶樹 輪	輪	SE14	10.5	4.9	底部外面系切痕、他はほかカナデ	やや粗 5.5VR7/1	良	底部1/2	底部1/2	底部1/2	底部1/2
197	9301	山茶樹 輪	輪	SE14	17.0	5.3	手型ナフ	やや粗 2.5VR7/1	良	底部1/4	底部1/4	底部1/4	底部1/4
198	9403	山茶樹 輪	輪	SE14	16.6	5.1	底部外面系切痕、他はほかカナデ	やや粗 5V7/1	良	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2
199	9401	綠釉陶器	輪	SE14	底径8.7	7.7	手型ナフ	密 10VR7/4	良	底部1/4	底部1/4	底部1/4	底部1/4
200	9104	土製品 蓋	土製品 桶	SE14	6.7×2.3	2.3	手型ナフ	やや密 5.5VR7/2	良	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2
201	木-201	板状木製品	不明品	SE14	(8.6)×(26.3)	厚さ4.9	手型ナフ	-	-	-	-	-	-
202	11701	板状陶器	輪	SE15	底径8.8	1.8	底部外面系カヌアリ、他はほかカナデ	やや粗 5.5VR7/1	良	底部1/2	底部1/2	底部1/2	底部1/2
203	19502	陶器 蓋	SE16	8.5	4.1	手型ナフ	密 5.5VR7/3	良	口縫部1/2	天井部のみ施釉	天井部のみ施釉	天井部のみ施釉	天井部のみ施釉
204	19503	磁器 蓋	SE16	8.8	2.6	手型ナフ	密 5.5VR7/2	良	内外面全周 伊万里	内外面全周 伊万里	内外面全周 伊万里	内外面全周 伊万里	内外面全周 伊万里
205	19504	磁器 蓋	SE16	10.0	2.6	手型ナフ	密 5.5VR7/1	良	自・電	自・電	自・電	自・電	自・電
206	19604	板状木製品	不明品	SE16	-	-	-	-	-	-	-	-	-
207	19601	瓦質土器	焼焼	SE17	34.8	7.7	手型ナフ	密 5.5VR7/1	良	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2
208	19602	瓦質土器	焼焼	SE17	37.6	7.7	手型ナフ	密 5.5VR7/1	良	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2	口縫部1/2
209	19603	陶器	縦鉢	SE17	37.3	7.7	手型ナフ	密 5.5VR7/4	良	口縫部1/10	内面に刻印	内面に刻印	内面に刻印
210	20301	陶器	井戸枠	SE17	67.6	39.9	手型ナフ	密 10VR6/6	良	口縫部1/10	外面部黒斑 常滑	外面部黒斑 常滑	外面部黒斑 常滑
211	20401	陶器	井戸枠	SE17	65.3	44.5	手型ナフ	密 5.5VR7/6	良	7/8	木刀柄1	木刀柄1	木刀柄1
212	木-501	器物 底板	SE18	45.5	45.5	手型ナフ	密 5.5VR7/2	-	-	-	木刀柄2	木刀柄2	木刀柄2
213	19501	石	石	SE18	(10.2)×5.7	5.8	手型ナフ	密 5.5VR7/8	-	-	-	木刀柄3	木刀柄3
214	20201	陶器	井戸枠	SE18	53.8	40.6	手型ナフ	密 5.5VR7/4	良	7/8	木刀柄4	木刀柄4	木刀柄4
215	20200	陶器	井戸枠	SE18	63.8	42.6	手型ナフ	密 5.5VR7/4	良	7/8	木刀柄5	木刀柄5	木刀柄5
216	木-1703	柳枝木製品	不明品	SE21	14.6	5.5	-	-	-	-	-	-	-
217	木-1602	柳枝木製品	不明品	SE21	13.9	3.4	-	-	-	-	-	-	-
218	木-1701	柳枝木製品	不明品	SE21	16.5	5.2	-	-	-	-	-	-	-
219	木-1702	木札	木札	SE21	16.8	3.3	厚さ3.0.4	-	-	-	-	-	-
220	木-1704	器物 底板	SE21	11.8	9.0	厚さ3.9.5	-	-	-	-	-	-	-
221	木-1503	武器 劍輪	SE21	21.9	3.0	厚さ3.0.6	-	-	-	-	-	-	-
222	木-1301	器物 底板	SE21	21.9	2.5	厚さ3.3	-	-	-	-	-	-	-
223	木-1302	器物 底板	SE21	18.5	1.9	厚さ3.0.9	-	-	-	-	-	-	-
224	木-1303	器物 底板	SE21	16.6	1.5	厚さ3.0.7	-	-	-	-	-	-	-
225	21004	土器	土器	SE21	12.0	2.4	外面部圓形、内部ナフ	密 10VR7/3	良	1/3	木刀柄1	木刀柄1	木刀柄1
226	21021	山茶樹 輪	輪	SE21	7.7	1.5	底部外面系切痕、他はほかカナデ	やや粗 5.5VR7/1	良	1/3	木刀柄2	木刀柄2	木刀柄2
227	21023	山茶樹 輪	輪	SE21	7.6	1.7	底部外面系切痕、他はほかカナデ	やや粗 5.5VR7/1	良	1/3	木刀柄3	木刀柄3	木刀柄3
228	21034	山茶樹 輪	輪	SE21	7.6	1.7	底部外面系切痕、他はほかカナデ	やや粗 5.5VR7/1	良	1/3	木刀柄4	木刀柄4	木刀柄4
229	21032	山茶樹 輪	輪	SE21	8.2	1.6	底部外面系切痕、他はほかカナデ	やや粗 5.5VR7/1	良	1/3	木刀柄5	木刀柄5	木刀柄5

報告 番号	実測 番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高 (cm)	調整抜法の特徴		胎土	色調	焼成	残存	特記事項	
							露高 (cm)	露深 (cm)						
230	24301	山茶壺	小皿	SE21	7.1	1.6	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	N8/良	口縁部3/4	内面焼毛			
230	24206	山茶壺	小皿	SE21	7.8	1.8	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	7.5/7/1	3/4	内面焼毛			
232	24204	山茶壺	小皿	SE21	8.0	2.0	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	7.5/7/1	良	13.5/元存			
232	24208	山茶壺	小皿	SE21	8.1	1.7	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	7.5/7/1	3/4	内面焼毛			
234	24201	山茶壺	小皿	SE21	8.2	1.9	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	7.5/7/1	1/2	内面焼毛			
235	24103	山茶壺	小皿	SE21	8.2	2.2	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	5/6/1	良	13.5/部3/1正	内面焼毛		
236	24209	山茶壺	小皿	SE21	8.8	1.8	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	5/8/1	良	13.5/元存	内面焼毛		
237	24207	山茶壺	小皿	SE21	7.7	2.0	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	7.5/7/1	良	13.5/元存	底部外面に黒苔		
238	24206	山茶壺	小皿	SE21	8.1	1.7	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	7.5/7/1	良	13.5/元存	底部外面に黒苔	×	
239	24202	山茶壺	小皿	SE21	8.7	1.9	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	7.5/7/1	良	13.5/元存	底部外面に黒苔		
240	24060	山茶壺	楕	SE21	底径6.4	底部外面斜切痕、他はほかたび	粗	7.5/VR6/1	良	底部1/2	内面やや焼毛			
241	23703	山茶壺	楕	SE21	14.6	4.7	底部外面斜切痕、他はほかたび	粗	N8/良	底部1/2	内面やや焼毛			
242	23704	山茶壺	楕	SE21	14.7	4.8	底部外面斜切痕、他はほかたび	粗	5/7/1	良	13.5/元存	内面やや焼毛		
243	23803	山茶壺	楕	SE21	14.8	5.1	底部外面斜切痕、他はほかたび	粗	N7/良	1/2	内面やや焼毛			
244	24104	山茶壺	楕	SE21	13.3	5.7	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	10/7/1	良	13.5/元存	内面に黒苔		
245	23702	山茶壺	楕	SE21	13.6	5.2	底部外面斜切痕、他はほかたび	粗	7.5/7/1	良	13.5/元存	底部に黒苔		
246	24101	山茶壺	楕	SE21	14.6	5.0	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	7.5/7/1	良	13.5/元存	底部に黒苔		
247	24004	山茶壺	楕	SE21	13.8	5.2	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	7.5/6/1	良	13.5/元存	底部に黒苔		
248	23805	山茶壺	楕	SE21	13.8	5.0	底部外面斜切痕、他はほかたび	粗	N8/良	高台に3/2正	内面焼毛			
249	23701	山茶壺	楕	SE21	13.8	5.5	底部外面斜切痕、他はほかたび	粗	7.5/VR7/1	良	13.5/元存	高台に3/2正		
250	23804	山茶壺	楕	SE21	14.0	5.5	底部外面斜切痕、他はほかたび	粗	N7/良	1/5	高台に3/2正	底部に黒苔		
251	23902	陶器	鉢	SE21	底径14.2	底部外面斜切痕、他はほかたび	粗	5/7/1	良	底部1/3	直線痕			
252	23901	陶器	鉢	SE21	23.0	9.6	底部外面下半斜切	粗	2.5/VR5/4	1/4	片口			
253	24305	山茶壺	鉢	SE21	29.0	11.3	底部外面下半斜切	粗	2.5/VR5/1	1/6				
254	23402	土瓶器	鉢	SE21	30.0	外面上半「か」、下半「へ」	やや密	10/VR3/3	良	13.5/元存	外画3.3			
255	23401	土瓶器	鉢	SE21	25.6	外面上半「か」、下半「へ」	密	7.5/VR4/2	良	13.5/元存	外画3.3 伊勢型			
256	23501	土瓶器	鉢	SE21	30.2	外面上半「か」、下半「へ」	やや密	7.5/VR4/2	良	13.5/元存	外画3.3 伊勢型			
257	24002	白磁	楕	SE21	底径9.9	外面上半「か」、内面「かたび」	粗	10/VR8/1	良	底部1/4				
258	24001	白磁	楕	SE21	底径7.6	外面上半「か」、内面「かたび」	粗	2.5/7/2	良	底部1/4				
259	23907	土製品	土瓶	SE21	4.3×2.6	外面上半「か」、内面「かたび」	やや密	5/7/1	良	底部1/4				
260	23903	土製品	土瓶	SE21	4.8×1.9	外面上半「か」、内面「かたび」	やや密	10/VR8/2	良	底部1/4				
261	23906	土製品	土瓶	SE21	5.2×1.9	外面上半「か」、内面「かたび」	やや密	10/VR7/1	良	底部1/4				
262	23908	土製品	土瓶	SE21	5.4×2.1	外面上半「か」、内面「かたび」	やや密	7.5/VR8/1	良	底部1/4				
263	24801	陶器	甕	SE22	-	外面上半「か」、内面未調査	やや密	7.5/VR8/1	良	小片	外画3.3 常滑			
264	24703	土製品	土瓶	SE22	4.5×2.2	外面上半「か」、内面「かたび」	やや密	10/VR8/1	良	底部1/4				
265	24702	陶器	甕	SE22	5.1×2.4	外面上半「か」、内面「かたび」	やや密	5/VR7/6	良	底部1/4				
266	24502	陶器	甕	SE22	21.0	外面上半「か」、内面「かたび」	やや密	5/VR4/1	良	底部1/2	常滑			
267	24501	陶器	甕	SE23	40.0	外面上半「か」、内面「かたび」	密	2.5/VR3/1	良	底部1/6	常滑			
268	25004	山茶壺	小皿	SE24	8.3	2.3	底部外面斜切痕、他はほかたび	やや密	5/6/1	良	元存	底部外面に黒苔		

報告書番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	胎土	色調	焼成	現存	特記事項
269	25003	山茶柄	椀	SE24	15.6	5.1	底部外表面調整、他は叩かナメ 底部外面系切痕、他は叩かナメ クリヤナメ	密	5/6/1 10YR7/1 内面10YR1/8	元存	底部完存	底部外表面に黒帯(筋)・底面に砂質 内面折れ・足6
270	25001	山茶柄	椀	SE24	15.6	5.1	底部外表面調整、他は叩かナメ 底部外面系切痕、他は叩かナメ クリヤナメ	密	5/6/1 10YR7/1 内面10YR1/8	元存	底部完存	底部外表面に黒帯(筋)・底面に砂質 内面折れ・足6
271	25002	陶器	蓋	SE24	24.2	-	-	-	-	-	-	-
272	25005	石製品	勾玉	SE24	1.8×1.1	厚30.4	厚31.3 厚31.7	-	-	-	-	重31.1kg 堅物・神石有り
273	木1502	粘土器	輪台 糠(柄)	SE24	36.7×5.8 33.0×2.6	厚23.5	外面部少々、内面ヨコナメ 外面部少々、内面未調整 外面部少々、内面ベタナメ 外面部少々、内面ベタナメ 外面部少々、内面ベタナメ	密 やや密 やや密 やや密 やや密	5/6/1 10YR7/6 10YR7/3 10YR7/4 10YR6/1	元存	底部完存	底部外表面に黒帯(筋)・底面に砂質 内面折れ・足6
275	木1505	粘土器	糠(柄)	SK1	12.4	-	-	-	-	-	-	缺刃部小片残
276	101	弥生土器	甕	SK1	10.5	-	-	-	-	-	-	-
277	103	弥生土器	甕	SK1	17.6	-	-	-	-	-	-	-
278	102	弥生土器	甕	SK1	11.8	-	-	-	-	-	-	-
279	201	弥生土器	甕	SK2	16.8	-	-	-	-	-	-	-
280	202	弥生土器	甕	SK3	21.0	-	-	-	-	-	-	-
281	20802	弥生土器	甕	SK3	23.4	-	-	-	-	-	-	-
282	1901	弥生土器	甕	SK3	14.4	-	-	-	-	-	-	-
283	1902	弥生土器	甕	SK3	10.1	19.8	内面部少々、内面不明	粗	7.5/7.4 7.5/7.6	元存	口縁部1/3	口縫端部外側に凹状剥離 内面折れ・底面に穿孔
284	2401	弥生土器	甕	SK3	13.4	30.8	内面部少々、内面少々、体部少々 内面部未調整	粗	7.5/7.3 7.5/7.6	元存	口縁部完存	内面折れ・外側に凹状 内面折れ・底面に穿孔
285	2001	弥生土器	甕	SK3	12.2	28.5	内面部少々、内面少々 内面部少々、下半部少々 内面上半部少々、下半部少々 内面上半部少々、下半部少々 内面上半部少々、下半部少々	やや粗	10YR5/4 やや粗 やや粗 やや粗 やや粗	元存	底部完存	底部下部に穿孔
286	2502	弥生土器	甕	SK3	13.6	-	-	-	-	-	-	-
287	20901	弥生土器	甕	SK3	13.6	-	-	-	-	-	-	-
288	21001	弥生土器	甕	SK3	13.6	-	-	-	-	-	-	-
289	21201	弥生土器	甕	SK3	13.6	-	-	-	-	-	-	-
290	20801	弥生土器	甕	SK3	13.2	-	-	-	-	-	-	-
291	20602	弥生土器	甕	SK3	14.8	18.9	外面部少々、内面未調整	粗	10YR6/6	元存	3/5	口縫端部外側に凹状 内面折れ・底面に穿孔
292	2501	弥生土器	甕	SK3	8.3	9.8	外面部少々、内面未調整	粗	5/6/1	元存	口縁部3/8	体部外表面に黒帯(筋) 内面に爪痕
293	20902	弥生土器	甕	SK3	13.2	-	-	-	-	-	-	-
294	2002	弥生土器	甕	SK3	13.9	20.9	外面部少々、内面ナメ	やや粗	5/7/4 10YR6/3	元存	口縁部1/2	内面に爪痕
295	21204	弥生土器	甕	SK3	14.7	-	-	-	-	-	-	-
296	2101	弥生土器	甕	SK3	14.7	-	-	-	-	-	-	-
297	20601	弥生土器	甕	SK3	13.8	23.0	外面部少々、内面未調整	やや粗	5/7/4 10YR6/3 外10YR4/1	元存	口縁部1/2	内面に爪痕
298	2201	弥生土器	甕	SK3	20.1	-	-	-	-	-	-	-
299	20701	弥生土器	甕	SK3	11.7	14.3	外面部少々、内面少々 外面部少々、内面ベタナメ	やや粗	10YR6/4	元存	10YR5/2	口縫端部外側に凹状 内面折れ・底面に穿孔
300	21002	弥生土器	甕	SK3	11.5	18.6	外面部少々、内面ベタナメ	やや粗	10YR8/4	元存	10YR5/2	口縫端部外側に凹状 内面折れ・底面に穿孔
302	25021	弥生土器	甕	SK3	14.2	19.6	外面部少々、内面ベタナメ	やや粗	10YR6/3	元存	7.5/7.6	脚部外側に凹状 内面折れ・底面に穿孔
303	21202	弥生土器	甕	SK3	26.1	22.3	外面部少々、内面未調整	密	10YR5/3	元存	脚柱部3/3	脚柱部4.5cm2段

報告 番号	実測 番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴		縦土	色調	焼成	残存	特記事項
							外面へつき、内面ぶつ重	内部内面ぶつ重、外面へつきがき					
304	2101	灰土器	壺	SK3	底径3.1	16.8	外面へつき、内面ナメ	外面へつき、内面ナメ	相	10YR6/4	良	脚部柱3.1正	明治外面部輪郭文優秀丸4万段未定
305	20702	灰土器	壺	SK3	底径3.7	13.5	外面へつき、内面ナメ	外面へつき、内面ナメ	密	10YR7/4	良	脚部柱3.1正	明治外面部輪郭文優秀丸4万段未定
306	2302	灰土器	脚付甕	SK3	12.4	3.8	外面へつき、内面ナメ	外面へつき、内面ナメ	相	2.5YR6/3	良	口縁部1/6	口縫部外面部列点文+輪郭文+波文
307	2701	灰土器	器台	SK3	27.0	1.5	外面不規、内面ヘタ	外面不規、内面ヘタ	相	10YR7/3	良	口縫部1/4	口縫部焼成文+透かし圓形不明瞭
308	3602	土師器	壺	SK4	13.6	24.3	底部外面部輪郭、他はナメ	底部外面部輪郭、他はナメ	密	7.5YR5/6	良	口縫部1/12	底部外面部輪郭文透かし圓形不明
309	3603	土師器	壺	SK4	12.4	3.8	外面部輪郭	外面部輪郭	密	5YR8/3	良	口縫部1/6	底部外面部輪郭文透かし圓形不明
310	3701	須恵器	杯	SK4	13.0	3.8	底部外面部輪郭、他10コナメ	底部外面部輪郭、他10コナメ	密	5YR7/1	良	底部完全	口縫部外面部列点文+輪郭文+波文
311	3801	須恵器	甕	SK4	29.0	2.9	外面部輪郭	外面部輪郭	密	2.5YR7/2	良	口縫部1/6	口縫部焼成文+透かし圓形不明
312	3604	須恵器	甕	SK6	23.0	3.1	外面部輪郭	外面部輪郭	良	10YR7/4	良	口縫部1/4	口縫部焼成文+透かし圓形不明
313	3201	土師器	甕	SK6	24.6	3.1	外面部輪郭	外面部輪郭	良	10YR8/2	不良	口縫部1/4	口縫部焼成文+透かし圓形不明
314	3202	土師器	甕	SK7	底径3.8	3.1	外面部輪郭、内面カロナメ	外面部輪郭、内面カロナメ	密	5YR7/1	良	底部1/3	外面部輪郭、内面カロナメ
315	2801	須恵器	壺	SK8	11.0	12.3	外面部輪郭	外面部輪郭	良	7.5YR7/6	良	口縫部1/2	外面部輪郭
316	2904	土師器	杯	SK8	11.8	3.5	外面部輪郭	外面部輪郭	良	7.5YR7/6	良	口縫部1/4	外面部輪郭
317	2903	土師器	杯	SK8	12.6	3.1	外面部輪郭	外面部輪郭	良	5YR6/6	良	口縫部1/4	外面部輪郭
318	3005	土師器	杯	SK8	11.8	3.1	外面部輪郭	外面部輪郭	良	10YR7/4	良	口縫部1/8	外面部輪郭
319	3103	土師器	杯	SK8	12.6	3.1	外面部輪郭	外面部輪郭	良	10YR8/2	良	口縫部1/4	外面部輪郭
320	2905	土師器	杯	SK8	12.6	3.1	外面部輪郭	外面部輪郭	良	10YR7/4	良	口縫部1/4	外面部輪郭
321	3003	土師器	杯	SK8	13.1	2.1	外面部輪郭	外面部輪郭	良	10YR6/4	良	口縫部1/4	外面部輪郭
322	3204	土師器	杯	SK8	15.7	2.1	外面部輪郭	外面部輪郭	良	5YR7/6	不良	口縫部1/4	外面部輪郭
323	3104	土師器	皿	SK8	17.8	2.1	外面部輪郭	外面部輪郭	良	10YR7/4	良	口縫部1/6	外面部輪郭
324	3001	土師器	皿	SK8	14.8	2.1	外面部輪郭	外面部輪郭	良	5YR7/4	良	口縫部1/2	外面部輪郭
325	3102	土師器	甕	SK8	14.4	2.1	外面部輪郭	外面部輪郭	良	10YR7/4	良	口縫部1/2	外面部輪郭
326	2902	土師器	甕	SK8	14.4	2.1	外面部輪郭	外面部輪郭	良	5YR6/4	良	口縫部1/2	外面部輪郭
327	2901	土師器	甕	SK8	24.1	2.8	外面部輪郭	外面部輪郭	良	7.5YR6/6	良	口縫部1/4	外面部輪郭
328	3201	須恵器	鉢	SK8	—	—	外面部輪郭	外面部輪郭	良	2.5YR6/4	良	口縫部1/4	外面部輪郭
329	3002	須恵器	鉢	SK8	(8.8)×4.5	—	外面部輪郭	外面部輪郭	—	—	—	口縫部1/4	外面部輪郭
330	2907	須恵器	鉢	SK8	(長さ20.1)	3.9	外面部輪郭	外面部輪郭	良	10YR7/4	良	口縫部1/6	外面部輪郭
331	3301	須恵器	鉢	SK9	20.0	—	外面部輪郭	外面部輪郭	良	2.5YR8/2	良	口縫部1/2	外面部輪郭
332	3401	土師器	筒	SK9	—	—	底部外面部輪郭	底部外面部輪郭	良	7.5YR7/3	良	口縫部小片	底部外面部輪郭
333	3402	土師器	筒	SK9	底径5.2	—	底部外面部輪郭	底部外面部輪郭	密	7.5YR7/1	良	底部1/12	底部外面部輪郭
334	3302	青磁	桶	SK9	底径5.6	—	底部外面部輪郭	底部外面部輪郭	相	7.5YR6/2	良	底部完全	底部外面部輪郭
335	3303	山茶壷	小皿	SK9	底径5.6	1.4	底部外面部輪郭	底部外面部輪郭	相	5YR8/1	良	口縫部1/3	口縫部外面部輪郭
336	3304	山茶壷	小皿	SK9	底径5.2	—	底部外面部輪郭	底部外面部輪郭	相	2.5YR8/1	良	底部完全	口縫部外面部輪郭
337	3307	山茶壷	桶	SK9	底径5.0	—	底部外面部輪郭	底部外面部輪郭	相	5YR8/1	良	底部1/2	口縫部外面部輪郭
338	3309	山茶壷	桶	SK9	15.7	5.0	底部外面部輪郭	底部外面部輪郭	相	2.5YR8/1	良	口縫部5/8	口縫部外面部輪郭
339	3305	山茶壷	桶	SK9	—	—	他はナメ	他はナメ	相	7.5YR7/1	良	口縫部1/12	口縫部外面部輪郭
340	3301	山茶壷	鉢	SK9	30.2	9.6	外面部輪郭	外面部輪郭	良	10YR6/4	良	口縫部1/2	口縫部外面部輪郭
341	5601	灰土器	甕	SK10	14.2	—	他はナメ	他はナメ	相	7.5YR7/3	良	口縫部1/6	口縫部外面部輪郭
342	10906	灰土器	台付甕	SK11	15.2	—	台部外面部輪郭	台部外面部輪郭	良	10YR7/3	良	台部柱1正	台部外面部輪郭
343	10906	灰土器	台付甕	SK11	14.2	—	台部外面部輪郭	台部外面部輪郭	良	10YR5/2	良	台部柱1正	台部外面部輪郭
344	10904	灰土器	台付甕	SK11	底径5.0	—	台部外面部輪郭	台部外面部輪郭	良	10YR7/3	良	台部柱1正	台部外面部輪郭
345	10903	灰土器	台付甕	SK11	底径5.4	—	台部外面部輪郭	台部外面部輪郭	良	10YR5/2	良	台部柱1正	台部外面部輪郭
346	10902	灰土器	台付甕	SK11	底径5.8	—	台部外面部輪郭	台部外面部輪郭	良	10YR7/3	良	台部柱1正	台部外面部輪郭
347	10901	灰土器	壺	SK11	底径10.4	—	脚部外面部輪郭	脚部外面部輪郭	良	10YR7/3	良	脚部部1/6	脚部外面部輪郭

報告書番号	実測器番号	質	基種等	直構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	給土	色調	極状	残存	特記事項		
348	10302	須恵器	蓋	SK12	17.0	5.6	天井部外表面カケアリ 他はコロナリ	密	2.57/1	不良	口縁部1/6			
349	10303	製土器	鉢	SK12	12.4	-	やや粗 やや厚	5/5R6.8	良	口縁部1/12				
350	9201	土師器	杯	SK13	13.0	-	天井部外表面カケアリ	5/5R6.6	良	口縁部1/8	断底少く、微少く調整不明			
351	9203	須恵器	蓋	SK13	17.4	3.3	底部外表面カケアリ、他はコロナリ	密	5/8/1	不良	口縁部1/4			
352	9202	須恵器	杯	SK13	13.0	3.4	底部外表面カケアリ、他はコロナリ	5/6/1	良	1/2				
353	10007	土師器	杯	SK14	13.8	2.8	ナラ	やや粗 やや厚	5/5R7.6	良	口縁部1/3			
354	10402	土師器	皿	SK14	17.7	1.4	底部外表面調整、内面ナラ	5/5R7.3	良	口縁部1/2				
355	10401	土師器	皿	SK14	18.9	2.4	底部外表面調整、他はナラ	10YR7.3	良	1/2	口縁部1/2	底部少く、微少く調整不明		
356	10507	土師器	甕	SK14	15.8	-	ナラ	5/5R8.3	良	口縁部1/4				
357	10001	土師器	甕	SK14	30.2	-	ナラ	5/5R6.4	良	1/2				
358	10002	土師器	甕	SK14	29.8	-	ナラ	5/5R5.4	良	1/2				
359	10504	須恵器	蓋	SK14	11.5	4.6	天井部外表面ナラ、他はコロナリ	やや粗 やや厚	10YR7.1	不良	口縁部1/3			
360	10505	須恵器	杯	SK14	12.2	3.7	天井部外表面調整、他はコロナリ	やや粗 やや厚	5/5R8.2	良	口縁部1/4			
361	10506	須恵器	杯	SK14	12.6	4.1	底部外表面調整、内面ナラ	5/6	良	口縁部1/4				
362	10407	須恵器	杯	SK14	12.8	3.9	底部外表面カケアリ、他はコロナリ	5/5R8.1	良	口縁部1/6	断底少く、微少く調整不明			
363	10503	須恵器	杯	SK14	15.9	3.2	底部外表面カケアリ、他はコロナリ	やや粗 やや厚	5/5R7.6	良	底部1/2			
364	10405	須恵器	甕	SK14	16.5	3.9	底部外表面カケアリ、他はコロナリ	やや粗 やや厚	5/5R7.6	良	底部1/4			
365	10502	須恵器	甕	SK14	18.5	3.8	底部外表面カケアリ、他はコロナリ	やや粗 やや厚	5/5R7.6	良	底部完全			
366	10403	須恵器	平瓶	SK14	12.0	-	底部外表面下半ナラ	やや粗 やや厚	5/6/1	良	底部1/12			
367	10702	須恵器	平瓶	SK14	-	-	他はナラ	5/6/1	良	把手部小片				
368	10701	須恵器	壺	SK14	-	-	外面部ナラ少く、内面同心円文	やや粗 やや厚	N/7	良	把手部小片			
369	10301	灰陶器	壺	SK15	15.7	2.2	外面部ナラ少く、内面コロナリ	5/5	良	底部1/4	底部1/4			
370	11504	土師器	杯	SK16	10.4	-	外面部調整、内面ナラ	5/7	良	口縁部1/4	内面断底	基盤(底:用)		
371	11503	土師器	杯	SK16	12.1	2.9	外面部調整、内面ナラ	5/7R6.1	良	口縁部1/6				
372	11501	土師器	杯	SK16	16.0	-	外面部調整、内面ナラ	5/7R7.6	良	口縁部1/3				
373	11506	土師器	杯	SK16	12.1	3.5	外面部調整、内面ナラ	5/7R7.6	良	口縁部1/4				
374	11602	土師器	杯	SK16	12.5	3.7	外面部調整、内面ナラ	5/5R7.4	良	1/1.5				
375	11507	須恵器	甕	SK16	9.5	-	ナラ	5/5R6.6	良	1/1.5				
376	11503	須恵器	円筒罐	SK16	最大径17.8	-	ナラ	5/5/1	良	頭部1/4				
377	11605	灰陶器	壺	SK16	17.0	-	底部下半ナラ	密	7.5/7.1	良	頭部1/2	内面断底、隙部無		
378	11604	灰陶器	壺	SK16	17.0	-	底部下半ナラ	粗	7.5/7.1	良	口縁部1/6	灰釉刷毛塗り		
379	11606	灰陶器	壺	SK16	17.6	-	ナラ	5/5/1	良	口縁部1/12	灰釉刷毛塗り			
380	11505	灰陶器	皿	SK16	14.2	1.9	ナラ	5/5/1	良	口縁部1/18	灰釉刷毛塗り 内面コトテン痕			
381	11607	土製品	土壙	SK16	(4.4)×2.2	-	ナラ	5/5/1	良	口縁部1/2	重(5.7.4)			
382	11501	須恵器	土壙	SK16	-	4.6	ナラ	10YR7.2	良	口縁部1/2	基盤少く、微少く調整不明			
383	11502	須恵器	土壙	SK16	-	5.4	ナラ	5/5R6.8	良	口縁部1/2	基盤少く、微少く調整不明			
384	11702	土師器	土壙	SK17	8.4	1.5	天井部外表面調整、他はナラ	やや粗 やや厚	10YR8.1	良	口縁部1/6	重(5.7.4)		
385	11704	土製品	土壙	SK17	4.1×1.1	-	ナラ	5/7.8/1	良	口縁部1/18	重(5.7.4)			
386	11705	土製品	土壙	SK19	4.5×3.5	-	ナラ	5/5R8/2	良	口縁部1/2	重(5.7.4)			
387	11707	土製品	土壙	SK19	(5.0)×3.8	-	ナラ	10YR8.2	良	2/3	口縁部1/2	重(5.7.4)		
388	11706	土製品	土壙	SK19	7.0×3.7	-	ナラ	5/5R8/2	良	1/1.5	口縁部1/2	重(5.7.4)		
389	11703	土製品	土壙	SK20	17.6	-	ナラ	10YR7.3	良	1/1.5	口縁部1/6	1.1mm弱部外面コトテン痕		
390	16403	須恵器	蓋	SK21	11.2	3.7	天井部外表面カケアリ、他はコロナリ	やや粗 やや厚	10YR6.1	良	口縁部1/3			
391	16401	土師器	蓋	SK22	21.8	-	内面ナラ少く、内面コロナリ	5/5R6.3	良	1/1.5	口縁部1/6			
392	16402	土師器	杯	SK22	(12.0)	-	天井部外表面調整、他はコロナリ	5/5R6.3	良	1/1.5	口縁部1/12	内面放射紋		
393	16301	須恵器	蓋	SK22	11.0	-	ナラ	5/5/1	良	1/1.5	口縁部1/12			
394	16302	須恵器	杯	SK22	10.1	-	ナラ	5/5/1	良	1/1.5	口縁部1/12			
395	16303	須恵器	蓋	SK22	10.6	-	天井部外表面カケアリ、他はコロナリ	やや粗 やや厚	5/5/1	良	口縁部1/3			

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴	給土	色調	焼成	残存	特記事項
396	16304	須恵器	蓋	SK22	12.0	2.9	天井部外面にカケヌリ、他にはほかナデ 口縁部外面にカケヌリ	やや粗 N6/ N56/	タ7.5/4.1	良	口縁部1/6	
397	16306	須恵器	蓋	SK22	11.0		他にはほかナデ	やや粗 N6/		良	口縁部1/12	
398	16305	須恵器	蓋	SK22	11.6		底部外面に圓窓、他にはほかナデ 口縁部外面にカケヌリ	やや粗 N6/ N57/1		良	口縁部1/6	外底自然釉のため調整不可解
400	16309	須恵器	杯	SK22	11.4		底部外面に圓窓、他にはほかナデ 口縁部外面にカケヌリ	やや粗 N6/ N58/1		良	底部1/12	外底自然釉のため調整不可解
401	16308	須恵器	杯	SK22	-	3.1	口縁部外面にカケヌリ	粗 N4/		良	小片	
402	16310	須恵器	高杯	SK23	25.0	2.9	底部外面に圓窓、内面ナデ 外面部ナデ、内面ナデ	やや粗 N6/ N59/3	10.08/3	良	口縁部1/4	内面自然釉のため調整不可解
403	16601	土師器	甕	SK23	10.8		底部外面に圓窓、内面ナデ	やや粗 N6/ N58/3	7.5/4.8/3	良	口縁部1/4	内面繊維前文
404	16502	土師器	甕	SK23	15.7		底部外面に圓窓、内面ナデ	やや粗 N6/ N59/1	51.08/1	良	口縁部1/4	
405	16504	土師器	甕	SK23	15.7		底部外面に圓窓、内面ナデ	やや粗 N6/ N59/1	51.02/1	良	底部1/6	自然釉のため調整不可解
406	16503	須恵器	甕	SK23	底径12.2		底部外面に圓窓、内面ナデ	やや粗 N6/ N59/1		良	口縁部1/12	口縁部内部に土縫一束
407	16505	須恵器	甕	SK23	17.6	1.1	底部外面に圓窓、内面ナデ	やや粗 N6/ N59/4	7.5/7.4	良	口縁部1/12	口縁部内部に土縫一束
408	16506	土師器	甕	SK23	7.6	5.6	底部外面に切跡、他にはほかナデ 厚さ1.0	やや粗 N6/ N59/1		良	口縁部1/4	底部外面に墨書きの「高台にモシガラ原
409	16501	土師器	甕	SK23	14.4		底部外面に切跡、他にはほかナデ 厚さ1.0	やや粗 N6/ N59/1		良	口縁部1/4	底部外面に墨書きの「高台にモシガラ原
410	木105	器物(木板)	器物	SK23	6(15.0)		底部外面に切跡、他にはほかナデ 厚さ1.0	やや粗 N6/ N59/1		-	-	
411	16801	土師器	甕	SK24	20.2	2.3	内面にカケヌリ後、内面ナデ 底部外面に切跡、他にはほかナデ 厚さ1.0	粗 N6/ N59/4	51.08/4	良	口縁部1/4	内面斜格子暗文・螺旋前文
412	16802	須恵器	杯	SK24	11.3	3.8	底部外面に切跡、他にはほかナデ 厚さ1.0	やや粗 N6/ N59/1	51.08/4	良	口縁部1/4	
413	木201	不明品	土師器	SK24	(6.2)×(3.4)	厚さ4.7	底部外面にカケヌリ、他にはほかナデ 厚さ1.0	やや粗 N6/ N59/4	10.08/4	良	口縁部1/12	
414	16901	土師器	甕	SK25	36.4		底部外面にカケヌリ、他にはほかナデ 厚さ1.0	やや粗 N6/ N59/4	10.08/4	良	口縁部1/4	内面焼き流れり
415	16902	須恵器	杯	SK25	11.5	4.2	一部底面にカケヌリ、他にはほかナデ 底部外面下部にカケヌリ	やや粗 N6/ N59/4	7.5/7.6/4	良	小片	内面焼き流れり
416	37004	土製品	馬	SK25	-		底部外面下部にカケヌリ 他にはほかナデ	やや粗 N6/ N59/4		-	-	中央に横円孔
417	16903	須恵器	甕	SK25	体径9.8		底部外面下部にカケヌリ 他にはほかナデ	やや粗 N6/ N59/4		不	体部完存	中央に横円孔
418	19701	磁器	器存	SK30	6.5	5.7	口付ナデ	密 N8/		良	1/2	外底余存
419	19702	磁器	瓶口	SK30	4.7	2.2	口付ナデ	密 N8/		良	1/3	外底余存
420	木107	不明品	容器	SK30	(9.9)×(2.2)	厚さ1.5		-	-	-	-	外底余存
421	木103	不明品	容器	SK33	底径8.8			-	-	-	-	外底余存
422	木102	不明品	容器	SK33	底径8.5			-	-	-	-	外底余存
423	木101	不明品	容器	SK34	(5.1)×(5.9)	厚さ1.3		-	-	-	-	中央に横円孔
424	19902	磁器	柄	SK35	10.6	0.9(?)		-	-	-	-	中央に横円孔
425	19804	磁器	私財具	SK35	38.0		内面未調査、他はほかナデ	密 N8/		良	口縁部1/10	伊万里
426	19803	陶器	壺鉢	SK35	底径8.7		底部外面系切痕、他はほかナデ	角 N8/		良	脚部完存	瀬戸
427	19802	陶器	壺鉢	SK35	底径8.8		外面部カケヌリ、内面剥落	角 N8/	5.78/1	良	口縁部1/8	
428	19801	陶器	甕	SK35	38.0		外面部カケヌリ、内面剥落	角 N8/	10.8/3	良	口縁部1/10	常滑
429	木502	辰翁具	下駄	SK35	(13.8)×6.8	厚さ1.6		-	-	-	-	
430	20001	磁器	柄	SK37	11.0	1.6	口付ナデ	密 N8/		良	口縁部1/4	内外底余存
431	20002	瓦質土器	焼拂	SK37	35.1		口付ナデ	密 N8/		良	口縁部1/6	外底余存
432	20003	瓦質土器	焼拂	SK40	34.4		口付ナデ	密 N8/	2.578/3	良	口縁部1/12	外底余存
433	20004	陶器	香炉	SK40	8.3	5.3	外面部カケヌリ、内面カケヌリ	密 N8/	5.57/7/1	良	口縁部1/4	瀬戸美濃 二次地成
434	20101	磁器	柄	SK40	8.0	4.4	口付ナデ	密 N8/		良	1/4	底部内部に餘存

報告書番号	実測器番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴		給土	色調	焼成	残存	内外面塗装	特記事項
							N ₈	角						
335	20102	磁器	桶	SK40	10.4	5.7	ロクハナデ	-	-	-	-	-	内外面塗装	
336	木104	不明品	下駄	SK40	(7.0)×(8.4) (22.0)×8.7	厚さ2.5 厚さ1.2	底部外面系切痕、他はロカボナデ ヨコナデ	密	N ₈ /1	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
337	木104	蓑着具	下駄	SK41	底	3.8	-	密	10YR7/3	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
338	木104	山茶桶	桶	SK41	-	-	-	密	10YR7/3	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
339	木104	下駄器	桶	SK42	-	-	ヨコナデ	密	10YR7/3	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
340	24404	下駄器	桶	SK42	-	-	ヨコナデ	密	10YR7/3	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
341	24405	下駄器	桶	SK42	-	-	ヨコナデ	密	10YR7/3	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
342	24405	下駄器	小皿	SK42	8.1	1.7	底部外面系切痕、他はロカボナデ ヨコナデ	密	10YR7/4	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
343	24403	下駄器	桶	SK42	13.6	5.7	底部外面系切痕、他はロカボナデ ヨコナデ	密	10YR7/1	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
344	24403	下駄器	桶	SK42	13.0	4.6	底部外面系切痕、他はロカボナデ ヨコナデ	密	10YR7/1	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
345	木1001	香炉	曲物(底)	SK42	16.1	4.8	ヨコナデ	密	-	-	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
346	28305	下駄器	桶	SK43	17.2	4.0	ヨコナデ	密	10YR7/2	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
347	28304	下駄器	桶	SK43	28.4	8.4	ヨコナデ	密	7.5/3/1	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
348	28302	山茶桶	桶	SK43	底	18.2	-	密	5/5/1	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
349	28303	山茶桶	桶	SK43	底	18.7	-	密	5/5/1	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
350	28301	山茶桶	桶	SK43	底	18.0	-	密	5/5/1	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
351	24901	板状木製品	小皿	SK44	8.0	1.5	底部外面系切痕、他はロカボナデ ヨコナデ	密	10YR7/1	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
352	木1501	板状木製品	不明品	SK44	8.8×7.0	0.6	底部外面系切痕、他はロカボナデ ヨコナデ	密	-	-	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
353	木1501	板状木製品	不明品	SK45	13.5	4.7	底部外面系切痕、他はロカボナデ ヨコナデ	密	5/5/1	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
354	27402	下駄器	桶	SK47	底	16.2	-	密	5/5/8/3	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
355	27403	下駄器	桶	SK47	底	16.2	-	密	5/5/8/3	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
356	27404	須器	盖	SK47	-	-	ヨコナデ	密	5/5/1	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
357	27401	下駄器	蓋	SK47	-	-	ヨコナデ	密	5/5/1	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
358	26701	生糸下駄器	蓋	SK48	8.6	1.5	底部外面系切痕、他はロカボナデ ヨコナデ	密	10YR7/1	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
359	26703	生糸下駄器	蓋	SK48	底	18.2	-	密	10YR7/3	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
360	26904	下駄器	杯	SK49	11.9	2.8	外面部調節、内面部	密	10YR8/3	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
361	27002	下駄器	杯	SK49	12.4	3.2	底部外面削り足ナデ、内面部ナデ	密	10YR8/3	良	底部ほぼ完全 口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
362	27001	下駄器	杯	SK49	12.6	3.3	外面部調節、内面部ナデ	密	5/5/4	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
363	26903	下駄器	杯	SK49	13.0	2.9	外面部調節、内面部ナデ	密	5/5/4	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
364	26904	下駄器	杯	SK49	13.0	3.2	外面部調節、内面部ナデ	密	5/5/3	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
365	26805	下駄器	杯	SK49	13.1	3.5	底部外面調節、内面部ナデ	密	5/5/4	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
366	27102	下駄器	杯	SK49	13.2	3.6	外面部調節、内面部ナデ	密	5/5/8/4	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
367	26803	下駄器	杯	SK49	13.3	3.2	外面部調節、内面部ナデ	密	5/5/8/2	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
368	26905	下駄器	杯	SK49	13.3	3.5	外面部調節、内面部ナデ	密	10YR8/3	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
369	26902	下駄器	蓋	SK49	15.6	4.0	外面部ナデ、内面部工具ナデ	密	10YR8/2	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
370	26901	下駄器	蓋	SK49	25.0	4.0	外面部ナデ、内面部工具ナデ	密	10YR6/4	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
371	27105	黑色土器	三	SK49	14.0	4.0	外面部ナデ	密	10YR7/4	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	A類
372	26901	黑色土器	杯	SK49	16.9	3.8	外面部ナデ、内面部ナデ	密	5/5/3	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
373	27202	須器	桶	SK49	底	18.6	-	密	5/5/1	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
374	27104	須器	杯	SK49	12.8	3.5	底部外面削り足ナデ、他はロカボナデ	密	5/5/2	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
375	27103	灰陶器	蓋	SK49	13.4	3.5	天井部外面カクアズ、他はロカボナデ	密	5/5/1	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
376	27206	灰陶器	桶	SK49	底	18.6	-	密	5/5/8/1	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
377	27205	灰陶器	桶	SK49	底	18.7	-	密	5/5/1	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
378	27207	灰陶器	桶	SK49	底	18.0	-	密	5/5/8/2	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
379	27203	灰陶器	桶	SK49	底	17.1	-	密	5/5/8/2	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
380	27201	灰陶器	皿	SK49	13.8	3.8	底部外面カクアズ、他はロカボナデ	密	5/5/1	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
381	27101	灰陶器	皿	SK49	14.4	2.8	底部外面カクアズ、他はロカボナデ	密	5/5/8/2	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
382	27106	灰陶器	桶	SK49	16.8	4.3	底部下面カクアズ、他はロカボナデ	密	5/5/8/1	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	
383	27003	土製品	土鍋	SK49	4.8×1.9	-	-	密	2.5/8/2	良	口縁部少少存	底部外面に墨書き文字	底部外面に墨書き文字	直立(15.4cm)

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴	給土	色調	焼成	残存	特記事項
184	26802	埴土器	鉢	SK49	14.0	5.7	外面未燃焼、内面未仕上げ	密	5.0YR7.6 7.5YR6.1 5.5YR7.1	良	口縁部/3	内面やや火照れ、 高台に本造り
185	1507	山茶陶	小皿	近世土焼SK50	7.5	2.1	底面外周斜め切痕、他はロココテ	やや密	7.5YR7.6 5.5YR6.1 5.5YR7.3	良	底部完存	内面やや火照れ、 高台に本造り
186	1503	山茶陶	鉢	近世土焼SK54	底径6.1	1.6	外面未燃焼、他はロココテ	密	7.5YR7.6 5.5YR6.1 5.5YR7.3	良	1/6	内面やや火照れ、 高台に本造り
187	1504	土師器	皿	近世土焼SK56	9.6	-	外面未燃焼、他はロココテ	密	7.5YR7.6 5.5YR6.1 5.5YR7.3	良	口縁部/3	内面やや火照れ、 高台に本造り
188	1502	土師器	皿	近世土焼SK57	11.0	-	外面未燃焼、他はロココテ	密	7.5YR7.6 5.5YR6.1 5.5YR7.3	良	口縁部/3	内面やや火照れ、 高台に本造り
189	1503	土師器	皿	近世土焼SK56	12.9	-	外面未燃焼、他はロココテ	密	7.5YR7.6 5.5YR6.1 5.5YR7.3	良	口縁部/12	内面やや火照れ、 高台に本造り
190	1601	土師器	焰塔	近世土焼	42.8	-	外面未燃焼、内面未仕上げ	密	7.5YR2.1 5.5YR8.6 5.5YR8.6	良	1/8	外表面
191	1102	土師器	焰塔	近世土焼SK53	39.8	-	外面未燃焼、内面未仕上げ	密	7.5YR6.6 5.5YR6.6 5.5YR6.6	良	口縁部/12	外表面やや火照れ、 高台に本造り
192	1505	陶器	盃	近世土焼SK56	19.8	-	外面未燃焼	密	7.5YR6.6 5.5YR6.6 5.5YR6.6	良	1/8	外表面やや火照れ、 高台に本造り
193	1001	陶器	盃	近世土焼SK51	11.6	-	外面未燃焼	密	7.5YR6.1 5.5YR6.1 5.5YR6.1	良	口縁部/6	内面やや火照れ、 高台に本造り
194	1305	陶器	皿	近世土焼SK57	7.8	-	外面未燃焼、内面やや火照れ	密	7.5YR4.3 5.5YR4.3 5.5YR4.3	良	口縁部/4	火照受皿
195	1304	陶器	蓋	近世土焼SK57	5.4	-	外面未燃焼	密	7.5YR2.1 5.5YR8.2 5.5YR8.2	良	3/4	信楽青土板蓋
196	1306	陶器	束縄	近世土焼SK57	4.5	2.5	底面外周斜め切痕、他はロココテ	密	7.5YR8.1 5.5YR8.1 5.5YR8.1	良	口縁部/2	内面やや火照れ、 高台に本造り
197	1501	陶器	皿	近世土焼SK55	11.7	2.4	底面外周斜め切痕、他はロココテ	密	7.5YR6.6 5.5YR6.6 5.5YR6.6	良	1/2	内面やや火照れ、 高台に本造り
198	1302	陶器	湯呑	近世土焼SK57	-	-	外面未燃焼	密	7.5YR6.1 5.5YR6.1 5.5YR6.1	良	口縁部小片	内面やや火照れ、 高台に本造り
199	1203	陶器	皿	近世土焼SK57	16.8	-	外面未燃焼	密	7.5YR6.1 5.5YR6.1 5.5YR6.1	良	口縁部小片	内面やや火照れ、 高台に本造り
200	1404	陶器	雪平	近世土焼SK57	底径8.8	-	外面未燃焼	密	7.5YR6.1 5.5YR6.1 5.5YR6.1	良	口縁部小片	内面やや火照れ、 高台に本造り
201	1307	陶器	湯呑	近世土焼SK57	8.6	5.8	底面外周斜め切痕、他はロココテ	密	7.5YR4.4 5.5YR4.4 5.5YR4.4	良	2/3	内面やや火照れ、 高台に本造り
202	1005	陶器	杓	近世土焼SK53	9.4	6.4	底面外周斜め切痕、他はロココテ	密	7.5YR6.1 5.5YR6.1 5.5YR6.1	良	口縁部/4	内面やや火照れ、 高台に本造り
203	1006	陶器	杓	近世土焼SK53	9.4	6.4	底面外周斜め切痕、他はロココテ	密	7.5YR6.1 5.5YR6.1 5.5YR6.1	良	口縁部/4	内面やや火照れ、 高台に本造り
204	1002	磁器	蓋	近世土焼SK53	底径8.0	-	外面未燃焼	密	5.5YR6.1 5.5YR6.1 5.5YR6.1	良	底部5/12	内面やや火照れ、 高台に本造り
205	1103	磁器	豆口	近世土焼SK53	-	-	外面未燃焼	密	7.5YR6.4 5.5YR6.4 5.5YR6.4	良	小片	内面やや火照れ、 高台に本造り
206	1007	磁器	蓋	近世土焼SK53	底径3.7	-	外面未燃焼	密	7.5YR6.3 5.5YR6.3 5.5YR6.3	良	底部完存	常滑
207	1403	磁器	鉢	近世土焼SK57	21.4	-	外面未燃焼	密	7.5YR7.2 5.5YR7.2 5.5YR7.2	良	口縁部/12	内面やや火照れ、 高台に本造り
208	1101	磁器	蓋	近世土焼SK53	35.4	-	外面未燃焼	密	7.5YR6.3 5.5YR6.3 5.5YR6.3	良	口縁部/12	内面やや火照れ、 高台に本造り
209	1205	磁器	瓶	近世土焼SK57	-	-	外面未燃焼	密	5.5YR3.4 5.5YR3.4 5.5YR3.4	-	内面やや火照れ、 高台に本造り	重570.0g 高度25.0cm
210	1204	石製品	砥石	近世土焼SK57	9.4×2.7	厚2.0	-	-	-	-	-	御腰井軸 木瓜形重
211	905	陶器	皿	近世土焼SK52	底径5.7	-	外面未燃焼	密	5.5YR1 5.5YR1 5.5YR1	良	底部完存	内面やや火照れ、 高台に本造り
212	1701	陶器	甕	近世土焼SK51	39.0	-	外面未燃焼	密	5.5YR6.3 5.5YR6.3 5.5YR6.3	良	口縁部/12	常滑
213	1802	陶器	壺	近世土焼SK52	38.0	-	外面未燃焼、口縁部やや火照れ	やや密	5.5YR3.3 5.5YR3.3 5.5YR3.3	良	口縁部/12	内面やや火照れ、 高台に本造り
214	1801	陶器	壺	近世土焼SK52	45.7	-	外面未燃焼、口縁部やや火照れ	やや密	5.5YR2.2 5.5YR2.2 5.5YR2.2	良	口縁部/12	内面やや火照れ、 高台に本造り
215	1508	陶器	皿	近世土焼SK60	10.8	2.5	外面未燃焼、内面やや火照れ	密	7.5YR6.3 5.5YR6.3 5.5YR6.3	良	口縁部/12	内面やや火照れ、 高台に本造り
216	1805	陶器	甕	近世土焼SK52	66.2	-	外面未燃焼	密	5.5YR8.3 5.5YR8.3 5.5YR8.3	良	常滑	内面やや火照れ、 高台に本造り
217	1003	磁器	鉢	近世土焼SK53	底径8.0	-	外面未燃焼	密	7.5YR8.4 5.5YR8.4 5.5YR8.4	良	底部完存	直接重ね地き 肥前
218	903	磁器	杓	近世土焼SK52	底径3.8	-	外面未燃焼	密	5.5YR1 5.5YR1 5.5YR1	良	底部/2	波佐見
219	901	磁器	杓	近世土焼SK52	9.5	5.1	外面未燃焼	密	5.5YR1 5.5YR1 5.5YR1	良	3/4	波佐見
220	904	磁器	杓	近世土焼SK52	10.2	5.7	外面未燃焼	密	5.5YR1 5.5YR1 5.5YR1	良	1/4	波佐見

特記事項											
報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	粘土	色調	施成	残存
521	902	陶器	壺	近世七方SK52	9.6	5.9	口円凹切子	5V8/1 花 白青	やや不良	2/3	瓶口
522	1004	磁器	壺	近世七方SK53	8.3	4.4	内面凹切子	5V8/1 花 白青	良	底部完存	
523	1303	磁器	小瓶	近世七方SK57	9.4	5.0	花 白青	良	良	体部小片	
524	1201	磁器	壺	近世七方SK57	9.2	2.5	花 白青	良	1/4	肥前	
525	1301	磁器	壺	近世七方SK57	9.2	2.5	花 白青	良	3/5	肥前	
526	1202	磁器	壺	近世七方SK57	8.3	6	花 白青	良	底部完存	横文柄蓋	
527	1402	磁器	小壺	近世七方SK57	7.4	3.8	花 白青	良	1/2	瓶口	
528	1401	磁器	壺	近世七方SK57	8.2	4.2	花 白青	良	1/2	瓶口	
529	1804	磁器	壺	近世七方SK59	8.3	3.7	花 白青	良	1/4	肥前?	
530	1506	磁器	直口壺	近世七方SK58	4.4	1.2	花 白	良	1/4		
531	505	石製品	石甕	SD1	3.3×4.3	厚30.8	-	-	元在	直33.5mm、半丸子	
532	301	医生土器	壺	SD1	12.8	9.1	口部外側内面凹切子 口部部外側内面凹切子 全体外側内面凹切子、内面凹切子	5V8/7/4 5V8/7/4 5V8/7/4	良	口部端部外面に刻文列点文	
533	509	医生土器	壺	SD1	9.1	7.4	花 白青	良	1/3	横文柄蓋	
534	404	医生土器	壺	SD1	17.2	13.9	花 白青	良	2/3	口部端部外面に刻文列点文	
535	601	医生土器	壺	SD1	13.9	11.6	花 白青	良	1/3	須部に刻文列点文	
536	603	医生土器	壺	SD1	18.6	14.4	花 白青	良	1/2	須部が激しく彫る	
537	604	医生土器	壺	SD1	18.9	14.1	花 白青	良	1/2	彫痕が激しく彫る	
538	602	医生土器	壺	SD1	18.6	12.2	外面部へ行き、内面ナメ	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	口部端部外面に刻文列点文	
540	303	土師器	壺	SD1	15.6	10.5	外面部へ行き、内面未調査	5V8/2 5V8/2 5V8/2	良	口部端部外面に刻文列点文	
541	401	土師器	壺	SD1	22.2	16.0	外面部へ行き、内面ナメ	5V8/2 5V8/2 5V8/2	良	口部端部外面に刻文列点文	
542	606	土師器	壺	SD1	16.0	11.6	外面部へ行き、内面ナメ	5V8/2 5V8/2 5V8/2	良	口部端部外面に刻文列点文	
543	402	土師器	杯	SD1	16.6	11.6	外面部へ行き、内面ナメ	5V8/2 5V8/2 5V8/2	良	口部端部外面に刻文列点文	
544	304	土師器	鉢	SD1	33.9	21.0	外面部へ行き、内面ナメ	5V7/2 5V7/2 5V7/2	良	口部端部外面に刻文列点文	
545	301	土師器	鉢	SD1	23.8	17.0	外面部へ行き、内面ナメ	5V4/2 5V4/2 5V4/2	良	口部端部外面に刻文列点文	
546	801	須器	鉢	SD1	27.2	18.0	外面部へ行き、内面ナメ	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	口部端部外面に刻文列点文	
547	177	須器	杯	SD1	12.1	10.6	口凹子	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	底部1/2	
548	705	須器	杯	SD1	12.7	10.6	口凹子	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	三叉トランク質	
549	702	綠釉器	壺	SD1	15.0	10.7	底部外側面に、他は口凹子	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	底部1/6	
550	608	山茶樹	壺	SD1	18.8	14.0	底部外側面切削、他は口凹子	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	底部完存	
551	609	山茶樹	壺	SD1	18.7	14.0	底部外側面切削	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	底部1/2	
552	502	灰陶器	壺	SD1	18.7	9	底部外側面切削	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	底部1/2	
553	508	灰陶器	壺	SD1	18.6	8.6	底部外側面切削	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	底部1/2	
554	605	灰陶器	壺	SD1	9.6	5.0	底部外側面切削、他は口凹子	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	11.5cm	
555	604	灰陶器	壺	SD1	10.5	5.0	底部外側面切削、他は口凹子	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	11.5cm	
556	1107	灰陶器	壺	SD1	7.3	4.0	底部外側面切削、他は口凹子	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	底部1/2	
557	503	灰陶器	壺	SD1	6.8	3.6	底部外側面切削、他は口凹子	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	底部1/3	
558	501	灰陶器	壺	SD1	10.0	5.7	底部外側面切削、他は口凹子	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	1/2	
559	507	灰陶器	壺	SD1	7.5	3.7	底部外側面切削、他は口凹子	5V8/1 5V8/1 5V8/1	不良	底部完存	
560	703	白磁	壺	SD1	11.8	9.0	口凹子	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	口縁部1/12	
561	802	瓦	瓦	SD1	-	-	屋根瓦	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	陶質	
562	405	須器	壺	SD1	-	-	5V8/1 5V8/1 5V8/1	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	1/1	
563	403	瓦	瓦	SD1	3.3×3.3	-	屋根瓦	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	11.7cm	
564	803	瓦	瓦	SD1	-	-	屋根瓦	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	11.7cm	
565	804	瓦	瓦	SD1	-	-	屋根瓦	5V8/1 5V8/1 5V8/1	良	11.7cm	

報告 番号	実験 番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高 (cm)	調整抜法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
566	22104	石製品	RF	SD2	3.70×2.45	厚21.01	ナメル	-	-	-	保存	重さ13.0g チャート
567	21804	乳頭器	急	SD2	21.2	22.3	外面部ナメル、内面部ナメル	やや粗	口縁部/4	良	口縁部/4	胎底が微く圓滑 不明瞭
568	8701	土師器	急	SD2	15.3	15.4	外面部圓滑、内面部工具ナメル	相	10YR8/3	良	口縁部/4	
569	21803	土師器	鰐	SD2	15.6	15.6	外面部ナメル、内面部工具ナメル	やや粗	7.5YR8/4	良	口縁部/6	
570	8703	土師器	鰐	SD2	33.6	33.6	脚部外面部ベテナメル、内面部ナメル	相	7.5YR8/4	良	口縁部/12	
571	8507	土師器	高杯	SD2	脚径16.3	脚径16.3	脚部外面部ベテナメル、内面部ナメル	粗	5YR7.4	良	脚部/3	脚部八面に崩れ
572	8306	土師器	高杯	SD2	底径14.0	-	脚部外面部ベテナメル、内面部ナメル	密	7.5YR8/4	良	脚部/3	脚部八面に崩れ
573	22001	土師器	皿	SD2	20.0	21.8	外面部ナメル、内面部ナメル	相	7.5YR7.8	良	口縁部/5	胎底が微く圓滑 不明瞭
574	21501	土師器	甕	SD2	底15.6	底15.6	外面部圓滑、内面部ナメル	やや粗	10YR10/0	良	口縁部/10	内面にへき食跡*
575	8103	須恵器	杯	SD2	14.4	14.4	底部外面部圓滑、他は切妻ナメル	やや粗	5YR11/5	良	底部/12	
576	8106	須恵器	杯	SD2	-	-	底部外面部切妻ナメル、他は切妻ナメル	やや粗	5YR11/4	良	底部外面部にへき食跡	
577	8504	須恵器	甕	SD2	-	-	ナメル	密	9YR8/8	良	口縁部小片	
578	8502	須恵器	甕	SD2	14.2	14.2	外面部ナメル、内面部ナメル	やや粗	5YR8/4	良	口縁部小片	口縁部に崩れ突起点による斜状文
579	8102	須恵器	直	SD2	底15.6	底15.6	底部外面部切妻ナメル、他は切妻ナメル	やや粗	5YR6/1	良	口縁部/4	
580	8104	須恵器	杯	SD2	13.9	-	底部外面部ナメル、他は切妻ナメル	粗	5YR6/1	良	底部/4	
582	22002	須恵器	器台	SD2	-	-	外面部切妻ナメル、内面部圓滑	やや粗	5YR7/1	良	底部小片	脚脚
583	36901	須恵器	甕	SD2	-	-	ナメル	やや粗	10YR8/6	良	口縁部小片	口縁部外面部に愛狀文
584	8503	須恵器	甕	SD2	-	-	外面部ナメル、内面部ナメル	やや粗	5YR7/1	良	口縁部小片	口縁部に崩れ突起点による斜状文
585	8501	須恵器	甕	SD2	-	-	底部外面部切妻ナメル、他は切妻ナメル	やや粗	5YR7/1	良	口縁部小片	口縁部外面部に崩れ突起点による斜状文
586	8603	須恵器	甕	SD2	-	-	ナメル	やや粗	5YR8/3	良	口縁部小片	口縁部外面部に愛狀文
587	8602	須恵器	甕	SD2	-	-	ナメル	やや粗	2.5YR3/1	良	口縁部小片	口縁部外面部に崩れ突起点による斜状文
588	21502	須恵器	甕	SD2	26.0	26.0	口縁部切妻ナメル	やや粗	2.5YR5/1	良	口縁部小片	口縁部外面部に崩れ突起点による斜状文
589	8601	須恵器	甕	SD2	36.0	36.0	体部内面部同心円文	やや粗	10YR8/2	良	口縁部/4	ヘアラブ工芸による斜状文
590	8304	土師器	皿	SD2	13.4	2.8	外面部圓滑、内面部ナメル	相	7.5YR3/4	良	口縁部小片	口縁部外面部に愛狀文 沈線
591	8303	土師器	皿	SD2	12.9	3.1	内外面部ナメル、一部ベタ付	密	5YR8/3	良	口縁部/6	
592	8302	土師器	皿	SD2	15.5	15.5	ナメル	密	2.5YR8/2	良	口縁部/8	
593	7605	灰陶器	段皿	SD2	16.8	16.8	ナメル	密	5YR7/1	良	口縁部/8	灰釉刷毛塗り
594	8301	砂付土師器	柄	SD2	底15.8	底15.8	底部外面部切妻ナメル、内面部ナメル	密	7.5YR7/3	良	口縁部/6	胎底が微く圓滑 不明瞭
595	8203	砂付土師器	柄	SD2	10.4	1.7	外面部圓滑、内面部ナメル	密	7.5YR7/4	良	口縁部/6	
596	8405	黑色土器	柄	SD2	14.3	4.1	外面部圓滑、内面部ベタ付	密	10YR8/2	良	口縁部1/2	A類
597	8404	黑色土器	柄	SD2	14.9	4.3	内面部ベタ付、外面部ベタ付	密	10YR8/2	良	口縁部/8	A類
598	8406	黑色土器	柄	SD2	13.6	4.8	外面部圓滑、内面部ベタ付	密	10YR8/2	良	口縁部/4	A類
599	8305	土師器	皿	SD2	底15.3	-	ナメル	密	10YR8/3	良	底部完全	
600	8308	土師器	甕	SD2	15.3	-	ナメル	密	10YR8/3	良	口縁部/4	
601	8202	土師器	甕	SD2	15.6	-	ナメル	密	10YR7/3	良	口縁部/12	
603	21701	土師器	甕	SD2	16.0	-	ナメル	密	10YR8/3	良	口縁部完全	
604	8702	土師器	甕	SD2	21.2	-	ナメル	密	7.5YR8/3	良	口縁部/12	
605	21801	土師器	甕	SD2	18.8	-	ナメル	密	7.5YR8/3	良	口縁部/6	
606	7606	灰陶器	柄	SD2	底15.8	-	底部外面部切妻ナメル、内面部ナメル	密	5YR7/1	良	底部2/5	灰釉刷毛塗り

報告書番号	実測番号	質	基種等	道構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	給土	色調	極状	残存	特記事項
607	7607	灰軸陶器	楕	SD2	底18.6	底18.6	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/6.3	良	底部1/4	灰軸毛金り	
608	7897	灰軸陶器	楕	SD2	底18.5	底18.5	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/8.1	良	底部1/4	内面やや堅毛	
609	23003	灰軸陶器	楕	SD2	底18.0	底18.0	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/8.1	良	底部完全	内面やや堅毛	
611	80002	灰軸陶器	楕	SD2	16.5	5.0	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 7.5/7.2	良	底部1/2	灰軸毛金り 内面堅毛	
611	8204	灰軸陶器	楕	SD2	15.4	4.9	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/7.1	良	底部1/2	灰軸毛金り 内面堅毛	
611	8209	灰軸陶器	楕	SD2	底18.6	底18.6	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/8.1	良	底部1/4	灰軸毛金り 内面堅毛	
612	7899	灰軸陶器	楕	SD2	底18.5	底18.5	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/8.2	良	底部1/2	灰軸毛金り 内面堅毛	
613	7894	灰軸陶器	楕	SD2	底18.2	底18.2	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/8.2	良	底部1/2	灰軸毛金り 内面堅毛	
614	7102	灰軸陶器	楕	SD2	底18.1	底18.1	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/8.1	良	底部1/2	灰軸毛金り 内面堅毛	
615	7902	灰軸陶器	楕	SD2	底18.0	底18.0	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/8.2	良	底部1/8	灰軸毛金り	
616	7604	灰軸陶器	楕	SD2	14.8	4.9	底部外面系切痕、他はコロナデ	密 輪 2.5/8.2	良	1/2	灰軸貴掛	
617	8206	灰軸陶器	楕	SD2	19.7	19.7	0.9コナデ	密 輪 5/7.1	良	口東部1/2	灰軸貴掛	
618	7802	灰軸陶器	楕	SD2	底18.9	底18.9	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 10YR7/7	良	底部1/4	灰軸貴掛	
619	7601	灰軸陶器	楕	SD2	16.8	4.6	0.9コナデ	密 輪 5/7.1	良	1/4	灰軸貴掛	
620	8207	灰軸陶器	楕	SD2	底18.8	底18.8	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/6.2	良	底部1/4	灰軸貴掛	
621	7701	灰軸陶器	楕	SD2	底18.0	底18.0	0.9コナデ	密 輪 5/7.2	良	底部1/7	内面堅毛 直接重ね焼き	
622	21903	灰軸陶器	楕	SD2	底18.0	底18.0	底部外面系切痕、他はコロナデ	密 輪 5/7.1	良	底部1/4	内面堅毛	
623	7891	灰軸陶器	楕	SD2	底18.1	底18.1	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/6.1	良	底部1/4	内面堅毛	
624	7704	灰軸陶器	楕	SD2	底18.2	底18.2	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 10YR7/2	良	底部1/4	内面堅毛	
625	8005	灰軸陶器	楕	SD2	底18.3	底18.3	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/7.1	良	底部1/3	内面堅毛	
626	21902	灰軸陶器	楕	SD2	底18.0	底18.0	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/7.1	良	底部完全	内面堅毛	
627	7703	灰軸陶器	楕	SD2	底18.2	底18.2	0.9コナデ	密 輪 5/8.1	良	底部1/3	直接重ね焼き	
628	7901	灰軸陶器	楕	SD2	底18.4	底18.4	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/8.2	良	底部1/8	底部外面に墨書き 直接重ね焼き	
629	7706	灰軸陶器	楕	SD2	底18.1	底18.1	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/7.1	良	底部1/3	内面外毛	
630	7603	灰軸陶器	楕	SD2	底18.8	底18.8	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/8.1	良	底部1/4	内面外毛	
631	21605	灰軸陶器	楕	SD2	底18.0	底18.0	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/7.1	良	底部1/3	直角重ね焼き	
632	21604	灰軸陶器	楕	SD2	底18.6	底18.6	体部外面 下半部分カスメリ	密 輪 5/7.1	良	底部1/4	内面外毛	
633	7803	灰軸陶器	楕	SD2	底18.0	底18.0	0.9コナデ	密 輪 5/7.1	良	底部1/4	直接重ね焼き	
634	8001	灰軸陶器	楕	SD2	底18.0	底18.0	底部外面のカスメリ、他はコロナデ	密 輪 5/8.2	良	底部1/4	灰軸毛金り	
635	7806	灰軸陶器	楕	SD2	14.6	2.3	底部外面未調査、他はコロナデ	密 輪 5/8.1	良	1/4	灰軸毛金り 簡部直角重ね焼き	
636	7805	灰軸陶器	楕	SD2	底18.9	底18.9	底部外面未調査、他はコロナデ	密 輪 5/7.1	良	底部1/4	灰軸毛金り	
637	7705	灰軸陶器	楕	SD2	底18.7	底18.7	底部外面系切痕、他はコロナデ	密 輪 5/8.1	良	底部1/2	転用部外面上に點付着	
638	8205	灰軸陶器	楕	SD2	底18.6	底18.6	体部外面下半部分カスメリ	密 輪 2.5/8.2	良	1/4	灰軸毛金り 内面堅毛	
639	21904	灰軸陶器	楕	SD2	底18.1	底18.1	0.9コナデ	密 輪 5/7.1	良	底部1/4	内面堅毛	
640	8105	須恵器	杯	SD2	底18.8	底18.8	底部外面系切痕、他はコロナデ	密 輪 5/6.1	良	底部1/2	内面外毛	
641	8101	須恵器	杯	SD2	底18.1	底18.1	0.9コナデ	密 輪 5/6.1	良	底部1/4	内面外毛	
642	22004	灰軸陶器	楕	SD2	底18.8	底18.8	底部外面未調査、他はコロナデ	密 輪 5/6.1	良	底部1/4	内面外毛	
643	21606	灰軸陶器	楕	SD2	底18.0	底18.0	底部外面未調査、他はコロナデ	密 輪 5/8.1	良	底部1/3	内面外毛	
644	22005	灰軸陶器	楕	SD2	底18.0	底18.0	外側部分カスメリ、内側コロナデ	密 輪 10YR6/2	良	底部1/3	内面外毛	
645	8401	灰軸陶器	甕	SD2	底18.9	底18.9	底部外面未調査、他はコロナデ	密 輪 5/8.2	良	底部1/3	内面外毛	
646	8403	灰軸陶器	甕	SD2	底18.2	底18.2	底部外面未調査、他はコロナデ	密 輪 5/6.1	良	底部1/4	内面外毛	
647	8402	灰軸陶器	甕	SD2	底18.5	底18.5	底部外面未調査、他はコロナデ	密 輪 5/7.1	良	底部1/6	内面外毛	
648	21901	須恵器	甕	SD2	底11.0	底11.0	体部外面下半部分カスメリ、内面コロナデ	密 輪 2.5/4.1	良	底部1/4	内面外毛	
649	21601	灰軸陶器	甕	SD2	底径12.6	-	他はコロナデ	密 輪 5/8.1	良	底部1/5	内面外毛	
650	8801	瓦	軒丸瓦	SD2	-	-	-	密 輪 10YR7/3	やや密	底部1/5	瓦字と不良小片	

報告書号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴	給土	色調	焼成	残存	特記事項
651	22202	瓦	軒丸瓦	SD2	-	1.9	内面糊付、一部ヘタリ、凹面布目痕、凹面布目痕	やや粗	2.5/7.1	良	瓦頭部4/5	複合運搬文
652	8802	瓦	丸瓦	SD2	-	1.9	内面糊付、凹面布目痕、凹面布目痕	やや密	2.5/7.1	良	小片	
653	9001	瓦	平瓦	SD2	-	1.9	内面糊付、凹面布目痕、凹面布目痕	やや粗	2.5/7.1	良	小片	
654	8901	瓦	丸瓦	SD2	-	1.9	内面糊付、凹面布目痕、凹面布目痕	やや粗	2.5/7.2	よし不具	小片	玉象
655	7906	灰陶器	椀	SD2	底径8.9 底高1.7	底径8.9 底高1.7	底部外面糸切痕、他はほかナメ	やや粗	2.5/7.1	良	底部4/4	内面外側
656	7906	灰陶器	椀	SD2	底径8.5 底高1.3	底径8.5 底高1.3	底部外面糸切痕、他はほかナメ	やや粗	2.5/7.1	良	底部4/4	内面外側
657	21603	山茶碗	椀	SD2	底径8.3 底高1.3	底径8.3 底高1.3	底部外面糸切痕、他はほかナメ	やや粗	2.5/7.1	良	底部4/2	高台に立地、瓶
658	7905	山茶碗	椀	SD2	底径8.3 底高1.2	底径8.3 底高1.2	底部外面糸切痕、他はほかナメ	やや粗	2.5/7.2	良	底部4/2	高台に立地、瓶
659	7904	山茶碗	椀	SD2	16.2	5.3	底部外面糸切痕、他はほかナメ	やや粗	2.5/7.2	良	底部4/2	高台に立地、瓶
660	22101	灰陶器	椀	SD2	16.0	5.0	底部外面糸切痕、他はほかナメ	やや粗	2.5/7.2	良	底部4/2	高台に立地、瓶
661	22102	灰陶器	椀	SD2	底径8.9 底高1.9	底径8.9 底高1.9	ほかナメ	密	10/8.8/2	良	底部4/4	磨滅が激しく調整不明瞭、軟質
662	8505	灰陶器	椀	SD2	底径8.6 底高1.6	底径8.6 底高1.6	ほかナメ	密	10/8.3/2	良	底部4/6	硬質
663	8201	灰陶器	椀	SD2	底径8.9 底高2.0	底径8.9 底高2.0	ほかナメ	密	10/8.7/2	良	底部4/6	磨滅が激しく調整不明瞭、軟質
664	21602	灰陶器	椀	SD2	17.0	1.9	内面糊付、外面未調査	密	2.5/7.1	良	底部4/8	内面外側
665	8704	灰陶器	碗	SD2	4.0×1.7	4.0×1.7	内面糊付、外面未調査	粗	5/8.6/6	良	11枚部1/2	
666	8705	灰陶器	碗	SD2	5.5×2.1	5.5×2.1	内面糊付、外面未調査	粗	5/8.6/6	良	11枚部1/2	
667	21805	土師器	土壺	SD2	(6.0)×3.3	(6.0)×3.3	内面糊付	密	10/8.8/4	良	11枚部1/2	重さ(10.8g)
668	21805	土師器	土壺	SD2	17.0	1.7	内面糊付	密	10/8.8/4	良	11枚部1/2	重さ(18.5g)
669	8707	土師器	鉢	SD2	16.7	4.4	内面糊付	密	10/8.7/4	良	11枚部1/2	重さ(17.2g)
670	8004	灰陶器	鉢	SD2	-	-	内面糊付	密	10/8.7/4	良	11枚部1/2	重さ(12.6g)
671	22006	灰陶器	甕	SD2	49.4	17.0	内面糊付	密	内 3/5/7.2	良	口縁部1/12	
672	22201	灰製品	盤	SD2	-	-	-	-	-	-	小片	棒状期
673	7201	土師器	皿	SD3	15.8	1.7	底部外面未調査、他はナメ	密	外 7.5/8.7/4	良	口縁部1/6	
674	7202	土師器	皿	SD3	14.7	1.5	ナメ	粗	内 7.5/8.8/3	良	口縁部1/6	
675	7203	土師器	皿	SD3	14.4	1.9	底部外面未調査、内面ナメ	密	5/8.6/6	良	口縁部1/6	
676	7204	土師器	皿	SD3	15.4	0.9	底部外面未調査、内面ナメ	密	5/8.7/6	良	口縁部1/4	
677	7101	土師器	皿	SD3	16.7	-	底部外面未調査、内面ナメ	外 5/8/6	良	口縁部1/8		
678	7102	土師器	杯	SD3	13.5	2.9	底部外面未調査、内面ナメ	密	5/8/7.6	良	口縁部1/4	底部内面に繩文
679	7103	土師器	杯	SD3	13.0	2.4	内面糊付、内面ナメ	密	5/8/7.8	良	底部4/2	底部内面に繩文
680	7206	土師器	杯	SD3	12.4	2.9	内面糊付、内面ナメ	密	5/8/6.6	良	1/2	底部内面に繩文
681	7105	土師器	杯	SD3	12.9	3.1	内面糊付、内面ナメ	密	2.5/8/6	良	1/4	内面に繩文
682	7001	土師器	杯	SD3	13.6	-	内面糊付、内面ナメ	密	5/8/6	良	1/2	内面に繩文
683	7009	土師器	杯	SD3	12.6	2.8	内面糊付、内面ナメ	密	5/8/7.8	良	口縁部1/6	内面に繩文
684	7008	土師器	杯	SD3	13.2	-	内面糊付、内面ナメ	密	5/8/7.6	良	口縁部1/4	内面に繩文
685	23903	土師器	杯	SD3	13.8	-	-	密	内 7.5/8/3	良	口縁部1/6	
686	7205	土師器	杯	SD3	10.4	2.9	外面部調査、内面ナメ	密	7.5/8.8/6	良	3/8	口縁部にスス
687	7002	須恵器	杯	SD3	14.1	3.1	外面部調査、内面ナメ	やや粗	10/8.8/2	良	1/2	酸化発発
688	7007	土師器	杯	SD3	12.5	-	外面部調査、内面ナメ	密	10/8.8/4	良	1/3	
689	7006	土師器	杯	SD3	12.6	3.0	外面部調査、内面ナメ	密	5/8/7.8	良	1/3	
690	7004	土師器	杯	SD3	12.2	2.8	外面部調査、内面ナメ	密	7.5/8/6	良	1/2	
691	7005	土師器	杯	SD3	11.9	2.5	外面部調査、内面ナメ	密	5/8/7.8	良	1/3	外面部入
692	7003	土師器	杯	SD3	12.2	-	外面部調査、内面ナメ	密	7.5/8/4	良	1/4	内面部入
693	7406	土師器	甕	SD3	底径8.6 高さ1.6	底径8.6 高さ1.6	ほかナメ	外 5/8/3	良	底部4/3	磨滅が激しく調整不明瞭	
694	7403	土師器	甕	SD3	13.6	-	内面工具ナメ	やや粗	内 7.5/8/2	良	口縁部1/4	磨滅が激しく調整不明瞭

報告書号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	給土	色調	焼成	残存	特記事項
695	7402	土師器	甕	SD3	11.8	0.9	口縁部ヨコテ	泥	10Y8R/3	良	口縁部/8	磨滅が激しく調整不明瞭
696	22902	土師器	甕	SD3	15.8	0.9	口縁部ヨコテ	泥	7.5YR6/6	良	口縁部/6	磨滅が激しく調整不明瞭
697	7401	土師器	甕	SD3	16.8	0.9	ハラテ	やや密	外 5YR6/2 内 10Y8R/3	良	口縁部/6	磨滅が激しく調整不明瞭
698	7405	土師器	甕	SD3	23.6	1.7	外面部ハラテ、内面部ハラテ	やや密	7.5YR7/2	良	口縁部/6	磨滅が激しく調整不明瞭
699	22901	土師器	甕	SD3	16.6	1.7	外面部ハラテ、内面部ハラテ	やや密	7.5YR7/3	良	口縁部/6	磨滅が激しく調整不明瞭
700	22901	土師器	甕	SD3	16.6	1.7	外面部ハラテ、内面部ハラテ	やや密	7.5YR7/3	良	口縁部/6	磨滅が激しく調整不明瞭
701	7404	土師器	甕	SD3	12.5	1.2	外面部ハラテ、内面部ハラテ	やや密	7.5YR6/4	良	口縁部/7	磨滅が激しく調整不明瞭
702	7404	土師器	甕	SD3	14.8	1.2	外面部ハラテ、内面部ハラテ	やや密	7.5YR6/3	良	口縁部/6	磨滅が激しく調整不明瞭
703	22907	円筒加工板	木林	SD3	4.0×3.8	1.6	外面部圓板、内面部子	やや密	7.5YR7/4	良	口縁部/6	重2kg ロコトナ器陶瓦用
704	7303	須恵器	蓋	SD3	14.4	5.5	人井部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや粗	7.5YR7/8	良	口縁部/12	天井部内面削毛
705	22901	須恵器	蓋	SD3	17.8	3.8	人井部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや粗	6.5YR6/1	良	口縁部/12	天井部内面削毛
706	6801	須恵器	蓋	SD3	15.6	3.7	人井部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや粗	N/A	良	口縁部/4	
707	22402	須恵器	蓋	SD3	12.5	3.3	底部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや密	7.5YR7/1	良	口縁部/2	
708	6802	須恵器	杯	SD3	15.6	4.9	底部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや密	7.5YR7/1	良	口縁部/2	天井部同心円当て具痕
709	6807	須恵器	蓋	SD3	9.1	3.7	外面部ハラテ	やや粗	N/A	良	口縁部/2	天井部同心円当て具痕
710	6804	須恵器	杯	SD3	11.2	6.2	底部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや密	N/A	良	口縁部/5	中世鉢器記載
711	6805	須恵器	杯	SD3	11.2	3.5	底部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや密	N/A	良	口縁部/5	中世鉢器記載
712	6803	須恵器	杯	SD3	16.1	4.7	底部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや粗	N/A	良	口縁部/4	中世鉢器記載
713	7503	須恵器	杯	SD3	15.2	5.2	底部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや密	N/A	良	口縁部/4	中世鉢器記載
714	7504	須恵器	甕	SD3	34.8	1.2	外面部ハラテ	やや粗	N/A	良	口縁部/10	口縁部外面上に波状文2条
715	7502	須恵器	甕	SD3	13.8	0.9	外面部ハラテ	やや粗	N/A	良	口縁部/2	中世鉢器記載
716	6806	須恵器	甕	SD3	35.5	6.6	底部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや密	N/A	良	口縁部/4	中世鉢器記載
717	7501	須恵器	杯	SD3	33.2	2.5	底部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや密	2.5YR6/1	良	口縁部/12	中世鉢器記載
718	6904	黒土器	杯	SD3	16.4	0.9	外面部ハラテ、内面部カタツメ	やや粗	N/A	良	口縁部/4	A類
719	6905	黒土器	杯	SD3	15.7	0.9	外面部ハラテ	密	2.5YR6/6	良	口縁部/8	A類
720	7301	黒土器	甕	SD3	15.2	4.2	外面部ハラテ、内面部カタツメ	やや密	10Y8R/3	良	口縁部/8	A類
721	6906	黒土器	甕	SD3	14.0	0.9	外面部ハラテ、内面部カタツメ	密	2.5YR6/1	良	口縁部/2	内面に螺旋文
722	7302	黒土器	甕	SD3	底径6.2	0.9	外面部ハラテ	外 7.5YR6/1 内 5YR3/1	良	底部完存	A類 磨滅が激しく調整不明	
723	6907	黒土器	甕	SD3	底径9.6	0.9	外面部ハラテ	外 2.5YR8/3 内 5YR3/1	良	底部1/4	A類 内面に螺旋文	
724	7104	練釉陶器	甕	SD3	14.5	1.3	外面部ハラテ	密	10Y8R/3	良	底部1/4	磨滅が激しく調整不明
725	22501	練釉陶器	甕	SD3	10.6	3.9	リヨウテ	密	10Y8R/3	良	口縁部/2	磨滅が激しく調整不明瞭
726	6901	灰釉陶器	甕	SD3	13.9	2.1	底部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや粗	5YR8/4	良	口縁部/3	
727	6902	灰釉陶器	甕	SD3	15.0	4.7	底部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや粗	5YR8/1	良	底部完存	灰釉陶毛塗り 直接重ね焼き
728	22403	山茶瓶	瓶	SD3	14.8	5.5	底部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや粗	5YR6/3	良	底部1/2	内面やや削毛
729	6903	灰釉陶器	甕	SD3	14.4	4.2	底部外面部カタツメ、他はロカナテ	やや粗	2.5YR8/1	良	口縁部/4	灰釉陶毛塗り 内面にチタン釉
730	22904	灰釉陶器	甕	SD3	底径7.8	0.9	ロカナテ	密	2.5YR8/1	良	底部完存	底部外面上に墨書き
731	22905	灰釉陶器	甕	SD3	底径7.4	0.9	ロカナテ	やや密	2.5YR8/1	良	底部1/2	底部外面上に墨書き
732	22906	灰釉陶器	甕	SD3	底径6.0	0.9	ロカナテ	密	2.5YR5/1	良	底部1/2	天釉陶毛塗り

報告書番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴		給土	色調	焼成	残存	特記事項		
							平面	SD3							
733	2380	瓦	平瓦	SD3	-	平面直角、凸面腰壁なし	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/4	1/4	棒打	
734	2270	瓦	平瓦	SD3	9.4	外面部直角、凸面腰壁なし	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/6	1/6	高台ごよぎ原	
735	6703	土器器	直	SD3	底径7.2	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	高台ごよぎ原	
736	6701	山茶碗	楕	SD3	(6.4)×2.5	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	重さ298.0g	
737	6702	山茶碗	土鍋	SD6	7.5	0.8	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	2/3	2/3	底底少く圓盤不明瞭
738	6704	土鍋	土鍋	SD6	7.5	1.5	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	2/2	2/2	底底少く圓盤不明瞭
739	6107	土鍋	土鍋	SD6	8.4	1.3	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	底底少く圓盤不明瞭
740	6108	土鍋	土鍋	SD6	8.9	1.9	底底外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	底底少く圓盤不明瞭
741	6105	土鍋	土鍋	SD6	9.5	2.0	底底外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	口部間に縫付着
742	6106	土鍋	土鍋	SD6	12.0	2.8	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	口部間に縫付着
743	6104	土鍋	土鍋	SD6	12.0	3.0	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/6	1/6	口部間に縫付着
744	6102	土鍋	土鍋	SD6	26.0	25.4	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/12	1/12	背唇
745	6101	土鍋	土鍋	SD6	17.1	15.8	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	口部部/2
746	6109	土器器	楕	SD6	(4.9)×1.8	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	口部部/2	
747	6203	土器器	楕	SD6	11.3	5.0	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	口部部/2
748	6202	土器器	楕	SD6	13.3	5.0	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	口部部/2
749	6201	土器器	楕	SD6	14.8	5.6	底部外面部カクレメ、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	口部部/2
750	6304	土鍋	土鍋	SD6	14.8	6.1	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	口部部/2
751	6303	土鍋	土鍋	SD6	13.3	5.0	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	口部部/2
752	6301	土鍋	土鍋	SD6	9.5×4.4	1.1	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	口部部/2
753	6302	土鍋	土鍋	SD6	4.8×2.2	1.1	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	口部部/2
754	6005	須恵器	動輪車	SD6	3.8×3.9	厚3.0	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
755	5906	須恵器	動輪車	SD6	11.3	2.0	底部外面部カクレメ、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
756	5810	山茶碗	楕	SD6	14.8	5.6	底部外面部カクレメ、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
757	5902	灰陶輪器	楕	SD6	13.3	5.0	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
758	5905	灰陶輪器	楕	SD6	15.6	5.6	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
759	6103	土鍋	土鍋	SD6	14.8	6.1	外面部調整、内面ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
760	5809	灰陶輪器	楕	SD6	14.9	6.0	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
761	5903	灰陶輪器	楕	SD6	18.5	5.6	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
762	5901	灰陶輪器	楕	SD6	15.6	5.7	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
763	5904	灰陶輪器	楕	SD6	15.4	5.7	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
764	6401	灰陶輪器	楕	SD6	15.6	5.7	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
765	5802	山茶碗	小皿	SD6	8.2	2.2	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
766	5908	山茶碗	小皿	SD6	7.4	1.8	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
767	5903	山茶碗	小皿	SD6	8.2	2.3	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
768	5809	山茶碗	小皿	SD6	7.6	1.9	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
769	5807	山茶碗	小皿	SD6	7.9	2.4	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
770	5910	山茶碗	小皿	SD6	8.0	1.8	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
771	5909	山茶碗	小皿	SD6	8.2	2.4	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
772	5806	山茶碗	小皿	SD6	8.2	1.7	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
773	5801	山茶碗	小皿	SD6	8.1	1.9	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
774	5805	山茶碗	小皿	SD6	7.8	1.6	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
775	5907	山茶碗	小皿	SD6	7.4	2.1	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
776	5707	山茶碗	楕	SD6	14.0	5.2	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
777	5705	山茶碗	楕	SD6	14.8	5.3	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
778	5704	山茶碗	楕	SD6	13.6	4.7	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
779	5701	山茶碗	楕	SD6	14.2	5.0	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
780	5703	山茶碗	楕	SD6	16.4	4.7	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
781	5808	山茶碗	楕	SD6	15.6	5.6	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
782	5702	山茶碗	楕	SD6	14.5	5.2	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
783	5706	山茶碗	楕	SD6	14.9	5.3	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2
784	6402	灰陶輪器	楕	SD6	底径11.2	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2	
785	6307	黒土器	楕	SD6	底径4.3	底部外面部直切痕、他は口吻ナダ	やや灰	NW	やや灰	NW	良	1/2	1/2	火輪部/2	

報告書号	実測番号	質	基種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴	胎土	色調	焼成	残存	特記事項
786	6001	縦輪陶器	陶	SD6	17.0	0	0	密角(アコナデ)	2.5V8/2 角濃緑	良	1/4	軟質 内面にトチシ紙
787	6002	縦輪陶器	陶	SD6	底径7.6	0	0	0	0	良	台部1/8	硬質
788	6003	縦輪陶器	陶	SD6	底径8.0	0	0	0	0	良	台部1/2	軟質
789	6305	青磁	陶	SD6	17.5	0	0	0	5V6/1 角濃緑	良	口縁部1/12	外面に堆砂文
790	6004	青磁	陶	SD6	底径8.2	0	0	0	5V5/1 角濃緑	良	底部完存	
791	6306	白磁	三	SD6	10.2	0	0	0	N8. N9.	良	口縁部1/12	内面に印刷文
792	6503	陶器	甕	SD6	-	0	0	0	0	良	外	常滑
793	6502	陶器	甕	SD6	-	0	0	0	0	良	外	常滑
794	6601	瓦	瓦	SD6	-	0	0	0	0	良	体部小片	常滑
795	6501	陶器	甕	SD6	-	0	0	0	0	良	体部小片	常滑文
797	9104	十手器	三	SD8	10.8	2.0	0	外面部圓筒、内面ナデ、 内面外ナデ、内面ナデ、 内面ナデ、内面ナデ	やや密 外 5V7/2 内 5V7/1	良	口縁部1/6	質感が強く調整不易瞭
798	9106	十手器	三	SD8	9.0	1.9	0	0	やや密 やや密 やや密 やや密 やや密 やや密	良	1段部1/2	
799	9105	十手器	三	SD8	13.6	2.9	0	0	やや密 やや密 やや密 やや密 やや密 やや密	良	1段部1/2	
800	9107	十手器	三	SD8	24.0	0	0	0	0	良	口縁部1/12	
801	9108	陶器	甕	SD8	-	0	0	0	0	良	体部小片	常滑
802	9109	山茶壺	陶	SD8	底径8.8	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
803	9103	山茶壺	陶	SD8	底径7.6	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
804	9101	山茶壺	陶	SD8	底径8.8	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
805	11401	十手器	輪	SD9	22.8	0	0	0	0	良	口縁部1/6	外面部スル
806	11007	四手器	三	SD9	8.0	1.6	0	0	やや密 やや密 やや密 やや密 やや密 やや密	良	所近1/2	
807	11008	山茶壺	小黒	SD9	8.1	1.7	0	0	やや密 やや密 やや密 やや密 やや密 やや密	良	12V7/6 12V7/5	
808	11031	山茶壺	小黒	SD9	9.0	1.5	0	0	やや密 やや密 やや密 やや密 やや密 やや密	良	12V7/6 12V7/5	
809	11001	山茶壺	陶	SD9	15.2	5.2	0	0	0	良	12V7/6 12V7/5	内面削毛
810	11002	山茶壺	陶	SD9	底径8.6	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
811	11206	山茶壺	陶	SD9	底径8.6	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
812	11204	山茶壺	陶	SD9	底径8.5	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
813	11101	山茶壺	陶	SD9	13.8	4.8	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
814	11205	山茶壺	陶	SD9	底径8.5	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
815	11005	山茶壺	陶	SD9	底径8.2	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
816	11003	山茶壺	陶	SD9	底径8.8	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
817	11041	山茶壺	陶	SD9	底径8.2	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
818	11009	山茶壺	陶	SD9	底径8.2	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
819	11202	山茶壺	陶	SD9	底径8.2	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
820	11105	山茶壺	陶	SD9	底径8.3	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
821	11004	山茶壺	陶	SD9	底径8.8	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
822	11202	山茶壺	陶	SD9	底径8.5	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
823	11203	山茶壺	陶	SD9	底径8.5	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
824	11006	山茶壺	陶	SD9	底径8.5	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
825	11402	陶器	甕	SD9	-	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
826	11103	山茶壺	陶	SD9	底径8.3	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
827	11201	山茶壺	茶	SD9	底径4.3	0	0	0	0	良	底部完存	内面削毛
828	11041	十手器	三	SD10	17.0	2.0	0	外面部圓筒、内面ナデ	やや密 外 5V7/3	良	口縁部1/6	
829	12106	十手器	三	SD10	13.5	1.3	0	0	やや密 外 5V7/2	良	口縁部1/4	
830	12301	四手器	三	SD10	15.4	0	0	外面部圓筒、内面ナデ	やや密 外 5V7/6	良	口縁部1/6	内面に墨書き
831	11810	四手器	三	SD10	13.6	2.1	0	底部外面部圓筒、内面ナデ	やや密 底部 内面削毛	良	口縁部1/6	

報告書番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴		縦土	色調	焼成	残存	特記事項
							外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ					
832	12202	土師器	鉢	SD10	18.6	4.9	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	密	7.5YR8.4	良	1/8	内面糊い状態描文
833	14602	土師器	杯	SD10	14.0	2.9	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	7.5YR8.3	良	1/3	内面糊い状態描文
834	12201	土師器	杯	SD10	12.4	3.9	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	5YR7.4	良	1/5	内面糊い状態描文
835	11808	土師器	杯	SD10	13.0	2.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	10YR8.3	良	1/5	内面糊い状態描文
836	11902	土師器	杯	SD10	13.0	3.4	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	5YR7.6	良	1/4	口縁部/4 光字
837	12101	土師器	杯	SD10	13.2	3.0	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	7.5YR8.3	良	1/4	口縁部/4 光字
838	11807	土師器	杯	SD10	12.3	3.2	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	7.5YR7.4	良	1/4	口縁部/4 光字
839	12102	土師器	杯	SD10	12.6	2.8	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	10YR8.2	良	1/6	口縁部/4 光字
840	11802	土師器	杯	SD10	12.1	3.4	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	5YR8.6	良	1/3	口縁部/3 光字
841	11803	土師器	杯	SD10	13.2	3.4	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	10YR7.3	良	1/3	口縁部/3 光字
842	11804	土師器	杯	SD10	11.8	3.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	10YR8.3	良	1/2	口縁部/2 光字
843	12105	土師器	杯	SD10	11.4	3.0	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	7.5YR7.1	良	1/4	口縁部/4 光字
844	12104	土師器	杯	SD10	11.0	2.9	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	2.5YR7.3	良	1/4	口縁部/4 光字
845	12103	土師器	杯	SD10	13.0	2.9	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	5YR8.2	良	1/4	口縁部/4 光字
846	11806	土師器	杯	SD10	11.5	2.9	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	10YR8.1	良	1/4	口縁部/4 光字
847	11801	土師器	杯	SD10	12.2	3.1	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	5YR7.4	良	1/2	口縁部/2 光字
848	11807	土師器	杯	SD10	12.2	3.1	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	5YR7.4	良	1/2	口縁部/2 光字
849	11903	土師器	杯	SD10	13.6	2.9	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	10YR7.6	良	1/3	口縁部/3 光字
850	11805	土師器	杯	SD10	10.8	3.1	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	10YR8.1	良	1/4	口縁部/4 光字
851	11809	土師器	杯	SD10	12.9	2.9	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	5YR7.6	良	1/6	口縁部/6 光字
852	12506	印付	陶	SD10	6.5	0.5	底部外面部切妻、側面丸み	底部外面部切妻、側面丸み	やや密	5YR8.3	良	1/6	底部丸付
853	11901	土師器	陶	SD10	13.5	2.2	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	10YR8.3	良	1/2	口縁部/2 光字
854	12051	土師器	陶	SD10	18.2	2.2	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	5.5YR7.3	良	1/2	口縁部/2 光字
855	14811	土師器	手捏	SD10	3.2	2.1	ヨリヒコ手捏	ヨリヒコ手捏	やや粗	5.5YR7.3	良	1/2	口縁部/2 光字
856	12503	土師器	陶	SD10	14.4	2.1	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	5YR8.3	良	1/4	口縁部/4 光字
857	14005	土師器	陶	SD10	15.2	2.0	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	5YR8.1	良	1/4	口縁部/4 光字
858	12107	土師器	陶	SD10	14.0	2.0	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	10YR7.3	良	1/4	口縁部/4 光字
859	12502	土師器	陶	SD10	14.3	2.0	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや密	5.5YR7.3	良	1/4	口縁部/4 光字
860	12501	土師器	陶	SD10	13.0	10.6	体部外面部下部アケナ、上部アケナ、内面部アデナ	体部外面部下部アケナ、上部アケナ、内面部アデナ	やや粗	5.5YR8.3	良	1/4	口縁部/4 光字
861	12204	土師器	陶	SD10	21.3	0.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	10YR8.3	良	1/4	口縁部/4 光字
862	12504	土師器	陶	SD10	20.0	0.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	10YR7.3	良	1/4	口縁部/4 光字
863	14003	土師器	陶	SD10	17.8	0.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	5.5YR8.4	良	1/4	口縁部/4 光字
864	12402	土師器	陶	SD10	19.6	0.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	5.5YR8.2	良	1/6	口縁部/6 光字
865	12505	土師器	陶	SD10	23.0	0.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	10YR8.4	良	1/2	口縁部/2 光字
866	12303	土師器	陶	SD10	30.6	0.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	10YR8.2	良	1/8	口縁部/8 光字
867	13101	土師器	陶	SD10	29.0	0.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	10YR8.2	良	1/2	口縁部/2 光字
868	13022	土師器	陶	SD10	24.0	0.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	10YR8.5	良	1/2	口縁部/2 光字
869	12904	土師器	陶	SD10	-	-	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	10YR6.4	良	1/2	把手部/2 光字
870	12108	土師器	陶	SD10	-	-	未測定	未測定	やや粗	10YR7.3	良	1/2	把手部/2 光字
871	14006	土師器	陶	SD10	-	-	未測定	未測定	やや粗	5.5YR7.6	良	1/2	把手部/2 光字
872	14003	土師器	陶	SD10	-	-	未測定	未測定	やや粗	5.5YR7.6	良	1/2	把手部/2 光字
873	12302	土師器	陶	SD10	24.6	0.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	5.5YR7.4	良	1/2	把手部/2 光字
874	12401	土師器	陶	SD10	22.0	0.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	10YR7.3	良	1/2	把手部/2 光字
875	11905	土師器	陶	SD10	12.4	0.5	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	5.5YR8.4	良	1/2	把手部/2 光字
876	12406	土師器	高杯	SD10	14.0	5.2	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	5.5YR6.6	良	1/6	把手部/6 光字
877	13307	埴生土器	陶	SD10	19.6	5.6	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	5.5YR6.6	良	1/2	把手部/2 光字
878	13306	埴生土器	陶	SD10	15.2	6.6	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	5.5YR6.6	良	1/2	把手部/2 光字
879	14002	埴生土器	陶	SD10	-	-	未測定	未測定	やや粗	5.5YR7.6	良	1/2	把手部/2 光字
880	14105	埴生土器	陶	SD10	14.8	6.6	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	5.5YR6.6	良	1/2	把手部/2 光字
881	14901	埴生土器	鉢	SD10	14.8	6.6	外面部アケナ、内面部アデナ	外面部アケナ、内面部アデナ	やや粗	10YR7.6	良	1/6	把手部/6 光字
882	12206	土師器	高状土器?	SD10	底径10.0	-	未測定	未測定	やや粗	10YR8.3	良	1/2	把手部/2 光字
883	11907	土師器	移動式皿	SD10	-	-	未測定	未測定	やや粗	10YR7.3	良	1/2	把手部/2 光字

報告 番号	実測 番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴		縦土	色調	焼成	残存	特記事項	
							内面	外						
931	12902	須恵器	杯	SD10	11.5	4.2	内面内面カヌキ	外内面カヌキ	密	5V5.1	良	底部2/3		
932	12901	須恵器	杯	SD10	13.7	4.6	内面内面カヌキ	外内面カヌキ	やや粗	N7/10YR6/1	良	底部1/6		
933	12701	須恵器	杯	SD10	12.9	4.2	底部外表面カヌキ	他は内面カヌキ	密	10V5.1/6	良	底部2/6		
934	12804	須恵器	杯	SD10	10.0	5.3	底部外表面カヌキ	他は内面カヌキ	やや密	10V6/1	良	底部2/6		
935	12803	須恵器	盃	SD10	底径8.8	天井部外表面カヌキ	他は内面カヌキ	やや密	10V6/1	良	底部完全			
936	13103	須恵器	盃	SD10	13.7	3.0	天井部外表面カヌキ	他は内面カヌキ	密	2.5V5/1	良	内面鋸歯 開口(实用観)		
937	12604	須恵器	杯	SD10	12.8	3.0	内面内面カヌキ	外内面カヌキ	密	5V4/1	良	1/4		
938	14007	灰陶器	盃	SD10	10.4	3.0	内面内面カヌキ	外内面カヌキ	やや密	10V6/1	良	口縁部1/6		
939	14004	須恵器	盃	SD10	底径8.8	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや密	5V4/3	良	頭部完全			
940	12806	須恵器	盃	SD10	底径5.0	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや密	5V6/6	良	頭部完存			
941	13004	須恵器	盃	SD10	底径10.0	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや粗	5V6/1	良	頭部4/4			
942	14103	灰陶器	盃	SD10	底径8.4	内面内面カヌキ	外内面カヌキ	やや粗	2.5V6/2	良	底部4/4			
943	14002	須恵器	甕	SD10	36.0	3.0	内面内面カヌキ	外内面カヌキ	密	5V3/1	良	口縁部1/6		
944	14601	須恵器	甕	SD10	30.0	3.0	内面内面カヌキ	外内面カヌキ	やや密	2.5V4/1	良	口縁部1/4		
945	14401	須恵器	甕	SD10	30.8	3.0	内面外表面カヌキ	他は内面カヌキ	密	10V5/1	良	口縁部1/8		
946	14501	須恵器	甕	SD10	底径16.8	内面外表面カヌキ	他は内面カヌキ	やや密	7.5V6/1	良	底部1/6			
947	14301	須恵器	壺瓶	SD10	体径16.0-20.2	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや粗	5V6/8	良	内部2室構造			
948	12607	須恵器	平瓶	SD10	9.3	底径5.0	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや粗	5V7/1	良	1/3		
949	12805	須恵器	不明鳥	SD10	14.6	4.7	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	5V5/5.1	良	底部完全		
950	12006	黒土器	甕	SD10	底径11	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや粗	5V8/1	良	口縁部1/4			
951	12403	黒土器	甕	SD10	底径7.5	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや粗	5V8/1	良	底部1/2			
952	14812	黒土器	甕	SD10	底径7.5	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや粗	5V8/3	良	底部4/4			
953	12404	黒土器	甕	SD10	底径8.8	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや密	10V8/8.3	良	底部5/8			
954	13604	灰陶器	甕	SD10	底径8.4	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや密	10V7/1	良	底部4/4			
955	13806	灰陶器	甕	SD10	13.8	2.5	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	7.5V7/1	良	口縁部1/3		
956	13806	灰陶器	甕	SD10	14.4	3.0	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	5V6/3	良	火輪刷毛塗り 直接重ね焼き		
957	12004	灰陶器	甕	SD10	底径8.4	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	5V7/1	良	底部1/6			
958	13703	灰陶器	甕	SD10	底径8.4	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	5V8/2	良	内面内面			
959	13603	灰陶器	甕	SD10	底径8.3	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	7.5V7/1	良	底部完全			
960	13802	灰陶器	甕	SD10	13.1	2.4	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	5V7/3	良	底部完全		
961	13001	灰陶器	甕	SD10	底径7.2	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや密	5V5/1	良	底部4/4			
962	13601	灰陶器	甕	SD10	底径8.0	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや粗	5V6/1	良	底部1/2			
963	14603	灰陶器	甕	SD10	15.0	3.0	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	10V7/1	良	口縁部4/4		
964	12001	灰陶器	甕	SD10	底径8.6	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	5V5/6	良	底部完全			
965	13705	灰陶器	甕	SD10	底径8.6	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	10V7/1	良	底部完全			
966	12005	灰陶器	甕	SD10	底径8.2	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	10V7/1	良	底部完全			
967	13704	灰陶器	甕	SD10	底径7.4	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	5V7/3	良	底部完全			
968	13906	灰陶器	甕	SD10	底径8.8	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	やや密	5C7/6/1	良	火輪刷毛塗り 内面三叉テグシ痕			
969	13902	灰陶器	甕	SD10	8.2	底径7.6	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	5V7/1	良	内面内面		
970	13607	灰陶器	甕	SD10	底径7.6	内面内面カヌキ	他は内面カヌキ	密	5V8/	良	底部4/2			

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴	給土	色調	焼成	残存	特記事項	
1015	12305	縁輪陶器	椀	SD10	底径6.8	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	やや密 7.5YR4/3 7.5Y4/3	良	底部5/12	硬質 高台封塵		
1016	13308	縁輪陶器	椀	SD10	11.0	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	やや密 7.5Y4/3 7.5Y4/3	良	口縁部1/6	硬質 内面に沈継		
1017	13301	縁輪陶器	椀	SD10	12.6	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y8/2 7.5Y6/2	不良	底部1/4	硬質 内面に沈継		
1018	12807	縁輪陶器	椀	SD10	底径7.0	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y8/3 7.5Y7/6	やや不良	底部1/4	軟質 質感が強く調査不明		
1019	13303	縁輪陶器	椀	SD10	底径4.5	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y7/3 7.5Y6/3	不良	底部7/12	硬質 内面に沈継		
1020	13203	縁輪陶器	椀	SD10	底径7.2	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y8/4 7.5Y6/4	良	底部1/4	硬質 外外面にトランジ		
1021	13206	縁輪陶器	椀	SD10	-	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	7.5Y6/3	良	口縁部小片	硬質?		
1022	13201	縁輪陶器	椀	SD10	底径6.8	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	5YR5/1 5CY7/4	良	底部2/3	硬質 外外面にトランジ		
1023	13305	縁輪陶器	椀	SD10	底径6.8	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	7.5Y6/1 7.5Y5/3	良	底部9/12	硬質 内面に沈継		
1024	13204	縁輪陶器	椀	SD10	底径6.4	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y8/2 7.5Y7/2	不良	底部1/4	硬質 外外面にトランジ		
1025	13302	縁輪陶器	椀	SD10	13.1	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	10Y6/1 10Y5/2	良	底部7/12	硬質 口縁部に輪花4.4万		
1026	15001	瓦	丸瓦	SD10	-	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	5Y7/1	良	1/2	口縁部1/8		
1027	14606	白磁	椀	SD10	15.4	(4.1)×(0.4)	底部外面系切痕、他はロココナデ	-	底部5/12	硬質 脚柱部	内面磨耗 底柱部欠損		
1028	11906	鉄製品	山茶碗	SD10	底径4.0	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	5Y6/1	良	脚柱部1/4	底柱部欠損く調査不明		
1029	13608	小櫻	小櫻	SD10	底径4.2	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	5Y8/2	良	1/4	口縁部1/8		
1030	14604	手作十器	高杯	SD10	14.2	底部外面系切痕、内面ナデ	密 ロココナデ	5Y8/1 10Y7/2	不良	1/4	口縁部1/8		
1031	14701	韓式土器	甕	SD11	-	外表面ナデ、内面ナデ	やや粗 ロココナデ	5Y6/5 10Y7/2	良	1/4	口縁部1/8		
1032	15701	土器	椀	SD11	12.3	3.0	外表面ナデ、内面ナデ	外 5Y8/8 5Y8/4	不良	1/4	口縁部1/7		
1033	15502	土器	杯	SD11	13.8	2.4	外表面ナデ、内面ナデ	外 5Y8/8 5Y8/4	不良	1/4	口縁部1/7		
1034	15503	土器	甕	SD11	21.0	7.7	外表面ナデ、内面ナデ	外 5Y8/5 10Y7/3	良	1/4	口縁部1/8		
1035	15504	土器	鍋	SD11	20.8	20.8	底部外面系切痕、他はロココナデ	粗 ロココナデ	7.5Y8/5 7.5Y8/6	良	口縁部1/10	清器	
1036	15807	印加土器	甕	SD11	底径5.5	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	10Y8/8 10Y8/6	やや不良	底部1/10	底柱部欠損く調査不明		
1037	15505	印加土器	甕	SD11	底径5.6	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y8/2	良	底部1/2	底柱部1/2		
1038	15806	印加土器	甕	SD11	底径5.0	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y8/2	良	口縁部1/8	やや不良		
1039	15507	土製品	土壇	SD11	(3.2)×1.4	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y7/1	良	2/3	底柱部1/2		
1040	15508	土製品	土壇	SD11	(4.1)×2.2	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y8/2	良	4/5	底柱部1/2		
1041	15808	土製品	土壇	SD11	3.5×2.8	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y8/2	良	4/5	底柱部1/2		
1042	15510	土製品	土壇	SD11	底径11.3	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	10Y8/7/3	良	2/3	底柱部1/2		
1043	15501	須恵器	盒	SD11	底径11.3	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	5Y8/1	良	底柱部1/6	内面磨耗		
1044	15803	須恵器	盒	SD11	底径11.5	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y8/1	良	底柱部1/4	内面磨耗		
1045	15902	須恵器	盒	SD11	底径11.3	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y8/1	良	底柱部1/4	内面磨耗		
1046	15804	須恵器	盒	SD11	底径11.4	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	2.5Y8/1	良	底柱部1/4	内面やや磨耗		
1047	15909	須恵器	椀	SD11	底径8.6	底部外面系切痕、内面ロココナデ	密 ロココナデ	5Y8/1	良	底柱部1/4	内面やや磨耗		
1048	15908	須恵器	甕	SD11	底径8.5	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	N8/7	良	底柱部1/4	内面やや磨耗		
1049	15702	須恵器	椀	SD11	底径8.8	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	10Y8/9/10	不良	底柱部1/4	内面やや磨耗		
1050	15509	須恵器	甕	SD11	底径8.3	底部外面系切痕、他はロココナデ	密 ロココナデ	10Y8/4	良	底柱部1/4	内面やや磨耗		

報告 番号	実測 番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高 (cm)	調整技法の特徴		胎土	色調	焼成	残存	特記事項	
							内部外面系切痕 他はロカナデ	外部外面系切痕 他はロカナデ					内部三叉トランジ 底部内面に沈線	内部三叉トランジ 底部内面に沈線
1051	15602	縁輪陶器	桶	SD11	底径6.6	2.6	密	5.66/1 2.45/5/4	良	底部完存	硬質	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1052	15603	縁輪陶器	桶	SD11	底径6.6	2.6	密	10/7/1 2.5/7/1	良	底部1/3	硬質	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1053	15604	縁輪陶器	桶	SD11	底径6.0	2.6	やや密	7.3/5/3 (6)	良	底部1/3	硬質	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1054	15601	縁輪陶器	桶	SD11	底径6.0	2.6	密	輪 緑	良	底部4/4	硬質			
1055	15904	山茶碗	桶	SD11	底径5.9	2.6	やや密	2.5/7/1 2.5/8/1	良	底部完存	内部斜毛	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1056	15903	山茶碗	桶	SD11	底径5.9	2.6	密	2.5/7/1 2.5/8/1	良	底部完存	内部斜毛	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1057	15910	山茶碗	桶	SD11	底径5.6	2.6	やや密	2.5/7/1 2.5/8/1	良	底部完存	内部斜毛	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1058	15901	山茶碗	桶	SD11	底径5.9	2.6	密	2.5/7/1 2.5/8/1	良	底部完存	内部斜毛	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1059	15905	山茶碗	桶	SD11	底径5.6	2.6	やや密	2.5/7/1 2.5/8/1	良	底部完存	内部斜毛	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1060	15802	山茶碗	桶	SD11	底径5.3	2.6	やや密	2.5/7/1 2.5/8/1	良	底部完存	内部斜毛	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1061	15901	山茶碗	桶	SD11	底径5.6	2.6	やや密	2.5/7/1 2.5/8/1	良	底部完存	内部斜毛	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1062	15907	山茶碗	桶	SD11	底径5.3	2.6	やや密	2.5/7/1 2.5/8/1	良	底部完存	内部斜毛	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1063	15906	山茶碗	桶	SD11	底径5.4	2.6	やや密	2.5/7/1 2.5/8/1	良	底部完存	内部斜毛	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1064	15703	山茶碗	桶	SD11	底径5.4	2.6	やや密	2.5/7/1 2.5/8/1	良	底部完存	内部斜毛	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1065	15805	山茶碗	桶	SD11	底径5.5	2.6	やや密	2.5/7/1 2.5/8/1	良	底部完存	内部斜毛	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1066	15911	山茶碗	桶	SD11	底径5.9	2.6	やや密	2.5/7/1 2.5/8/1	良	底部完存	内部斜毛	内部三叉トランジ 底部内面に沈線		
1067	15506	石製品	砾石?	SD11	(10.2) 8.3	厚22.3	-	-	-	-	-	底さ274.9g		
1068	1610	丸	平丸	SD11	-	2.6	印画布目直 一点面黒外 印画布目直 一部アラマリ	やや粗	10/5/1	良	2/3			
1069	16001	瓦	軒平瓦	SD11	-	2.6	印画布目直 一部アラマリ 印画布目直 1部	やや粗	10/5/1	良	小片	段頭 備行清等文		
1070	18304	土師器	壺	SD14	底径10.1	4.4	外面部下面系切痕、内面部 下面下部ロカナデ、他はロカナデ	やや粗	7.5/7/4 5/7/1	良	4	底底5点く圓形不規則		
1071	18303	須恵器	杯	SD14	底径12.0	4.4	外面部下面系切痕、内面部 下面下部ロカナデ、他はロカナデ	やや粗	7.5/7/4 5/7/1	良	4	底底5点く圓形不規則		
1072	18302	須恵器	盃	SD14	底径12.0	4.4	外面部下面系切痕、内面部 下面下部ロカナデ、他はロカナデ	やや粗	7.5/7/4 5/7/1	良	4	底底5点く圓形不規則		
1073	18301	土師器	壺	SD14	底径12.0	4.4	外面部下面系切痕、内面部 下面下部ロカナデ、他はロカナデ	やや粗	7.5/7/4 5/7/1	良	4	底底5点く圓形不規則		
1074	36903	輪式土器	壺	SD12	-	2.6	外面部下部、内面部 内面部下部、内面部下部	やや粗	7.5/7/3 5/7/2	良	2/3	体部小片		
1075	36904	輪式土器	壺	SD12	-	2.6	外面部下部、内面部 内面部下部、内面部下部	やや粗	7.5/7/3 5/7/2	良	2/3	体部小片		
1076	36905	輪式土器	壺	SD12	-	2.6	外面部下部、内面部 内面部下部、内面部下部	やや粗	7.5/7/3 5/7/2	良	2/3	体部小片		
1077	36906	輪式土器	壺	SD12	-	2.6	外面部下部、内面部 内面部下部、内面部下部	やや粗	7.5/7/3 5/7/2	良	2/3	体部小片		
1078	17896	土師器	杯	SD12	8.9	2.6	外面部下部、内面部 内面部下部、内面部下部	やや粗	7.5/8/2 5/8/2	良	1/3	口縁部1/8	内面放射暗文	
1079	17402	土師器	杯	SD12	12.8	2.8	外面部未焼成、内面部 内面部未焼成、内面部下部	やや粗	7.5/8/3 5/8/2	良	1/3			
1080	17601	土師器	壺	SD12	18.1	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	10/18/3 2.5/8/3	良	1/3	口縁部1/10		
1081	17803	土師器	壺	SD12	12.2	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	10/18/3 2.5/8/3	良	1/3	口縁部1/4		
1082	17602	土師器	壺	SD12	28.2	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	10/18/3 2.5/8/3	良	1/3	口縁部1/4		
1083	17802	土師器	壺	SD12	12.3	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	10/18/3 2.5/8/3	良	1/3	口縁部1/4		
1084	17904	土師器	壺	SD12	-	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	10/18/3 2.5/8/3	良	1/3	口縁部1/4		
1085	17901	土師器	壺	SD12	-	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	10/18/3 2.5/8/3	良	1/3	口縁部1/4		
1086	17906	土師器	壺	SD12	-	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	10/18/3 2.5/8/3	良	1/3	口縁部1/4		
1087	18104	木製品	木製品	SD12	-	2.6	木製	木製	7.5/7/4 5/7/3	良	1/3	口縁部1/4		
1088	17406	土製品	土壺	SD12	(6.7) × 3.4	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	2.5/8/2 2.5/8/2	良	1/3	口縁部1/5		
1089	18105	土製品	土壺	SD12	(5.0) × 1.3	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	2.5/8/2 2.5/8/2	良	1/3	口縁部1/5		
1090	17905	土製品	土壺	SD12	30.6	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	10/18/4 10/18/4	良	1/3	口縁部1/3	ヘテリリクのナメ	
1091	18201	土製品	土管?	SD12	長(26.8)	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	10/18/4 10/18/4	良	1/3	頭部胸脚	頭部に左側で手鏡の発見あり	
1092	18101	土製品	土管?	SD12	27.0	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	7.5/8/4 5/8/3	良	1/3	頭部1/12	推定柄	
1093	17701	土製品	土管?	SD12	-	2.6	外面上半部分、他はナデ 外面上半部分、他はナデ	やや粗	10/18/3 5/8/3	良	1/3	頭部1/12	推定柄	
1094	17207	須恵器	蓋	SD12	11.1	2.6	天井部外面カケス?	密	N7/	良	1/4			
1095	17209	須恵器	蓋	SD12	13.3	2.7	天井部外面カケス?	やや粗	N7/	良	1/2			

特記事項												
報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整括法の特徴	胎土	色調	施成	残存	
10966	17298	須恵器	蓋	SD12	15.4	2.8	大部分外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
10967	17501	須恵器	皿	SD12	15.4	2.9	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
10998	17292	須恵器	杯	SD12	10.7	4.1	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
10999	17293	須恵器	杯	SD12	12.6	3.8	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11000	17291	須恵器	杯	SD12	11.0	3.6	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11101	17309	須恵器	杯	SD12	10.8	3.6	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/4	
11102	17305	須恵器	杯	SD12	10.3	4.2	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/8	
11103	17301	須恵器	杯	SD12	10.8	6.6	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11104	17306	須恵器	杯	SD12	13.2	3.1	外面下半印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/4	
11105	17291	須恵器	杯	SD12	11.2	3.7	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11106	17294	須恵器	杯	SD12	10.8	4.0	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11107	17310	須恵器	杯	SD12	10.8	3.2	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11108	17300	須恵器	杯	SD12	10.9	3.6	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11109	17302	須恵器	杯	SD12	10.9	3.6	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11110	17307	須恵器	鉢	SD12	11.2	4.0	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/3	
11111	17296	須恵器	鉢	SD12	17.4	-	印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/8	
11112	17503	須恵器	蓋	SD12	底径11.6	-	外面下半印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11113	17405	須恵器	蓋	SD12	10.7	-	印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/8	
11114	17603	須恵器	瓶	SD12	16.8	7.5	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11115	17804	須恵器	蓋	SD12	18.4	7.5	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11116	17506	須恵器	蓋	SD12	18.7	7.4	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11117	17508	須恵器	蓋	SD12	14.9	-	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11118	17502	須恵器	蓋	SD12	18.8	7.7	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11119	17304	須恵器	蓋	SD12	16.6	6.1	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11120	17802	須恵器	甕	SD12	38.6	-	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11121	18901	須恵器	甕	SD12	20.5	-	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11122	17504	須恵器	蓋	SD12	18.4	-	底部外面印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11123	17803	灰陶器	皿	SD12	底径7.2	-	印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11124	17295	灰陶器	皿	SD12	13.8	3.1	外面下半印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11125	17401	灰陶器	椀	SD12	14.1	4.4	外面下半印加テキスト、他は印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11126	17210	灰陶器	小椀	SD12	底径5.3	-	印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11127	17903	縁鉢陶器	椀	SD12	底径8.0	-	印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11128	17902	縁鉢陶器	椀	SD12	底径6.3	(10.1)×4.2	厚さ1.4	凹面直目 凹面直目、凸面ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2
11129	17403	石製品	砥石	SD12	-	-	印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11130	18102	石製品	砥石	SD12	-	-	印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11131	18103	石製品	砥石	SD12	-	-	印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11132	17404	石製品	砥石	SD12	(7.2)×(1.4)	-	印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11133	17411	石製品	砥石	SD12	2.05×(1.55)	厚さ0.30	印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11134	18106	石製品	砥石	SD12	3.3×1.0	厚さ1.0	印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11135	17901	石製品	砥石	SD12	4.1	-	印加ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11136	15106	石製品	砥石	SD13	12.6	3.4	底部外面印加テキスト、内面ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	
11137	15105	石製品	砥石	SD13	底径7.3	-	底部外面印加テキスト、内面ナガテ	泥	N6/外付ナガテ	良	1/2	

報告 番号	実測 番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴		縦土	色調	焼成	残存	特記事項
							所	所					
176	19404	土師器	鍋	S032	-	3.2×7.5	やや厚	薄	良	口縫部小片	伊勢型	外外面アス	
177	19403	土師器	鍋	S032	-	3.2×7.5	やや厚	薄	良	口縫部小片	伊勢型	外外面アス	
178	19402	土師器	釜	S032	径0.95	厚30.70	やや厚	薄	良	口縫部小片	伊勢型	外外面アス	
179	19422	ガラス製品	白玉	S032	2.65×1.70	厚30.40	やや厚	薄	-	-	-	保存	内面小窓
180	19409	石製品	石礫	S032	1.80×1.45	厚30.38	やや厚	薄	-	-	-	保存	内面小窓
181	19211	石製品	石礫	S032	底大径16.2	底高16.2	やや厚	薄	良	口縫部/4	伊勢型	外外面アス	
182	19304	灰陶製器	陶	S032	底8.4	底8.4	やや厚	薄	良	底部/4	直筒直2脚		
183	19205	灰陶製器	陶	S032	底8.9	底8.9	やや厚	薄	良	底部/3	直筒直2脚		
184	19207	灰陶製器	陶	S032	底8.7	底8.7	やや厚	薄	良	底部/3	直筒直2脚		
185	19203	灰陶製器	陶	S032	底8.7	底8.7	やや厚	薄	良	底部/3	直筒直2脚		
186	19201	山茶樹	陶	S032	底8.2	底8.2	やや厚	薄	良	底部/2	内面斜直	内面斜直	
187	19204	山茶樹	陶	S032	底8.5	底8.5	やや厚	薄	良	底部/2	内面斜直	内面斜直	
188	19202	山茶樹	陶	S032	底8.6	底8.6	やや厚	薄	良	底部/2	内面斜直	内面斜直	
189	19208	山茶樹	小皿	S032	7.6	2.2	やや厚	薄	良	底部/2	内面斜直	内面斜直	
190	19209	山茶樹	小皿	S032	7.8	1.5	やや厚	薄	良	底部/4	内面斜直	内面斜直	
191	19206	山茶樹	陶	S032	底8.4	底8.4	やや厚	薄	良	底部/5	内面斜直	内面斜直	
192	19401	山茶樹	鉢	S032	-	-	やや厚	薄	良	口縫部小片	内面斜直	内面斜直	
193	19210	山茶樹	鉢	S032	底径13.4	底径13.4	やや厚	薄	良	底部/4	内面斜直	内面斜直	
194	19407	陶器	甕	S032	-	3.2×7.5	やや厚	薄	良	口縫部小片	常滑		
195	19406	陶器	甕	S032	-	3.2×7.5	やや厚	薄	良	口縫部小片	常滑		
196	19405	陶器	甕	S032	-	3.2×7.5	やや厚	薄	良	口縫部小片	常滑		
197	19408	陶器	甕	S032	-	外面部下端カタツミ、他はナナフ	やや厚	薄	良	口縫部小片	常滑		
198	19301	陶器	鉢	S032	-	外面部未調整、内面ナナフ	やや厚	薄	良	口縫部小片	常滑		
199	19303	陶器	鉢	S032	-	ナナフ	やや厚	薄	良	口縫部小片	常滑		
200	19302	陶器	鉢	S032	-	外面部未調整、内面ナナフ	やや厚	薄	良	口縫部小片	常滑		
201	19305	生土器	鉢	S032	-	ナナフ	やや厚	薄	良	口縫部小片	常滑		
202	21706	生土器	釜	S033	17.8	17.8	やや厚	薄	良	口縫部小片	内面斜直	内面斜直	
203	27502	新生土器	釜	S033	15.8	15.8	やや厚	薄	良	口縫部小片	内面斜直	内面斜直	
204	27602	新生土器	高杯	S033	18.8	18.8	やや厚	薄	良	口縫部/4	内面斜直	内面斜直	
205	27602	新生土器	高杯	S033	底径5.7	底径5.7	やや厚	薄	不良	底部/4	内面斜直	内面斜直	
206	27605	新生土器	甕	S033	12.8	3.2×7.5	やや厚	薄	良	口縫部/3	内面斜直	内面斜直	
207	27603	新生土器	甕	S033	15.6	3.2×7.5	やや厚	薄	良	口縫部/3	内面斜直	内面斜直	
208	28302	新生土器	甕	S033	13.6	3.2×7.5	やや厚	薄	良	口縫部/6	内面斜直	内面斜直	
209	27501	新生土器	甕	S033	13.4	3.2×7.5	やや厚	薄	良	口縫部/6	内面斜直	内面斜直	
210	28501	新生土器	甕	S033	18.2	3.2×7.5	やや厚	薄	良	口縫部/3	内面斜直	内面斜直	
211	28101	新生土器	甕	S033	13.3	3.2×7.5	やや厚	薄	良	口縫部/6	内面斜直	内面斜直	
212	28102	新生土器	甕	S033	底径5.6	底径5.6	やや厚	薄	良	台部/1.2	内面斜直	内面斜直	
213	27606	新生土器	高杯	S033	底径13.3	底径13.3	やや厚	薄	良	台部/3	内面斜直	内面斜直	
214	27603	新生土器	高杯	S033	底径8.5	底径8.5	やや厚	薄	良	台部/3	内面斜直	内面斜直	
215	27904	新生土器	高杯	S033	9.5	2.1	外面部調整、内面ナナフ	やや厚	良	脚部/2	内面斜直	内面斜直	
216	27027	新生土器	高杯	S033	9.3	1.9	外面部調整、内面ナナフ	やや厚	良	脚部/2	内面斜直	内面斜直	
217	28404	新生土器	高杯	S033	12.6	1.6	外面部調整、内面ナナフ	やや厚	良	脚部/2	内面斜直	内面斜直	
218	28704	新生土器	高杯	S033	8.8	1.6	外面部調整、内面ナナフ	やや厚	良	脚部/2	内面斜直	内面斜直	
219	28707	新生土器	高杯	S033	9.8	2.1	外面部調整、内面ナナフ	やや厚	良	脚部/2	内面斜直	内面斜直	
220	28705	新生土器	高杯	S033	9.8	1.5	外面部調整、内面ナナフ	やや厚	良	脚部/2	内面斜直	内面斜直	
221	28708	新生土器	高杯	S033	8.8	0.8	外面部調整、内面ナナフ	やや厚	良	脚部/2	内面斜直	内面斜直	
222	28706	新生土器	高杯	S033	28.0	1.7	ヨコナフ	やや厚	良	脚部/2	内面斜直	内面斜直	
223	28709	新生土器	高杯	S033	17.3	1.7	ヨコナフ	やや厚	良	脚部/2	内面斜直	内面斜直	
224	28501	新生土器	高杯	S033	-	-	-	-	-	-	-	内面斜直	内面斜直

報告書号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	給土	色調	焼成	残存	特記事項
1225	28304	須恵器	蓋	SD33	12.2	4.9	天井部外側面にカケス [△] 、 他は口沿部 [△] と大井部外側面にカケス [△] 、 大井部外側面にカケス [△] 、 他は口沿部 [△]	密	N7/	良	口縁部1/12	
1226	28601	須恵器	蓋	SD33	13.8	4.4		密	10Y7/1	やや不良	1/4	
1227	27701	須恵器	蓋	SD33	13.6			密	N4/	良	1/4	
1228	27601	須恵器	蓋	SD33	14.7			密	N7/	良	口縁部1/12	底底が微しく調整不明
1229	28708	須恵器	杯	SD33	13.2	3.5	底部外側面にカケス [△] 、他は口沿部 [△] 、 口沿部外側面にカケス [△] 、他は口沿部 [△]	やや粗	N8/	良	1/4	
1230	27704	須恵器	杯	SD33	13.5	2.8	底部外側面に調整、他は口沿部 [△]	やや粗	N8/	良	口縁部1/12	
1231	28201	須恵器	杯	SD33	15.7			やや粗	N8/	良	口縁部1/12	
1232	28601	須恵器	高杯	SD33	18Y6.9			やや粗	7.5Y5/1	良	脚部1/2	底底が微しく調整不明
1233	27801	須恵器	鉢	SD33	底径10.3			良	良	良	1/3	
1234	27802	須恵器	盤	SD33	体径1.6			密	N5/	良	体部1/3	注口隆起 体部に沈線+網突列点文
1235	27504	須恵器	盤	SD33	11.6			やや粗	N5/	良	口縁部1/3	
1236	28902	須恵器	高杯	SD33	底径12.6			粗	2.5Y7/2	良	脚部1/4	底底が微しく調整不明
1237	28502	須恵器	盤	SD33	17.4			やや粗	7.5Y7/1	良	口縁部1/2	
1238	28503	須恵器	盤	SD33	胸径30.8			やや粗	7.5Y7/1	良	把手部1/2	把手部1/2
1239	27501	須恵器	盤?	SD33	28.6			やや粗	7.5Y7/1	良	口縁部1/2	
1240	28402	須恵器	円筒形輪	SD33	胸42.8			やや粗	10Y7/4	良	底底が微しく調整	
1241	28205	須恵器	鉢	SD33	底径16.4			やや粗	5.8Y1	良	底底1/6	
1242	27905	須恵器	鉢	SD33	底径15.5			やや粗	2.5Y7/1	良	底底1/6	
1243	28103	須恵器	蓋	SD33	底径12.6		外側にカケス [△] 、他は口沿部 [△]	やや粗	5Y6/3	良	底部1/6	
1244	28401	青磁	碗	SD33	17.2		口沿部 [△]	密	10Y8/1	良	口縁部1/10	内面に印刷文
1245	28703	山茶柄	小皿	SD33	9.1	1.3	底部外側面に切痕、他は口沿部 [△]	やや粗	N7/	良	1/3	直接直火焼き
1246	27703	山茶柄	柄	SD33	底径8.3		口沿部外側面に切痕、他は口沿部 [△]	やや粗	2.5Y8/1	良	口縁部1/10	
1247	28104	山茶柄	柄	SD33	底径8.2		底部外側面に切痕、他は口沿部 [△]	やや粗	2.5Y8/1	良	口縁部1/10	
1248	27602	山茶柄	柄	SD33	底径8.9		底部外側面に切痕、他は口沿部 [△]	やや粗	5Y8/1	良	口縁部1/10	
1249	28402	山茶柄	柄	SD33	底径8.9		底部外側面に切痕、他は口沿部 [△]	やや粗	2.5Y8/1	良	口縁部1/10	
1250	28204	山茶柄	柄	SD33	底径8.2		底部外側面に切痕、他は口沿部 [△]	やや粗	2.5Y8/1	良	口縁部1/10	
1251	27801	山茶柄	柄	SD33	底径8.3		底部外側面に切痕、他は口沿部 [△]	やや粗	2.5Y7/1	良	口縁部1/10	
1252	28702	山茶柄	鉢	SD33	底径18.6		口沿部外側面に切痕、他は口沿部 [△]	やや粗	5.7Y7/1	良	底部1/2	
1253	28802	山茶柄	鉢	SD33	18.6		口沿部外側面に切痕、他は口沿部 [△]	やや粗	5.7Y7/1	良	口縁部1/12	
1254	27604	山茶柄	柄	SD33	16.4		口沿部外側面に切痕、他は口沿部 [△]	やや粗	5.7Y7/1	良	口縁部1/12	
1255	27503	陶器	鉢	SD33	24.5		口沿部外側面に切痕、他は口沿部 [△]	やや粗	2.5Y8/3	良	口縁部1/12	
1256	28301	陶器	蓋	SD33	底径10.4		底部外側面にカケス [△]	やや粗	7.5Y3/2	良	底底1/4	自然釉のたれの調整なし原
1257	28403	陶器	鉢	SD33	底径10.6		底部外側面に調整、内面ナメ [△]	やや粗	5Y5/1	良	底底1/4	自然釉のたれの調整なし原
1258	27607	陶器	鉢?	SD33	底径8.9		底部外側面にカケス [△] 、内面ナメ [△]	やや粗	5.7Y8/2	良	底底1/4	自然釉のたれの調整なし原
1259	28206	陶器	甕	SD33	31.6		口沿部外側面にカケス [△]	やや粗	2.5Y7/4	良	底底1/4	自然釉のたれの調整なし原
1260	28203	陶器	円筒加工板	SD33	4.5×4.6		厚さ1.5 打ち欠き	やや密	2.5Y8/2	良	底底1/2	天目茶碗底部を伝用
1261	27609	石製品	平瓦	SD33	—		切削面目質	やや粗	2.5Y3/1	良	底底1/2	底底が微しく調整不明瞭
1262	27901	石製品	瓶	SD33	(8.4)×(4.2)	厚さ1.0	外側にカケス [△]	やや粗	2.5Y6/2	良	底底1/2	底底が微しく調整不明瞭
1263	26608	石製品	RF	SD33	5.00×2.80	厚さ1.0	外側にカケス [△]	やや粗	2.5Y6/2	良	底底1/2	底底が微しく調整不明瞭
1264	25601	土器	土器	SD33	18.8	2.5	外側にカケス [△] 、内面ナメ [△]	やや粗	5Y8/2	良	内面1/2前	内面1/2前
1265	25403	土器	土器	SD36	20.5	1.8	外側にカケス [△] 、内面ナメ [△]	やや粗	10Y8/2	良	内面1/2前	内面1/2前
1266	27504	土器	土器	SD36	19.0	4.1	外側にカケス [△] 、内面ナメ [△]	やや粗	10Y8/2	良	内面1/2前	内面1/2前
1267	25503	土器	土器	SD36	20.8		外側にカケス [△] 、内面ナメ [△]	やや粗	5Y5/3	良	内面1/2前	内面1/2前
1268	25502	土器	土器	SD36	19.8		外側にカケス [△] 、内面ナメ [△]	やや粗	10Y8/2	良	内面1/2前	内面1/2前
1269	25402	土器	土器	SD36	15.6		外側にカケス [△] 、内面ナメ [△]	やや粗	7.5Y7/3	良	内面1/2前	内面1/2前
1270	25501	土器	土器	SD36	21.8		外側にカケス [△]	やや粗	7.5Y7/4	良	内面1/2前	内面1/2前

報告書 番号	実測 番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高 (cm)	調整抜法の特徴		胎土	色調	焼成	残存	特記事項
							内部下面下半 ^ノ カツアリ、他はロウナ	外部 ^ノ カツアリ、内面ナナ ^ノ					
1271	25701	土師器	甕	S036	口径16.2	3.5	外部外面下部 ^ノ カツアリ、他はロウナ	内面ナナ ^ノ	やや粗	外 10YR6/2 内 5YR7/6	良	1/4	
1272	25504	土師器	甕	S036	14.0	3.6	外部外面下部 ^ノ カツアリ、他はロウナ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR7/4	良	口綻部1/8	胎底少々微しく調整不良
1273	25401	土師器	甕	S036	26.1	4.0	天井部外側 ^ノ カツアリ、 他はロウナ	内面ナナ ^ノ	やや粗	7.5YR5/4	良	口綻部1/4	
1274	25801	須恵器	蓋	S036	16.0	3.5	天井部外側 ^ノ カツアリ、 他はロウナ	内面ナナ ^ノ	やや粗	N6/	良	1/4	
1275	25702	須恵器	蓋	S036	16.7	2.4	天井部外側 ^ノ カツアリ、 他はロウナ	内面ナナ ^ノ	やや粗	7.5YR5/1	良	1/5	
1276	25805	須恵器	杯	S036	10.4	3.2	底部外面下部 ^ノ カツアリ、他はロウナ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR7/6	良	1/4	
1277	25804	須恵器	杯	S036	11.1	3.6	底部外面下部 ^ノ カツアリ、他はロウナ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR7/1	良	1/3	
1278	25603	須恵器	杯	S036	14.4	4.0	底部外面下部 ^ノ カツアリ、他はロウナ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR6/1	良	1/5	外面部1条
1279	25805	須恵器	盤	S036	24.2	4.6	底部外面下部 ^ノ カツアリ、他はロウナ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR6/1	良	1/5	
1280	25602	須恵器	盤	S036	19.3	3.2	底部外面下部 ^ノ カツアリ、他はロウナ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR6/1	良	1/5	
1281	25803	須恵器	杯	S036	13.6	4.1	ロウナ	内面回心凹文	外 N6/	良	底部1/2		
1282	25901	須恵器	甕	S036	29.9	—	外面部 ^ノ カツアリ、内面回心凹文	内面回心凹文	やや粗	5YR7/1	不具	口綻部1/5	
1283	25901	須恵器	甕	S036	20.3	—	外面部 ^ノ カツアリ、内面回心凹文	内面回心凹文	粗	5YR8/1	やや不	口綻部1/3	
1284	25902	須恵器	甕	S036	19.8	—	外面部 ^ノ カツアリ、内面回心凹文	内面回心凹文	外 N6/	良	口綻部1/3		
1285	25902	須恵器	甕	S036	盛径10.2	—	底部外面下部 ^ノ カツアリ、他はロウナ	内面下部 ^ノ カツアリ、他はロウナ	やや粗	5YR7/1	良	底部1/4	
1286	25703	須恵器	甕	S036	体径15.5	—	底部外面下部 ^ノ カツアリ、 他はロウナ	内面ナナ ^ノ	やや粗	N6/	良	頭部～体部1/2	
1287	木1801	木桶	木桶	S036	23.5×2.8	厚20.7	—	—	—	—	—	—	黒漆□□十□年十月七日神前車人
1288	22301	牛生土器	壺	S034	—	—	やや粗	10YR7/4	良	口綻部外側1/2	口綻部外側1/2		口綻部外側少々黒漆しき調整不良
1289	22302	牛生土器	壺	S034	底径16.6	—	やや粗	10YR7/4	良	口綻部外側1/2	口綻部外側1/2		口綻部外側少々黒漆しき調整不良
1290	22303	須恵器	杯	S034	12.0	3.6	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR7/1	良	1/5	
1291	23202	土師器	壺	S035	13.8	2.9	外面部圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	10YR8/3	良	1/2	
1292	23203	土師器	壺	S035	13.4	2.9	外面部圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	10YR8/3	良	1/4	
1294	23101	土師器	壺	S035	12.4	3.6	外面部圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR7/3	良	1/7	
1295	23004	土師器	甕	S035	14.0	—	外面部圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR8/3	良	口綻部1/6	
1296	23003	土師器	甕	S035	15.6	—	外面部圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	10YR6/3	良	口綻部1/4	
1297	23002	土師器	甕	S035	14.8	—	外面部圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	7.5YR8/3	良	口綻部1/4	
1298	23001	土師器	甕	S035	15.4	—	外面部圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	10YR7/3	良	口綻部1/4	
1299	23001	須恵器	杯	S035	11.6	3.8	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	7.5YR6/3	良	1/5	
1300	23201	須恵器	杯	S035	12.6	3.2	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR6/1	良	1/4	
1301	23103	須恵器	杯	S035	—	—	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR6/1	良	1/3	
1302	23205	灰陶器	杯	S035	14.0	2.6	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	10YR7/1	良	2/6	内面に印刷文、直棱重ね焼き
1303	23203	灰陶器	杯	S035	13.0	3.2	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	10YR7/1	良	2/6	灰陶刷毛塗り直棱重ね焼き
1304	23204	灰陶器	杯	S035	14.8	4.3	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	7.5YR7/3	良	1/2	灰陶刷毛塗り直棱重ね焼き
1305	23204	灰陶器	杯	S035	18.8	—	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	10YR7/1	良	1/3	灰陶刷毛塗り直棱重ね焼き
1306	23202	灰陶器	杯	S035	14.2	4.2	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	10YR7/1	良	1/3	
1307	23206	灰陶器	杯	S035	底径16.7	—	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR8/2	良	底部1/4	
1308	23207	灰陶器	杯	S035	底径16.6	—	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR7/1	良	1/4	直棱重ね焼き
1309	23205	灰陶器	杯	S035	13.8	—	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	10YR7/1	良	1/3	灰陶刷毛塗り直棱重ね焼き
1310	23202	灰陶器	杯	S035	—	—	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	10YR7/4	良	小1斤	
1311	23108	土製品	土製品	S035	3.7×2.1	—	—	—	—	—	—	—	直棱重ね焼き
1312	23105	土製品	土製品	S035	4.5×2.3	—	—	—	—	—	—	—	直棱重ね焼き
1313	23107	土製品	土製品	S035	4.6×2.1	—	—	—	—	—	—	—	直棱重ね焼き
1314	23106	土製品	土製品	S035	5.3×2.4	—	—	—	—	—	—	—	直棱重ね焼き
1315	23104	土製品	土製品	S035	(5.9)×2.0	—	—	—	—	—	—	—	直棱重ね焼き
1316	26402	須恵器	蓋	S037	10.6	—	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR6/1	良	1/3	
1317	26401	須恵器	蓋	S037	11.6	3.6	底部外面大圓形、内面ナナ ^ノ	内面ナナ ^ノ	やや粗	5YR6/1	良	1/2	

報告書番号	実測備考	質	器種等	直横	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴		給土	色調	焼成	現存	特記事項
							外表面下半部カケアリ、 他はコロナリ、内面ナナデ'	内面未調整、内面ナナデ'					
1318 27301	須恵器	高杯	SD16	12.3	底18.0 3.2×13.95	21.2	2.0	外表面未調整、内面ナナデ'	やや密	7.5V6/1	良	口縁部/3	体部外面に割れ所点々・擦き隕線文 外底13.9cm、サヌカイト
1319 29002	朱生土器	甕	Pt	—	—	—	—	—	粗	10V6/2	不良	口縁部/3	外底13.9cm、サヌカイト
1320 36601	石瓶	石瓶	Pt	—	—	—	—	—	—	—	—	口縁部/3	外底13.9cm、サヌカイト
1321 36405	土師器	甕	Pt	—	—	—	—	—	—	—	—	口縁部/3	外底13.9cm、サヌカイト
1322 36802	土師器	甕	Pt	6.6	6.6	—	—	—	—	—	—	口縁部/3	外底13.9cm、サヌカイト
1323 36203	土師器	甕	Pt	12.6	12.6	3.6	外表面未調整、内面ナナデ'	やや密	10V8/4	良	口縁部/4	外底13.9cm、サヌカイト	
1324 29801	土師器	杯	Pt	12.4	11.3	3.4	外表面未調整、内面ナナデ'	やや密	12.5V8/3	良	口縁部/4	外底13.9cm、サヌカイト	
1325 31503	土師器	甕	Pt	12.8	12.8	—	—	—	粗	10V8/3	良	口縁部/4	外底13.9cm、サヌカイト
1326 28906	土師器	甕	Pt	—	—	—	—	—	—	—	—	口縁部/4	外底13.9cm、サヌカイト
1327 20501	土師器	甕	Pt	13.2	13.2	—	外表面ナナデ、内面ナナデ'	密	2.5V6/4	良	口縁部/6	外底13.9cm、サヌカイト	
1328 31001	土師器	甕	Pt	17.2	16.2	—	—	—	粗	10V5/2	良	口縁部/6	外底13.9cm、サヌカイト
1329 29901	土師器	甕	Pt	16.2	15.2	—	—	—	密	10V6/4	良	口縁部/6	外底13.9cm、サヌカイト
1330 29904	土師器	甕	Pt	22.4	—	—	外表面ナナデ、内面ナナデ'	やや密	2.5V8/2	不 ^良	口縁部/6	外底13.9cm、サヌカイト	
1331 31402	土師器	甕	Pt	23.4	—	—	—	—	粗	7.5V8/3	良	口縁部/4	外底13.9cm、サヌカイト
1332 31504	土師器	甕	Pt	19.0	—	—	外表面ナナデ、内面ナナデ'	やや密	10V8/3	良	口縁部/4	外底13.9cm、サヌカイト	
1333 30502	土師器	甕	Pt	16.8	—	—	外表面ナナデ、内面ナナデ'	やや密	10V7/4	良	口縁部/6	外底13.9cm、サヌカイト	
1334 30301	土師器	甕	Pt	22.9	—	—	—	—	粗	10V8/3	良	口縁部/6	外底13.9cm、サヌカイト
1335 30207	土師器	甕	Pt	28.2	—	—	—	—	粗	10V6/2	良	口縁部/12	外底13.9cm、サヌカイト
1336 31201	土師器	甕	Pt	32.0	—	—	—	—	粗	7.5V6/4	良	口縁部/12	外底13.9cm、サヌカイト
1337 31502	土師器	甕	Pt	10.2	4.0	4.0	大井部外面未調整、他はコロナデ'	やや粗	5B6/7.1	良	口縁部/6	外底13.9cm、サヌカイト	
1338 29204	灰陶器	甕	Pt	3.5	4.7	—	—	—	粗	5B6/7.1	良	口縁部/6	外底13.9cm、サヌカイト
1339 30406	灰陶器	甕	Pt	5.4×2.1	—	—	—	—	粗	7.5V7/6	良	口縁部/6	外底13.9cm、サヌカイト
1340 30407	灰陶器	甕	Pt	4.0×2.1	—	—	—	—	粗	2.5V8/2	良	口縁部/6	外底13.9cm、サヌカイト
1341 30907	灰陶器	甕	Pt	3.2×1.7	—	—	—	—	粗	2.5V8/2	良	口縁部/6	外底13.9cm、サヌカイト
1342 31202	須恵器	甕	Pt	23.4	—	—	—	—	粗	10V6/1	良	口縁部/12	外底13.9cm、サヌカイト
1343 30304	須恵器	甕	Pt	25.2	—	—	—	—	粗	7.5V6/8	良	口縁部/12	外底13.9cm、サヌカイト
1344 30308	須恵器	甕	Pt	15.2	6.5	6.5	外表面未調整、内面ナナデ'	密	10V8/3	良	口縁部/6	外底13.9cm、サヌカイト	
1345 36801	青磁	碗	Pt	15.4	—	—	クロコナデ	粗	10V7/1	良	口縁部/8	外底13.9cm、サヌカイト	
1346 31302	青磁	碗	Pt	16.6	—	—	クロコナデ	粗	5V8/1	良	口縁部/12	外底13.9cm、サヌカイト	
1347 30504	綠釉陶器	碗	Pt	12.4	—	—	ウカナナデ	密	10V6/1	良	口縁部/12	外底13.9cm、サヌカイト	
1348 31301	黒土器	甕	Pt	底16.0	—	—	底部外面カケアリ、他はコロナデ'	密	7.5V8/3	良	底部/4	底部外面カケアリ、他はコロナデ'	
1349 30401	灰陶器	甕	Pt	13.5	2.9	—	底部外面未調整、他はコロナデ'	密	2.5V3/4	良	底部/4	底部外面カケアリ、他はコロナデ'	
1350 30503	灰陶器	甕	Pt	13.4	4.4	—	底部外面カケアリ、他はコロナデ'	密	2.5V7/4	良	底部/4	底部外面カケアリ、他はコロナデ'	
1351 29705	灰陶器	甕	Pt	底16.1	—	—	底部外面カケアリ、他はコロナデ'	密	5V8/1	良	底部/6	底部外面カケアリ、他はコロナデ'	
1352 30905	灰陶器	甕	Pt	—	—	—	—	—	粗	7.5V8/1	良	底部/6	底部外面カケアリ、他はコロナデ'
1353 30901	灰陶器	甕	Pt	14.6	—	—	ウカナナデ	密	7.5V7/1	良	底部/6	底部外面カケアリ、他はコロナデ'	
1354 30201	灰陶器	甕	Pt	底18.2	—	—	ウカナナデ	密	2.5V7/1	良	底部/6	底部外面カケアリ、他はコロナデ'	
1355 30801	灰陶器	甕	Pt	底18.0	—	—	ウカナナデ	密	2.5V7/1	良	底部/6	底部外面カケアリ、他はコロナデ'	
1356 30902	灰陶器	甕	Pt	底17.1	—	—	ウカナナデ	密	2.5V8/1	良	底部/6	底部外面カケアリ、他はコロナデ'	
1357 30106	灰陶器	甕	Pt	底18.3	—	—	ウカナナデ	密	2.5V8/2	良	底部/6	底部外面カケアリ、他はコロナデ'	
1358 29908	山茶碗	小甕	Pt	8.5	1.9	—	底部外面未調整、他はコロナデ'	密	7.5V7/1	良	底部/6	底部外面未調整、他はコロナデ'	
1359 30302	山茶碗	小甕	Pt	9.3	1.7	—	ウカナナデ	密	7.5V7/1	良	底部/6	底部外面未調整、他はコロナデ'	
1360 29901	山茶碗	小甕	Pt	2.2	—	—	ウカナナデ	密	7.5V7/1	良	底部/6	底部外面未調整、他はコロナデ'	
1361 30903	灰陶器	甕	Pt	底18.7	—	—	ウカナナデ	密	N8/1	良	底部/6	底部外面未調整、他はコロナデ'	
1362 29505	灰陶器	甕	Pt	底18.3	—	—	ウカナナデ	密	7.5V7/1	良	底部/6	底部外面未調整、他はコロナデ'	
1363 30402	灰陶器	甕	Pt	底18.2	—	—	ウカナナデ	密	7.5V7/1	良	底部/6	底部外面未調整、他はコロナデ'	
1364 30303	山茶碗	小甕	Pt	14.1	5.1	—	ウカナナデ	密	N8/1	良	底部/6	底部外面未調整、他はコロナデ'	
1365 30904	灰陶器	甕	Pt	底18.9	—	—	ウカナナデ	密	7.5V8/1	良	底部/3	底部外面未調整、他はコロナデ'	

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴	給土	色調	焼成	残存	特記事項
3366	31101	山茶柄 梗	Pt	14.5	5.5	底部外縁切痕、他は口吻ナナ	粗 N/7	やや密	13.5正存	高台に立地、内部や外縁部に落毛、前はごく薄い、内面や外縁部に落毛		
1367	30403	山茶柄 梗	Pt	底径5.8	15.4	5.1	底部外縁切痕、他は口吻ナナ	粗 N/7	やや密	底部正存	直角底、不規則、底部外縁部に落毛	
1368	29502	山茶柄 梗	Pt	底径6.2	4.5	4.5	底部外縁切痕、他は口吻ナナ	粗 N/7	やや密	底部正存	直角底、不規則、底部外縁部に落毛	
1369	29501	山茶柄 梗	Pt	12.7	4.5	4.5	底部外縁切痕、他は口吻ナナ	粗 N/7	やや密	底部正存	直角底、不規則、底部外縁部に落毛	
1370	31601	朱生土器 簋	包	最大径26.0	外縁へき裂あり、内面未調査	内 10.7	N/7	やや密	脚部小片	外面部に立地、格文、円形透窓、推定径		
1371	32708	朱生土器 高杯	包	脚柱径4.7	-	-	やや密	7.5VTR8/4	良	脚柱部2/3	底部小窓あり、透窓、不明瞭	
1372	35201	朱生土器 瓢	包	底径5.0	外縁へき裂あり	内 10.7	N/7	やや密	底部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1373	35403	朱生土器 瓢	包	底径6.2	外縁へき裂あり	内 10.7	N/7	やや密	底部正存	底部外縁部2度上方落毛、不明瞭		
1374	35401	朱生土器 瓢	包	19.8	外縁へき裂あり、内面ナナ	内 10.7	N/7	やや密	底部正存	底部外縁部2度上方落毛、不明瞭		
1375	35402	土師器 瓢	包	11.9	ナラ	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	口縁部2/8	口縁部に細き縫合文	
1376	32707	土師器 瓢	包	底径3.1	ナラ	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	脚部正存	外面部に立地、可能有り	
1377	36902	土師器 手程	包	-	ヒビ付エ	内 2.5	VTR8/2	良	体下部正存	底部小窓あり、透窓、不明		
1378	36201	土師器 瓢	包	底径5.8	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1379	32701	土師器 瓶	包	14.0	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1380	33411	土師器 瓶	包	13.4	2.9	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1381	32608	土師器 瓶	包	13.4	2.9	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1382	32607	土師器 瓶	包	12.0	2.8	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1384	35008	土師器 三	包	7.9	2.0	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1384	35005	土師器 三	包	11.0	2.0	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1386	31701	土師器 瓶	包	12.8	2.9	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1386	11304	土師器 瓶	包	13.6	2.3	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1387	32610	土師器 瓶	包	15.0	3.0	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1388	33410	土師器 梗	包	12.0	3.4	底部外縁切痕あり、内面ナナ	内 10.7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1389	33409	土師器 梗	包	14.4	5.0	外縁へき裂あり、内面ナナ	内 10.7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1390	33405	土師器 三	包	9.2	1.7	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1391	32705	土師器 三	包	14.2	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1392	35205	土師器 瓶	包	11.8	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1393	32609	土師器 瓶	包	11.7	3.6	外縁未調査、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1394	31703	土師器 瓶	包	16.8	1.7	外縁へき裂あり、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1395	18701	土師器 三	包	17.8	3.1	外縁へき裂あり、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1396	25101	土師器 三	包	16.0	3.1	外縁へき裂あり、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1397	32702	土師器 三	包	14.4	2.3	外縁へき裂あり、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1398	36105	土師器 瓶	包	11.7	4.3	外縁へき裂あり、内面ナナ	内 10.7	密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1399	10305	土師器 三	包	12.2	コロナ	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1400	10802	砂70土師器 三	包	9.9	2.3	底部外縁切痕、他は口吻ナナ	内 10.7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1401	33406	白土器 梗	包	底径5.4	外縁へき裂あり、内面ナナ	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1402	36106	白土器 梗	包	底径5.5	外縁へき裂あり、内面ナナ	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1403	33407	白土器 梗	包	底径5.3	外縁へき裂あり、内面ナナ	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1404	33204	瓦器 梗	包	底径5.2	外縁へき裂あり、内面ナナ	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1405	32201	瓦器 梗	包	底径5.1	外縁へき裂あり、内面ナナ	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1406	32101	黑色土器 瓶	包	15.3	内面へき裂あり	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛	A類	
1407	33408	黑色土器 梗	包	底径7.0	内面へき裂あり	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1408	32202	埴輪土器 瓦	包	底径14.3	内面へき裂あり	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1409	36103	土師器 瓶	包	14.0	内面へき裂あり	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		
1410	33502	土師器 瓶	包	14.2	内面へき裂あり	内 10.7	N/7	やや密	脚部正存	底部外縁部2度上方落毛		

報告書番号	実測番号	質	基準等	直横	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	給土	色調	焼成	残存	特記事項
1411	36/02	土師器	甕	包	15.8	外面内側、内面ナデ	やや粗 やや密	10YR7/3 10YR5/5	良	口縁部/6		
1412	36/01	土師器	甕	包	21.0	外面内側、内面ナデ	やや粗 やや密	5YR7/6 5YR5/5	良	口縁部/12		
1413	32/01	土師器	甕	包	17.3	外面未調整、内面ナデ	やや粗 やや密	5YR7/3 5YR5/5	良	口縁部/12		
1414	35/04	土師器	甕	包	16.2	外面未調整、内面ナデ	やや粗 やや密	7.5YR7/4 7.5YR5/5	良	口縁部/6		
1415	35/03	土師器	甕	包	27.1	外面工具、内面ナデ	やや粗 やや密	7.5YR7/3 7.5YR5/5	良	口縁部/6		
1416	10/01	土師器	甕	包	16.0	外面工具、内面工具ナデ	やや粗 やや密	10YR7/2 10YR5/5	良	口縁部/7		
1417	32/06	土師器	甕	包	16.0	外面工具、内面ナデ	やや粗 やや密	2.5YR8/2 2.5YR6/2	良	底部/7		
1418	32/03	土師器	甕	包	7.5YR8/2	外、2.5YR8/2	粗 やや密	7.5YR7/2 10YR7/2	良	口縲部/10		
1419	32/03	土師器	甕	包	24.4	外、2.5YR8/2	粗 やや密	7.5YR7/2 10YR7/2	良	口縲部/7		
1420	32/04	土師器	甕	包	20.0	外面未調整、内面ナデ	やや粗 やや密	10YR7/2 10YR5/5	良	口縲部/7		
1421	21/02	土師器	甕	包	11.9	2.6	ナデ	10YR7/2 2.5YR8/3	3/4			
1422	35/001	土師器	甕	包	9.7	2.4	ナデ	10YR7/2 2.5YR8/3	1/5			
1423	21/03	土師器	甕	包	11.8	2.5	ナデ	10YR7/2 2.5YR8/2	3/4			
1424	33/04	土師器	甕	包	9.2	1.1	外、2.5YR8/2	粗 やや密	1/5		形状が微しく調整不明	
1425	32/02	土師器	甕	包	24.6	外、2.5YR8/2	粗 やや密	10YR6/2 10YR8/2	良	口縲部/8		
1426	36/04	土師器	甕	包	28.0	外、2.5YR8/2	粗 やや密	7.5YR4/3 7.5YR6/4	良	口縲部/12		
1427	33/02	土師器	甕	包	25.5	外、2.5YR8/2	粗 やや密	7.5YR4/3 7.5YR6/4	良	口縲部/12		
1428	34/001	土師器	甕	包	22.0	外、2.5YR8/2	粗 やや密	7.5YR4/3 7.5YR6/4	良	口縲部/6		
1429	33/003	土師器	甕	包	26.0	外、2.5YR8/2	粗 やや密	7.5YR4/3 7.5YR6/6	良	口縲部/10		
1430	32/02	土師器	甕	包	26.8	外、2.5YR8/2	粗 やや密	7.5YR4/3 7.5YR6/5	良	口縲部/10		
1431	34/003	土師器	甕	包	25.8	外、2.5YR8/2	粗 やや密	7.5YR4/3 7.5YR6/4	良	口縲部/8		
1432	34/002	土師器	甕	包	30.0	外、2.5YR8/2	粗 やや密	7.5YR4/3 7.5YR6/6	良	口縲部/10		
1433	32/01	土師器	甕	包	30.0	外、2.5YR8/2	粗 やや密	7.5YR4/3 7.5YR6/3	良	口縲部/10		
1434	21/04	土師器	甕	包	17.8	外、2.5YR8/2	粗 やや密	10YR7/3 10YR6/4	良	口縲部/12		
1435	21/05	土師器	甕	包	17.8	外、2.5YR8/2	粗 やや密	10YR7/3 10YR6/4	良	口縲部/6		
1436	35/001	土師器	甕	包	20.7	外、2.5YR8/2	粗 やや密	10YR7/3 10YR6/4	良	口縲部/6		
1437	36/001	土師器	甕	包	24.6	外、2.5YR8/2	粗 やや密	10YR7/2 10YR6/3	良	口縲部/12		
1438	32/004	土師器	甕	包	23.8	外、2.5YR8/2	粗 やや密	10YR7/2 10YR6/3	良	口縲部/12		
1439	35/004	土師器	甕	包	29.4	外、2.5YR8/2	粗 やや密	10YR7/2 10YR6/3	良	口縲部/12		
1440	34/001	土馬	包	—	—	—	—	—	良	左後ろ足		
1441	31/04	土馬	包	6.4×3.4	—	—	—	—	充存	左後ろ足		
1442	37/103	土馬	包	5.9×3.7	—	—	—	—	充存	左後ろ足		
1443	33/004	土馬	包	6.7×3.5	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1444	33/005	土馬	包	7.0×3.5	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1445	33/003	土馬	包	7.0×3.5	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1446	33/007	土馬	包	5.6×2.6	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1447	33/006	土馬	包	5.1×3.4	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1448	31/05	土馬	包	5.0×3.6	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1449	33/001	土馬	包	5.0×3.6	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1450	33/002	土馬	包	5.6×2.6	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1451	37/106	土馬	包	6.1×2.4	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1452	32/006	土馬	包	5.8×2.0	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1453	31/08	土馬	包	6.1×2.2	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1454	31/12	土馬	包	4.9×1.8	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1455	31/09	土馬	包	3.9×1.8	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1456	31/01	土馬	包	4.0×1.5	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1457	32/003	土馬	包	4.1×2.1	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1458	31/11	土馬	包	3.7×1.9	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1459	31/10	土馬	包	3.8×1.3	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1460	33/008	土馬	包	3.6×1.6	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1461	18/04	土馬	包	3.5×1.3	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		
1462	37/01	土馬	包	3.1×3.0	木調査	—	—	—	充存	左後ろ足		

報告 番号	実験 番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高 (cm)	調整抜法の特徴		胎土	色調	焼成	残存	特記事項
							露高 (cm)	露深 (cm)					
1463	33909	土器	土器	包	3.2×3.0	7.7	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	10/186/3	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(3.6%)
1465	32205	土器	土器	包	3.2×2.9	7.7	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	12/578/2	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(2.5%)
1466	18803	土器	土器	包	3.0×2.1	7.7	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	10/187/2	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(2.5%)
1467	31702	土器	土器	包	2.6×2.3	7.7	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	2/58/3	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(2.5%)
1467	33910	陶器	陶玉	包	2.4×2.5	7.7	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	2/57/1	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(2.0%)
1468	18703	須恵器	須	包	12.2	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	包	N6	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.6%)
1469	33202	須恵器	須	包	16.5	外面部外面にカケアリ、内面にロコナデ	やや密	包	N7	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1470	18702	須恵器	須	包	12.4	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	包	N6	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1471	26501	須恵器	須	包	10.5	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	包	N7	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1472	10404	須恵器	須	包	11.6	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	包	N7	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1473	18801	須恵器	須	包	13.0	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	包	N7	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1474	33302	須恵器	須	包	11.4	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	包	5/5/1	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1475	17101	須恵器	須	包	12.0	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	包	7/5/1	黒	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1476	35804	須恵器	須	包	12.8	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	外 N8/	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1477	3501	須恵器	須	包	13.1	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	内 N7/	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1478	10406	須恵器	須	包	16.8	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	内 N5/	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1479	34506	須恵器	須	包	12.0	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	外 10/6/1	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1481	35803	須恵器	須	包	14.8	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	内 5/8/1	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1482	35701	須恵器	須	包	16.0	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	内 N8/	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1482	18502	須恵器	高杯	包	13.1	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	内 5/6/1	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1484	33303	須恵器	高杯	包	8.7	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	内 5/7/1	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1485	36804	須恵器	高	包	14.8	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	内 5/6/1	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1486	18802	須恵器	高	包	16.0	外面部外面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	内 5/6/1	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1487	32502	須恵器	壺	包	13.4	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	外 N7/	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1488	16201	須恵器	壺	包	24.3	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	外 N5/6/1	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1489	34501	須恵器	壺	包	22.8	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	外 N5/6/1	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1490	34601	須恵器	壺	包	12.6	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	外 N7/1	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1491	35802	須恵器	壺	包	15.5	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	内 N8/	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1493	34401	須恵器	石舟	包	35.7	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	内 10/186/1	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1494	34201	須恵器	石舟	包	4.1×4.3	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	内 2/57/1	口縁部	8	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1495	35601	須恵器	石舟	包	2.4×0.9	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	-	-	4/5	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1496	34302	須恵器	石舟	包	-	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	-	-	-	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1497	34302	綠釉陶器	三	包	底185.4	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	N8/	底部	12	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1498	35901	綠釉陶器	三	包	-	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	5/6/1	底部	12	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1499	34109	綠釉陶器	三	包	底186.4	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	10/187/1	底部	12	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1500	34306	綠釉陶器	三	包	底185.6	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	10/6/2	底部	12	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1501	33101	綠釉陶器	三	包	12.5	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	10/6.1	底部	12	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)
1502	34703	綠釉陶器	三	包	底185.9	外面部下面にカケアリ、他はロコナデ	やや密	N8/	底部	12	11.1正丸	11.1正丸	11.1正丸(1.4%)

報告 番号	実測 番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴		胎土	色調	焼成	残存	特記事項
							輪	輪					
1503	34308	縁輪陶器	皿	包	11.3	2.2	「ロカナデ」	密	N8/ 輪	107/2	良	1/6	硬質
1504	34301	縁輪陶器	皿	包	底径5.2		「ロカナデ」	密	N7/ 輪	10Y6/2	良	底部1/5	硬質
1505	35304	縁輪陶器	椀	包	底径7.1			密	N8/2	10Y8/2	良	底部2/3	底部内面に沈線、焼成、形状不明 唇底が微く調整不 ^明
1506	34108	縁輪陶器	椀	包	底径7.0		底部外面系切痕、他はロカナデ	密	N6/ 輪	2.5G7/6	良	底部4/	内面に凹線、硬質
1507	34205	縁輪陶器	椀	包	底径6.8		「ロカナデ」	密	N5/9/3	10G7/6	不良	底部1/6	内面に沈線、焼成、形状不明
1508	33205	縁輪陶器	椀	包	底径6.0		「ロカナデ」	密	N6/ 輪	10G7/6	良	底部1/5	内面に斜彎花文 硬質
1509	31802	縁輪陶器	椀	包	底径6.0		「ロカナデ」	密	N6/ 輪	10Y6/2	良	底部1/3	硬質
1510	34105	縁輪陶器	椀	包	底径6.6		底部外面ロカナデ、他はロカナデ	密	N7/5R8/6	10Y6/4	良	底部1/4	硬質 「ロカナデ」
1511	34107	縁輪陶器	椀	包	底径6.2			密	N10/6/1	7.5Y6/4	良	底部1/3	内面に凹線、硬質 唇底が微く調整不 ^明
1512	33206	縁輪陶器	椀	包	底径6.2			密	N7/5R8/2	10Y6/4	良	底部1/5	内面に凹線 硬質
1513	35903	縁輪陶器	椀	包	底径7.2		「ロカナデ」	密	N10Y8/4	10Y6/2	良	底部1/3	底部内面に沈線 「ロカナデ」
1514	34110	縁輪陶器	椀	包	底径6.4		底部外面ロカナデ、他はロカナデ	密	N5/7/1	10Y6/2	良	底部1/2	硬質
1515	34106	縁輪陶器	椀	包	底径6.2			密	N10P8/1	10G7/2	良	底部1/4	内面に凹線、硬質 唇底が微く調整不 ^明
1516	34704	縁輪陶器	椀	包	底径6.7		底部外面系切痕、他はロカナデ	密	N8/ 輪	2.5G7/8/1	良	底部4/5	硬質 底部内面に沈線
1517	33203	縁輪陶器	椀	包	底径6.1		「ロカナデ」	密	N10Y8/3	10Y6/2	良	底部1/8	軟質
1518	34203	縁輪陶器	椀	包	底径7.6			密	N10Y9/1	10Y6/2	不良	底部4/	唇底が微く調整不 ^明 内面に沈線
1519	34102	縁輪陶器	椀	包	底径7.8		底部外面ロカナデ、他はロカナデ	密	N10Y7/1	10Y7/4	不良	底部1/3	硬質 「ロカナデ」
1520	34702	縁輪陶器	椀	包	底径5.3		「ロカナデ」	密	N8/ 輪	10Y7/4	良	底部1/4	硬質
1521	34101	縁輪陶器	椀	包	底径8.2		底部外面ロカナデ、他はロカナデ	密	N6/ 輪	7.5R7/2	良	底部1/4	硬質 「ロカナデ」
1522	33201	縁輪陶器	椀	包	12.0	3.9	底部外面ロカナデ、他はロカナデ	密	N10Y8/2	10Y6/4	良	底部1/4	内面に沈線、軟質
1523	35501	縁輪陶器	椀	包	底径5.2		底部外面ロカナデ、他はロカナデ	密	N6/ 輪	5G7/1	良	底部1/2	硬質 底部系
1524	33202	縁輪陶器	椀	包	底径7.8			密	N2/5P8/1	10Y6/2	良	底部1/6	軟質
1525	34701	縁輪陶器	椀	包	底径5.8		底部外面系切痕、他はロカナデ	密	N2/5P8/2	7.5Y7/2	不良	底部1/6	硬質
1526	34103	縁輪陶器	椀	包	底径7.4			密	N10Y8/2	10G7/6	不良	底部1/2	内面凹線、唇底が微く調整不 ^明
1527	34901	縁輪陶器	椀	包	底径6.9		底部外面系切痕、他はロカナデ	密	N8/ 輪	7.5Y6/3	良	底部完存	硬質 底部内面に沈線
1528	31801	縁輪陶器	椀	包	底径5.8		「ロカナデ」	密	N7/5Y8/3	10Y3/2	良	底部1/4	内面に沈線、硬質
1529	34304	縁輪陶器	椀	包	-		「ロカナデ」	密	N7/5Y8/2	10Y3/2	良	底部小片	硬質

報告書号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴		給土	色調	焼成	残存	特記事項
							リコバテ	リコバテ					
1530	35902	縦輪陶器	陶	包	-	10.98	密	10.98/4 10.95/3	不良	底部小片	軟質	近江系	
1531	34305	縦輪陶器	陶	包	-	10.98	密	10.98/7.7/2	良好	底部小片	硬質	底部内面に沈継	
1532	33601	縦輪陶器	陶	包	底径5.9	10.98	密	7.57/6.3	良	底部1/2	硬質	リチアン顔	
1533	33602	縦輪陶器	陶	包	底径5.8	10.98	密	10.97/1 5.65/1	良	底部1/2	硬質	リチアン顔	内面に沈継 網状背文
1534	34206	縦輪陶器	陶	包	底径5.8	10.98	やや密	5.65/4	良	底部1/4	硬質	トランク	内面に沈継
1535	34307	縦輪陶器	陶	包	底径5.5	10.98	密	7.57/5/3	良	底部1/3	硬質	リチアン顔	内面に沈継 三又トランク
1536	33204	縦輪陶器	陶	包	底径5.9	10.98	密	7.57/1	良	底部1/3	硬質		
1537	34303	縦輪陶器	陶	包	底径8.4	10.98	密	7.57/7/3	良	底部1/3	硬質	リチアン顔	
1538	34104	縦輪陶器	陶	包	底径6.4	10.98	密	2.56/8/4	良	底部1/3	硬質		
1539	33701	縦輪陶器	梗陶	包	18.0	6.1	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/2	内面に沈継 染彩背文	硬質	
1540	33607	灰輪陶器	三	包	底径6.8	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/2	火輪剥出	内面崩壊	
1541	35905	灰輪陶器	三	包	底径5.8	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/2	直腹取付	直腹取付	
1542	32601	灰輪陶器	三	包	底径6.6	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/4	直腹取付	直腹取付	(転用罐?)
1543	32602	灰輪陶器	三	包	底径6.6	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/4	直腹取付	直腹取付	
1544	30804	灰輪陶器	三	包	底径7.0	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/6	内面崩壊		
1545	32505	灰輪陶器	三	包	15.3	2.8	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/2	火輪剥毛剥り	直腹直ねじき	
1546	33604	灰輪陶器	三	包	14.6	3.0	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/2	火輪剥毛剥り	口縁部に輪花	
1547	32507	灰輪陶器	段三	包	13.0	9.0	リコバテ	密	良	口縁部1/8	直腹直ねじき		
1548	33606	灰輪陶器	段三	包	底径7.4	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/2	火輪剥出		
1549	35702	灰輪陶器	陶	包	14.0	4.1	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	口縁部1/3	火輪剥出		
1550	35906	灰輪陶器	三	包	底径8.0	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/4	直腹直ねじき		
1551	10305	灰輪陶器	三	包	底径8.9	13.4	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/4	内面崩壊(馬鹿(馬鹿用器))		
1552	33804	灰輪陶器	三	包	底径8.5	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/8	火輪剥出	直腹直ねじき	
1553	11302	灰輪陶器	陶	包	底径8.6	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/2	直腹直ねじき		
1554	33905	灰輪陶器	陶	包	底径8.3	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/4	内面崩壊		
1555	10307	灰輪陶器	陶	包	底径8.5	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/4	内面崩壊		
1556	32504	灰輪陶器	陶	包	底径8.0	10.98	リコバテ	密	良	底部1/4	火輪剥毛剥り		
1557	33807	灰輪陶器	陶	包	14.4	5.7	リコバテ	密	良	口縁部1/8	火輪剥毛剥り		
1558	33801	灰輪陶器	陶	包	14.5	5.7	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	1/3	内面崩壊	直腹直ねじき	
1559	35904	灰輪陶器	陶	包	底径8.4	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/2	内面崩壊	内面崩壊	
1560	32603	灰輪陶器	陶	包	底径8.5	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/4	内面崩壊	内面崩壊	
1561	33806	灰輪陶器	陶	包	底径8.4	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/4	内面崩壊	内面崩壊	
1562	33902	灰輪陶器	陶	包	12.3	4.0	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	口縁部1/4	火輪剥出		
1563	32905	灰輪陶器	陶	包	底径7.3	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/4	直腹直ねじき		
1564	33805	灰輪陶器	陶	包	底径7.3	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/4	直腹直ねじき		
1565	32508	灰輪陶器	陶	包	底径7.7	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/4	直腹直ねじき		
1566	16203	灰輪陶器	陶	包	底径5.4	10.98	底部外面部切痕、他はロコハナ リコバテ	密	良	底部1/4	直腹直ねじき		

報告書号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調整技法の特徴	給土	色調	焼成	残存	特記事項	
1567	33805	灰陶	灰陶器	桶	2	底径5.9	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	N.s.	良	底部/4	内面削毛	
1568	35907	灰陶	灰陶器	桶	2	底径5.2	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/2	内面削毛	
1569	32903	灰陶	灰陶器	桶	2	底径5.1	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/4	内面削毛	
1570	32605	灰陶	灰陶器	桶	2	1.4	外底部下に手取穴あり、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/4	火候過剰、直接重ね焼き	
1571	30404	灰陶	灰陶器	桶	2	1.8	外底部下に手取穴あり、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/3	火候過剰、直接重ね焼き	
1572	32503	灰陶	灰陶器	桶	2	底径5.2	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/3	直接重ね焼き	
1573	33706	灰陶	灰陶器	桶	2	底径5.1	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/3	直接重ね焼き	
1574	32506	灰陶	灰陶器	桶	2	底径5.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/4	内面削毛	
1575	33706	灰陶	灰陶器	桶	2	13.0	4.3	底部外面部切削、他は口吻ナフ	N.s.	1/2	底部/2	灰釉剥落、底面部に墨書	
1576	32604	灰陶	灰陶器	桶	2	底径5.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/2	良	底部/1	内面削毛	
1577	32501	灰陶	灰陶器	桶	2	11.2	4.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/6	内面削毛
1578	30704	灰陶	灰陶器	瓮	包	底径5.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/4	内面削毛	
1579	16204	灰陶	灰陶器	瓮	包	底径5.6	外面部手取穴あり、内面口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/3	火候過剰、底面部不均一	
1580	33001	灰陶	灰陶器	瓮	包	底径6.0	外面部手取穴あり、内面口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/4	内面削毛	
1581	33301	灰陶	灰陶器	瓮	包	底径6.0	外面部手取穴あり、内面口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/6	内面削毛	
1582	32901	灰陶	灰陶器	瓮	包	底径3.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/3	内面削毛	
1583	32508	灰陶	灰陶器	小皿	2	8.0	2.1	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/12	内面削毛
1584	36306	灰陶	灰陶器	小皿	2	8.3	2.2	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/12	内面削毛
1585	35909	灰陶	灰陶器	小皿	2	8.6	1.9	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/12	内面削毛
1586	33306	灰陶	灰陶器	小皿	2	9.1	1.7	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/3	内面削毛
1587	33507	灰陶	灰陶器	小皿	2	8.4	2.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/2	良	底部/4	内面削毛
1588	34502	灰陶	灰陶器	小皿	2	8.6	2.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/4	内面削毛
1589	32904	灰陶	灰陶器	小皿	2	8.2	2.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/4	内面削毛
1590	33308	灰陶	灰陶器	小皿	2	8.0	1.6	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	10.0/1	良	底部/4	内面削毛
1591	34402	灰陶	灰陶器	小皿	2	7.5	1.7	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	5.7/1	良	底部/4	内面削毛
1592	33403	灰陶	灰陶器	小皿	2	8.6	1.8	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	N.s.	1/3	内面削毛	
1593	34503	灰陶	灰陶器	小皿	2	8.4	1.6	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	5.7/1	良	底部/4	内面削毛
1594	32804	灰陶	灰陶器	小皿	2	9.6	2.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	10.0/1	良	底部/4	内面削毛
1595	32302	灰陶	灰陶器	小皿	2	7.8	1.8	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	5.7/1	良	底部/4	内面削毛
1596	33307	灰陶	灰陶器	小皿	2	8.0	1.8	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/6	内面削毛
1597	28603	灰陶	灰陶器	小皿	2	7.9	1.7	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/6	内面削毛
1598	34504	灰陶	灰陶器	小皿	2	8.2	1.8	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/6	内面削毛
1599	35703	灰陶	灰陶器	小皿	2	8.5	2.3	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/4	内面削毛
1600	32805	灰陶	灰陶器	小皿	2	9.3	2.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	1.5	底部/2	内面削毛	
1601	33401	灰陶	灰陶器	小皿	2	9.6	2.7	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	1.2	底台付箋	内面削毛	
1602	33006	灰陶	灰陶器	小皿	2	9.8	3.1	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	1.2	底台付箋	内面削毛	
1603	34905	灰陶	灰陶器	小皿	2	9.4	2.7	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	1.2	底台付箋	内面削毛	
1604	33304	灰陶	灰陶器	小皿	2	10.2	3.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	3/4	底台付箋	内面削毛	
1605	33303	灰陶	灰陶器	小皿	2	底径5.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/2	良	底部/4	内面削毛	
1606	28601	灰陶	灰陶器	小皿	2	-	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底台付箋	内面削毛	
1607	33507	灰陶	灰陶器	小皿	2	底径5.9	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底台付箋	内面削毛	
1608	33307	灰陶	灰陶器	小皿	2	底径5.2	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底台付箋	内面削毛	
1609	33704	灰陶	灰陶器	小皿	2	底径5.0	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底台付箋	内面削毛	
1610	33702	灰陶	灰陶器	小皿	2	底径5.2	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底台付箋	内面削毛	
1611	35301	灰陶	灰陶器	小皿	2	底径5.7	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底台付箋	内面削毛	
1612	24902	灰陶	灰陶器	桶	包	底径8.6	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	5.7/1	良	底部/2	内面削毛	
1613	11303	山茶樹	山茶樹	小柄	包	底径8.9	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/2	内面削毛	
1614	11304	山茶樹	山茶樹	小柄	包	底径8.0	-	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/2	良	底部/2	内面削毛
1615	24602	山茶樹	山茶樹	小柄	包	-	底部外面部切削、他は口吻ナフ	泥	2.57/1	良	底部/2	内面削毛	

報告番号	実測番号	質	器種等	遺構	口径(cm)	器高(cm)	調査技法の特徴	給土	色調	焼成	残存	特記事項
616	10304	山茶柄	楕	匁	底18.4	底18.4	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	やや粗 底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/ 底16/1	底部完存	高台にさきが原、内面やや磨耗	
617	25301	山茶柄	楕	匁	底18.2	底18.2	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	やや密 底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N7/1	底部完存	高台にさきが原、内面磨耗	
618	18401	山茶柄	楕	匁	底18.0	16.0	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/2	高台にさきが原、直後直立化	
619	10306	山茶柄	楕	匁	16.8	4.8	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部完存	高台にさきが原、直後直立化	
620	32902	山茶柄	楕	匁	16.8	4.8	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部完存	高台にさきが原、直後直立化	
621	32906	山茶柄	楕	匁	16.8	4.8	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部完存	高台にさきが原、直後直立化	
622	35206	山茶柄	楕	匁	底18.8	底18.8	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部1/4	底部完存	
623	16202	山茶柄	楕	匁	底18.8	底18.8	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/4	底部完存	
624	11301	山茶柄	楕	匁	底18.5	底18.5	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/4	底部完存	
625	32001	山茶柄	楕	匁	底18.5	14.7	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/2	底部完存	
626	26201	山茶柄	楕	匁	底18.5	12.7	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/4	底部完存	
627	35302	山茶柄	楕	匁	底18.6	12.7	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/4	底部完存	
628	26202	山茶柄	楕	匁	底18.6	12.7	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/4	底部完存	
629	33002	山茶柄	楕	匁	底18.7	12.7	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/4	底部完存	
630	16205	山茶柄	楕	匁	底18.4	底18.4	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部1/4	底部完存	
631	33703	山茶柄	楕	匁	底18.4	底18.4	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/4	底部完存	
632	33004	山茶柄	楕	匁	底18.8	底18.8	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/4	底部完存	
633	33803	山茶柄	楕	匁	底18.5	12.6	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/3	底部完存	
634	35910	山茶柄	楕	匁	底18.5	12.6	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/2	底部完存	
635	21401	山茶柄	楕	匁	12.9	5.6	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部1/3	高台ほとんど倒壊	
636	33913	山茶柄	楕	匁	底18.6	底18.6	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/2	底部完存	
637	35101	山茶柄	鉢	包	底径12.0	底径12.0	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/2	底部完存	
638	32606	山茶柄	鉢	包	底径12.5	-	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/4	底部完存	
639	31901	丸	軒丸	匁	底19.1	-	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/4	底部完存	
640	32405	丸	軒丸	匁	底19.1	-	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/5	右巻きニチバ汉	
641	34604	丸	軒丸	匁	底19.1	-	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/5	右巻きニチバ汉	
642	34603	丸	軒丸	匁	底19.1	-	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/5	右巻きニチバ汉	
643	37001	丸	平丸	匁	底19.1	-	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/5	右巻きニチバ汉	
644	35006	陶器	天目茶碗	包	底18.4	9.8	底18.5	底18.5	N8/1	底部1/4	内面に墨書き文、同安窯系	
645	34006	青磁	皿	包	底18.5	9.8	底18.5	底18.5	N8/1	底部1/6	内面に墨書き文、同安窯系	
646	16206	青磁	皿	包	底18.5	9.8	底18.5	底18.5	N8/1	底部1/6	内面に墨書き文、同安窯系	
647	34005	青磁	楕	包	11.6	11.6	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部1/6	内面に墨書き文、同安窯系	
648	32401	青磁	楕	包	底18.5	21.2	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部1/5	トテン鏡	
649	32403	白磁	楕	包	24.4	15.4	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部1/10	常滑	
650	32402	白磁	楕	包	32.0	15.4	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	底部外面部切痕、他は口吻ナメ	N8/1	底部1/5	常滑	
651	34004	白磁	楕	包	21.2	15.2	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部1/6	常滑	
652	33501	陶器	甕	包	底18.5	21.2	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部1/4	常滑	
653	32404	陶器	甕	包	24.4	20.2	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部1/10	常滑	
654	34602	陶器	甕	包	32.0	20.0	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部1/10	常滑	
655	32509	陶器?	甕	包	38.0	24.0	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部1/7	常滑	
656	35102	陶器	甕	包	14.9	14.9	口吻ナメ	口吻ナメ	N8/1	底部1/4	常滑	

特記事項											
報告 番号	実測 番号	質	基種等	遺構	口径(cm)	器高 (cm)	調整技術の特徴	粘土	色調	焼成	残存
1657	32203	陶器	鉢	包	底径(23.8) (21.3)×9.3	厚±1.0	外腹厚3、内腹側円筒文+十字 テ	外 内 外 内 外 内	575/1 2,575/1 575/2 575/1 575/2 575/1	不負 不負 不負 不負 不負 不負	底部1/12 口縁部1/10 口縁部に穿孔 左足
1659	木108	瓦質土器 瓦質器	下板	包	12.2	底部外面直切腹、他は丸み付	包	2,575/1 2,575/1 2,575/1 2,575/1 2,575/1 2,575/1	良	底部7/12	
1660	36001	陶器	皿	包	6.7×1.6	一部ハサツイ	包	2,575/1 2,575/1 2,575/1 2,575/1 2,575/1 2,575/1	小片	重さ16.2g	
1661	33911	陶器	壺管	包	5.0×2.2	3.4	内側ね	包	1,135/1 1,135/1 1,135/1 1,135/1 1,135/1 1,135/1	具 具 具 具 具 具	11.1E元存 完存
1662	35920	土製品	円形加工板	包	3.1×0.5	厚±0.5 打ち欠き	包	56/1 56/1 56/1 56/1 56/1 56/1	重さ8.0g	機械全体を適用 重さ2.1g	
1663	36803	須器	円形加工板	包	2.4×1.8	厚±0.5 打ち欠き	包	578/1 578/1 578/1 578/1 578/1 578/1	良	機械全体を適用 重さ2.1g	
1664	36005	陶器	円形加工板	包	3.6×3.6	厚±0.9 打ち欠き	包	2,575/2 2,575/2 2,575/2 2,575/2 2,575/2 2,575/2	良	機械全体を適用	
1665	35002	陶器	円形加工板	包	4.7×4.7	厚±1.3 打ち欠き	包	2,575/3 2,575/3 2,575/3 2,575/3 2,575/3 2,575/3	良	重さ29.0g 天日茶碗底部全軸用	
1666	35803	陶器	円形加工板	包	5.3×5.0	厚±1.2 打ち欠き	包	518/1 518/1 518/1 518/1 518/1 518/1	良	陶器柄底部全軸用 重さ27.4g	
1667	36004	陶器	円形加工板	包	7.1×6.8	厚±2.1 打ち欠き	包	578/1 578/1 578/1 578/1 578/1 578/1	良	陶器柄底部全軸用 重さ53.0g	
1668	36003	陶器	円形加工板	包	-	-	包	105/3/1 105/3/1 105/3/1 105/3/1 105/3/1 105/3/1	-	11.1E元存	
1669	37002	瓦質 瓦質品	鉢	包	-	-	包	-	-	3.4	
1670	37003	瓦質 瓦質品	壺管	包	長±9.3	-	包	-	-	瓦水通貫	
1671	36002	瓦質 瓦質品	壺管	包	-	-	包	-	-	瓦水通貫	

写 真 図 版



B地区調査区全景 東から



C地区調査区全景 東から



D・E 地区調査区全景 東から



F 地区調査区全景 東から



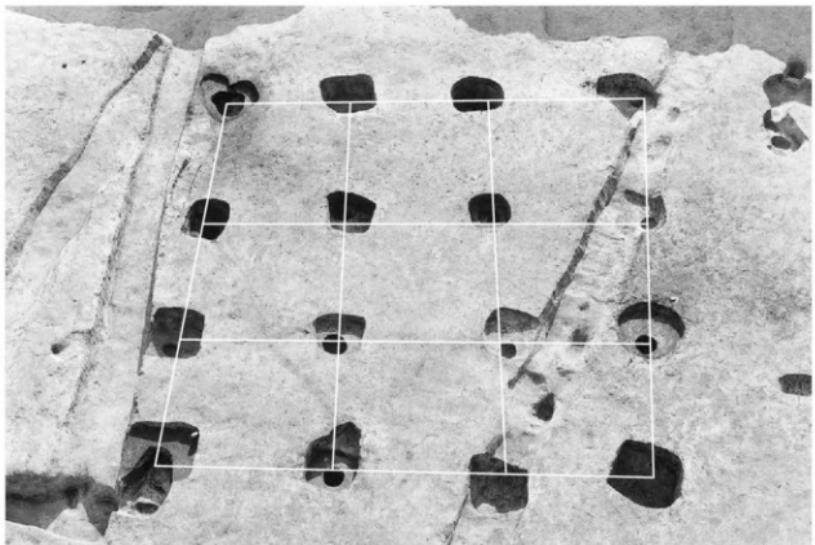
G地区調査区全景 東から



H地区調査区全景 西から



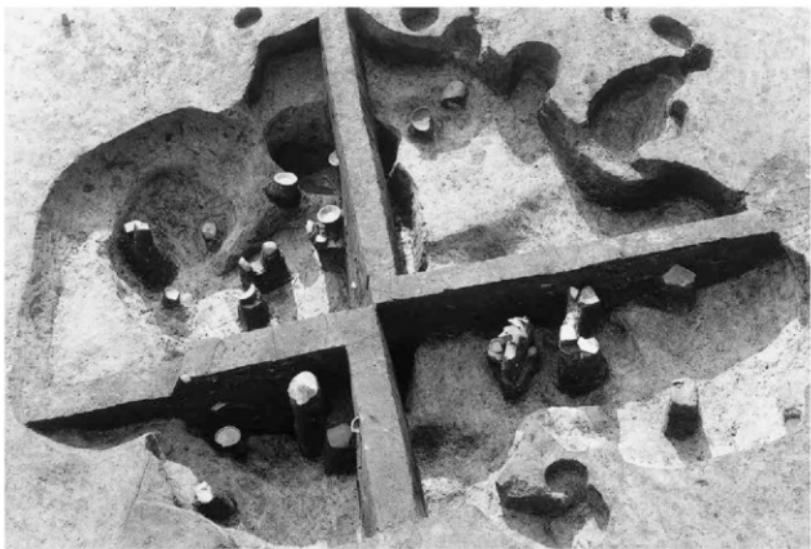
D 地区SB26 北から



I - 3 地区SB86 北から



C地区SK11 東から



I - 4 地区SK49 北から

P L 6



B 地区SK 3 東から



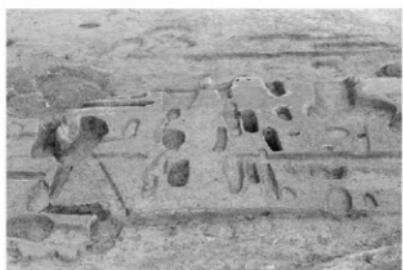
D 地区SE12 東から



B地区SD 1 南西から



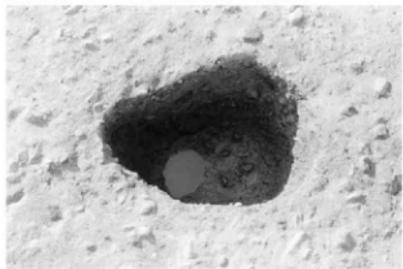
B地区SD 2 北西から



B地区G・H・I・19・20付近 北西から



B地区SE 2 北から



B地区SK 3 完掘後 東から



B地区SD 2 北西から



C地区SD 6 東端瓦出土状況 南西から



C地区拡張区中央部 北から



C地区SE 4 北西から



C地区SE 6 東側石組最下部板状木製品 北西から



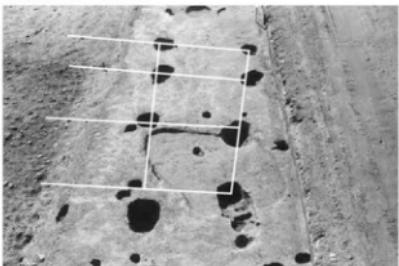
C地区SE 4 ステレオ写真撮影風景



C地区SE 8 南から



C地区SB 4 北から



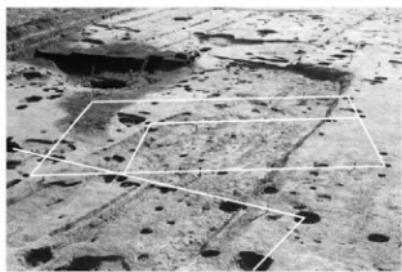
C地区SB 7 北から



C地区SB 8 北から



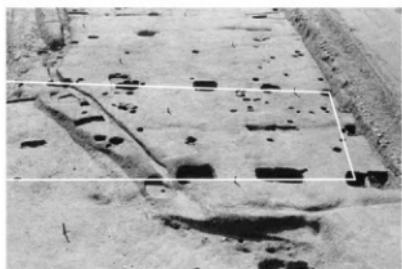
C地区SB 9 西から



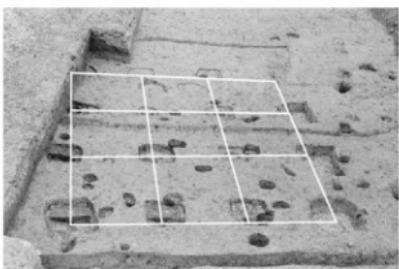
C地区SB 9・10 北から



C地区SB11 北から



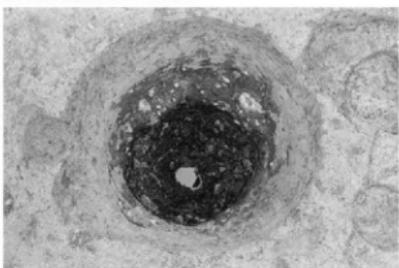
C地区SB12 北から



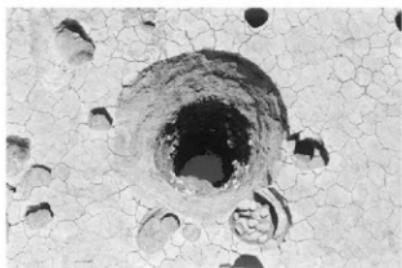
C地区扇張区SB14 南から



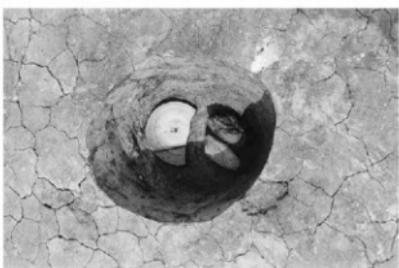
C地区南東部Pit群 南から



D地区SE13 南から



D地区SE14 西から



D地区H-R 13Pit 2 南から



D地区H-V8 Pit 5 南から



D地区H-O13以北SD 9 南から



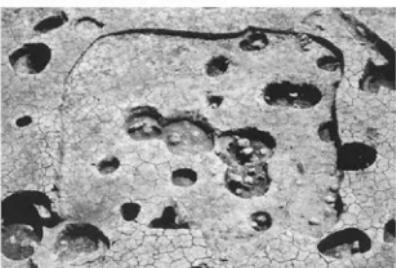
D地区H-N14 Pit 2 SK 5 北から



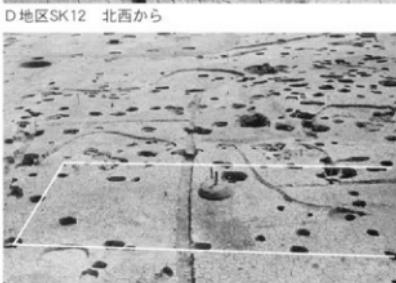
D地区SK11作業風景 北東から



D地区SK12 北西から



D地区SK13 北から



D地区SB18 北から



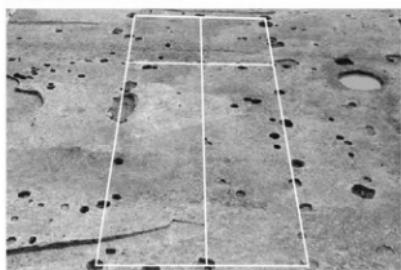
D地区SB22 北から



D地区SB23・24 北から



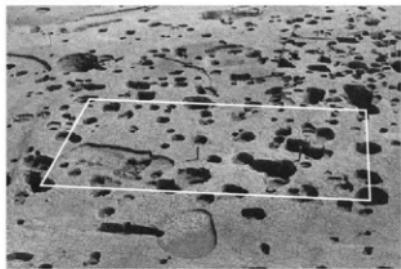
D地区SB23・24 北から



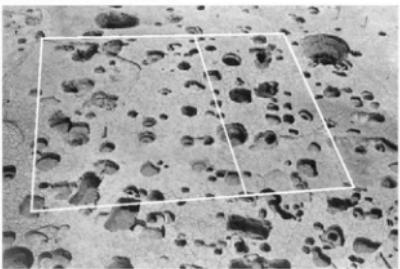
D地区SB25 北から



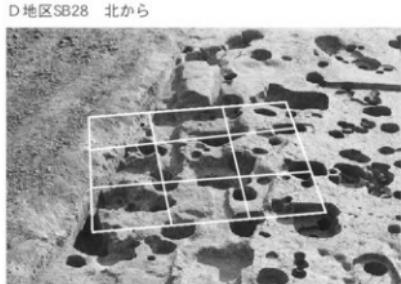
D地区SB27・28 西から



D地区SB28 北から



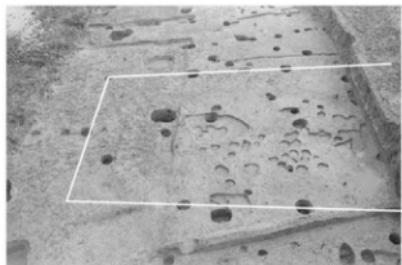
D地区SB29 西から



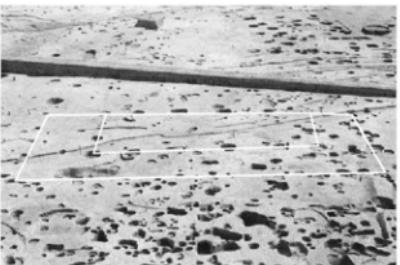
D地区SB33 北から



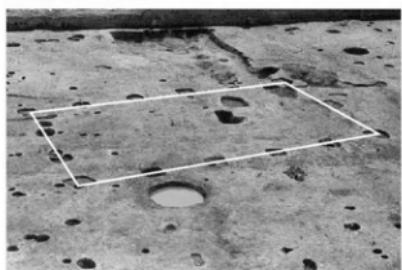
D地区SB36・40 北西から



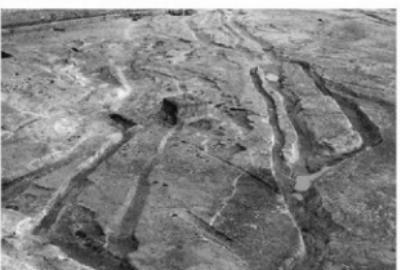
D地区SB41 北から



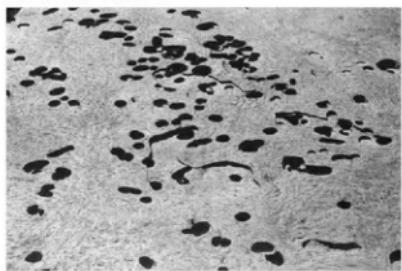
D地区SB45 北から



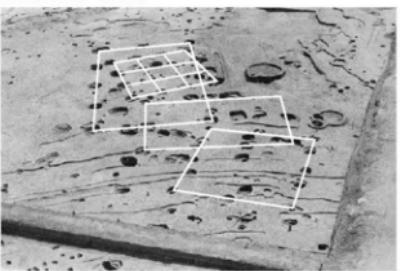
D地区SB46 北東から



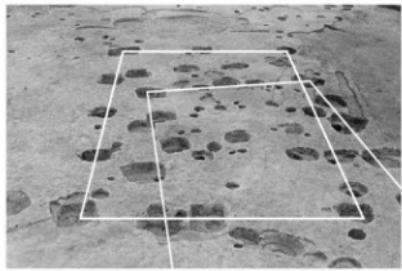
D地区SD30 西から



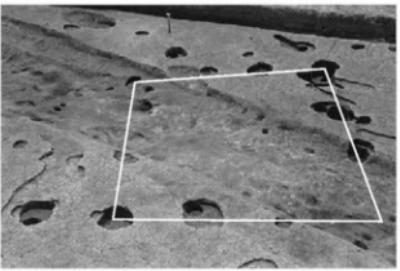
E地区ピット群 北から



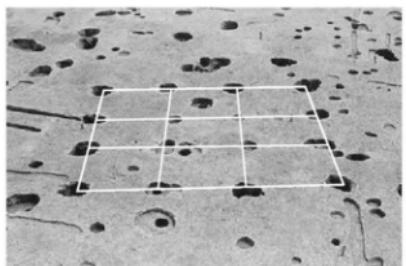
E地区SB51・52・54・55 南から



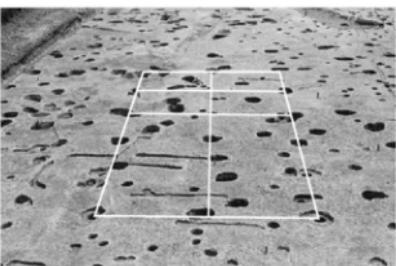
E地区SB53・54 北から



E地区SB57 北から



E 地区SB59 北から



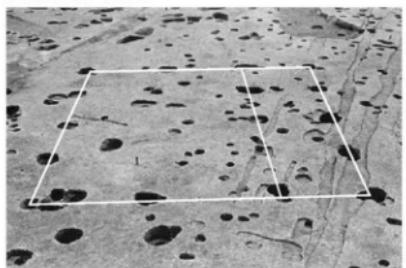
E 地区SB60 北から



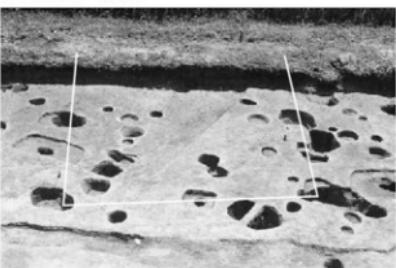
E 地区SB61 北から



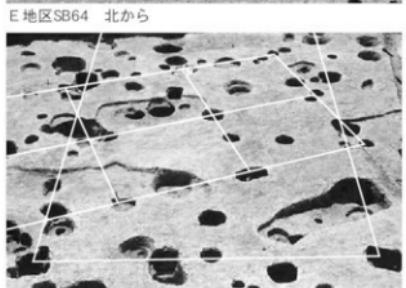
E 地区SB62 西から



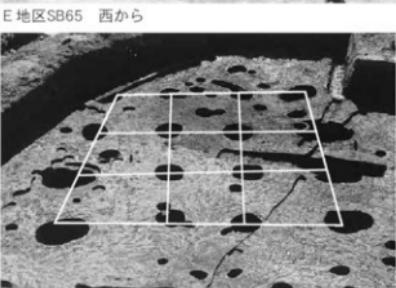
E 地区SB64 北から



E 地区SB65 西から



E 地区SB67・68 西から



E 地区SB72 北から



E地区拡張区H-W3 Pit 2



E地区H-V4 Pit 3 柱根



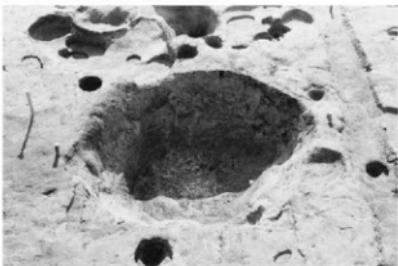
E地区SD10 土器出土状況



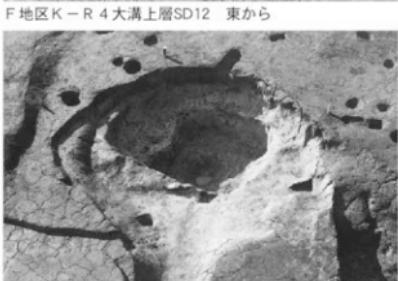
F地区拡張区SX 1 銭出土状況



F地区K-R4 大溝上層SD12 東から



F地区SK23 北から



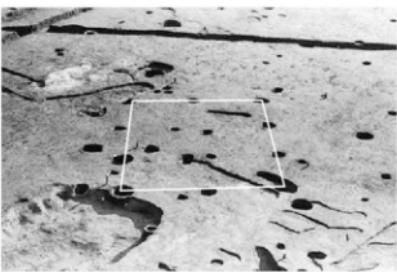
F地区SK24 東から



F地区SK25 東から



F地区拡張区SB76・77 東から



F地区SB78 北から



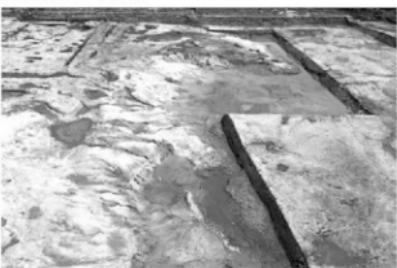
G地区 土器出土状況



G地区SE17 西から



G地区SD31 西から



H地区SD33 西から



I-3地区SK42 北西から



I-4地区SK49 北から



I - 1 地区全景 東から



I - 2 地区全景 西から



I - 3 地区全景 東から



I - 4 地区全景 西から



P L 18



30



33



39



41



43



64



70



74



76



100



102



75



79



94



106



107



108



109



110



111



114



115



117



119



120



122



131



136



138



139



141



143



145



146



147



148



149



152



153



154



156



157



160



161



163



164



165



166

P L 24



167



176



180



181



185



191



192



195



187



186



196



186先端部



198

出土遺物 9

P L 26



194



199



206



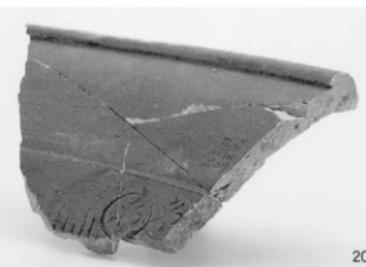
201



203



207



209



212



216

出土遺物10



210



214



256



279



296



298

P L 28





217



218



257



239



244



245



246



252



255

P L 30







286



287



291



294





302



304



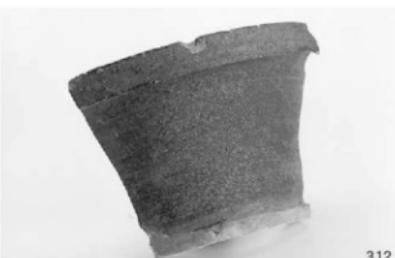
305



306



311



312



314



315



319



321



322



323



329



334



336



330



351



332



339



351



352



P L 38



355



358



359



360



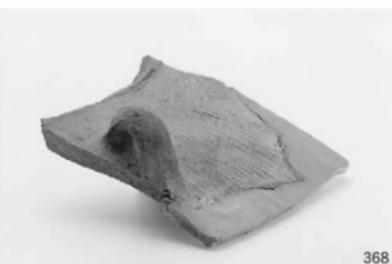
362



364



366



368



373



376



386

387

388



389



390



391



382



383

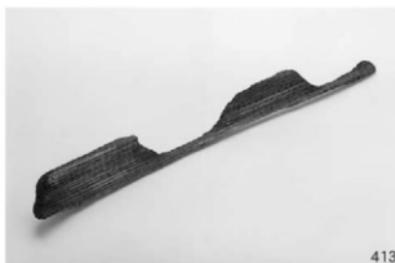


417





412



413



416



420



421



422



429



432

P L 42





453



458



461



462



464



466



467



468



471



472



473



474



475



481



502



519



531



482



484



490



497



505

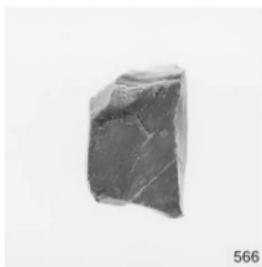


511

P L 46



562



566



583



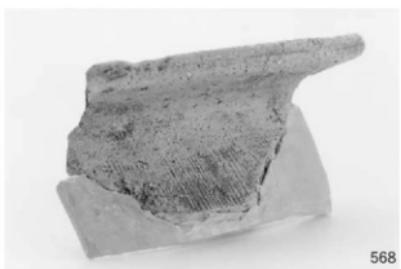
535



554



561



568



572



588

出土遺物30



534



589



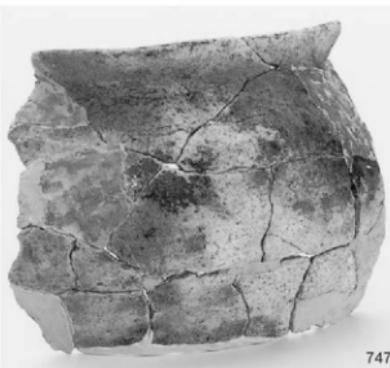
602



651

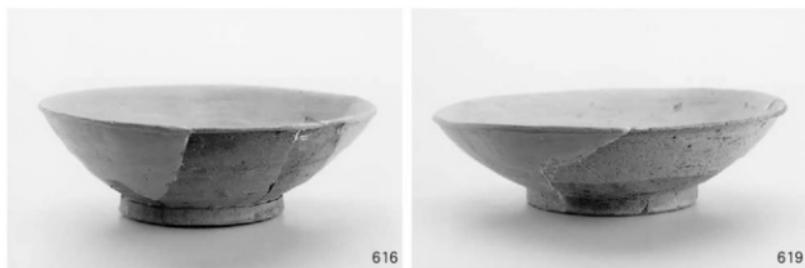
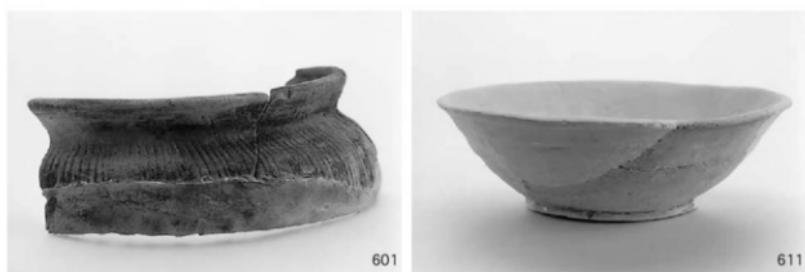


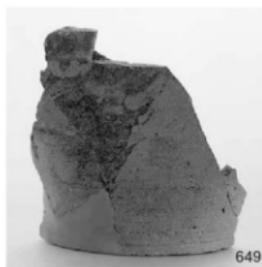
700



747

P L 48





649



723



754



660



663



670



672



681



687

P L 50



690



697



705



706



707



708



709



712



713



715



720



724



725



726



728



729

P L 52





P L 54



733



733

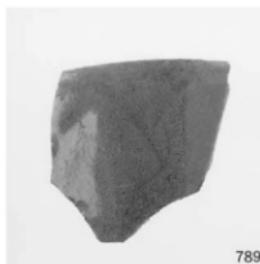


796



796

出土遺物38



789



790



791



798



799



807



808



809



825



827



831



833



837



841



842



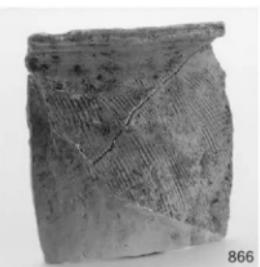
847



861



855



866



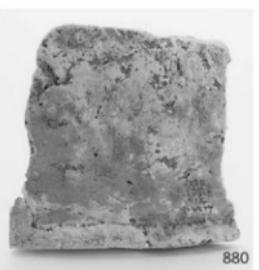
876



877



878



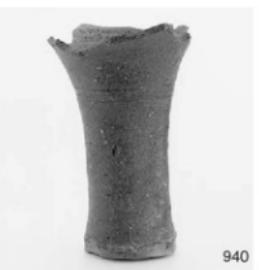
880



882



884



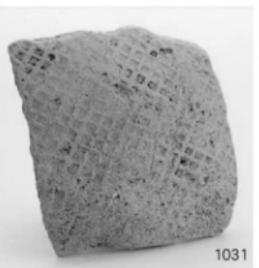
940



949



1030

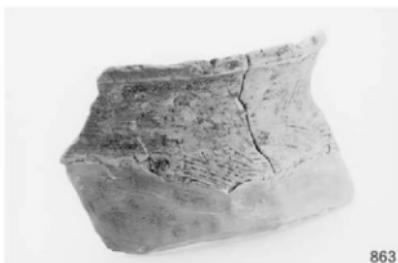


1031

P L 58



860



863



916



887~915

出土遺物42



919



920



923



924



928



929



933



936

P L 60





960



974



976



977



985



986



996



1010

P L 62



1026



1032



1064



1069



1070

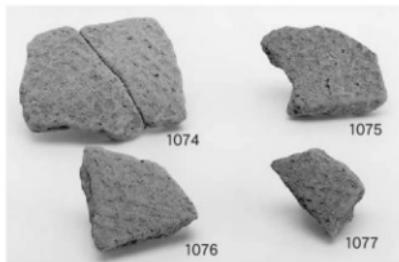


1073



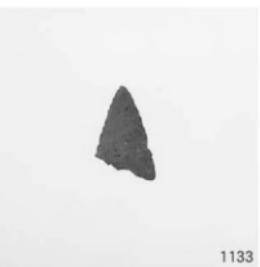
1071

出土遺物46



P L 64





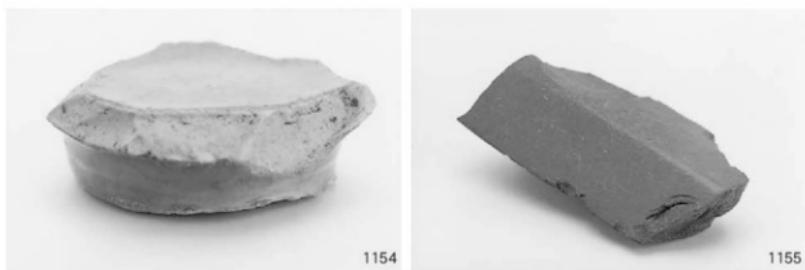
P L 66



1141

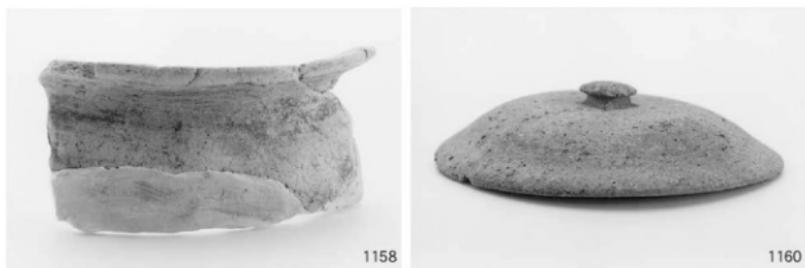
1157

1166



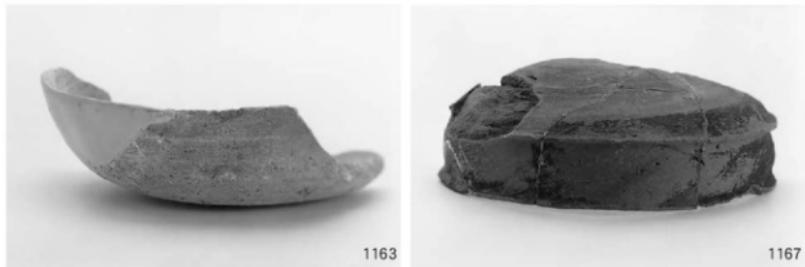
1154

1155



1158

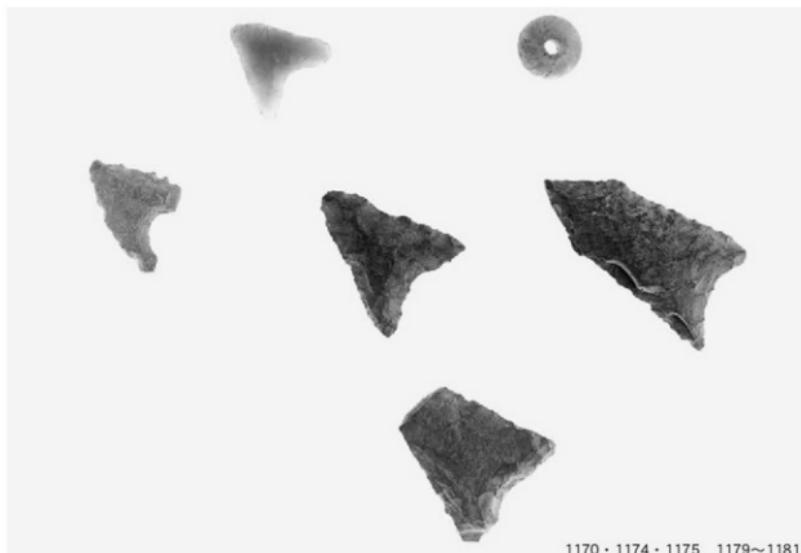
1160



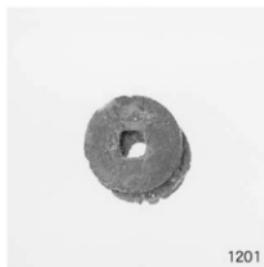
1163

1167

出土遺物50



P L 68



1201



1202



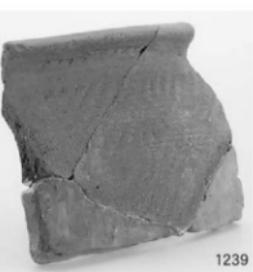
1232



1234



1236



1239



1204



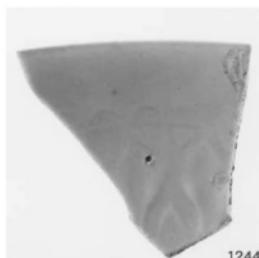
1226



1237



1240



1244



1263



1295



1262



1264



1270



1278



1280



1283

P L 70

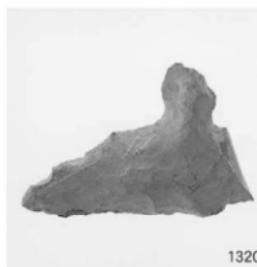




1301



1310



1320



1303



1304



1305



1306



1313

1314

1315

1311

1312



1316

P L 72



1322



1333



1338



1317



1318



1324



1325



1329



1334



1344



1376



1377



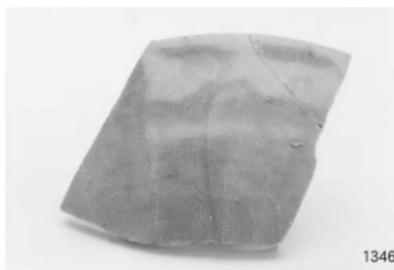
1337



1343



1345



1346



1349



1350



1364



1366



1368



1369



1383



1384



1388



1393



1093



1113



1129



1483



1639



1640



1404



1407



1421



1423



1440



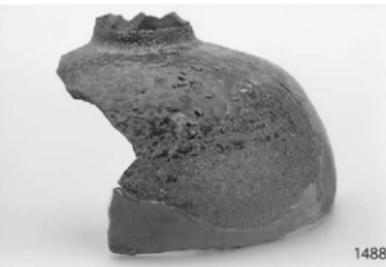
1441~1463



1472



1475



P L 78



出土遺物62



1598



1604



1645~1651



1659



1660



1662



1663

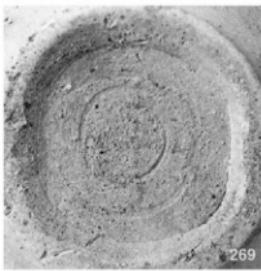
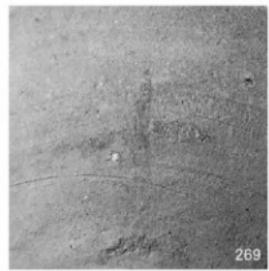
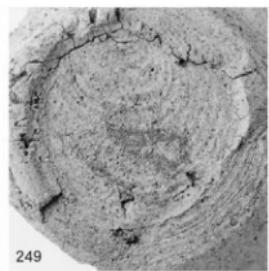
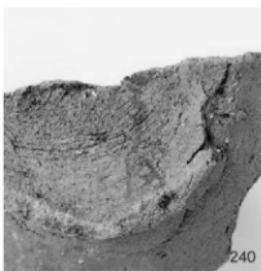
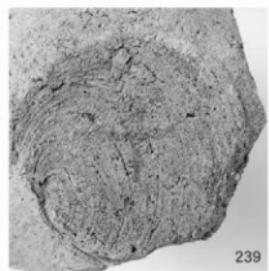
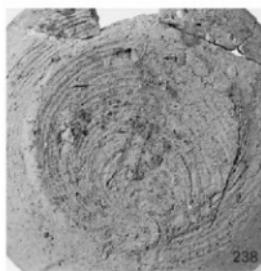
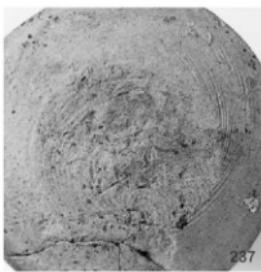
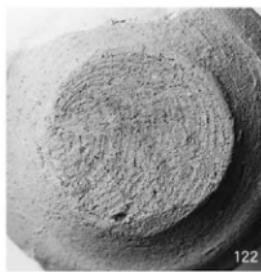
1665

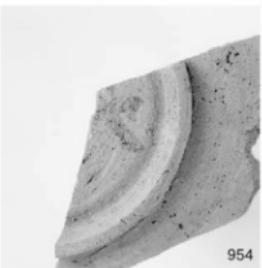
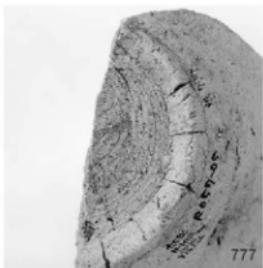
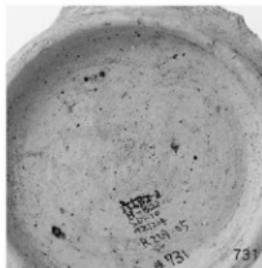
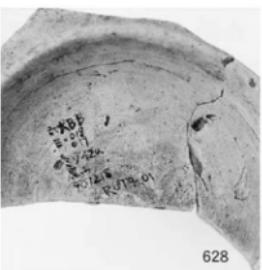
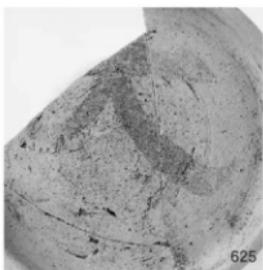
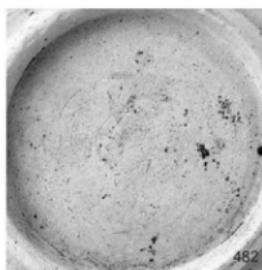
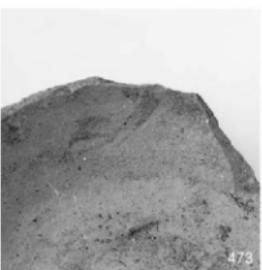
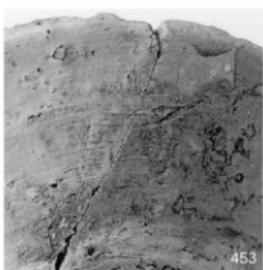
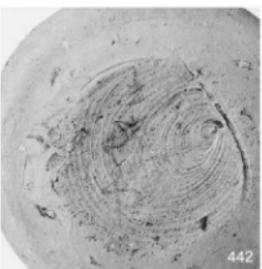
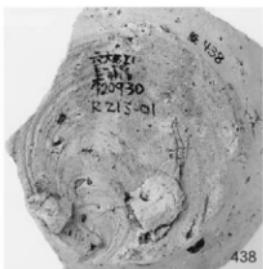
1666

1667

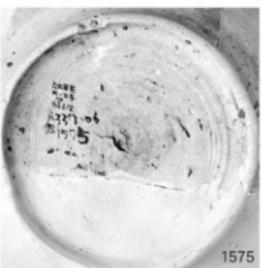
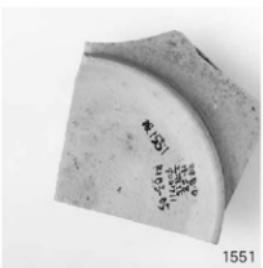
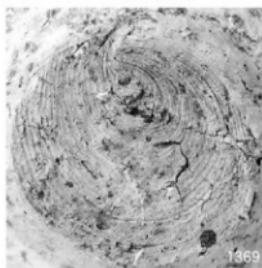
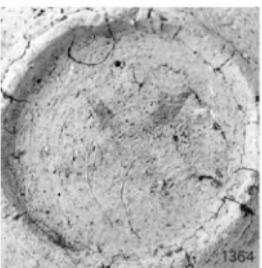
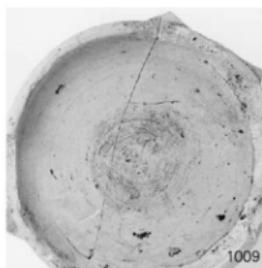
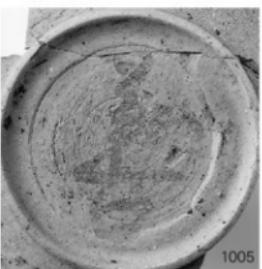
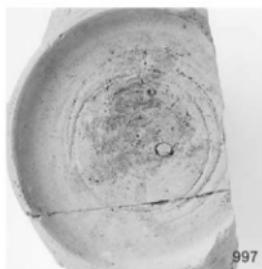
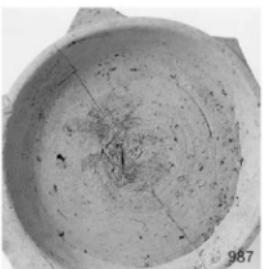
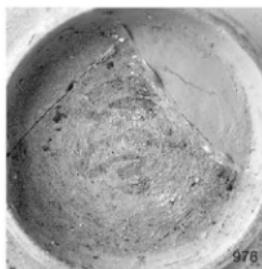


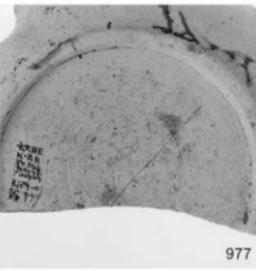
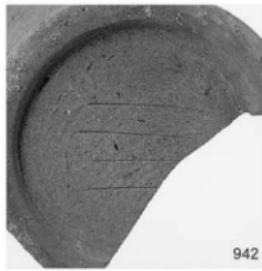
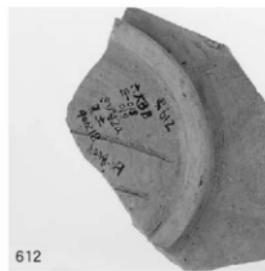
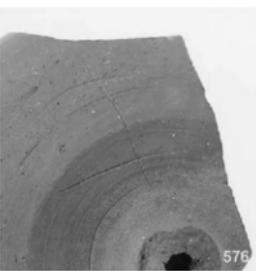
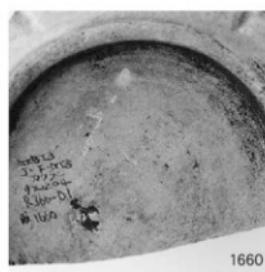
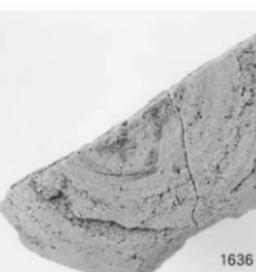
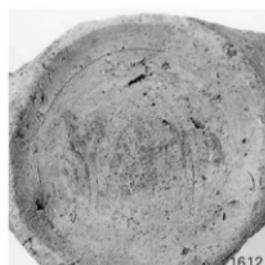
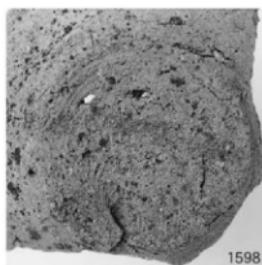
1671





P L 82





墨書 4 ヘラ記号

報告書抄録

ふりがな	いっぽんこくどうにじゅうさんごう(きゅうこうく)けんせつじぎょうにともなう ろくだいれいせき([内からあいちく)はくつちょうさほうこく							
書名	一般国道23号中勢道路(9工区)建設事業に伴う 六大B遺跡(B~I地区)発掘調査報告							
副書名								
卷次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	115-11							
編著者名	本堂弘之・山口 格・村木一弥・上村安生							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503番地 Tel.0596-52-1732							
発行年月日	西暦 2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
六大B遺跡 (B~I地区)	三重県津市 大里塙田町 字竹花 ほか	24201	694	34° 45' 48"	136° 29' 51"	19900426 ~ 19910315 19910507 ~ 19910903 19911016 ~ 19911204 19920928 ~ 19921226	17,525 620 2,800 3,350	一般国道23号 中勢道路建設 事業に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
六大B遺跡 (B~I地区)	集落跡	弥生時代 江戸時代	方形周溝墓・竪穴住居・土坑・井戸・掘立柱建物・溝		弥生土器・土師器・須恵器・綠釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・ロクロ土師器・土馬・中近世陶磁器・石器・和銅開珎銀鏡・木簡		土坑から弥生時代後期初頭の一括遺物。 総数100棟近い飛鳥～中世の掘立柱建物群。 綠釉陶器は大量に出土。	

三重県埋蔵文化財調査報告 115-11

一般国道23号中勢道路（9工区）建設事業に伴う

六大B遺跡（B～I地区）発掘調査報告

2006. 3

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印 刷 布 山 文 印 刷

